

幻の夢を追いかける花

或る記憶

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

1950年。北海道の函館にてとあるサラブレッドがデビューした。

10戦10勝。複数のレコードを記録し、人々の記憶に刻み込まれた3本脚で走る幻の馬。

日記が止まった1951年6月3日。東京優駿。

割れんばかりの熱狂の中、一生に1度の大舞台で颯爽と駆ける鹿毛の背中を追い掛ける誰からも見向きをされていなかった真つ黒なサラブレッド。

その馬は、一瞬の煌めきか、はたまた己の実力か、幻へ並び立つ程に近付いた。

同族から嫌われ、人間だけを愛していた真っ黒な馬は、スタート前に初めて自分から隣の鹿毛へと鼻を寄せたという。

真っ黒な身体が白く染まるのを見つめながら、

「悲しい話だ」

誰かが、苦しそうに鉛筆を滑らせた。

毎週日曜日、夕方18:30。

2023/11/05 ↓ If 『日本生まれジャパンカップ海外招待枠』更新。

P・2 ↓ ↓ 真っ黒な馬がメイン。

If ↓ 真っ黒な馬の子供や孫達がウマ娘として登場する話。

競走馬 ↓ ウマ娘は登場しない「馬」が中心の話

基本的にこの作品に出てくる競走馬（ウマ娘）と騎手、馬主、トレーナー等に元ネタはありません。

全て作者のオリジナルです。

「◇」がタイトルに付いているのは、競走馬の風味があるお話です。

僕の考えた（多分）最強のウマ娘。

目次

キャラクター設定	1
◇雑談	6
感想	12
出会い	19
少し、足りない気持ち	23
優勝イベント	35
◇番外編：休日を	46
◇誰かの日記	50
イベント：季節は巡り、花は咲く。	61
◇馬がヒトに出会ってから、別れるま	

で。	67
トレセン学園での日常	76
初めての邂逅	84
語ったり語らなかつたり、ラジバンダ	93
り	
ウマ娘のアセビボタンが可愛い	117
アセビボタンに脳を焼かれた人々	140
必要な練習	164
◇或る馬主の話	174
馬酔木牡丹の独白	187
◇とある家族の欽慕	194

ライブをしよう | 198

番外編：寒さと冬毛と金勘定と

211

運命的な出会い | 215

帝王へ向けた花 | 221

初めて見る、馬酔木の花。 | 232

番外編：いつかのクリスマスは離れた

場所 | 238

◇馬、人、雪が降る世界 | 243

手綱と牡丹は紅霞に沈む | 248

番外編：気まぐれ散歩 | 254

エピソード零? | 262

ワガママ魔法少女と長女のお花

265

◇ある時代の、ある勝負の、或る実況

275

三冠バの演出家、一冠バの名花。

300

番外編?：チカラちゃんとボタンちゃ

ん

◇ちゃんねるで語り合う人々 | 309

新旧のステークス | 329

今日だけは、桜色を捧げて | 334

まだ、目覚めていない君は | 350

◇下賜されるは、圧倒的な記録

360

再び出会えた奇跡を掌で重ねて

365

6月に隠される耳

379

猫は牡丹の花に集まるらしい

387

◇馬とウマ、忘れられない鬼籍のヒト。

391

少し昔の思い出と決意する心

395

空の川を眺めていた

399

口にしようが我が愛はない

403

ヒトの子は昔の失恋を引き摺らない

407

◇死人に梔子、

411

ようこそ。

420

If

Ifのプロフィール

427

アセビボタン、トレセン学園にて

438

アセビボタン：いつか見る栄光

445

アセビロード：ステップでリズムを刻

んで

451

色とりどりを渡しに

458

◇アセビスズナ：慈愛／晴れ晴れと

463

◇アセビルピナス：電撃6ハロンの隣

にいるウマ

469

- 反転した歴史 ————— 476
- アセビツバキ・海を超えて、完璧へと至る ————— 480
- クリスマスは其々の思いの中で 493
- アセビコウロ・まだ、走り始めたばかりの君へ。 ————— 498
- 明けましておめでとう御座います 503
- 番組ジャック……? ————— 507
- 寒い季節を熱くする ————— 531
- 幻覚の中で出会う2人 ————— 536
- ◇ご高覧あれ、美しき名花の走り ————— 593
- 541
- ステップの確認事項 ————— 548
- 強者達が舞う、未だ高い壁 ————— 553
- 憧れと癖者とG1初勝利 ————— 557
- ◇在りし日を思う ————— 567
- 飛べ、その手が触れる前に ————— 575
- 炎に焚べろ、新緑の香り ————— 579
- あどけない君へ偉大な2分間を 584
- 育成目標：オークスで3着以内 588
- アナタがただ一つだけ、落としたものを ————— 593

笑ってしまう程簡単に、救われる時も

ある

—————
599

心を震わせる力はきつと、皆が持つて

いる。

—————
603

勝つたら一緒に

—————
607

◇「きつと、現れますから」

—————
610

◇眩しい色彩を

—————
623

あの人よりも優先できるもの

—————
629

理解出来ないものに怪異の被せ物を

633

◇海に魅入られる

—————
638

間に合いますーん!!!!

—————
642

海外の冠を手任せよ、乙女。

—————
646

その馬は、突然変異。

—————
650

皇帝へ無邪気に火を付けて

—————
657

日本生まれジャパンカップ海外招待枠

競走馬

—————
660

競走馬

50年代の競走馬：アセビボタン

664

50～60年代の競走馬：アセビスズ

ナ

—————
668

70年代の競走馬：アセビルピナス

674

90～04年代の競走馬：アセビロ

ド

—————
679

90〜04年代の競走馬：アセビツバ

キ

685

2020年代の競走馬：アセビコウロ

690

21世紀にいた競走馬：ポンポーツ

トウカーナエ

695

その身体に触れながら

702

初めて見た、競馬の興奮。

706

適当な人

710

障害3歳以上未勝利。

714

皆と走るⅡ最高

718

愛が世界を超えるのならば、

721

牡丹の思いは時の碧落に沈む

725

キヤラクター設定

(公式サイト情報)

「いつか、全力のあの子と……勝負がしたい。」

A s e b i B o t a n

アセビボタン

誕生日：4月16日

身長：170cm

体重：先月より少し減った

スリーサイズ：B89 W65 H90

普段はおっとりしているが、勝負事にはとても強いウマ娘。

ファン一号かつ大好きなお父さんに強くなった自分を自慢する為、今日もトレーニングを頑張ります。

脚には気合い、胸には闘志、記憶には応援の言葉を大切に最強の“あの子”に全力勝負で勝つのが夢。

清純だけど、舐めると危険な王者の風格を持っている。

耳飾りは「左」

幅が太めの白いリボンで、たれが長い。

結び目の所に牡丹の飾りを付けている。

(以下ゲーム情報)

「あなたと旅を」

アセビボタン

芝 A ダ C

短 C マ B 中 A 長 D

逃 D 先 A 差 B 追 G

「走れ、牡丹」

最終コーナー前でバ群にいた場合、あの日の激励を思い出し速度を上げ、更に所有している加速系スキルの中からランダムで一つ発動させる。

・ 集中力

・ 直線巧者

・ ペースキープ

- ・ 抜け出し準備 (L v. 2)
- ・ 幻惑のかく乱 (L v. 3)
- ・ 秋ウマ娘○ (L v. 4)
- ・ 全身全霊 (L v. 5)

固有二つ名

「幻に咲いた華」

桜花賞を3バ身差以上で勝利した後、日本ダービーで勝利。その後、天皇賞(秋)を5バ身差以上で勝利する。

アセビボタンのヒミツ①

「実は、お父さんの友人を”お兄ちゃん”と呼び慕っている。」

アセビボタンのヒミツ②

「実は、電車やバス以外での旅行にも挑戦したいと思っている。」

(ふんわりした原作バ)

馬主さんとは相思相愛、馬主の親友さん相手には脳を焼いたアセビ一族の長女。

元々は競馬に関係無く、馬主さんの元へやって来た普通の馬。

……

だったのだが、能力がとんでも無く「競走馬人生で一着を一回でも取れたら

大大金星だ」と言っていた馬主さんの予想を裏切って、多くの馬を置き去り、パーフェクトな彼に負け、最後に再び咲いた出来過ぎた物語を歩んだスーパーガール。

その後は馬主さんが残した言葉を実行するのでは無く、物理で実行した親友さんにより血が残り、現代の競馬場でも「アセビ」という名前が残っている。

アセビの長女であるアセビボタンを筆頭に、競馬の神様から愛されており戦績は勿論、1頭1頭に面白いストーリーがある。

血統としては特に有名な馬がいる、という訳では無いが、馬自体が長生きの血統なのかアセビボタンから数えてもアセビコウ口はまだ来孫くらい。そして、アセビボタンソウルを継承しているので濃厚で人好きな馬が多い。

名前は現代にまで残っているが、プライベート状態での繁殖になっていたので現在ウマ娘で実装しているキャラクターとの夫婦、血統的な関係性は無い。

(現在作品に登場している一族十名前のみ登場した架空馬十元ネタありのオリジナルウマ娘)

同期は作中でその要素は出てきませんが、調べてみたら面白かったので追加しました。

裏で作っている年表に当て嵌めてクラシックを勝った馬達をピックアップしましたが、偶然ながら人気所と被っていました。

【本編】

- ・アセビボタン（同期：ツキカワ、トキノミノル、キヨフジなど）
- ・トキノチカラ
- ・ポンポーソ（同期：ラインクラフト、シーザリオ、エアメサイア）
- ・トウカーナエ（同期：テイクアベツト、ホツコータルマエなど。中央ではジエンテイルドンナなど）

【If】

- ・アセビスズナ（同期：ウイルデイル、コマツヒカリ、ハククラマなど）
- ・アセビルピナス（同期：ハイセイコー、タケホープなど）
- ・アセビロード（同期：ジエニユイン、タヤスツヨシ、マヤノトップガンなど）
- ・アセビツバキ（同期：プリモディーネ、ウメノファイバー、ブゼンキャンドルなど）
- ・アセビコウロ（同期：アルクトス、テイエムサウスタン、メイシヨウカズサなど。中央ではアフフォーリア、シャフリヤール、タイトルホルダーなど）
- ・オジュウチヨウサン
- ・アツプトウデイト

◇雑談

あの時、あの馬には確かに一着を取れる力は残っていませんでした。

しかしですね、最後のコーナー前で馬群の中からでも聞こえる様な大きな声で声援が向けられたんです。

「ボタン、走れ」って、「頑張りなさい」って

その声が聞こえた瞬間に、アセビボタンの脚が変わりました

まるで、あの時の走りに戻った様でした。牡馬に怯まず、誰にも影を踏ませず、圧倒的な力で勝負を終わらしていたあの時の様な

気付いた時には私達が一着で勝負が終わっていて、私には何が起こったかサツパリでしたよ

声援を送っていたのは円谷先生って事を知って、合点がいきました

あの子は、アセビボタンは、最後に見に来てくれた父親へ良い姿を見せたかったんだと。

5 2 3 : 名無しが適當語り ID : 3 P Z R L q N 7 c
 この話何度見ても好き。

5 2 4 : 名無しが適當語り ID : D 3 5 2 C y 6 q 0
 アセビボタンの話はなんぼあっても良いですからね。

5 2 5 : 名無しが適當語り ID : 4 4 r L H L O N D
 日本ダービー迄は最強牝馬で、日本ダービーで燃え尽きて、その後は全く勝てなくなつてラストランの天皇賞で5馬身付けての一着と

5 2 6 : 名無しが適當語り ID : V r x 0 N T M I b
 それなんてドラマ？

5 2 7 : 名無しが適當語り ID : H E W M / 7 B 2 E
 競馬なんてドラマがあつてなんぼだろ

528 : 名無しが適當語り ID : Dkzaxul3

それはそう

529 : 名無しが適當語り ID : dUpJ2htog

まあ、負けたと言つても日本ダービーからは4戦しかしてませんけど

530 : 名無しが適當語り ID : bdDXeUrfx

それでもずっと1着 or 2着の馬がドベでしかゴールできなくなってるから、相当やろ

531 : 名無しが適當語り ID : AbSjIcSvK

然も前の馬と2馬身差とか付けられてのビリやもんな

532 : 名無しが適當語り ID : CbO682nlt

まあ、出走数自体は馬主さんが競馬に本気じゃないタイプだったからしやーなし

533 : 名無しが適當語り ID : H7nxzSvEM

ウマ娘の実装頼むよー頼むよー

実装されたらフル覚醒できるレベルまで自引きするからよー

534 : 名無しが適当語り ID : 8kHhQmhlG

ウマ娘の実装は本気でして欲しいけど、マルゼンさんよりも余裕で一回り昔の馬やから周りがね…

535 : 名無しが適当語り ID : WNtes2aSj

たづ…あのUMAは実装できんのか？

536 : 名無しが適当語り ID : jG62g8uvD

いやー、キツイでしょ。

537 : 名無しが適当語り ID : EoueaWIGD

リトルココンとか、ビターグラッセ、ハッピーミークみたいなライバルポジならワンチャン

538 : 名無しが適當語り ID : O Z I G 5 S J a r
勝てないヤツじゃん

539 : 名無しが適當語り ID : t Z q 9 F / V i v
あの馬に簡単に勝てる方がバグやろ

540 : 名無しが適當語り ID : 2 r e 8 A a m o e
それもそう

541 : 名無しが適當語り ID : w O p 4 k Y + g X
アセビボタン大好きなんだよ……馬主さんも大好きなんだよ……両方実装しろ(豹
変)

542 : 名無しが適當語り ID : X w J v + w S c B
アセビボタンが好きなオタク、同じ位馬主も好き説あると思います

985 : 名無しが適当語り ID : D5uX5DmNt

【速報】

アセビボタンがアプリ、ウマ娘プリティーダービーに出走決定！

詳細はまだ不明だが皆大好きボタンちゃんが、動いて喋ってライブして走るぞー！

感想

「御免なさい、トレーナーさん」

「私はレースに対して、周りの子達みたいな強い思いが無いんです」

「欲しいのは誉れ高いG1や重賞の結果でも無く、ただ一つ。あの子に勝利すること」
「きつと10回戦ったとしても勝てないであろうあの子と本気で走って、勝利すること」
「……それが、私の目標」

「そんな訳で、私みたいなウマ娘より、他の本気で勝負をする子達の為にその力を使って下さい」

・
・
・

126：名無しが適当語り ID：KuFlh3d/Q

ボタンのシナリオ良かったなあ……
(しみじみ)

127：名無しが適當語り ID：kEwO3YmAf

史実が強かったが故の傲慢と、初めて負けた事に対する絶望感と、それを踏まえての新しい目標を見つける流れがミシユランレベルだった。

128：名無しが適當語り ID：l m F M r / X s 7

それに他のウマ娘シナリオよりも、トキ…… たづなさんとの距離が近くて匂わせ
 っっっ!!!
 っっっ!!!
 つてなった（語彙力）

129：名無しが適當語り ID：o A Z Z d q m U v

>>>128

分かる。分かる。

130：名無しが適當語り ID：u n 6 B Q 9 i T f

原作のゲームとか作品がそうだと認めてないのにこんなに見せつけられることありゆ？

131 : 名無しが適當語り ID : f a l 2 + 6 A i H

>> 130

シナリオは書く人によって解釈が多少変わるものだから（目逸らし）

132 : 名無しが適當語り ID : j j p H 2 I D o q

でも、たづなさんが某UMAだろうが無かろうが、ウマ娘のアセビボタン的には
じゃ無いのでね

133 : 名無しが適當語り ID : V 2 k d Y o r Y B

カフェも見えない相手を追ってたからアセビが姿も出ない相手を目標にしても違
和感無かったしね

134 : 名無しが適當語り ID : y k F Q T X X y g

というか、いない相手を匂わせたり追っていたりするのはウマ娘の常套句ですしお寿
司

135 : 名無しが適當語り ID : 3 o X Y 9 H 6 Z C

>>134

それはそう

・ ・ ・

250：名無しが適當語り ID：Ac3OV1z0F

ボタンちゃんか節目のタイミングで口にした「旅をしましょうね」って言葉が妙に気になって、でも、馬主さんとか関係者で旅好きの人もいないし、そういった話も無いので只のキャラ設定かと思っただけ、アセビボタンの名前にも使われている植物の「馬酔木」に付けられている花言葉が「あなたと二人で旅をしましょう」で、それを知ってから馬主さんの「あの子は私と長い旅をしてくれました」が刺さった。

251：名無しが適當語り ID：53sAIR8cu

>>250

この馬主と所有馬相思相愛過ぎんよ〜

252 : 名無しが適當語り ID : 9EQr8Ldvb

更に言うとう馬主さん的には最初競馬をやるつもりも無くて、アセビボタンも違う名前になる筈だったんだけど、馬は走る生き物だからって言われてそれならと勝利を挙げられ無くて怪我無く走って、競走馬を終えられるようになって付けられたある意味願掛けでもある。

253 : 名無しが適當語り ID : jCMZ2khHd

>>252

クソ重くて好き

254 : 名無しが適當語り ID : 6T1wB30N4

始めてみたらとんでもない馬だったんですけどね

255 : 名無しが適當語り ID : vZ5HG9adz

成績もそうだけど、原作が出来上がり過ぎてる

256 : 名無しが適當語り ID : c4PpxZiAb
 当時の人は脳焼かれたらうね

257 : 名無しが適當語り ID : /F4nHd0dz

ウマ娘から入った人が次々焼かれてるんだから、リアルタイムで見ている人なんて横山一家よ

258 : 名無しが適當語り ID : isYegKZtg

>>257

確かに脳焼かれてるけれども

259 : 名無しが適當語り ID : IUovGX+uk

>>257 横山家はそんなに万能な言葉ではない（無言の腹パン）

260 : 名無しが適當語り ID : oKvFJdxrY

脳焼かれた結果がアセビコウロに繋がってるんですね……

261 : 名無しが適當語り ID : J5g / gfEVF
 一番脳焼かれた人來たな

262 : 名無しが適當語り ID : YEsFu09SY

馬主さんの大親友でボタンのラストランを周りのサポートガチガチに固めて連れて行って、亡くなる数日前に言われた「あの子の名前を残して欲しい」という馬主さんには日記に書いといて程度の言葉を血統として残している人じゃん

263 : 名無しが適當語り ID : bT+rQuZCu

>>262

所有馬のラストランだけど馬主さんはもう競馬場に行く体力が無い……せや！ワ
 イが医師とお手伝いさんと呼ばば大丈夫やな！

こうですか、分かりません

264 : 名無しが適當語り ID : kSSb5BVhb

>>263

間違っていないのに脳筋に聞こえる謎

出合い

今でもずっと夢に見る光景。

私の前を鹿毛の髪を揺らして走る絶対に追いつけないあの子の姿。

目を開けて、見慣れた木目の天井を見つめながら手元の携帯を持ち上げる。

時間を確認すれば目覚ましに設定した時間よりも2時間程早く、部屋は薄暗い。

またあの夢だ。

不快感も無く、悪夢でも無い、只私の心を奪う夢。

どうしたらあの子に勝てるのだろうか。

そればかりをずっと考えている。

・
・
・

この脚は人よりも速く走れる。

それは、自分がウマ娘だから当たり前ではあるが、それでも並大抵のウマ娘よりは速く走れる。

何回目かのレース、見慣れたゴール板を通り過ぎる。

アナウンサーが興奮した口調で私の勝利を賞賛していて、周りのウマ娘達からは「どうしてお前が」という目で睨まれる。

その目を横目にしながら耳と、目を動かす。

探すのはあの子の姿。

此処にもいないという事実を頭では理解していても、どうしても身体が動いてしま
う。

鹿毛色のウマ娘、私が探す後ろ姿。

今日も、見つけられなかった。

「私を、スカウトしたい……?」

「ああ」

片手に収まるサイズの名刺には、若旅^{ワカタビ}伊吹^{イブキ}という四文字。

初めて渡された名刺に、初めて言われたスカウトの言葉。

「御免なさい、トレーナーさん」

「私はレースに対して、周りの子達みたいな強い思いが無いんです」

頭を下げて、正直な言葉を口にする。

「こういう時は変に誤魔化すより正直に言ってしまった方がきつと良い。」

「知ってるよ。君の走りを見ていたら、嫌でも分かる」

「?なら、どうして」

「君が、アセビボタンが勝つたのに嬉しそうじゃ無かったから」

「嬉しそう、じゃ無い……?」

まさかの言葉に思わず首を傾げてしまう。

レースに勝つのは嬉しい事だ。

あの子を探すのを一番の目標にはしているが、それでも勝つたら最低限の感情は湧き上がっている筈だ。

「俺は、君の走りを初めて見た時からずっと思っていたんだ」

「ゴール板を笑顔で駆け抜ける君の姿を」

やけに真つ直ぐな言葉を向けられて、なんだか恥ずかしくなる。

目を逸らして、釣られた様に私も声を出す。

「……私が欲しいのは、誉れ高いG1や重賞の結果でも無くて、ただ一つ。あの子に勝利する」

「きつと10回戦ったとしても勝てないであろうあの子と本気で走って、勝利すること」
「……それが、私の目標」

「そんな訳で、私みたいなウマ娘より、他の本気で勝負をする子達の為にその力を使つて下さい」

情熱を持つて私をスカウトしてくれるのは嬉しいけれど、私はあまりにも周りの子とズレているから。

多分、あの子に勝つ迄は彼の言う”嬉しそう”なんてものは出ないから。

一生を賭けても見つけられないかもしれない子に縋つて彼の人生を狂わせるのは、きつと違う。

だから、やっぱり私は、彼の言葉に領けない。

少し、足りない気持ち

数多くのウマ娘が在籍し、己の夢の為に切磋琢磨する場所「日本ウマ娘トレーニングセンター学園」。

そしてその名譽あるトレセン学園に通う個性の塊、もとい原石達の中には時に周りとは違う行動を取るウマ娘もいる。

そのウマ娘は、一言で表すなら正に”異質”。

メイクデビューからずっと1着を取り続け、影すら踏ませない程の差を離してゴールする。

只レースを見れば強者の2文字が似合う彼女。

しかし、そのウマ娘にはある一つのもが、「勝負への意欲」が圧倒的に足りていなかった。

ウマ娘は見た目や身体能力こそ人間とは違つてはいるが、性格や好み等は人間と殆ど同じである。

どれだけ大人びたウマ娘でも優勝後のウイニングライブでは誇らしげにセンターで

踊り、内向的なウマ娘でも大きなタイトルで優勝すればトロフィーを持ちながら笑顔を見せる。

だが、件のウマ娘。アセビボタンにはそれが無い。

ライブで、インタビュで笑顔を見せるのは必須では無い。が、それでも、常に同じ表情同じ様な雰囲気で行われたら第三者からはあまり良いものとしては捉えられない。特に、負けたウマ娘達からは。

—アセビボタンさん、まずは優勝おめでとう御座います！

「はい。有難う御座います」

—今回も素晴らしいレースでしたが、作戦等はありませんか？

「あの子に勝てる様にイメージして、走りました」

—あの子？ライバルのウマ娘ですか？

「いえ。私が憧れている子です」

—そ、そうですか。では、ズバリ！次回の予定は？

「秋の天皇賞。3, 200mに挑戦します」

—3……失礼ですが、それは春の天皇賞では？

「失礼。今は2, 000mでしたね」

—えー、それでは。本日は本当におめでとう御座いました。

「有難う御座いました、次回も頑張ります」

「アセビさん、もう少しポップにいけないもんかね？」

「でも、あの子には追い付けないので……もつと、強くないと」

「あー。あの子、ね」

・
・
・

324 : 名無しが適當語り ID : Nm f j 0 k q a h

秋天のレース距離間違えちゃうアセビちゃん可愛いね

325 : 名無しが適當語り ID : H P H v m 9 i w h

>>>324

お婆ちゃん、秋天は84年に施工距離が変わったでしょ

3 2 6 : 名無しが適當語り I D : d V z D E j O Q 4

お婆ちゃん(誇張無し)

3 2 7 : 名無しが適當語り I D : i G w x D B P j y

流石、戦後の馬はちげーぜ!

3 2 8 : 名無しが適當語り I D : c R w p C N A i f

俺氏、競馬初心者のゲーム好き。

アセビボタンが育成前から引く程強くて運営の調整ミスだと思つてたんだけど、そんななの?

3 2 9 : 名無しが適當語り I D : q Y n n i w e I 4

>>328

そんなんやぞ

3 3 0 : 名無しが適當語り I D : y E a w g P a 3 X

>>>328

馬耕している馬を試しにぶっつけで走らせたなら無敗の三冠取ったみたいな感じ

331 : 名無しが適當語り ID : h9QsHzvk d

>>>330

僕の考えた最強のおうまさんじゃん

332 : 名無しが適當語り ID : a b j l O / z Y O

>>>331

実際そう

333 : 名無しが適當語り ID : E i V o I D a q H

まあ、レコードは取ってませんけどね

334 : 名無しが適當語り ID : F 0 + Y 7 q k s P

レコード取ってたら天地ひっくり返っちゃうから……

335 : 名無しが適當語り ID : rYR4zv j6 I
それにボタンちゃんは「強さ」よりも「ドラマ性」が出てると思う

336 : 名無しが適當語り ID : BDPcALCKe
分かります (麒麟並感)

337 : 名無しが適當語り ID : lXwrnvKV+

>>>335

今でもラストランの動画見て泣いてる。

最終コーナー前の大声が馬主さんなんですよ

338 : 名無しが適當語り ID : Oc5eOBMOQ

>>>337

せやで。

当時はもう自分で歩けなかったレベルで弱ってた人が自力で立って、声を張り上げた
全力の叫びや。

339：名無しが適當語り ID：MeB9GHbeZ

>>338

泣いちやいそう

340：名無しが適當語り ID：bd3vBwnWv

そんなアセビボタンが生まれた牧場では予約さえ取れば気軽に行けるから皆ルルを守りながらアセビボタンの孫達に会いに行ってくれよな！（ステマ）

341：名無しが適當語り ID：UcinPPOOS

あの牧場は良いぞ

何が良いつて、運営している一族が悉くアセビボタンに脳焼かれて小さいけど記念館があるレベルだ

342：名無しが適當語り ID：llYsd2OJk

>>341

ちよつと待てエい！

あの一族の脳を焼いてるのはアセビボタン＋その子供や孫達＋アセビボタンの馬主

(当時親友だった) さんだ!!

3 4 3 : 名無しが適當語り ID : l j n x 7 S q I S
焼かれ過ぎでわ???

3 4 4 : 名無しが適當語り ID : D x u c E c I k R

>>>3 4 3

でも実際、自分が何の気無しに友達的所有馬を競馬に誘ったらその馬が凄い勝ち方を連発するのを間近で見続け、スランプになったと思つたらラストランでお涙頂戴もビツクリな勝ち方で勝利を飾って、友達からは泣きながら感謝されたら炭も残らないレベルで焼かれるだろ

3 4 5 : 名無しが適當語り ID : h j 0 m 8 u l s y

>>>3 4 4

「君が、私達を旅に誘ってくれたから、ここまで来れた。有難う。」だっけ?

3 4 6 : 名無しが適當語り ID : j 9 L V d 7 S 6 P

アセビボタンの関係者「旅」の概念が好き過ぎる件

347：名無しが適當語り ID：4U+Lk3kUQ

だって「アセビ（あなたと二人で旅をしましょう）ボタン（王者の風格）」だもん
 なんか、王者の風格を纏って旅をするって出来杉君か？

348：名無しが適當語り ID：aOjvGE5Bn

>>347

正にアセビちゃんのプロフィールじゃん

349：名無しが適當語り ID：tPGoHtevJ

あんなな見た目幼めで可愛いのに……

350：名無しが適當語り ID：haQmlbVnD

運営はオタクを殺すのが上手いからな

351：名無しが適當語り ID：2PlQsZtat

アセビボタン好きだ。是非、今後もアセビ一族をどうか、どうか……

352 : 名無しが適當語り ID : 6jlt5oUJb

>>>350

ウマ娘が流行った時期にTwitterでアセビボタンちゃんを逆プレゼンしてたからワンチャンあるで

353 : 名無しが適當語り ID : AOJxb6ZTr

>>>350

マ!?

ワイ、アセビコウロとアセビツバキが特に好きなんやが期待してええんか??

354 : 名無しが適當語り ID : 20Y+8gZnt

>>>353

運営が出したいです! って言えば可能性はある。

コウロ君は現役だけど、前例が出来たのでね

355 : 名無しが適當語り ID : f S o 9 G k O m v

ツバキちゃんかのほんとした顔で柵に顎乗せてる写真めっちゃ可愛い

356 : 名無しが適當語り ID : X I R Z i N P 3 H

>>>355

あれ好き

357 : 名無しが適當語り ID : 5 n y n N S q v D

アセビ一族公式 T w i t t e r 様有難う

358 : 名無しが適當語り ID : y V F O c h + X w

ボタンさんがウマ娘に出走決定した後のフォローが爆速で今までの数倍以上になつてたのは正直笑つた

359 : 名無しが適當語り ID : l E y K J L k N i

中の人が驚いてたやつ

360 : 名無しが適當語り ID : OTpnQQpV7

「あ!?!一夜にして何が起こって!?!有難う御座います!今朝のロードお爺ちゃんです!」

361 : 名無しが適當語り ID : P2KcI6Qgl

鳩と戯れてるお爺ちゃんカワヨ

362 : 名無しが適當語り ID : eR7j5+qMN

これにはドットさんも嫉妬

優駿イベント

一步を踏み出す、地面に脚が沈んでそれを蹄鉄で押し返す。

ハッ、ハッ、と呼吸を丁寧にしながらロスを最小限にコーナーを回る。横目で沢山の人が楽しそうにしているのが見える。

東京優駿競走、日本ダービー。

あの子がいつも私の前を走っているレース。

呼吸も、脚も、気力もまだ残っている。

最後の直線。私の前を走る鹿毛の色を幻視しながら、走る。

【今ッ!!王者が決まりましたッッ!!今年、最も運のあるウマ娘は……】

ゴール版を駆け抜けて、直ぐに掲示板に目を向ける。

数秒の静寂が何時間にも感じる。

【ビアンコグリモアッッッ!!!!】

アナウンサーの叫びにも似た声と同時にLEDの文字が浮かぶ掲示板。

ハナ差での敗北。初めての敗北。

大きな喝采で耳が痛くなる。

レース後特有の疲労感と、熱くなる身体とは裏腹に頭だけはやけに平常だった。

「……また、追い付け無かった」

然も、何度も夢に見たこのレースで。

この1回の為に今まで頑張つて来たと言つても過言では無い。

全ては今日の2分半にも満たない時間に賭けてきた。

それでも、届かなかった。

「おめでとう御座います。良い、レースでした。有難う」

涙を流すビアンコグリモアさんと握手をして、私はそのまま芝を去る。

この後はウイニングライブをしてトレーナーさんと今日の反省会をしながら、次を決めよう。

地下の道を1人で歩く。

興奮が落ち着いて、漸く私にもレース結果の実感が湧き上がる。

「クソツ……くそツツツツ!!……まだ、追い付けない……」

こんな感情になるのも全部、全部あの子の所為。

あの日、夢を見なければ。こんな悔しさを感じることもなんて無かったのに。

全部、あの子の所為だ。

「くや”し”……！」

・ ・ ・

478 : 名無しが適當語り ID : COk / 1 + 0 S k

日本ダービーで負けた後の地下道イベント何回見ても良い

479 : 名無しが適當語り ID : Y Q 2 j T j d Y /

分かる

480 : 名無しが適當語り ID : n l 3 J K N x v g

あの感情剥き出しで悔しがる所良いよね

481 : 名無しが適當語り ID : S 9 k h x G 4 D w

え、負けイベントなんてあるの？見た事無いんだけど

482 : 名無しが適當語り ID : j Z u R s Y a r U

>>481

日本ダービー前の3択で1番下を選ぶと見られるゾ

483：名無しが適当語り ID：YRXWh3woW

駄菓子菓子、ステの伸びがクソofクソなので本気の育成をしている時はオヌヌメでない。実質イベントを見る為だけの選択肢。

だからこそ知らない人も多い訳なんですけどね

484：名無しが適当語り ID：DAIk5YCbY

運営の巧妙な罠

485：名無しが適当語り ID：qpmy4+dsr

何が良いつて負けイベントを選択したら問答無用でその後のレース全部負ける事。原作再現が凄い。

486：名無しが適当語り ID：gRRZ8sSP4

G1は勿論ゲームでは余裕のOPレースですら勝てなくなるからな

487：名無しが適当語り ID：FANqKdRo+

え、じゃあもしかしてなんだけど、アセビさんのグッドエンディングってわざと一番下を選ばないといけない様になってる？修正されてないバグだと思ってたけど

488：名無しが適当語り ID：NDv34J9gN

いぐざくとりーなんだよなあ……

489：名無しが適当語り ID：k5jXppp7Z

プレイヤー心理として「こんなん選ぶか！ペツ！」ってなる選択肢を用意する癖に選ばないとグッドエンディングにはいけないという。

なまじアセビボタンの初期ステがぶっ壊れだから、普通は選ばない、と。

490：名無しが適当語り ID：bHOTLl93

育成を取るか、ストーリーを取るかだね。

491：名無しが適当語り ID：Z86TWlcC7

>>489

アセビボタンが昔の馬っていうのもありそう。

インターネット上には殆ど映像が残ってないし、直近で雑誌のインタビューで大々的に紹介された訳でも無い。

勿論、ウマ娘で実装されてる子との絡みも無い。

相当な競馬好きか、ゲームをやつていないおじちゃん層以外の言い方悪いかもだけど
ライト層はあんまり食い付かない感じする

492：名無しが適當語り ID：+K1vWuMWZ

俺達のボタンが最近の馬なら……

493：名無しが適當語り ID：/DOM8nSP+

>>492

お前はアセビボタンのなんなんだよ

494：名無しが適當語り ID：n7FPivHEe

うう…… 有名になって欲しいけど、このちよつとした優越感も持っていたい

495：名無しが適當語り ID：W O 2 Q o H 2 Q o
でもそんなにバレないもんか？

496：名無しが適當語り ID：s e 9 U C t / h z
実際のお馬さんも大きなレース後に競走能力がくはあるし、バレないもんよ

497：名無しが適當語り ID：I l X a y 4 J 7 N
アセビボタン系列のスレは過疎だし

幾ら牧場公式T w i t t e rのフォローワーが伸びても、詳しい歴史のツイートは無い
ですしお寿司

498：名無しが適當語り ID：X v t M P E 2 g M

アセビボタンが1番有名馬だったのはインターネットなんて無かったから、その時の情報も他に埋もれて出て来辛い。”あの”トキノミノルとハナ差で負けたと言われても、トキノミノルの歴史的にダービーは不調だったからスポットらしいスポットは当てられず、あの2頭が戦ったのは後にも先にもあの1戦だけで、アセビボタンはその後は絶

不調。今で言うG1は3勝もしている完全無欠の名馬だけどやっぱり資料が少な過ぎる。

皆大好きウイキさんにもエピソードらしいエピソードが書かれてないので国会図書館にでも行って片っ端から競馬雑誌調べるしか無い

499：名無しが適當語り ID：ZKsIyC5+D

情報源は牧場の記念館って1番言われてるレベルやからな

500：名無しが適當語り ID：3dZ3fehOF

それでも好きなんだよなあ

501：名無しが適當語り ID：hGExNNHJ

>>>500

分かる

502：名無しが適當語り ID：/DOTJyBRI

>>>500

それ of それ

503 : 名無しが適当語り ID : DhVBGiQGl
 話は変わるんだけど、実装して直ぐの牧場 Twitter 好き

504 : 名無しが適当語り ID : EY4paUJ92
 あのロードお爺ちゃんにガチャ画面見せてるやつな

505 : 名無しが適当語り ID : KPmDpb6zg
 お爺ちゃんの首傾げ一生見ていたい

506 : 名無しが適当語り ID : iJRKCHRfD
 あれ見て実家帰りたくなつたもんな

507 : 名無しが適当語り ID : K4LQvMvQx
 >>>506

それはわからん

508 : 名無しが適当語り ID : r t r o u C i z
ロード爺ちゃんとツバキ姉さんの絡みはいずれ癌に効く様になるからもつと投下して欲しい

509 : 名無しが適当語り ID : c E M w x 6 U F R
分かるマン

510 : 名無しが適当語り ID : g u r 6 n N i T G
牧場の朝が早いのは当たり前として、毎日朝7〜8時に投稿されるのが狡い。危うく満員電車で突然ニヤける不審者になる所だった

511 : 名無しが適当語り ID : M 5 Z s t L f E n
>>510
ワイはなつたぞ

512 : 名無しが適当語り ID : l 9 F R 7 j I J D

もしもしポリスメン？

◇番外編：休日を

トレセン学園にはウマ娘が全力でトレーニングに励み、レースへ出走出来る様、心身を整える施設や制度が充実している。

その一つ。直近で出走予定のレースが無い場合、申請しそれが受理されれば数日間の帰省が許される「短期帰省制度」。

アセビボタンはそれを利用し、金曜日から日曜日迄の帰省を予定していた。

「ボタン、忘れ物は無いな？」

「はい。トレーナーさんから受け取ったストレッチノートも忘れていないか？ 3回確認しました」

「よし。今回は身体を休める為の帰省であつて、普段の様な激しいトレーニングは自主練だとしても控える様に。それ以外のストレッチや、軽いランニング程度なら忘れずにな」

「ええ、チカラちゃんとやり過ぎない様にします」

トレセン学園の校門前。

担当トレーナーである若旅伊吹と、何時もより大きめの荷物を持ったアセビボタンが

立っている。

伊吹は忘れ物と、何点かの確認をして特に引き止める事無く別れようとしていたが、ボタンから放たれた新しい単語に思わず首を傾げた。

「チカラちゃん？」

「あつ、ええと。私と小さい時から遊んでくれていた近所のお姉ちゃんです。トキノチカラ、映像を見せてくれた事は無いので半信半疑なんですけど、天皇賞にも勝ったらしい本当だったらとても凄いウマ娘なんです」

「トキノチカラ……？悪い。俺もトレーナーとして特にG1を勝ったウマ娘なら詳しい自信があったんだが、その名前は知らないな」

「トレーナーさんも？なら、やっぱり嘘かもしれないですね」

「嫌、俺が知らないだけかもしれない。嘘と決め付けるのは失礼だ」

「……それもそうですね。うん。もし嘘だしたら、本人からネタバラシをされるまで騙されておきます」

「それが良い」

「つと、電車の時間がありますのでここら辺で」

「すまない。引き留めた、気を付けて」

「はい。休日を楽しんできます」

「ついでだ、そのチカラちゃんに天皇賞の勝ち方。聞いて来い」

「！ええ。盗めるだけ、盗んで帰って来ますね！」

会話を終え、トレーナーへ軽い会釈をしてから駅の方へ脚を進め始めるアセビボタン。

その歩みは普段の彼女と比べて少し早い様に感じ、此方にも楽しみだという感情が伝わってくる。

アセビボタンの背を見送り、伊吹はこれからのトレーニングメニューとレースでの作戦を完璧に練り上げる為、分厚い本を求めに図書室へ。睡魔と戦う為に身体にはあまり宜しく無いドリリンクを求めに購買へと脚を進めるのであった。

「それにしてもトキノチカラか……ボタンにはああ言ったが、何処かで聞いた事があるんだよな……」

頭を掻きながら、どこか落ち着かない感情が伊吹の頭の片隅を支配していた。

・
・
・

「いつか、私の馬と先生の馬が並んで走る姿を、見てみたいものです」

「ああ、そりゃあ良い！きつと、歴史にも名が残る様な時間になるだろうよ」

「アセビさんだけが”美しい”と話題に上がっても、恨みっこ無し。ですからね」
「何言ってるんだ。トキノの力を舐めてもらっちゃあ困るぜ。それこそ”美しく、強い名馬のトキノチカラ”なんて紙面を飾っちゃまうさ」

◇誰かの日記

巽君に呼ばれて遊びに行けば、その沢山の声で賑やかな庭により一層賑やかな子が増え
ていた。

今迄は、犬猫を可愛がっていた事はあれど馬を飼いだめたのは正直ワタシも腰を抜かす
程驚いた。

ワタシがどうしたんだと聞けば、牧場を開きたいから迎え入れたと返ってきた。

その答えを聞いて、ワタシは彼が自他共に認める動物好きなのだと言確認させられた。
細君もこればかりは頭を抱えていた。

ワタシは巽君にこの馬を走らせるのはどうかと聞いた。

巽君は動物こそ好きだが、特段馬を走らせる事に興味は無かったようだ。

しかし、ワタシはこの馬が牧場で草を食むばかりでは勿体無いと思うのだ。

この脚と撫でた時に感じる鼓動はきつと、良い結果をもたらしてくれる。漠然とだが、
そう思ったのだ。

ワタシは、巽君と出会って初めて、彼に我儘をしようと思った。

アセビボタンと名付けられた巽君の馬が競馬場を走った。

ワタシの見立て通り、出だしは上々で、良い勝ち方だった。

巽君は満足だと言っていたが、ワタシ的にはこのまま行けばあのクリフジにも並ぶ馬になると思うのだ。

ボタンはワタシ達が思ってた以上に恐ろしい馬であった。

誰にも影を踏ませない程に速く走るその姿は、正に神馬の様だ。

明日は遂に東京優駿競走だ。

どうか、無事に。

ワタシは長い夢を見ていたようだ。

今でもボタンを撫でてはそう、思う。

異君が死んでからもう半年、ワタシは未だにあの日の事を夢に見る。

病に弱り、もう一人で立つ事もままならない彼をあの場所へ連れて行き、ボタンの最後を見た。

馬群に飲まれる姿はもう駄目だという事をありありと示していた。

ワタシは、どんな結果であろうとアセビボタンを競馬に連れた責任がある。どんな結果であろうと、最後まで見なければいけない。

ワタシは祈るようにその姿を見つめていた。

隣から、酷く掠れた声が頑張れと応援した。

異君が、自分で立って、叫んでいた。

その信じられない姿にワタシは酷く驚いて、釣られてワタシも声を上げた。

最後の記憶は朧げだ。

しかし、あの日、アセビボタンが勝った事は忘れられない記憶となっている。

我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生まれてから一番の幸福であった。

と或る馬主さんの日記が突然投下される

1 : 名無しが適当語り ID : P t z G M Z g x I

なに……… ナニコレ？

2 : 名無しが適当語り ID : K x q v F 7 + 3 m

新鮮な脳焼き日記やん

3 : 名無しが適当語り ID : t B P 8 D s Z i l

どんな変態が探し出したのかと思ったら公式T w i t t e rでビビった

4 : 名無しが適当語り ID : w i A g H V U l 8

思ってた以上に脳焼かれてそう

5 : 名無しが適当語り ID : / K A p 9 6 5 i X

「著作権は切れているので、文句は言われなと思います」

6 : 名無しが適当語り ID : q D N R 8 A z G L

>>>5

つよい

7：名無しが適當語り

ID：mRr3dlZdK

>>>5

親友さんかわいそお

8：名無しが適當語り

ID：zX07d5l zv

>>>7

某太宰治のノートに比べたらマシやろ

9：名無しが適當語り

ID：wNc8r+Q9a

>>>8

隠せてないぞ

10：名無しが適當語り

ID：ztp3tBbHl

「我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生まれてから1番の幸

福であつた。」

この1文、最高に脳焼かれてる。

11 : 名無しが適当語り ID : V l 5 2 v j V y 2

>>>10

対アセビボタンにも読めるし、対親友さんにも読めるの良いよね。

12 : 名無しが適当語り ID : r g X 9 t u a V X

対親友さんだとおっさんずラブになっちまうよ……

13 : 名無しが適当語り ID : z / R A x d S W 5

馬と人間の三角関係とかニツチやな

14 : 名無しが適当語り ID : 5 M A b 8 w 9 2 E

アセビボタン

(馬主さん好き！馬主さんとよく一緒にいるニンゲンさんも優しいから好き！)

馬主こと円谷巽先生

(動物全般大好き。アセビボタンも漏れなく大好き。親友君も頼れる仲間で大好き。)
親友こと高垣芳司

(異君は大親友！好き！ボタンも世界に名を轟かせられる優しい女の子！好き！)

15 : 名無しが適當語り ID : 2AW h 7 M D i x

>>>14

クソデカ矢印で殴り合うな

16 : 名無しが適當語り ID : N 3 m 3 2 V q + A

>>>14

結局の所両思いでは???

17 : 名無しが適當語り ID : b 6 t h 9 / 4 r s

親友さん、流石に血を残すのはやり過ぎでは？と思つてたけど、これは残しますわ

18 : 名無しが適當語り ID : n / Q P 3 n c M M

俺、ウマ娘でアセビボタンを知つた競馬初心者。日記を読んで震える。

19 : 名無しが適當語り ID : T j E T Z 3 l E D

>> 18

昔の競馬おじさん達も震えてるからヘーキヘーキ

20 : 名無しが適當語り ID : R E V x K / N I

この日記が世に投下された事により、少しずつアセビボタンをリアルタイムで見ているとお爺様お婆様を持つ方が、競馬場で高垣さんらしき人を見た事があるという証言を出し始めてるの草

21 : 名無しが適當語り ID : v h O V l l v 9 w

盛り上がって参りました

22 : 名無しが適當語り ID : I R 7 s 8 w P p /

そりや自分が誘ったんやし見に行くわな

23 : 名無しが適當語り ID : b 5 S A i m u l 2

愛が重い

24 : 名無しが適当語り ID : 366t4aXOD

アセビスズナ<で、俺が生まれたってワケ。

25 : 名無しが適当語り ID : FjIcFN6uD

出たなアセビボタン産駒筆頭

26 : 名無しが適当語り ID : waRM7r9VB

>>>24

アセビボタンの一番最初の産駒且つ牡馬でありながら、スズナという名前の所為で牝馬と勘違いされてたアセビスズナさんチイーツス!

27 : 名無しが適当語り ID : C+E6jSp5A

アセビスズナ「法廷で会おう」

28 : 名無しが適当語り ID : ApuVP4hBf

でもお前（見た目は）牝馬みたいに可愛いじゃん

29 : 名無しが適當語り ID : H Z B r E 6 C Z p

牡丹「娘ちゃん」

30 : 名無しが適當語り ID : h N B K T S w e O

崧「母ちゃん！俺は息子だ！」

31 : 名無しが適當語り ID : H x Q 7 b 0 t Z i

ウオツカが息子弄りされてる現代において、半世紀以上前の馬が同じネタで弄られるとはなあ

32 : 名無しが適當語り ID : k T f n R Q T 5 8

感慨深い

33 : 名無しが適當語り ID : v B + V u l 7 x 9

>>>32

こんなんで感慨深くなるな

イベント：季節は巡り、花は咲く。

夏の猛暑も過ぎ去り、冬の寒さへと突入し始めるこの季節に私は勝負服に身を包みその時間を待っている。

緊張は、していない。

只、私の走りをするだけである。

少し緩んだ耳飾りのリボンを結び直して、今一度鏡で全体を確認する。

和服と洋装をミックスした様な形の勝負服は、ファッションに疎い私に変わってトレーナーさんが考えてくれたものである。

大丈夫だと分かりつつも、靴紐を結び直す。

やっぱり緊張しているのかもしれないな。

「今大丈夫か？」

3回のノックの後に、くぐもったトレーナーさんの声。

その声に了承の言葉を返せば、トレーナーさんが控え室へと入る。

「緊張は、してないか」

「……しているかも、しません」

「そうか。でも、お前なら大丈夫だよ。確かに、少しスランプにも悩まされたが、トレーニングは完璧にしてきた。後は当たって砕けるだ」

「砕けちゃ駄目でしょう?」

「それもそうだな」

少しの小言を言い合って、笑う。

あの日、日本ダービーで2着を取ってから私はスランプに陥っていた。

いつも通りの筈なのに勝てなくなって、怪我をしている訳では無いのに上手く走れなくなった。

あの日から、鹿毛のあの子へ追い付く所か影すら踏めなくなった。

それなのに、そんな私なのにこの名誉あるレースへと招待が掛かって、これで勝てなければ本当に私は終わりだな。なんて、考えて。

「そろそろ時間か。パニックにはなって無いな」

「はい。教えられた事も忘れてません」

「良しッ!じゃあ、やってみようか」

「……はい」

初めての感覚に未だ戸惑う私は、トレーナーとの会話も上手く出来ない。

レースに出るのが”怖い”と思った。

目線はずっと下がったままで、トレーナーさんの顔すらも見る事ができない。

「アセビボタン！」

「へ!? あ、は、はいっ！」

「俺はボタンの走りを見た時に心を奪われた、惚れ込んだ! 夢を応援したいと思った! でもよ、絶対に勝てるとも、絶対に勝てなんて言葉は俺の身分では言えない。だからさ、もう1度。俺にアセビボタンが笑顔で走る姿を見せてくれ」

「笑顔……?」

突然名前を呼ばれて、突然手を大きな両手で包まれる。

これも、初めての経験で今までトレーナーさんにされた事の無い行為。

だけど、どうしてか、酷く心が落ち着いた。

「ああ、気付いて無いだろうけどな。あの子に勝ちたい、勝負結果はどうでもくなんて言ってるお前、レース中も1着を取った時も最高に良い顔してるんだぜ?」

「そう、なんですか」

「そうなんだよ。だからさ、その顔を何万人来てるかは知らねえが、観客に見せつけようぜ」

「なんですか、それ」

「担当トレーナーからのお願いだよ」

「……ええ、そうですね。見せつけてきます、だから、1番良い所で見ていて下さいね？
2, 000メートルの旅なんて、2分もあれば終わっちゃいますから」

苦しい、煩い、バ群に飲まれて身動きが取れない。

体力は残ってる筈なのに、周りを囲まれた所為で心が削られていく。

バ群は苦手だ。走る音しか聞こえなくなる。

他のウマ娘達が持つプレッシャーに脚がすくんでしまう。

「さあ！各ウマ娘最終コーナーへと差し掛かります！1番人気のアセビボタンはまだバ群の中か!？」

誰の声も聞こえ無い。

只の、雑音に包まれる。

「行けーッ!!ボタン!!走れッ!!」

——頑張りなさいッ!

【先頭はメカニカルバイパーまだ逃げる!3バ身開いて……おおつと、ここでアセビボタン抜け出した!ラストスパート、凄い脚だ!やはり、このウマ娘は強いぞ!メカニカ

ルベイパーとの一騎打ちになるのか！」

声が、聞こえたんだ。

私を応援する声だ。

きつと向こうから聞こえてきたあの声はトレーナーさんで、釣られて思い出したのはお父さんの声。

お父さんも、私が競走をする時はお兄ちゃんと一緒に応援してくれていた。

「ボタン、走れ」、「頑張りなさい」って。

まさかトレーナーさんから同じ台詞で応援されるなんて思ってたけど

「……で、頑張らないといけないんだッ!!」

【アセビボタン！今一着でゴールツ！凄い末脚で3バ身あつたメカニカルベイパーとの差を交わす所か、5バ身の差へと変えた!!王者と言われた1輪の花がこの府中にて、再び咲き誇りました!!】

「……見て、いてくれましたか」

「見たさ。この目で、特等席でな」

天皇賞（秋）

- 1 着アセビボタン
- 2 着メカニカルベイパー
- 3 着ドカドカ

◇馬がヒトに出会ってから、別れるまで。

わたしは生まれてからずっと、お友だちがいなかった。

みんなからは「お前なんかなかまじやない」って言われて、わに入れてもらえなかった。

さみしくて、かなしくて。

がんばってなかまになろうと、お友だちになろうとみんなに話しかけたりもしたけれど、けられたり、むしされたりでやっぱりわたしは1人だった。

「ゆきかぜ」

わたしはもう、1人ですごすことになれたころ、知らないヒトがやって来た。

そのヒトはみなれたヒトたちとはちがってピカピカしていて、ずっと笑顔だった。

わたしはみんなより、優しくしてくれるヒトが好きだったから、そのヒトにもすぐにならないうちかづいてかおをちかづけた。

優しくかおをなでてくれるヒト。

優しいこえでわたしの名前をよんでくれるヒト。

ゆきかぜ。

その響きがわたしの”名前”だということに、その時に初めてきがついた。

「これから宜しくね」

「つぶらやせんせい」と呼ばれていた優しいヒトと、ずっと遊んでいたら一緒に暮らす事になっていった。

わたしは、みんながスキじゃないからつぶらやせんせいといられるのがすごく嬉しくなっておもわず跳ねたら「あしもとがわるいから？」って、すこしおこられた。

つぶらやせんせいは「また明日」っていつて、ばいばいした。

わたしは初めて明日が楽しみになった。

うれしい、たのしみだってわたしを育ててくれているヒトに自慢したら「よかったね」って撫でられた。

つぶらやせんせいも好きだけど、ここにいるヒトも好きだった。ありがとうって伝えたいな。

つぶらやせんせいのおうちに来てから「ほうじくん」がやって来た。

ほうじくんはわたしの顔をみてすごく驚いていたけど、どうしたんだろう。

わたしは心配になって、かおをちかづけたらつぶらやせんせいと同じ様に頭を撫でてくれて、身体を撫でられた。

そうしたらほうじくんは嬉しそうにつぶらやせんせいと話し始めた。

つぶらやせんせいとほうじくんが話している間、わたしはつぶらやせんせいのおうちに住んでいるワンワンだったり、ニャンニャンと鳴く小さいお友だちと遊んでいた。

ほうじくんはわたしを「ケイバ」に出てほしいらしい。

ケイバがなんだかは分からないけど、ほうじくんのお願だからやっても良いかなって思った。

つぶらやせんせいは笑顔じゃなかったのが気になったから、つぶらやせんせいがダメっていったら、ヤダって言うおう。

あれから数日、つぶらやせんせいはわたしの頭を撫でながらウンウンとうなつてわた

しを「ケイバ」にちようせんさせることにした。

ケイバがなんのことなのかずっと分からなかったから、難しいことだったらどうしようって不安になったけど、ヒトをおぶって走れば良いだけだったから、簡単だった。

ヒトをおぶって、走って、合図が出たら全力で走れば良い。

わたしがみんなを追い越して一番で走ればつぶらやせんせいも、ほうじくんも、ヒトさんも喜んでくれるから、わたしは嬉しかった。

わたしでも大切なお友だちができた。

あの時のみんなにも負けない仲間だ。

・
・
・

わたしは足がはやいんだって。

たしかに、いつもケイバは一番でみんなよりもずっとはやく走り終える。

わたしはさいきよーなんだって。

「名花アセビボタン」がわたしのあだ名だって、いつもおぶっている「こがねいじよつきー」が教えてくれた。なんだか格好良い。

だけど、わたしは負けた。

初めて2番になった。

「トキノミノル」しらない名前。

どうしてだろう。

なんだかすごく、ムカムカした。

気持ちはどうも出来なくて、思わずじめんを叩いたらこがねいじよつきーに優しくなでられて、久しぶりに大声でさげんだ。

こんなきもち、初めてだ。

わたしはつぶらやせんせいに出会ってから、「初めて」を沢山沢山感じている。

・
・
・

トキノミノルに負けてから、わたしはじょうずに走れなくなった。

早く走らないとって思うのに、じょうずに身体が動かせない。

今までは関係なかったみんなにかこまれて、こわいとおもった。

足がぶつかりそうになるのも、ドタドタと鳴る音も、ヒトの手がぶつかりそうなのもぜんぶが怖い。

こがねいじよつきーは、ばぐんがと言っていたけど、わたしはばぐんがきらいだ。

トキノミノルに負けてから、4回走って、4回とも1番さいごに走るのが終わった。ずっと1番で終わってたのに、さいごじゃないと終われなくなった。

「大丈夫。ボタンはよく頑張ったよ。次で終わりにしようね」

「アセビさん、私の大切な子。そろそろアセビさんの旅も、終わらせようね」
ふたりに撫でられる。

さいきん、つぶらやせんせいは丸いのがついたやつに座りながらいどうしてるから、むかしみたいに抱き締めてはくれない。

それに声もなんだか力がないみたい。

次、わたしが1番になったら、昔と同じようになってくれるかな。

・
・
・

はしる。走る。

まわりが煩い。嫌だ。こわい。

もう、あきらめちゃえばこの気持ちにならなくて良いのかしら。

「ボタン、走れー!!!」

「頑張りなさい!私のアセビボタンッ!!」

こえがきこえる。

わたしの名前を呼ぶこえ。

横目で辛うじてみえたむこうの景色。

つぶらやせんせいと、ほうじくんがわたしの名前を呼んでいる。

つぶらやせんせいがひさしぶりに立って、わたしの名前を呼んでいる。

昔とは違ってガサガサした声でわたしの名前を呼んでくれている。

ほうじくんなんて大きな声でわたしの名前を読んだ後にゴホゴホって、顔を下げた。
まった。

わたしは2人の声を聞いて、ふしぎとぼくんが怖く無くなった。

こがねいじよつきーが「いこうか、アセビボタン！」って合図を出してくれた。

思い出した。

思い出した！

こうみえてわたし、あしがはやいんだよツ!!

見えて！

つぶらやせんせい、ほうじくん、こがねいじよつきー！

わたしが、1番になるところ！

泣きながらこがねいじよつきーがわたしの首に抱き付いて。

誇らしげにほうじくんが頬を撫でてくれた。

つぶらやせんせいはやっぱり立てなかつたから、わたしがその分首を下げたらひさしぶりに身体全部でわたしの顔を抱き締めてくれた。

「アセビさん、あなたと共に旅ができて良かったです」

うん。私も円谷先生と旅ができて、楽しかったよ。

さいきん、ほうじくんと時々こがねいじよつきーが遊びに来てくれるばかりでつぶらやせんせいが遊びに来てくれない。

新しいお友だちも可愛いチビもいるから、悲しくはないけど、少し寂しい。

「ボタン。円谷先生が死んでから、もう1年が経つたよ。寂しくはないかい？ つて言っても、君には理解できない事かもしれないね」

ほうじくんはいつもみたいにわたしをなでながら、話してくれるけど、言葉を全部わ

たしは理解できない。

それでもつぶらやせんせいももうこの場所には来ないんだなって事は分かったよ。なんと無くだけれどね。

でもね、悲しく無いし、あんまり寂しくも無いよ。

お友だちがいてチビがいるって事は勿論だけど、どこかの世界でまた、つぶらやせんせいがピカピカの服を着て、わたしに会いに来てくれる。って、そう思うから。

だから、その時はまた、一緒に旅をしようね。

トレセン学園での日常

昼休み。雲一つ無い様な晴天の中、アセビボタンは1人外通路に設置されたベンチに腰掛けながら腹8分目に満たされたお腹を休めながら、午後の授業が始まる迄の休憩をしていた。

と言つても、何時もの癖で頭の中はトレーニングや今後の事を考えているのだが。

ニヤーン

人通りが多いとは言えないが、それでもある程度の騒がしさがあるこの場所に聞き慣れない小さく響いた声にボタンの耳が反応する。

音の主を探す様に無意識にピコピコと動く耳をそのままに顔を動かし、辺りを見渡す。

ニヤーン

再び同じ声が聞こえて、今度はその声に誘われるかの様に目線を動かす。

いつの間にか自分の隣、ベンチに相席していた1人の、嫌、1匹の小さい子。

黒い身体に所々明るい毛色が混じった所謂錆猫。

逃げる気配も、襲って来る気配も無く只甘える様な高い声で鳴いている。

ニヤーン

アセビボタンは勝負の時こそ恐れられてはいるものの、それ以外では他のウマ娘、人間の女の子と変わらない。

ボタンはおずおずと錆猫に近い右の手で、その小さな頭を1回撫でる。

逃げる所か頭を擦り寄せてくるやけに人馴れした可愛らしい子。

錆猫が次を催促する様に「ニヤーン」と声を上げたので、もう1度、もう1度と優しく撫でる。

何回か撫でれば錆猫はベンチの上でねっ転がり自分の急所を堂々と晒す。

ボタンはその錆猫を慈しむかの様にクスクスと笑いながら頭からお腹へと手が移らせ、その身体を優しく撫でた。

アセビボタンは、動物好きで、更には好かれる体質だった。

昼休みの終わりを告げる予鈴が鳴る前に、メイシヨウドトウは自分のクラスへ戻ろうと脚を進めていた。

転ばない様に注意しながら歩いているその途中、目の端に蠢く塊を見てしまった。

飛び出そうになった叫び声を押し込んで怖いもの見たさを抱えながら、もしもがあれば全力で走れば良いと少しずつ塊へと近付いて行く。

1歩。また1歩近付く度にその塊が得体の知れない物では無く、生き物が集まった所為で謎の塊に見えていたのだと理解する。

ワンワン、ニャンニャン、チュピチュピ、シカシカ、タヌタヌ。

何種類もの音が混じったその塊はトレセン学園へと迷い込んだ野生の、もしくは飼われている動物だった。

猫に始まり、犬、鳥、狸、鹿と動物園かと思間違えてしまいそうな数と種類。

ドトウは恐怖よりも驚きが勝った気持ちになりながら、自分でも見慣れたタヌキをそつと胸に抱いてみる。

そうすれば、タヌキがいなくなった隙間にニンゲンの顔が晒される。

ギョロリと動いた瞳孔と、自分の目が合ったその瞬間、メイショウドトウ渾身の悲鳴がトレセン学園へと響き渡った。

・
・
・

「……………あ、あの〜。大丈夫ですか……………」

「大丈夫です。何時もの事なので……」

「そ、そうですか？……それにしても、どこからやって来たのでしょうか？」

「ええ、どこからなんでしようか」

「ああ！こんな所にいたんだねボクのプリンセスッ！」

「オ、オペラオーさん!？」

「ぷりんせす……?」

693：名無しが適當語り ID：stlfv21G3

アセビボタンのサポートカードイベントが可愛いという話なんですけれども

694：名無しが適當語り ID：／t7TLb+gF

まさかオペドトウが出てくるとは思わなかった

695：名無しが適當語り ID：ZltPqbLlP

史実の関係性が無いなら新しく作れば良いじゃない！

696 : 名無しが適當語り ID : tmeaRoKup
これには王妃もニッコリ

697 : 名無しが適當語り ID : M7U07MOxw
それにしてもドトウの叫び声は健康に良い

698 : 名無しが適當語り ID : lWlITmeUy
>>697
分かる

699 : 名無しが適當語り ID : pPoGXUw27
最悪な健康法で草

700 : 名無しが適當語り ID : vfcagooQXC
にしてもイラストから何まで可愛いなあお前エ!!!

701 : 名無しが適當語り ID : rabauMqwE

急にキレるな。訴えたら勝つぞ。

702 : 名無しが適當語り ID : d p M t Y Z X n X

太陽に照らされてリボンの飾りがキラキラと光る中、聖母の様な微笑みでネコちゃんを抱き上げるアセビボタン……………

703 : 名無しが適當語り ID : x m U E h x X H H

>>>702

俺のママ……………

704 : 名無しが適當語り ID : y m l / i L F s r

>>>702

カーチャン……………

705 : 名無しが適當語り ID : N j 4 g p D u X y

>>>702

ママ……………

706 : 名無しが適当語り
ID : ORLM1 / qH5
産駒ワラワラで草

707 : 名無しが適当語り
ID : J41 / FCAqv
自分をアセビボタンの産駒だと勘違いしている精神異常者の集まりやんけ

708 : 名無しが適当語り
ID : XNKOP6pCA
怖、近寄らんとこ

709 : 名無しが適当語り
ID : VNLSH1Ahj
くわばら、くわばら

710 : 名無しが適当語り
ID : XScfXerFC
アセビボタン「ヒトさん達だれ〜?」

711 : 名無しが適当語り
ID : ht+5I7lmt

アセビボタン史実が友好的過ぎる

712 : 名無しが適当語り ID : cFvCoT59g

まあ、馬の輪に入れなかつた結果なんですけどね

713 : 名無しが適当語り ID : WlfpCcNex

>>712

泣いちゃった……

初めての邂逅

「あなたにも、”お友だち”が見えているんですか？」

「……え？」

昼下がり、学園の廊下で突然声を掛けられて振り向きながらも、思わず素っ気無い返事をしてしまう。

お友だち？ 見えている？ お友だちというのは、普通、見えているものではない。様々なハテナが頭を巡り、脳内がこんがらがる。

「えと、あなたは？」

「マンハツタンカフェ、です。アセビボタンさん」

「あ、私の名前、知っているんですね」

「はい。あなたは有名人ですから」

「有名人？」

不思議な空気を持つ彼女に会話の手綱を握られて、ペースを乱される。

それに、なんだか目が怖い。

私を見ている筈なのに、見ていない様な。

私と目が合っている筈なのに、別のモノと目が合っている様な
思わず視線を外したくなる。

それに、ユウメイジンという6文字がヤケに気になってしまう。

「有名人？私か、ですか？」

「ええ。無敗での勝利、そして敗北。しかし、天皇賞での再起。誰かを追い掛けているそ
の姿」

「誰かを、追い掛けている……」

「アセビボタン。あの子とは、誰ですか？」

金色の目にジツと見つめられる。

長い髪が落とす影をもともせず、怪しく光る2つの瞳。

怖い。淡々と、事実を述べられ疑問を投げ掛けられているだけなのに、説明のしよ
うがない恐怖心。

「あの子は、あの子です。私の、目指すべき背中。緑と黒の耳飾りが特徴的なお姉さん」

「緑と黒……？」

「はい。緑と黒の耳飾りに、鹿毛の髪。私が目指す彼女」

「そ、そうです、か……」

私の答えがマンハッタンカフェさんの期待する答えでは無かったのか、私の言葉を聞

き届けた瞬間に先程まで感じていた威圧感が途端に霧散する。

なんだか、廊下の空気すら暖かくなつた様な勘違いすら起こしてしまいそうで、失礼にならない程度に息を吐く。

「御免なさい。突然変な事を聞いて」

「いえ、別に」

「では私はこれで」

「はい。ぐ」機嫌よう……?」

嵐の様に現れて、嵐の様に満足し、去って行く。

只々私は、その背を見つめる事しか出来なかつた。

812 : 名無しが適当語り ID : dGOr81NRS

アセビボタンとマンハッタンカフェの出会いが怖過ぎて泣いちやつた同士おりゆ?

813 : 名無しが適当語り ID : x2NA/o5EQ

おるぞ

814 : 名無しが適當語り ID : 5 o e 6 E z 4 L L

泣いちちゃったよね

815 : 名無しが適當語り ID : l I E U l D P e b

怖過ぎて(主にマンハッタンカフェ)

816 : 名無しが適當語り ID : Z v C o R m 9 / F

>>815

主にというかマンハッタンカフェ”だけが”なんだけどな

817 : 名無しが適當語り ID : E H 9 P R 8 9 M U

あの時のマンハッタンカフェ雰囲気も怖かったし、なんならゲームのBGMから怖かった

818 : 名無しが適當語り ID : g j e 6 X e J c W

カフェがボタンに話し掛けた瞬間からBGM変わるのやめくりく

819 : 名無しが適當語り ID : TZJNSBlw
でも、マンハツタンカフェが怖かったからこそアセビボタンの可愛さが際立った訳なんですけれども

820 : 名無しが適當語り ID : b8eMcyfx
>>819
分かる。ぎこちないボタンちゃん可愛かった

821 : 名無しが適當語り ID : 20i1O9gru
トレーナー気付いちやっただんですけど、秋天勝つてからのアセビボタン可愛くないですか？

822 : 名無しが適當語り ID : 8ieabBOY4
>>821
気付いてしまったか……

823 : 名無しが適當語り ID : z7abcuLL5

>>821

アセビボタンは最初から可愛いだろ！いい加減にしろ！

824：名無しが適当語り ID：Z z m w + N U C b

>>821

元馬から可愛いアセビボタンさんの話した？

825：名無しが適当語り ID：C b w c 2 L b o m

競走馬の中で1番美形は誰だっていうのは定期的に聞くけど、1番可愛いのはだとマジで5本の指に入るよな

826：名無しが適当語り ID：N y k N b z B H c

ドットさんにも勝てる？

827：名無しが適当語り ID：F y y 5 3 A f Y 2

>>826

時と場合と写真によっては

828 : 名無しが適当語り ID : 6U7qq+8aK

>>827

元ネタドットさん強過ぎんだろ……

829 : 名無しが適当語り ID : mUG/Gzqhy

アセビボタンさんの牧場での動く動画があれば……!

830 : 名無しが適当語り ID : tXBMKX2dJ

時代が悪かった

831 : 名無しが適当語り ID : dUd6Urzoi

悪かった(ガチ)

832 : 名無しが適当語り ID : A7W00jdV3

長生きした馬だから8mmフィルムとかで残ってれば最高なんだけど

833 : 名無しが適當語り ID : J4wBInBtl
 見つかつてても現像できる場所が現代だとな……

834 : 名無しが適當語り ID : 0vMvpMgAl
 昔の馬の宿命だな

835 : 名無しが適當語り ID : w46jANXiB
 映像は無い！写真は少数！雑誌等の資料も最低限（発見難易度：高）！

836 : 名無しが適當語り ID : IZQuTpv18

>>>835

無理ゲーでは??

837 : 名無しが適當語り ID : ynB6n5FED

一般トレーナーの俺らには関係者さんが動いてくれるのを待つしかできないのだ

……

838 : 名無しが適當語り ID : q o / w 7 g w O +
ウインディちゃんもこればかりは……

839 : 名無しが適當語り ID : Z h f u G O h a S
親友さんの日記を勝手に全世界へ公開した関係者だ。信じろ。

840 : 名無しが適當語り ID : d + q m 7 n b B j

>>839
なんだろう、凄い信じられる不思議

841 : 名無しが適當語り ID : m T T C s e E T s

>>839
アセビボタンと親友に脳を焼かれた人間の孫達はきつとやってくれる(小並感)

語つたり語らなかつたり、ラジバンダリ

1 : 名無しが適當語り ID : A G s U P d E j G

という訳で公共交通機関諸々を乗り継いで牧場に行ってきた。

アセビ一族の長女さんにも会ってきたゾ

2 : 名無しが適當語り ID : E T 6 x m 8 I O l

>>> 1

いいわね

3 : 名無しが適當語り ID : + X Z Q M l 7 X D

>>> 1

羨ましい

4 : 名無しが適當語り ID : l B c m 7 x O P v

>>> 1

素敵だわ

5 : 名無しが適當語り ID : mxhFshld

アセビボタンきっかけで牧場に行つてみたいんだけど、やつぱり大変？

6 : 名無しが1 ID : refocKaU4

>>>5

牧場という施設である以上栄えている場所にある訳じゃ無いから、同じ県に住んでても行くのは大変だと思う。

でも、公式HPに載つてゐる見学可能日に予約を取ることができたら最寄りの駅から牧場が案内出してくれるので、駅↓牧場は楽。

最寄り駅までの道と、予約が取れるかの2点が大変かな

7 : 名無しが適當語り ID : W2YzoyJlF

>>>6

サンクス

8 : 名無しが適當語り ID : X z F x C P k 0 V
 予約が取れるか (最重要)

9 : 名無しが適當語り ID : o 3 C l Q k 2 8 9

>>> 8

それ

10 : 名無しが適當語り ID : y X u Z Q u m L M
 予約が取れませんッ
 !!!!!!!!!!!

11 : 名無しが適當語り ID : P h B U r M V n J
 ウマ娘効果ってスゲー

12 : 名無しが適當語り ID : + O i c s i u H E

ワイ地元民。元々動物好きで、ウマ娘とか関係無く牧場には遊びに行ってたけど、アセビボタンが実装される前はワイしか見学者がいなかったレベルなのに、実装後は1度も予約が取れなくて泣きそう。

13 : 名無しが適當語り ID : nmHAXH / yV

>> 12

可哀想

14 : 名無しが適當語り ID : BOKbeHndM

>> 12

それは泣いてもいい

15 : 名無しが適當語り ID : WzSVVZOqL

で、肝心の牧場はどうだったんです？

16 : 名無しが1 ID : 3Xb0mzppb

>> 15

月並みだけど凄く良い場所だった。

花畑と勘違いするレベルで沢山の花が咲いてて、馬の他にも動物がいて、お墓も整えられてたし。

残念なのが触れ合いNGな馬が1番人間に寄って来て触りたい欲を刺激してくるこ
と。

俺は涙を堪えながら羊と犬と猫撫でてた。ちな、牛もおる。

17 : 名無しが適當語り ID : Dmzu4YhVR

>>>16

文章を見ただけでも行きたくなる

18 : 名無しが適當語り ID : K2Ltjn+g9

>>>16

動物さんわらわらでかわE

19 : 名無しが適當語り ID : B4niTpVtP

>>>16

噂で聞いた事あるけど、アセビボタンのお墓にメッセージ彫られてるってマ？

20 : 名無しが1 ID : n451f1Uw1

>>>19

マだったよ。

お墓の裏に「美しき華アセビボタン。共に駆けた旅路へ感謝を」ってあった。

21 : 名無しが適當語り ID : P E G C K 3 L u t

>>>20

てえてえ……？

22 : 名無しが適當語り ID : v K h Y J d N o b

でもアセビボタンが亡くなる前には、じゃない？

23 : 名無しが適當語り ID : f J / u a V u Q A

脳焼かれ「頼まれてました！」

24 : 名無しが適當語り ID : U 4 z P N M x Q p

>>>23

うーん、この有能

25 : 名無しが適當語り ID : kYQXExoPk

>>>23

草

26 : 名無しが適當語り ID : hA6aValmQ

>>>23

脳味噌高垣芳司定期辞めろ

27 : 名無しが適當語り ID : wb9cK2No6

>>>23

脳焼かれで誰が分かるのほんま草

28 : 名無しが適當語り ID : hXBgWEgph

私も牧場行ったことあるけど、メッセーজの後に円谷巽って彫ってあってアセビスズナからは引き継いだ高垣さんが建墓したことになってるんだけど、アセビボタンだけは円谷さんが建墓したことになってるんだよね。

29 : 名無しが適當語り

ID : z27XuSuJr

>>28

良い……

30 : 名無しが適當語り

ID : rmv1Y2dfk

>>28

愛が重い(通常運転)

31 : 名無しが適當語り

ID : 4fDVudAJW

>>28

アセたつ強火民じゃん

32 : 名無しが適當語り

ID : sZEGaich9

>>28

アセビボタンが現役時代から後方で腕を組んでいたオタクだ、面構えが違う。

33 : 名無しが適當語り ID : y n J C s 2 x 9 k
 日記も晒されてるしな

34 : 名無しが適當語り ID : 9 z 4 K J q + U 6
 日記は何度読み返してもヤベーなってる

35 : 名無しが適當語り ID : b H z V + 8 l k Q
 アセビボタンだけでもあんだけ脳焼かれたのに、アセビボタンよりもずっと前から
 知り合いだった円谷先生へ向けた日記は無いんですか？

36 : 名無しが適當語り ID : y O A h u U V H Y

>>>35

それはもう焦土と化してると思うよ

37 : 名無しが適當語り ID : G / m 9 J 9 E 5 U
 人間に対して友好的過ぎる円谷先生が悪い

38 : 名無しが適當語り ID : g 6 j I L m z Z l

高垣を円谷をアセビボタン

39 : 名無しが適當語り ID : M c H E P l n A l

>>> 37

とんでもない飛び火で草

40 : 名無しが適當語り ID : 8 b E 5 7 p 9 g e

>>> 37

良い人ってだけなんだよなあ

41 : 名無しが適當語り ID : x u C h J / t 8 U

良い人と相思相愛だったからこそ産駒達もその性質を受け継いでるの良いよね

42 : 名無しが適當語り ID : 6 v G x y V J p Q

アセビズズナ（ツンデレだけど人も馬も好き）

アセビルピナス（人の言う事が分かる）

アセビロード（人と馬以外なら鳩が友達）

アセビツバキ（牧場以来最高のリードホース）

アセビコウロ（厩務員さんとイチヤイチャしてる姿は確認済み）

43：名無しが適當語り ID：MRVlvdxIa

>>42

これ気性難の馬とアセビ一族合わせたら良いバランスの子が生まれるのでは？

44：名無しが適當語り ID：KGYXMSsQE

>>43

確か未勝利戦を勝って直ぐ怪我しちゃって引退したアセビの子のお父さんが気性難だったけど、その子自体は至って普通で関係者から「あいつの子供とは考えられん」みたいなこと言われてたのおらんかったっけ？

今は何処の競馬場で誘導馬やってたと思う。

45：名無しが適當語り ID：+2hurzk0S

>>44

恐るべしアセビの血

46 : 名無しが適當語り ID : P X W C L s h 7 m

>>> 44

それポンポーソ君じゃない？

今は誘導馬も引退して引取先でホースセラピー兼アイドル馬やってるよ。

47 : 名無しが適當語り ID : C 9 k z m E q T F

>>> 46

マジ？

48 : 名無しが適當語り ID : f / n z a I G n s

>>> 47

近所の牧場で経歴がそれらしい子がいるから自信満々では無いけど、合つてるとは思
う。

49 : 名無しが適當語り ID : d g G C e k U 4 8

アセビの一族優しい子が多くてボタンちゃんも鼻が高いやろなあ

50 : 名無しが適当語り ID : AX2nBvMI

ボタンは馬嫌い定期

51 : 名無しが適当語り ID : M0mwdRd6

>>>50

残念、アセビボタンは馬が苦手っただけで嫌いでは無いゾ。

それにスズナちゃんを産んでからは母性に目覚め、最終的には馬好きにもなっ
てしまっただよなあ……

52 : 名無しが適当語り ID : /egyAc2Ki

菘「牡馬……」

53 : 名無しが適当語り ID : kb/nbRwAb

>>>52

可愛いねスズナちゃん！

54 : 名無しが適当語り ID : J l i D k z t A X

>>>52

スズナちゃん可愛いよー!!!

55 : 名無しが適当語り ID : K 7 1 L U A y F H

スズナ「ニンゲン嫌い」

56 : 名無しが適当語り ID : x E f H W + W T 6

>>>55

人參を貰ったらそそくさと自分から離れる癖に、人間が離れたら立ち止まって顔を向けてる動画バラされてるけど平気？

57 : 名無しが適当語り ID : X / S 2 5 d x 6 n

あの動画ほんま可愛い、毎日摂取しないと駄目な身体にされたわ

58 : 名無しが適当語り ID : H A 7 Q + 9 c P 2

>>57

分かる

59 : 名無しが適当語り ID : X q b x R r T P L

>>55

人間嫌いとか言ってるけど、ヒーローの前でそれ言えるか？

60 : 名無しが適当語り ID : K G q 2 x 8 Z V Z

>>59

ガチの気性難はNGやぞ

61 : 名無しが適当語り ID : h k V / l R K C i

ヒーローの前に立ったら、スズナは泣いてしまうぞ

62 : 名無しが適当語り ID : W H z 9 O w S D K

そこで颯爽とロードさんが助けてくれるのか

63 : 名無しが適當語り ID : 4 q D t O z b 2 U
ロードお爺ちゃん馬界のハシビロコウだから……

64 : 名無しが適當語り ID : C 4 5 u a D P J c
グラスお爺ちゃんとロードお爺ちゃんが並んでるの一生見ていたい

65 : 名無しが適當語り ID : G v 6 Q Y 7 P Z R
グラスは蒲公英を、ロードは鳩を見つけたら動くんだよね

66 : 名無しが適當語り ID : O d j V Y 2 3 g s
鳩「来たやで」

67 : 名無しが適當語り ID : l u I m + a r + +
馬が別の動物と仲良くしている姿は健康に良い

68 : 名無しが適當語り ID : t 4 l J W Q V t P
でもなんで鳩?

69 : 名無しが適当語り ID : b x X g M G I L X

>>>68

従業員さんも首を傾げる永遠の謎や

70 : 名無しが適当語り ID : e l 8 A e K D i c

>>>68

知らん内に仲良くなってたらしい

71 : 名無しが適当語り ID : c s H N C S 0 9 8

厩務員さんが「ロード君は何もしないと日向ぼっこばかりになるから、友達の間がいとそれを追いかけて動いてくれるので有り難い」っていう位には仲良しな鳩(いつ仲良くなったかは永遠の謎)

72 : 名無しが適当語り ID : 6 r t p 0 Q C F P

>>>71

名前とか無いんか？

73 : 名無しが適當語り ID : b + r I Y j q 0 Q

>>>72

一応は野生の鳩らしいので、名前は無いけどツイートの中では「鳩丸」って呼ばれてたよ

74 : 名無しが適當語り ID : b / H N V D A f W

そういえば、ツバキさんはまだリードホースやつてるんだっけ

75 : 名無しが適當語り ID : E f G + P a t x I

>>>74

やつてるし、なんなら仔馬の他に羊のリードシープ（馬）やつてる

76 : 名無しが適當語り ID : a Z U I K Y e w T

>>>75

ツバキさんの後ろを仔馬が追いかけてる横で羊も追いかけてるの好き

77：名無しが適當語り ID：D7 / 1x17e /

>>>75

ちよつと前まで桜花賞でうおおお!!^{!!}つてなつて、宝塚でヒヨワ……
なつて、海外遠征でわ、わああああ!!^{!!}つてなつてたアセビツバキちゃん……
だ………
好き

78：名無しが適當語り ID：vZBsu ggXf

>>>77

脳焼かれてんね

79：名無しが適當語り ID：gUCUdUli1

ツバキちゃん、戦績的にはシルコレみたいな立ち位置だけど人気の高さエグかったよ
な

80：名無しが適當語り ID：eQwEvA7bv

>>>79

だいたい2着になったのがハナ差とか、クビ差みたいなのが多いからね

81 : 名無しが適当語り ID : M N O a z 9 c i N

>>>80

全力でぶつかって、後1歩届かなくて、でも最後に1着を取るジエネリツク旅程みたいなことされたら男の子興奮しちゃうから……

82 : 名無しが適当語り ID : F Q h A j E f u d

>>>81

女の子も興奮したんだよなあ……

83 : 名無しが適当語り ID : C P P O W 3 j i Y

「眩しい馬体を輝かせ、日本からやって来たたびする少女！アセビツバキ！（和訳）」

「漸く咲いた美しき花！アセビツバキ!!その芦毛の馬体を、海を越えたこの地で咲かせてみせました!!G1初勝利!!」

日本の実況は決め打ちだとしても、アセビを知らない海外の実況でもピンポイントなこと言ってくるの興奮する

84 : 名無しが適當語り ID : r O 6 + s d k g l

>>>83

両方を反復横跳びしながら聞くと最高の気分になれてオススメだぞ

85 : 名無しが適當語り ID : N T j h V Y + Y V

>>>84

たまんねえよな

86 : 名無しが適當語り ID : + u p S T G T h K

ツバキちゃんのG1制覇は陣営もそうなんだけど、デビューからずっと乗ってた
ジョッキーがバチくそ泣いてたのも釣られる

87 : 名無しが適當語り ID : 5 U k E 7 e g z N

>>>86

「もう、望むものはありません。2度と馬に乗れなくなっても良いくらいに」
勝利者インタビューより抜粋

88 : 名無しが適當語り ID : e q X C P C P B O

>>>87

やだ、脳焼かれてる

89 : 名無しが適當語り ID : j O v I 7 a C W l

>>>86

これ言つた後に馬主さんから「アセビの血がなくなるまで辞めさせねえから」つて怒られてて草なんだ

90 : 名無しが適當語り ID : 4 D F n W i X l Q

>>>89

またジョッキーと競走馬がニコイチしてる

91 : 名無しが適當語り ID : u X R J J + Z b 6

ジョッキーと競走馬のニコイチ概念だけを摂取して生きていきたい

92 : 名無しが適當語り ID : n H g g N P l a K

今思ったんだけどさ、アセビ一族に関係する人悉く脳焼かれてない？

93 : 名無しが適當語り ID : yY3CafKXH

>>>92

アセビの血は良い意味で濃く遺伝するからね

94 : 名無しが適當語り ID : vLJfIDcUY

>>>92

だからといって脳が焼かれる部分を遺伝させなくても……

95 : 名無しが適當語り ID : Z3SPLPpAp

でも脳焼かれるの好きだろ？

96 : 名無しが適當語り ID : eOJylqOSF

>>>95

正直好きです

97 : 名無しが適當語り ID : q I z R W o + T k

>>>96

健康に良いよね

98 : 名無しが適當語り ID : U c C M l R c F l

今週の日曜日、アセビコウロ君が初の重賞に挑戦するから皆見ようね

99 : 名無しが適當語り ID : J 9 c x 2 S + D q

>>>98

泣く準備はできてる

100 : 名無しが適當語り ID : i Q w c u Y n 5 E

>>>98

早く日曜日来い。待ち切れん。

ウマ娘のアセビボタンが可愛い

1 : 名無しが適當語り I D : R G s 6 k R S D /
皆アセビボタン好き?

2 : 名無しが適當語り I D : w J + N g U N A D
>> 1

好きです (即答)

3 : 名無しが適當語り I D : G 5 8 / 8 H z w H
>> 1

当たり前だよなあ?

4 : 名無しが適當語り I D : 0 S 6 5 6 R s P 7
>> 1

逆に好きじゃ無い人いるんですか?? (過激派)

5 : 名無しが適當語り ID : LX39gmfQ4

>>>4

性能厨

6 : 名無しが適當語り ID : 8i5uQS6VA

>>>5

なんでやボタンちゃん性能もええやろがい!!!

7 : 名無しが適當語り ID : Rr44WpLb0

あの事実準拠にしたら強過ぎてサイレントナーフ受けた疑惑のあるアセビボタン
ちゃん

8 : 名無しが適當語り ID : l v H H l a E Z d

まあ、実際はそんな事無かった訳ですけど

9 : 名無しが適當語り ID : g N 2 9 j v B H 5
 ボタン好きだ。今すぐ新衣装寄越せ。

10 : 名無しが適當語り ID : I I u C G E u z v

>>>9

それはそう。でも初期実装組から実装して欲しい欲もある。

11 : 名無しが適當語り ID : f H x Z K G B 9 o

>>>10

1回で全員分実装すれば問題無し

12 : 名無しが適當語り ID : I D e Z T q d T l

オタクは欲張り

13 : 名無しが適當語り ID : d 7 E l k b v y 4

皆、アセビボタンちゃんのどこが好き？

14 : 名無しが適當語り ID : g A M F r m P v v

>>>13

全部だ！

15 : 名無しが適當語り ID : V 7 F E h 5 z s W

>>>13

声が…… 良いですよね……

16 : 名無しが適當語り ID : n T m b W T W S J

>>>13

まず可愛いでしょ？その次に可愛くて、やっぱり可愛いですよ

17 : 名無しが適當語り ID : F w V n Z u B c D

>>>13

あの顔付きで実装ウマ娘の中では4位に着く高身長なのが良いっすね

18 : 名無しが適當語り ID : V N 7 F m t X a Z

>>13

時々50年代トークし始めるの好き

19：名無しが適當語り ID：E v G O V F 3 L F

>>18

お出掛け先の家電量販店で興奮してたの滅茶苦茶かわいかったよね

20：名無しが適當語り ID：+9 b 1 k 3 J 7 s

>>19

「……こ、これが現代のカラーテレビ……」

21：名無しが適當語り ID：R T x S 7 T I c W

>>20

ここほんま好き

22：名無しが適當語り ID：5 n S F T T O m C

>>20

お婆ちゃんじゃん

23 : 名無しが適當語り ID : G V O E R 2 t W u

>>>22

お婆ちゃんやぞ

24 : 名無しが適當語り ID : z Z o O 5 Q B 8 R

まず持つてるだけで携帯すら使いこなせて無いからな

25 : 名無しが適當語り ID : h 2 G y v 4 R p u

>>>24

トレーナーが介護職になった瞬間である

26 : 名無しが適當語り ID : z R Z v B h X w F

あの娘、トレーナーに出会う前はよく生活できてたな

27 : 名無しが適當語り ID : E o 3 z R J d + O

>>26

トレセン学園は寮生活だからね。それさえできれば大丈夫だったんやろ（適当）

28：名無しが適當語り ID：JU899umos

現代に追い付いてないからこそ周りのウマ娘から教えられてお目目キラキラさせてる姿が見えるんや……ありがとう……

29：名無しが適當語り ID：k9kvXQD2y

ストーリー中にヘリオスと出会わなくて良かったなあ

30：名無しが適當語り ID：Fz0OXsh9R

ヘリオスと出会ってたら今頃ボタンもウェイ、ウェーイ！してたんやろか

31：名無しが適當語り ID：LMFGQs8H5

見たい様な、見たく無い様な

32：名無しが適當語り ID：SMJvln5t

でもThe・大和撫子みたいな見た目からのウェイ！は聞きたい

33：名無しが適當語り ID：BRUIVU6ix

>>32

分かる

34：名無しが適當語り ID：rZIkra23U

>>32

パマちゃんみたいに最初は困惑してたら尚良い

35：名無しが適當語り ID：RSkyEHJDi

ずっと疑問だったんだけど、アセビボタンって同期とか夫婦的な事実は無いけど仲良いキャラクターっておったりする？

36：名無しが適當語り ID：qNohvyeTY

>>35

ウオダスとか、フラウンスみたいな関係性は全く無いけど、動物繋がりですトウ、見

えない存在を追つてるという意味でカフェ、偶に懐かし目の語彙枠でスーパーカーとか
じゃない？

37 : 名無しが適當語り ID : W U z 0 x v / t +

>>>36

チヨベリバさん……

38 : 名無しが適當語り ID : Q 5 w j Z n K T P

>>>36

999

39 : 名無しが適當語り ID : u G D K V 9 I 3 m

公式的にはアセビボタンが目指すミノルは無理だと思っただけど、ボタンが匂わせた
チカラちゃんは欲しいよなあ……

40 : 名無しが適當語り ID : 3 T k 6 v r C 7 B

>>>39

またウマ娘の年齢層が上がってしまう

41：名無しが適當語り ID：XaLQ8wR/8

>>>39

チカラちゃんって元ネタ誰？ライバル？

42：名無しが適當語り ID：AV0oyNgdH

>>>39

チカラちゃんはトキノチカラって言って、アセビボタンよりも10年位前に活躍した馬。

馬主の円谷氏と菊池氏が仲良しで、所有馬を一緒に走らせてみたいな！的な会話をしたのでストーリーで匂わせてきたと思われる。

ちなみにトキノチカラは菊池氏の所有馬だけど、トキノミノルはトキノ冠を受け継いだ別の人の所有馬。

43：名無しが適當語り ID：nGPAP72x

>>>39

はえく、サンクス

44 : 名無しが適當語り ID : +5 I 8 C E E R j

馬主同士も仲良しだし、馬も片方が天春、片方が天秋でバランスが良いんだよな

45 : 名無しが適當語り ID : g U 9 w 7 k k j K

仲良し可愛い

46 : 名無しが適當語り ID : 6 h Y A O r F Y w

こんなにもアセビボタンは可愛いのに全然公式の資料が出て来ないのバグやろ

47 : 名無しが適當語り ID : c P 4 u J n D r L

>>46

悲しい

48 : 名無しが適當語り ID : L G 5 o S Z V W N

>>46

ほんま、ほんま

49 : 名無しが適當語り ID : N s q D 8 f 0 X G

>> 46

新規実装のウマ娘がいると何故かピンポイントで情報を共有してくれる競馬サイトですら、アセビボタンの時は動き無かつたもんな

50 : 名無しが適當語り ID : z u L 6 7 O v 3 U

俺史実は全く知らんから、アセビボタンの勝負服が可愛いことしか分からん

51 : 名無しが適當語り ID : F C g s R U P X 1

>> 50

間違い無い

52 : 名無しが適當語り ID : 0 8 B A N M Y U Y

>> 50

あの和装と洋装ミックスの勝負服好き

53 : 名無しが適當語り ID : 6 o X 7 f 7 u g +

3Dだと貫通問題とかあるのにようやつとる

54 : 名無しが適當語り ID : x h k Z 6 X V k r

個人的にスカート？が膝下までであるのが個人的にポイントが高い

55 : 名無しが適當語り ID : G c X W 4 Z A a c

>>>54

分かる。布面積多いの助かる。

56 : 名無しが適當語り ID : P s / W p F a O x

時代的に履いてもロングスカートが多いから、制服・勝負服・私服全て膝丈なの最高。
他のウマ娘が駄目って訳じゃ無いけど、偶にこういった風味の娘がいるとお”っ”っ
てなる。

57 : 名無しが適當語り ID : a D n l b 5 y r z

>>>56

濁点が汚い

58 : 名無しが適当語り ID : Znzd1WZ/z

話の流れを変えてスマンやけど、アセビボタンのSSRサポカと衣装違いとイベントはどこ？

59 : 名無しが適当語り ID : 2x1o.jGLVN

>>>58

イベントだと影も無いのさあ

60 : 名無しが適当語り ID : 1MSP+eKv8

マルゼンさんとアセビさん2人でジュリアナ東京行く話とか欲しい

61 : 名無しが適当語り ID : Rdw+82eR9

>>>60

お爺ちゃん、ジュリアナ東京はもう……

6 2 : 名無しが適當語り I D : Z o K / i O E b M
 親父臭くなってきたな

6 3 : 名無しが適當語り I D : m c V k r I + w h
 実際どんなイベント欲しい？

6 4 : 名無しが適當語り I D : w v W u c U m i o
 >>>6 3
 っぱ、動物園やろ

6 5 : 名無しが適當語り I D : 9 o r U A 3 5 G k
 >>>6 3
 牧場

6 6 : 名無しが適當語り I D : V 8 B 9 5 C S 3 6
 >>>6 3

逆に近未来とかサイバー系

67 : 名無しが適當語り ID : W G 9 I S 1 5 s U

>>>63

迷子とアセビの冒険譚

68 : 名無しが適當語り ID : l h V y 6 V u d T

>>>63

癖を前面に押し出して良いなら、シチーに何らかの理由でスカウトされてランウェイ

69 : 名無しが適當語り ID : r 1 M K D I 5 G O

>>>68

何それ見たい

70 : 名無しが適當語り ID : l Z r l Y v S 9 n

>>>68

ウマ娘の顔の良さ(初期装備)を存分に活かし、ビビりながらランウェイを歩いてく

れ
く
く

71 : 名無しが適當語り I D : 7 L q q x C 7 t Q

>>>70

アセビボタンのビビり顔は健康に良い

72 : 名無しが適當語り I D : K E 2 a H U B B o

>>>71

邪悪な健康法やな

73 : 名無しが適當語り I D : a U 4 / I c V K L

でも中の人的にもつと感情ぐちやぐちやになるストーリーー欲しい

74 : 名無しが適當語り I D : s P L Z u f p j m

>>>73

お?地獄か?

75 : 名無しが適當語り ID : f + T / P / Q v T

>>>73

日本ダービーの負けイベント良かった

76 : 名無しが適當語り ID : L9 v f g D N a J

あの演技で「新人です〜」されても信じられんわ

77 : 名無しが適當語り ID : g b d N m E B b U

名前が無い、所謂モブ的な役は吹き替え含めちよくちよく名前見るんだけどね

78 : 名無しが適當語り ID : y f n n X i h 8 p

逆に何でモブしかやってないんや。

1話退場とかのキャラでも喜怒哀楽から感情剥き出しの演技まで最高やろがい！

79 : 名無しが適當語り ID : W G e 7 c F / r 9

厳しい世界やからな……

80：名無しが適當語り ID：h v o X t H j K O

>>>79

厳しい世界は勿論として、そもそも声質があんまりアニメ向きでは無いと言うか、アセビボタンが偶々最高級の合い方しただけで女の子にもお姉さんにもコレジャナイ感生んじやう声してる気がするんよな。

説明音声とか朗読とかで化けるんじや無いかとは思ってる。

81：名無しが適當語り ID：5 F u P E I x 0 j

>>>80

分かる。声優さんだから滑舌は良いし、綺麗な声はしてるんだけどアニメの中で前面に出てくるとなん、なんだろうな？って気持ちになる

82：名無しが適當語り ID：J 7 H 6 Q 3 h g w

ウマ娘の番組にゲスト出演して話してる時に「ああ、ボタンが話してる……」ってなった

83：名無しが適當語り ID：A o 8 0 o b l G 2

>>>82

分かる

84：名無しが適當語り ID：HCUD3XtFE

千鳥チドリ 洗コウさん声が滅茶苦茶良いのは当たり前として、キャラクターの解像度が高いのも好きだし、牧場に行つて脳焼かれてんのも好き。

85：名無しが適當語り ID：VAoORWbz1

「あなたと歩き、旅をしている今が、人生で1番の幸福です」

ボタンの誕生日に牧場の写真を添えてツイートしてたの震えた

86：名無しが適當語り ID：OfA9TlASe

>>>85

これはアセビ民

87：名無しが適當語り ID：akHdtM3du

>>>85

その後の個人ラジオで時間全部使ってアセビ回にしてたの笑った

88 : 名無しが適当語り ID : Y A z q V f V 9 D

>>>87

やっぱりオタクなんやなって

89 : 名無しが適当語り ID : O J P R I G e O n

アセビボタン、見た目も、スタイルも、勝負服も、私服も、声も良いとか悪い所無さ過ぎやろ。優遇か?!

90 : 名無しが適当語り ID : z L s W W N t m I

>>>89

会に行けない(マイナスポイント)でバランス取ってるんやぞ。

91 : 名無しが適当語り ID : / j J n l f q / H

>>>90

会に行けないは他のウマ娘を含めしようがない無い所はあるとしても、資料が全く

無いのはガチでマイナスポイントやろ。

92 : 名無しが適當語り ID : N j B 5 q N 5 U 6
後、現代について行けてないもマイナスポイントや

93 : 名無しが適當語り ID : h / z 6 h / h 5 i

>>>92

それは可愛いからマイナスじゃ無いぞ

94 : 名無しが適當語り ID : f r 6 p R i N v N
資料なあ、なんか新しいの出て来ないもんかねえ

95 : 名無しが適當語り ID : B Z U Q d F U B z
アセビボタンのスレだと10割出てくる資料問題

96 : 名無しが適當語り ID : G b d W K r u N r
トレーナーちゃん何とかして

97 : 名無しが適当語り I D : 3 1 J I p I 4 f a

>>>96

お前がトレーナーだろ、何とかしろ。

98 : 名無しが適当語り I D : 1 y D j p P 8 x d

>>>96

おう、テレビ局探し回ってこい

99 : 名無しが適当語り I D : Q j 7 t q E Z w s

>>>96

ラジオ音源の発掘も宜しくな

100 : 名無しが適当語り I D : e j G R n y U L f

うわっ…アセビボタンの資料、少なすぎ…？

アセビボタンに脳を焼かれた人々

1 : 名無しが適當語り ID : BvN66YAkR

アセビボタンさんをウマ娘で初めて知り、且つ、ウマ娘で明かされている以上の情報を知らないんだけど、検索のサジェストに「脳 焼かれている」が出てきて気になっている。

そんなに凄い馬だったん？

2 : 名無しが適當語り ID : v1I8/DN6r

>>> 1

凄いよ。

馬で言うのとトウカイテイオーみたいな事をしている。

3 : 名無しが適當語り ID : XR4jON8y/

>>> 1

馬主さんが文字を書く仕事もしていた人だから、それに似てか出来過ぎな程に浪漫がある。

4：名無しが適當語り ID：R y V t j C j z /

>>>1

馬主とアセビボタンの所為で馬主の親友だった人が脳を焼かれ、その結果、今の我々が脳を焼かれ、担当声優が脳を焼かれている。

ちなみにアセビボタンに乗っていた騎手さんも若干焼かれている。

5：名無しが1 ID：i O J h C 9 Q a v

>>>4

満遍なく焼かれてるじゃん

6：名無しが適當語り ID：A C L P 2 r 8 S R

>>>5

満遍なく焼かれてるし、焼いた。

7 : 名無しが適当語り ID : 3 e w V g m f a O

何がとは言わないけど……

「アセビさん、あなたと共に旅ができて良かったです」

「我が友の隣で、あの子と彼の旅路を見続けられた事はワタシが生まれてから1番の幸福であった。」

「あなたと歩き、旅をしている今が、人生で1番の幸福です」

8 : 名無しが適当語り ID : S y K 9 0 W e I f

>>>7

この中で1番軽い言葉が馬主さんの言葉ってマ？

9 : 名無しが適当語り ID : Q q L B S 2 4 7 d

>>>7

こんがりしてんねえ

10 : 名無しが適当語り ID : c z P q 2 8 8 R j

>>>7

まあ、馬主さんと親友さんは兎も角せんどりさんの焼け方おかしいやろ。

11 : 名無しが適當語り ID : J h V + n m V 7 r

>>>10

【ここに例の画像】

12 : 名無しが適當語り ID : w 9 x 5 c j a f C

テンプレ出たな

13 : 名無しが適當語り ID : x 4 y M B n t u L

まあ、千鳥さんは良い意味で元ネタとか作品をよく見る人だから焼けちやつたんやろ
なあ……

14 : 名無しが適當語り ID : 3 W d X U M z 9 F

確かボタンの役に決まって直ぐ牧場行つたんでしょ

15 : 名無しが適當語り ID : j P Y T g m q b 2

>>14

せやで。

マネージャーさんから決まりましたよ。報告貰って、その足のまま丁度休みと被って
いた見学可能日に予約して、日帰りレベルで牧場だけ堪能して帰って来た方や。

16 : 名無しが適当語り ID : 8 S G H c S L N W

>>15

行動力の塊。

17 : 名無しが1 ID : 2 Y / e l b K e f

>>7

なにこれ初めて見た。

アセビとか、ボタンとか、ちゃん付けしてる人は沢山いるけど、アセビさんってなる
となんか生々しいね。

18 : 名無しが適当語り ID : 9 D k V N j v F k

>>17

やっぱり生々しいよな

19 : 名無しが適當語り ID : l v s r z r P h p

冠名である「アセビ」がなまじつか人間の苗字っぽくも聞こえるから、完全に好い人
を呼んでいる感じになるんよな。

20 : 名無しが適當語り ID : + z R 5 u 3 i n X

【()に例の g i f】

21 : 名無しが適當語り ID : J k P x r W R F k

>>>20

貼られてないのに何貼られたか分かる不思議

22 : 名無しが適當語り ID : 9 q L c m G v m E

>>>20

ねっとり撫でるの辞めろ

23 : 名無しが適當語り ID : 75DEudORh

>>>20

うーん、これは事後？

24 : 名無しが適當語り ID : U h A C s J u l d

アセビボタンと円谷氏はもつと清いお付き合いです
!!!!!!

25 : 名無しが適當語り ID : Z 8 9 G v b k g g

>>>24

g i f の人だつて脳焼かれてるだけで清いお付き合いだぞ、多分……

26 : 名無しが適當語り ID : I a o L v 7 E c t

>>>25

言い切れ

27 : 名無しが適當語り ID : e / G y 8 K 9 m z

そう言えば噂程度に聞いたんだけど、アセビボタン関係の資料見つかったって本当？

28 : 名無しが適当語り ID : l43dfnJVb

>>>27

資料じゃ無いけど、写真が見つかったらしい

29 : 名無しが適当語り ID : QAZDiZy+E

Twitterでちよつと盛り上がったな

30 : 名無しが1 ID : 6yoWezAVp

>>>29

Twitterなんてあるの!?

31 : 名無しが適当語り ID : BTMLp42FP

>>>30

全然ある、牧場名検索に入れたら出てくるやで

32 : 名無しが1 ID : RNNm5f40G

>>31

ありがとうえ！

33：名無しが適當語り ID：U50/E597+

現像できたら良いね、できたら良いなあ

34：名無しが適當語り ID：zY6GuxtYZ

>>33

それな

35：名無しが適當語り ID：2Pc/Lqwk2

Twitterだとちょっと保存状態がくって言ってたから、それだけが怖い

36：名無しが適當語り ID：LuWdWbkUb

ワンチャン感光してても良いから出してくれと思ってしまう

37：名無しが適當語り ID：JnangB7v

>>>36

分かる。

半分見えなくても！3／4見えなくても！

38：名無しが適当語り ID：9mya5FDXP

オタクは欲張り。でも、欲張りしちゃうよね

39：名無しが1 ID：X53XsIUZ7

スレ見てて、アセビボタンの馬主さんとか声優さんが脳焼かれてるっていうのは何となくわかってきたんだけど、もしかしてスレ民も脳焼かれてる……？

40：名無しが適当語り ID：lCX+Ggl0l

>>>39

ぞ
スレ民が脳焼かれるんじゃないやなくて、アセビボタンを知った者全てが脳焼かれるんじゃない

41：名無しが適当語り ID：YBob0D/bb

>>40

これがアセビボタンじゃ無かったらとんでもないミーム災害で草

42 : 名無しが1 ID : c g J K R y y E W

後思ったけど、馬主さんと声優さん、スレ民と親友さん？が脳を焼かれているとして
騎手はどうなん？

43 : 名無しが適当語り ID : v U s / a k 0 u 5

>>42

騎手はアセビボタンに出会って以降はアセビ冠の馬しか乗らず、牧場にも定期的に遊びに行っていた程度だよ。

怪我で引退が早かったから、あんまり勝利数とかは上げられなかったらしい。引退後は競馬に関係無い所へ行ったから、現役も短かったはず。

44 : 名無しが1 ID : K c M 7 P k t J F

>>43

脳焼かれてるのでは？

引退後に競馬界から離れた所が特に

45 : 名無しが適當語り ID : E t T t O r T J k

>>>44

何というか、他のメンバーが焼かれ過ぎててあんまり話題には上がらないんだよね……

46 : 名無しが適當語り ID : l h V A 4 K s k z

>>>44

焼かれてはいるんだろけど、ジョッキーという仕事上、同じ馬に乗り続けるとか、同じ馬主に連続で任される事があるのを考えるとそんなにつてなるのかもしれない。怪我からの引退だしね。

47 : 名無しが l ID : V G P d F E S Q s

>>>46

成る程なあ

48 : 名無しが適當語り ID : B z z X g U i S l
 アセビボタン、魔性の女やで

49 : 名無しが適當語り ID : Y i p h j l R l /
 魔性の青鹿毛？

50 : 名無しが適當語り ID : p m s w t W f g u
 それは3冠馬や

51 : 名無しが適當語り ID : K R j V q y 3 g j
 魔性の青鹿毛で思い出したけど、アセビボタンには異名とか無いんか？

52 : 名無しが適當語り ID : 7 t U b j S e D W
 無いんじゃない？

53 : 名無しが適當語り ID : L D t H I m Z S l
 聞いた事は無い

54 : 名無しが適當語り ID : AfNi9j57p
 (情報が少ないので) 分かりません

55 : 名無しが適當語り ID : GP05/G2Ls

名前や花言葉から「花」「旅」みたいな例えを使われたり、戦績からウマ娘でも「再び咲いた」「完璧に挑む」といったいった文言は出てくるけど、異名では無いからなあ

56 : 名無しが1 ID : +fP2ds7Re

非公式だけど「名花」ってどう？

57 : 名無しが適當語り ID : k3AS4wci v

>>55

その心は

58 : 名無しが適當語り ID : orCV6K6Pi

>>55

何て読むんや

59 : 名無しが適當語り ID : 5 o R j 7 m x h D

>>55

ええやん (素振り)

60 : 名無しが適當語り ID : F J p M / k W O w

何となく花関係の良さげな言葉を調べてたら「名花(めいか)」って言葉が出て来て、調べてみたら意味に「優れて美しい花」があつて名前に合つてるなうって。

他にも、優れて美しい花の例えに牡丹もあつて、アセビボタンのボタンって花の牡丹からでしょ? 良い感じじゃない?

61 : 名無しが適當語り ID : Q 7 4 V c J l e u

>>60

ええやんおじさん「ええやん」

62 : 名無しが適當語り ID : u v 8 4 7 Z 8 G 4

>>>60

公式では無いけど、公式にしたくなる

63 : 名無しが適当語り ID : 97ZGVrGYH

>>>60

今すぐ運営にプレゼンしに行け

64 : 名無しが適当語り ID : vEPVWv3Cc

まさかスレでボタンちゃんの異名(非公式)が決まるなんてなあ。

天国で高垣氏も手叩いて喜んでるやろ

65 : 名無しが適当語り ID : vfhclfiVo

手叩いて喜ぶ高垣氏の横で円谷氏がニコニコしてる姿が見えるわ

66 : 名無しが適当語り ID : HP19+5ouB

今だとここにせんどりさんのニコニコ顔も追加されるんだよな

67 : 名無しが適當語り ID : DwObEjtUk
せんどりさん美人なのに笑顔が何か怖いんだよな

68 : 名無しが適當語り ID : o7aTlMORQ
>>>67

オタクの笑みだからでは？

69 : 名無しが適當語り ID : eMEQxxum8
>>>67

千鳥さん本人も気にしてるから……

70 : 名無しが適當語り ID : pr7icI5NY
くスレが50を超えて未だ馬主と親友の深い話無しく

71 : 名無しが適當語り ID : g+0UqIrxD
>>>69

だつてもう語り尽くされてる感あるし

72 : 名無しが適当語り I D : 2 d k G D T 8 K 7

>>> 69

インターネットにある様な話はし尽くしてしまったので、新しい何かが出てこない限り、我々は虚無で作った架空の話を永遠としなければならぬのだ……。

73 : 名無しが1 I D : O p 4 X X t Y d I

>>> 72

ちよつと見てみたいと思つてしまった

74 : 名無しが適当語り I D : v l E X b S 2 a v

>>> 73

この先は地獄だぞ

75 : 名無しが適当語り I D : 7 G G H r t g K Z

【朗報】

新しく見つかった写真の現像が終わった模様。

76 : 名無しが適當語り ID : 7H3ice88Y

>>>75

!?!?!?

77 : 名無しが適當語り ID : yB6jnn8SA

>>>75

やっ た ぜ

78 : 名無しが適當語り ID : 5kKeebV6X

Twitter 見てきた。これはてえてえでは!?

79 : 名無しが適當語り ID : 0a6TDMNOd

アセビボタンと馬主さんの写真かな?

80 : 名無しが適當語り ID : cnaia4KqS7

>>>79

車椅子に乗ってるから馬主さんやね

81 : 名無しが適當語り ID : /mpXpLSRl

円谷さんが車椅子って事はアセビボタンからしたら新しい方の写真か

82 : 名無しが適當語り ID : ES1bE4C+V

ボタンちゃん顔が馬主さんに向いてるの可愛い。相思相愛だ……。

83 : 名無しが1 ID : Gy3g9hhD8

馬主さん完全にお父さんの顔してるやん

84 : 名無しが適當語り ID : YEffuM/ZM+

>>83

動物キチヤからな

85 : 名無しが適當語り ID : GIDBv5jSE

>>83

当時から円谷動物園って周りから言われる位には動物好きだった人だから、アセビボタンにも勿論お父さんの顔する

86 : 名無しが適當語り ID : 6 r n Q g T w R X
にしても2枚目はちよつとしんみりする写真ね。

87 : 名無しが適當語り ID : Q Q S D B V E d P

>>>86

牧場?の写真つて事は…… やもんな

88 : 名無しが適當語り ID : H P 5 8 S 6 I Q c

ボタンのお腹大きく見えるからスズナちゃんがお腹にいる時?

89 : 名無しが適當語り ID : g 6 s M p M 8 a A

>>>89

多分そう

90 : 名無しが1 ID : E F t v z n + U D
隣にいるの誰？

91 : 名無しが適當語り ID : X 3 9 c y S j l l

>>>90

向かって左が高垣氏で、右が騎手の小金井氏では

92 : 名無しが1 ID : Q 8 6 9 3 K d U D

>>>91

成る程サックス

93 : 名無しが適當語り ID : F K i D X E w r n

俺らがスレでたらたらアセビボタン可愛いを連呼してたら写真出てきちやった

94 : 名無しが適當語り ID : a W V s X j C m l

>>>93

ボタンちゃん可愛いヤッター!!!

95 : 名無しが適當語り ID : qU6fkG6m2
にしても元ネタアセビさん本当に可愛いな

96 : 名無しが適當語り ID : HGruFSN4
これは牝馬の貫祿

97 : 名無しが適當語り ID : BdVtjRecs
この可愛さが娘にも遺伝したんやね

98 : 名無しが適當語り ID : yVVPlbhnS
>>97
スズナ「俺は牡馬だぞ!!!」

99 : 名無しが適當語り ID : 74m0hzW9f

>>98

これもまたテンプレ

100：名無しが適当語り ID：nDolsNViw
これに続いてもつと新しい資料が見つかります様に!!

必要な練習

「ダンス、ですか？」

「ああ。レースに出るとなると、結果によっては必ず必要になるスキルだ。今まではどうしてた？」

「えっと、興味が無かったので、辞退してました」

「興味……：：：？」

「ダンス。盆踊りや、お祭りの踊りはダンスに入りますか？」

「……：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：？
成る程。理解した」

鏡に映る自分を見ながら言われた通りに身体を動かす。

聞き慣れない横文字の説明をされ、調べながらも頭をパンクさせながら何時間も同じ事を繰り返している。

曰く、関節が柔らかくて動き自体は悪く無い。

曰く、簡単な動作は綺麗。

曰く、やり慣れない動きになると途端に駄目になる。

これが私に向けられたダンスの総評だった。

2週間程前にトレーナーさんからダンスはできるのか？と聞かれ、レッスンが始まった。

今まで生きてきた中で地元のお祭りで踊っていたからそれで大丈夫だと思っていたけど、案外それでは駄目らしい。

トレセン学園の中では評判な方々に教えて貰って、ダンスと歌を両立させて行うのはすごい技術だなと他人事の様に思った。

「うん！そこでフアンサービス！」

「ふあんさーびす……？」

「そう！手を振ったり、投げキッスしたり、ウインクとか！」

「手を振る」

「も〜！それだと偉い人のやり方みたいだよ〜！」

「慣れないもので」

「じゃあ、ウインクは？」

「……ういんく」

「両眼、閉じちゃうね」

「すみません。……やった事が無く」

「ううん、大丈夫だよ！カレンがついてるもん！」

「お世話になります」

500 : 名無しが適當語り ID : P m H O v T F j G

俺の女が別の女にダンス教えてて可愛いんだが??

501 : 名無しが適當語り ID : q P k O Z 9 v S +

>>500

おはやすだ

502 : 名無しが適當語り ID : n + E j v 5 k E j

>>500

某調教師は俺の女発言以外そんな事言わない

503 : 名無しが適当語り ID : sH2GRpolq

>>502

俺の女発言は間違つてないのほんま草

504 : 名無しが適当語り ID : IfX5nhrxs

ウインクができないアセビちゃん可愛いね

505 : 名無しが適当語り ID : DWn8fGuW9

>>504

それを教えるのがカレンチャンなのが良い

506 : 名無しが適当語り ID : MLaYRvJ3h

カレンチャンと初邂逅の時「カレンチャンさん」って呼んでて草生えたけど、思えば馬からしたら違和感は無いんだよな、多分。

507 : 名無しが適当語り ID : 23U8VzmSC

カレンチャンが性格的にさんは要らないよ〜って言ってくれて、人間が感じる違和感が自然に無くなって助かった

508 : 名無しが適当語り ID : CeAaqoJHO

ボタンちゃんが通常はフルネーム+さんだけど、カレンチャンが敬称は要らない発言で呼び捨てになったただけなんだけど、1人だけ距離が近い雰囲気になって良い

509 : 名無しが適当語り ID : JuKUcBarR

>>>508

これはボタカレてえてえの波

510 : 名無しが適当語り ID : KlUPyIhMs

>>>509

カレボタ派です ()

511 : 名無しが適当語り ID : h/PVLYO3S

ウマ娘は百合作品では無い (過激派)

5 1 2 : 名無しが適当語り ID : 0 Y I R m R W 4 A

>> 5 1 1

それは、そう。

5 1 3 : 名無しが適当語り ID : O K H w g i 8 9 m

どうでも良いけどカレボタって、棚ぼたみたいな語感だね

5 1 4 : 名無しが適当語り ID : 0 D 3 5 x q f c u

>> 5 1 3

棚ぼたをしてくれたお陰でボタンちゃんに新しい関係性が生まれたからな。棚ぼたには脚向けて眠れんわ。

5 1 5 : 名無しが適当語り ID : h Y p Z h 4 7 f L

>> 5 1 4

棚ぼたに足向けるってなんだよ(なんだよ)

516 : 名無しが適當語り ID : S9Nzc40Lc

カレンチャンとの絡み見てて思ったんだけどさ、もしかしてアセビボタンってポンコツ度高め？

517 : 名無しが適當語り ID : k1Lm4vrAT

>>>516

ポンコツというか、自分の興味が無い部分にとことん興味無い感じ

518 : 名無しが適當語り ID : 1oQX+v+XF

>>>517

トレーナーに出会う前の過去シーンだと本当に、寝て起きて食って勉強して練習して以外して無さそうでもないな

519 : 名無しが適當語り ID : 10mv6qSfg

今でこそちよこちよこ他キャラクターとの絡みが出始めたけど、過去シーンとかトレーナーと出会ってから暫くはキャラクターとの絡み0だったし

5 2 0 : 名無しが適當語り ID : 7 q I d E 9 q t q
 それもこれも乾巧つて奴の所為なんだ

5 2 1 : 名無しが適當語り ID : X h m 2 y d M i L
 >>> 5 2 0

またたつくんの所為にされてる

5 2 2 : 名無しが適當語り ID : R z D 2 z L 3 U h
 >>> 5 2 0

お前は首折られてろ

5 2 3 : 名無しが適當語り ID : I / Z w h z j V F
 なんだか、内向的な孫に新しいお友達ができた気分

5 2 4 : 名無しが適當語り ID : n n V + h Q l N H
 >>> 5 2 3

孫なのがポイント高い

5 2 5 : 名無しが適當語り I D : g L U K H C J U y

>> 5 2 3

敢えて孫を選ぶ所に拘りを感じる

5 2 6 : 名無しが適當語り I D : 3 3 r / O H A D y

というかアセビのチームメイトとかおらんのか？

5 2 7 : 名無しが適當語り I D : K f f 0 K M d m Z

チームは逆に明かされている方が珍しいですしお寿司

5 2 8 : 名無しが適當語り I D : w L 9 i T T u 2 T

個人的にチームメイト全員アセビ一族で固めて欲しい

5 2 9 : 名無しが適當語り I D : u H u v o Q l 3 b

>> 5 2 8

分かる

530 : 名無しが適当語り

ID : 2Y09CUI44

>>528

なにそれ最高か？

◇或る馬主の話

私の人生は、動物と共に生まれたと言つて過言では無い。

初めて触つたのは、女中のトヨさんがお世話をしていたフウと呼ばれていた仔犬だ。

フウは、幼い私在不躑に、その小さな身体を力任せに触つても怒らず、逆に頭を擦り寄せ共に走つてくれる様な可愛い命であつた。

私はフウと接する内に、動物に対して慈しむ気持ちを持つ様になつた。仔犬のフウから教わつた1つだ。

それからの人生は勉強と、専ら動物に時間を掛けていた。家を継ぐ為に厳しい躑もされたが、私には心の拠り所があり、友がいたのだ。

芳司君から私の家が動物園の様だと言われた。

確かに、妻と私。まだ2人きりの家にしては音が多い。

コチ、マチ、マメ、ヨウ、ハク、ウメ、シマ、ユサ、ナコ。そう言えば、妻と見合いを

した時も彼女は困った様に笑って、ワタシが犬嫌い、猫嫌いだったらどうしたんですかと、聞かれたな。

最近、畑の手伝いに馬を迎え入れたいと思っているのだが、ミツ子さんは許してくれるだろうか。

雪風という名前の雌の馬を買った。

本当なら、力が強い雄の馬が良かったが、一目惚れをしてしまったのだから仕方無い。ミツ子さんも最初は本当に馬が来たと驚いていたが、次第に受け入れ、今では雪風の子供が楽しみみねと笑っている。

いつか、私の息子が雪風の背に、子供達に乗る日が来たらと思ってしまう。きつと、良い思い出になる。

芳司君にも雪風を見せてやろうと呼んでみたら、彼は腰を抜かしかけた！と笑い、驚い

ていた。

人好きな雪風は直ぐ芳司君に顔を寄せ、芳司君もまた、その身体を撫でていた。そうして暫く、芳司君は何かに気付いたかの様に心臓の辺りをしきりに触って、息を吐いた。私は、何かと息を止めてしまった。

雪風を競馬に出したいと言われた日、私は初めて芳司君の意見に否を出した。

雪風は畑の手伝いをして貰う為、珠子や蓮之介を背に乗せて貰う為に我が家にいる。何の訓練も積んでいない。競う世界へと脚を向けるには、あまりにも小さい身体なのだ。

雪風、アセビボタンは強い馬だったらしい。

あの後、私は芳司君から熱烈な言葉でまんまと丸められ、雪風を人へ預け、あまつさえミツ子さんと植物の図鑑を開いてどの名前が綺麗かと話し、懇意にして頂いている菊池サンの元へ脚を向けていたのだ。

我ながら流され易いというか、甘いというか。マア、アセビさんに怪我が無いなら良い。あの子が、健康に生きて、死ぬるなら、私はそれで良い。

イヤ、これは私のエゴイズムだな。

最近、身体の調子が悪い。

身体が思う様に動かない。

直ぐに咳き込んで疲れ、1歩歩けば疲れを繰り返している。

アセビさんの応援に行く所か、会いにも行けやしない。

アセビボタン、私の子。会いたい。

．．．

珠子と蓮之介が芳司君の計らいで馬の背に乗ったらしい。今の時代は良いな、写真がある。私がいなくてもその瞬間を見る事ができる。

ここ最近は何調が良い、芳司君に御願いをしてミツ子さんも誘い、アセビさんに会いに行こう。

私の事を覚えてくれていたら嬉しい。

私は競馬に詳しく無いから、競馬については芳司君に殆ど任せていたが、次の天皇賞で引退、という形になると聞いた。どうにか私も行けないものか。

芳司君が私が競馬場へも行ける様に何やら手配してくれるそうだ。

美しいものを見た。

どうか、どうか、あの子が幸せであります様に。

1 : 名無しが適当語り ID : t j 9 Z R 6 S s U
 This is ナニコレ

2 : 名無しが適当語り ID : X k / T n o Z + F
 >> 1

馬主さんの日記。

3 : 名無しが適当語り ID : E / 2 2 C i K L 5
 >>> 2

正論で返すな。

4 : 名無しが適當語り ID : H H A l f 7 T I 5

>>>2

即レスで答えを出すな

5 : 名無しが適當語り ID : R Y D p O R W G J

馬主さんの資料がまさかこんなとはな…… (褒め言葉)

6 : 名無しが適當語り ID : e K 9 q M H G A s

け? 円谷氏の生家を補修+整理をした際に見つかったものを許可貰って公開したんだっ

7 : 名無しが適當語り ID : 6 d 0 y X a 7 h 9

>>>6

せやで。因みに、円谷氏のお孫さんの方からこれはあなた達が持っていてと牧場の方に寄贈?されたらしい。

8 : 名無しが適當語り ID : / P H J R N 2 e P
 許可を貰って公開？ 妙だな……

9 : 名無しが適當語り ID : o 7 j L r p b b c

高垣氏の方は著作権切れてるので平気や！ って公開してるけど、相手方のはちゃんと許可取る所好きだよ

10 : 名無しが適當語り ID : h A c X L Z E d V

>>>8

脳焼かれ日記は身内のやつやからね、仕方ないね。

11 : 名無しが適當語り ID : i 9 t 4 V Z t 7 X

最後の方になると文字数少なくなるのホンマさあ……

12 : 名無しが適當語り ID : l D p w + M h T G

>>>11

文字多くても最初とは違って震えてるのもなあ

13 : 名無しが適當語り ID : b p 5 f g a w 0 j

>> 11

命とは儚いものだね

14 : 名無しが適當語り ID : p i x C / 7 M v F

>> 11

日記ではこんなにも弱ってるのに、高垣氏とボタンちゃんに会いに行つた時は車椅子以外普通だったって残ってるのがね

15 : 名無しが適當語り ID : H r 5 2 7 D V 7 C

最後がもう死亡フラグ立ちまくりな終わり方してるけど、折れなかったんだよなあ

16 : 名無しが適當語り ID : / x v m 7 j W t C

>> 15

引退して直ぐに牧場へギリギリの身体に鞭打って、アセビボタンと5分くらい顔を合
わせてからは直ぐだったらしいね

17 : 名無しが適当語り ID : c q h t O N g v L

>>>16

円谷氏も何となく悟ったんだろうね

18 : 名無しが適当語り ID : f X G 3 r s j f Z

女中さんとも仲良くて、家族と奥さんとの関係も良好で、子供も愛して、動物も好きで、歳上の人に可愛がられて1対1で酒酌み交わすくらいには良い人。

円谷先生ちよつと属性過多過ぎんよ〜

19 : 名無しが適当語り ID : M S a 3 p x p 2 J

>>>18

現代に生きてたら詐欺被害とか凄そう

20 : 名無しが適当語り ID : x b o Y i 9 j l X

>>>19

ちよつと草

21 : 名無しが適當語り ID : l 2 q E n w y J l

>>> 19

「お前の馬が全力で走る姿見たくないのか?!?!? (意識)」で競馬うーんからまあ、怪我しないなら……. になつてるから間違ひ無く被害には遭う。

22 : 名無しが適當語り ID : S l 8 y w O i k e

>>> 21

円谷先生もうちよつと鋼の意思持つてもろて

23 : 名無しが適當語り ID : 5 7 c Q 7 d j 7 4

でも、円谷氏家に押し入つた強盗を論じて自首させたくらいには凄い人だよ

24 : 名無しが適當語り ID : l D 5 E 6 r E S U

>>> 23

ええ、ほんまにござるかあ〜
?????

25 : 名無しが適當語り ID : 0 b a 6 D U h 3 m

>>>23

← 家に強盗が入る

← 偶々家にいた円谷先生が話し掛けて、訳を聞いていたら実は生活が出来ないから盗みをしているという理由を聞く

←

← 円谷先生「じゃあ、私の会社で働くと良い」

←

← でも、やった事は悪い事だからその罪は無くしちゃいけないよ

←

犯人自首

こーやぞ

26 : 名無しが適當語り ID : 5 J f q X X t 7 H

>>>25

2つ目から分からん

27 : 名無しが適當語り ID : j l c X r j P i O

>>>25

その後高垣氏に死んだらどうする!?! って本気で怒られてるんだよな

28 : 名無しが適當語り ID : w 4 m s a h T h m

>>>27

正論 of 正論

29 : 名無しが適當語り ID : s 5 A M D w X R U

>>>27

ぐうの音も出ない

30 : 名無しが適當語り ID : a x 0 0 0 B E P B

この馬にして、この馬主ありつて話やな

馬酔木牡丹の独白

「先生は、旅行をしに行つたんだ。だから、少しの間会えなくなる」

お兄ちゃんは、優しい言葉と共に私の頭を撫でてくれた。

だけど、私は知っていたの。

先生がどうなったかを。私だって馬鹿じゃ無いもの。

でも、お兄ちゃんからの言葉は現実を受け入れたく無い私には嬉しくて、寄り掛かるには十分だった。

本当は恥なんて考えずに泣き叫びたかった。どうしてと先生を叩いてやりたかった。

だけど、私は先生が愛してくれたウマ娘だから、溢れた涙を雑に拭つてしやんとしていた。全部が終わる迄、必死に押し込んだ。

全部が終わって、私はベッドの中でタオルを顔に押し付けて漸く泣けた。泣いて、泣いて、日が昇った頃に次に泣くのは自分の為にと涙を仕舞い込んだ。

舗装はされているものの、少し年季が入り、歩き辛くなっている混凝土の道を両手に荷物を持って歩く。

学園からは少し遠くて、何度か電車を乗り継いだ場所にあるこの場所。慣れたルートを迷わず辿って、脚を止める。

周りとは比べても特別大きな大理石で作られた先生の眠る場所。

雑草や苔が生えている事は無く、花立には私が持つて来た物の入る隙間が無い程に瑞々しい季節の花が美しく飾られている。

何年経つても先生を慕う人が絶えず、この場所を綺麗なまま保つてくれている。

……私もなんだか、鼻が高い。

「先生」

何本かの線香を香炉へと入れ、元々の花に邪魔にならない程度に飾る。

話し掛けても昔の様に返ってくる事の無い先生へと気にせず独り言を口にする。

「私、秋の天皇賞に勝ったんだ。あのミスターシービーさんや、タマモクロスさん、トーセンジョーダンさん、名だたるウマ娘達が名前を残している誉を、私も貰ったんだ」

「スランプ。も、したけどさ、チームの皆がトレーナーが助けてくれて、手を引いてくれて、私はもう一度走れたんだ」

「美しいものを見なさい」、”旅をしなさい”。先生からの教え。私はまだ、守ってる

んだよ」

「だからさ、先生も旅をしながら時々で良いんだ。私達の事、見ていてね」
「貴方がいたから、私は今、此処にいる。幸せに生きている。」

「これからも、旅をしよう。ね、お父さん」

200 : 名無しが適當語り ID : aOm8Z+/wW

アセビさん家の長女ストーリー、例のシーンで泣いたオタクおらん？

201 : 名無しが適當語り ID : bOQd72a8Q

>>>200

初回で泣いたし、なんなら今でも見返して泣いてるぞ

202 : 名無しが適當語り ID : uKVXTRw/2

>>>200

あんなん泣く

203 : 名無しが適當語り ID : tUjTBcllL

>>200

例のシーンを見て泣いて、プロフィールが生死関係無く読める様になつてゐるのに気付いて泣いた

204 : 名無しが適當語り ID : oBKclFR2h

フェスタさんが原作改変されて夢を見せてくれたのに対し、原作通りに行くボタンさんに泣いた

205 : 名無しが適當語り ID : Sw+udUc6Q

>>204

フェスタも泣いたけど、ボタンも同じくらい泣いた

206 : 名無しが適當語り ID : uzjUH5wvE

ごめん、史実ニワカオタクなだけで、例のシーンだけボタンちゃんがお父さんの事を「先生」って呼んでる事に何か元ネタある？

207 : 名無しが適當語り ID : A4BPIOfph

>>206

元ネタというか、馬主である円谷さんが小説家と実業家をしている人で、周りからも基本的に先生って呼ばれていたのが、実馬の方のアセビボタンにも「円谷さんが来てくれたよ」ってよりは「先生が来てくれたよ」「円谷先生が来てくれたよ」って言った方が反応が良かったみたいなお話がある。

208 : 名無しが適當語り ID : tToXPWE0o

>>207

また元ネタボタンさんの事を知ってしまった

209 : 名無しが適當語り ID : sUi4Qdiq

>>207

アセビボタンがウマ娘化してから新しいエピソードが出る様になってありがたいが、ありがてえ!!

210 : 名無しが適當語り ID : nwtZdPmVy

例のシーン、始まった瞬間に察してしまってお兄ちゃんの言葉からボロ泣きしてしまった

211 : 名無しが適當語り ID : 0 T E s A 4 I n F

>>>210

分かる

212 : 名無しが適當語り ID : F N 8 g 7 I 6 z S

>>>210

お兄ちゃんの優しい声が逆に辛いのがリアルで良かった

213 : 名無しが適當語り ID : 9 r Z h j I b R l

先生に私達を見守ってて言うの最高にお姉ちゃん

214 : 名無しが適當語り ID : y b u Z U H l p F

>>>213

これはチームリーダーですわ

215 : 名無しが適當語り

ID : NANj9RObz

>>213

流石アセビの祖

◇とある家族の欽慕

騎手としての思い出？ そうだなあ。 …… やつぱり、あの馬だろうね。

アセビボタン。俺の心に刺さって抜けない思い出であり、唯一の心残り。

ああ、心残りっていうのは悪い意味では無くてね。あの日、落馬なんてしなければもつとアセビの夢を見れていただろうなという、俺の我儘なんだよ。

…有難う、確かにそうだ。今は俺の我儘を任せられる相手がいるからね。

話を戻そうか。俺とアセビボタンの出会いは偶然で、偶々高垣さんと知り合いだったっただけなんだ。

騎手となつてからずっと、良い言い方で鳴かず飛ばず、本来の意味なら俺は勝てない技術不足の人間だった。

そんな私が任されたのが、あのアセビ冠の祖だった。

最初は可愛い馬、という印象だったかな。牝馬だし、名前も相まって綺麗な馬だと思つた。まあ、その実力は可愛く無かつただけだ。

まるで、夢みたいな時間だった。あの子から、勝負を教わつたと言つても良い。あの子

と出会う為に騎手になったと言っても良い。まるで、初恋の様だった。美しく生まれ、強く走り、慈しむ母。

本当なら、アセビの馬にもっと乗っていたかった。共に、走りたかった。あの日、あの時、着地の方法を間違えなければと何度も夢に見る。

まあ、過ぎた事を気にし過ぎては駄目だね。着地を間違えはしたけど、俺の命は残ってる。馬も無事だった。それで良いさ。

……そうだね。次の大きな休みにでも牧場に行こう。こう見えても、俺はあの牧場の常連なんだ。

これかい？これはね、”君も無事に”って円谷さんから貰ったものなんだ。もうほつれてボロボロだけど、よく見たら円谷って読めるだろ？

それ、やるよ。お守りにしとけ。

良いか、忘れるな。俺の背を指すなら、怪我にだけは気を付けろ。そうして、いつか訪れる夢と共に走り、夢を見せる側になれ。

お前にも、俺でいうアセビボタンになる子ときつと巡り会う。

なんだって、小金井近江の息子なんだからな！はっはっは！！

騎手になったきっかけは、端的に言えば、父の影響ですね。

私の父は小金井近江と言つて、あのアセビボタンに騎乗していたジョッキーで、私はその父の背中に憧れて騎手を志しました。

反対はされましたね。特に母や、兄妹から。なんたつて、愛する父が、尊敬する父が、一度は川を渡りかけたのですから。

それでも私は、騎手になりたかつた。他の競馬に関わる形では無く、騎手として。アセビの背に乗つて、父の言つていた夢を見てみたかつた。旅を試してみたかつた。

騎手になるのには私は他の方より時間が掛かりました。緊張して面接が上手く出来なかつたり、思う様に身体を動かせなかつたりと、競馬学校自体をギリギリで合格して、ギリギリで卒業した。

最初は声を掛けて貰える事も無く、馬を掲示板に入れる事すら出来なくて。

正直、辞めようと思ひました。私が父の背を追う事自体が間違いだったのだと。良い事と形容するのは間違いですが、先程の通り家族の殆どには反対されてましたから、実家に戻る事も苦しい選択では無かつた。

私の人生が変わつたのは、あのアセビの馬に乗る事が決まつた時です。

アセビツバキ、私が憧れ父が夢を見たというアセビの名を持つ牝馬。本来なら別のジョッキーへ騎乗依頼をされていたのが、悉く予定が埋まつていて言つてしまえば陣営

にとつてハズレ籤を引かされた様なもの。

絶対に負けられないと思うと同時に、実力で選ばれ無かつた悔しさと、プレッシャーで本当に私で良いのかと三日三晩考えて、ツバキで結果が出せなかつたら、それは本当に向いて無い仕事だつたのだと辞める決心をしました。

結果、アセビツバキと走つた6年間は私にとつて、かけがえの無い、正に夢の様な時間になりました。

クラシックは1冠も取る事無く終わつてしまい、顔向けできなかつた。でも、海を渡つた先で漸く冠を手にする事ができた。

そのお陰で、私は今ここにいます。こうして、インタビューを受ける事ができています。本当に、ツバキには脚を向ける事ができませんね。

ライブをしよう

「常々思っていたんだが」

「? 何でしよう?」

「ウイニングライブってのは、どうもレースとの間隔が短くは無いか?」

「そうですねえ……思わなくは無いですけど、そこはウマ娘パワーと、言いますか……」
「確かになあ。何千メートルも全力で走った後に直ぐライブだもんなあ、俺だったらクールダウンも出来ずに倒れて終わりだ……身体は大丈夫か?」

「ええ。ライブをするくらいなら全く」

「じゃあ、俺はお前さんのレッスンの成果を特等席で見せて貰おうかな」

「期待していて下さいね」

「おう」

863 : 名無しが適当語り ID : k z 1 h M O 1 p R

アセビボタン、歌が上手い。

864 : 名無しが適當語り ID : T j H 2 V U O 7 q

>>863

分かる

865 : 名無しが適當語り ID : 6 w 5 B e 0 7 f B

>>863

古事記にも書いてある事を今更どうした？

866 : 名無しが適當語り ID : F G U h A f r I G

>>863

当たり前だよなあ？

867 : 名無しが適當語り ID : 6 L c Y H 3 M G p

アセビボタンの歌い方、というか千鳥さんの歌つてあれだよね、一発で「上手い!!」つてなるよりも、何時間、何十時間聴いていても永遠と味が無くならない謎の魔力あるよ

ね

868 : 名無しが適當語り ID : LnhrpuOFD
千鳥さんウマ娘のライブに出演してくれないかしら……

869 : 名無しが適當語り ID : E3FJoFgUp
ボタンちゃんが実装してからライブ的なイベントには1度もなんだっけ？

870 : 名無しが適當語り ID : U5P9pQHMG

>>>869

せや。

871 : 名無しが適當語り ID : TUMLIqYDV

オタクとしては全裸待機してでも出て欲しいと思ってしまう強欲な所があるんだけど、せんどりさんつてやり直しが出来ない生歌とか人前で歌う事を事務所に宣言してるくらいには超絶苦手としているから無理強いは出来ひんのよな

872 : 名無しが適當語り ID : v w I 3 L Z l V i

>>>871

初耳

873 : 名無しが適當語り ID : n I b b 0 C X Q O

>>>871

それはもう、いつか洗さんの気が変わるのを気長に待つしか無いわね。

874 : 名無しが適當語り ID : P t g A Z Q + J I

アセビボタン、はよソロ曲出して。

875 : 名無しが適當語り ID : Y N 0 j Z 5 X l l

>>>874

ソロ曲は実装当初から言われてるから

876 : 名無しが適當語り ID : s o N G p L S z A

>>>874

ストーリー読んだオタク達が挙ってソロ曲を求めるゾンビになって腹抱えて笑った記憶ある

877：名無しが適當語り ID：n z g t 7 L h b +

>>876

その後、実装されていなければ存在すらしていない架空のソロ曲を幻視、幻聴してるオタクまでの流れが美しかったな

878：名無しが適當語り ID：M q U 7 2 N M l I

今の所『シネマ』と『ヒトツボシ』が優勢

879：名無しが適當語り ID：N z S f y A l s m

>>878

ボカロとJ-popで分かれてるのオタクが考えてるイメソンって感じ

880：名無しが適當語り ID：0 6 H l 6 / R p 7

>>878

絶妙にシネマがアセビ一族、ヒトツボシが円谷先生↓アセビボタンに聴けるの好き

881：名無しが適當語り ID：5Z6z+UJ66

イメソンという立ち位置だけど、ここまで雰囲気合うんだからガチのソロ曲どうなつてしまうんや

882：名無しが適當語り ID：dlCL4wDm／

>>881

オペラオーの『Lilily』でこんがりだったんだから、もう何も残らないよ

883：名無しが適當語り ID：njuEeK2kv

>>882

こわひ

884：名無しが適當語り ID：HmtPkmsjz

公式はホラ、イメソンとCMを早く作るんだよ

885 : 名無しが適當語り ID : l o q p M f p d x
(映像素材が) ありません!!

886 : 名無しが適當語り ID : L C K X a I Q Z B
>>885

公式の倉庫には残つとるやろ

887 : 名無しが適當語り ID : A G Q b j k z 6 c
>>886

ギリJ R Aすら出来上がる前だけど大丈夫?

888 : 名無しが適當語り ID : 7 R k + J C k E V
>>887

え、そんなに前なん?!

889 : 名無しが適當語り ID : 9 + E X P / 7 Z A
>>888

J R A 創設 1954 年、アセビボタン引退 1953 年

890 : 名無しが適當語り ID : J L M u N p x M 4

激マブがトレセン学園の中でお姉さんってだけでアセビボタンもメンバーが固まっている 80 年代後半〜90 年代組だと思つてたわ…… (歴史ミリしらオタク)

891 : 名無しが適當語り ID : n K K Z 6 H x R c

アセビボタンマジでお婆ちゃんなんすよ……

892 : 名無しが適當語り ID : A y S 7 a b M l A

じゃあウマ娘の素材で作つてクレメンス (他力本願寺)

893 : 名無しが適當語り ID : X m f 7 c V N i q

>>> 892

それはもう有志が作つてくれるから動画サイトに貼り付けて見ろ。3 億回は再生しろ。

894 : 名無しが適当語り ID : fFe / 2qbiq

>>>892

これすき

<https://youtu.be/Unasukii>

895 : 名無しが適当語り ID : 6tPYzb77b

>>>894

二次創作CMの中で至高の作品やん

896 : 名無しが適当語り ID : sj9KjQVLC

>>>894

これ映像だけで泣けるんだけど、合成音声にナレーションさせて完成されてるのとてもない

897 : 名無しが適当語り ID : XWR4vGYDD

>>>896

これ合成音声なん？

898：名無しが適當語り ID：S/gUGdqdf

>>>897

せやで。

製作者のTwitterで、本来なら自分でナレーション撮ってたんだけど、羞恥で死んだから合成音声にしたって言った。

899：名無しが適當語り ID：n0VPfrBjl

>>>894

見た。泣いた。

900：名無しが適當語り ID：4JaS/YHLi

製作者さんウマ娘からアセビボタンを知ったって言ってたのに、投稿してる桜花賞と、天皇賞（秋）の解釈がリアルタイムで見えました？ってレベルの解釈してるのほんま凄いです。

901：名無しが適當語り ID：60DcqbwG5

オタク君は多彩やなあ

902 : 名無しが適當語り ID : a z U E x 5 L u j

これも見ろ。

<https://youtu.be/Unasukii>

903 : 名無しが適當語り ID : J A w X j Y J V k

>>902

泣いた。

904 : 名無しが適當語り ID : 3 F z t M u p o 2

>>902

ウマ娘のストーリーでも泣いたのに、二次創作でも泣くななんて思って無かった

905 : 名無しが適當語り ID : F f r I x C 9 l J

>>902

絵がうめえや！

906 : 名無しが適当語り ID : 56RRqAlZj
 アセビ一族が花と創作で表現し易いものから名前が付けられてるから、4分の中に要素がこれでもかと入れられてて涙腺にきた

907 : 名無しが適当語り ID : Qf8rDzyIz
 動画途中のボタンちゃん指揮棒持つてるのはポンポーソ君要素？

908 : 名無しが適当語り ID : GhQ7nSduQ

>>907

多分そう

909 : 名無しが適当語り ID : WNS/ZCV9a

>>907

芸が細かい

910 : 名無しが適当語り ID : 0GFIA6zIz

>>>907

花畑の中で指揮棒持ってポンポーソ君匂わせと、アセビ一族の匂わせと、ポンポーソの意味である豪華さも表現している全部乗せ感だいき

911 : 名無しが適當語り ID : M9a68 / uTT

あれ？ライブの話は？

912 : 名無しが適當語り ID : W+KhNa6MO

>>>911

オタクは会話が脱線しがちだから…… 仕方ないね。

番外編：寒さと冬毛と金勘定と

12月。1年の中でも特に重大なイベントとして取り上げられる事の多いクリスマスが控えるこの月は、周りのテンションとは裏腹に私にとってはとても気分が落ち込む日々の本格的な始まりを告げる月だった。

制服の下には＋〇の謳い文句で有名なインナーを着て、スカートの下には140と
いう数字のタイツを履く。

それでも私には耐え難く、察からトレセン学園の移動までにコートとマフラーを必須として「重装備」の3文字が似合うこの格好が恒例だった。

周りのウマ娘さん達はある程度寒さには強いと言うが、私はその真逆な体質を持つていた。

「お早う。今日も寒いな……って、見慣れた着膨れっぷりだな」

「お早う御座います。動き始めたら大丈夫なんですけど、それまでがやはり」

「なんか、その格好のボタンを見ると冬が来たなって感じがするよ」

「あはは。私も移動中なんか反射したこの姿を見て1年の終わりだくって感じます」

チームに与えられる教室にトレーナーさんと2人で向き合いながら座れば、暖房で部屋が暖まる迄の着膨れした私と、寒さを口にしない割にコートを脱がないトレーナーさんとのやり慣れた雑談を、お互いに暖かい飲み物を手にしながらポツリポツリと静かに行う。

そうして、何回目かのキャッチボールを終えたタイミングでトレーナーさんが目線を上げながら首を傾げる。

「そういえば、ずつと気になってはいたんだが」

「はい。何でしょう?」

「ボタンの耳。トレセン学園でも偶に見るが、冬になるとやけにモフモフというか、言葉を選ばずに言うとも毛深くなるよな」

「毛深く……ああ、確かに、そうかもしれない。何ででしょう?」

「人間は秋や春先だと抜け毛が多くなると言うが、耳だし、なんなら生えてきている訳だなあ……犬や猫みたいな冬毛なのか?」

「冬毛、なのでしようか……確かにここまで耳が毛で膨らんで見えるのはこの季節だけですけど」

「やっぱり冬毛かな?」

「冬毛、ですかね」

自分の耳を自分で触りながらトレーナーさんと同じ様に首を傾げる。今まで気にした事も無かった事実。

なんだろう、なんだろう。と考えているうちに、暖かい空気が部屋中に循環して過剰し易い温度になってくる。

「そろそろ大丈夫そうか？暖房が良い感じに効いてきたと思うんだが」

「そうですね。次の行動を始めましょうか」

「よし。それじゃあ、コート預かるよ」

「あっ！有難う御座います……！」

一足先にトレーナーさんが椅子から立ち上がり、扉近くのコート掛けに自分の着ていた物を掛ける。

そして、私の脱いだコートやマフラーも受け取って同じ様に皺が出来ない様に丁寧に掛けてくれる。

その一連の流れを見ながら、トレーナーさんの着ていた物へ注目する。私の物とは比べ物にはならない程、上等な物。

昔、同じ事を聞いた事があるが、トレーナーさんは少しだけ恥ずかしそうにしながら「注目されるウマ娘を相手にしているのだから、自分の格好でウマ娘の品位を下げない様に」と、トレーナーさんはある程度良い物を身に付けていると言っていた。

ぶつきらぼうに見えながらも、誠実なその優しさが私はとても好ましい。だからこそ、トレーナーさんの存在を落とさない様に私もレースで大きな結果を残したい。

「それじゃあ、ミーティングを始めよう」

「はい！」

「今日は、次のレースとトレーニングについてだけ……凄いい気合入ってるな」

「へ？そうですか？」

「ああ。なんだか出るレース全部で快勝してやるって顔してるぞ」

トレーナーさんが薄く笑うのを見ながら、自分の顔をペタペタと触る。

「そんなやる気な顔になっていたかな？」

「まあ、でも全部勝つくらい、強くなりたいです！」

「そうだな。アセビボタンの名前を世界中に示すくらい強くなろう」

「はいっ！」

運命的な出会い

待ち遠しい旅行にトレーニング、殆ど初めてな飛行機に乗って珍しく興奮した感情を抑え込みながら日本を飛び立つてから10時間以上のフライトを経て、私はイギリスの地面に脚を付けた。

冬休み前にトレーナーさんからの提案を受けた時は、どうなる事かと思ったが、旅行を計画したお兄ちゃんの計らいで少しではあるがイギリスでのトレーニング時間を確保する事が出来た。

携帯を覗けば新着のメッセージにはトレーナーさんから「ターフの上で待っている」というメッセージ。

時間を無駄にしない様に、待たせない様にと思い手早くジャージに着替え、更衣室を後にしてターフへと向かおうとして、見慣れない地図を頼りに歩いていたのが一向に景色は変わらず、最悪の結末が頭に浮かぶ。

「……もしかして、迷った？」

どうすれば良いのだろうか。

知らない土地、知らない場所、案内図は現在地が分からないから使い物にならない、言

葉も違う。更衣室の場所も分からなくなってしまった。

不安よりもまず焦りに襲われる。

こういう時は、どうすれば良いのだろうか。と一縷の望みでポケットに手を入れれば、感じた確かな感触。

トレーニング時は普段だと持ち歩か無い携帯電話。

助かったと思い、画面を付けたその瞬間に遠くから一つの声が聞こえる。

「You there!」

薄暗い通路の真ん中で反響する、私とは違う、美しい声。

音に導かれるまま顔を上げれば、あの子と似た鹿毛の髪を靡かせ、少し大きめな耳を此方に向けて心配そうな顔を向けてくれているウマ娘。

「Feeling unwell? Shall I take you to the infirmary?」

滑らかな発音。

私の耳では到底聞き取る事の出来ない本場の英語。

「え!? あ、あーゆー? ど、どうしよう……何て言つて……すろーりーわんもあぶりーず?」

「ニホンゴ……アナタ、日本のウマむすめ?」

「お、おーいえす。いえす！じゃばにーずうまむすめ！」

「そうなのね。ふふつ、ワタシ少しだけ日本語分かるわ」

「！あ、あのあのの！私、この場所に出たいんです！」

日本語が分かるのならばと、思わず持っていた紙の地図を開いて指を指せば目の前のウマ娘さんは当たり前だが、慣れた様子で場所を把握する。

「ここに行きたいのね？なら、ワタシが案内しますね？」

「良いんですか？貴女も、練習があるんじゃない？」

「大丈夫よ。困っている所を助けたんだもの、怒られないわ」

「……では、お願いします」

「うん。任せて！」

名前も分からない相手なのにいざ隣に並んで歩くのは何故かとても緊張する。

日本にいる知り合いだつて綺麗なのに、何かが違う。

言葉で形容は出来ないけれど、とても高貴なナニカを持っている様な雰囲気を感じた。

暫く歩いて、少しだけポコポコとした地面と、日本と違う感触の芝の上に立つ。洋芝が使われていると聞いたイギリスのバ場。

肌寒い空の下、私は初めて海外の馬場に足を踏み入れた。

物珍しさに脚を動かしていれば、彼女はまた美しい声でお淑やかに笑う。

「ど、どうしたんですか？」

「ううん。只、とつてもラブリーだなんて」

「らぶりー？」

「ええ、そうよ……そうだ！何かの縁よ。連絡先を交換したいわ！」

「へ!？」

「日本とは時差があるから、きつと頻繁には出来ないけれど、良いかしら？」

「わ、私で良ければ」

結局使う事の無かったポケットの中にある携帯を取り出して、慣れない手付きで画面を出せば、彼女は私と違って慣れた手付きで連絡先を交換してしまった。

「アナタの名前、アセビボタンって言うのね。ボタンって呼んでも良いかしら？」

「構いませんよ。貴女の名前は」

ハイ……携帯に表示された名前を呼ぼうと口を開いた瞬間、唇に彼女の指が当てられる。

首を傾げれば、美しく笑う彼女の顔。

「ワタシの名前はね、この国にあるお城と同じ名前なの。だから、調べて、見つけて欲しいわ……今日から1週間後に電話をするの。その時に初めてワタシの名前を呼んで。」

ボタンがシャーロック・ホームズになるのよ。その方が、きっと楽しいでしょ？」

「……そうですね。分かりました、きっと見つけます」

「ええ、ええ、約束よ」

「はい！間違えても笑わないで下さいね？」

「笑わないわ。見つけようとしてくれたその事実も大切だもの……なんだか不思議。ワタシとアナタ、初めて会ったのに初めての気がしない」

「そう、ですか？」

「うん。もしかしたらワタシ達、何処かですれ違っていたのかもしれないわね。ワタシも、日本に行った事があるもの」

「日本には、袖振り合うも多生の縁という言葉があります。本当に小さな事でも前世からの縁かもしれないね。という意味です。だから、きつと」

「まあ！素敵な言葉だわ。ワタシ達、そでふりあうもたしようのえん。ね！」

彼女と手を合わせて、2人だけの約束を交わす。

そうして名残惜しいまま別れ、私はトレーナーさんが待っている場所へ歩く。振り返った時にはもう、彼女の姿は見えなくなっていた。

トレーナーさんは、矢張りと言うべきか私が来るのが遅く心配を掛けてしまっていた。

大丈夫です。と、すみません。を返して、貴重な時間を無駄にしない様にストレッチを始める。

彼女と別れ、この場所までほんの少し歩いて来ただけなのに改めて理解した。

海外で戦うのは難しい。

私の周りにも海外に挑戦して勝ち星を挙げたなんて報告は少ないし、この国に関して
は殆ど聞いた事が無い。

勝ちたい。

純粹に湧き上がる思いと、私の前に立ちはだかる高い高い壁。

それを、私はいつか超えてみせる。

帝王へ向けた花

夕方、廊下をオレンジ色が染める中、ポニーテールを揺らし松葉杖を使って歩くウマ娘が1人。

そのウマ娘は浮かない顔をしたままとある教室の前で立ち止まる。

確か、今日は用事があるから教室で作業をしていると教えて貰った。それでもどこか緊張と、心配の感情が入り混じる。

「……よしっ」

深呼吸を1つ落として、誰にも聞かれない大きさを覚悟を決め、そつと横開きの扉をスライドさせる。

丁度真ん中の列の少し後ろに唯一座っているウマ娘。

同じチームの仲間とは違う真っ白な、だけど、毛先だけが黒く染まっている髪の毛。

「あ、あのツ……」

扉から離れる事が出来なかった彼女が思い切って、声を上げれば白髪のウマ娘は耳を少し動かして視線を上げる。

「どうか、しましたか？」

「あ、あの、えつと……アセビボタンさん。ですか？」

「ええ。アセビボタンは私です」

「良かった……ボク、中等部のトウカイテイオーって言います。少し、お話を聞きたくて」

「構いませんよ。どうぞ、此方へ。この時間だと誰も来ないでしょうから、好きな席へ座って下さい」

「は、はい！」

トウカイテイオーと名乗ったウマ娘は、目的であるアセビボタンの元まで未だ緊張した面持ちでその隣の席へ腰を下ろす。

人が居ない教室はオレンジ色が綺麗だが、ヤケに静かで落ち着かなかった。

「それで、お話とは？」

「あの、ですね……ボク。見た通り怪我をしちゃって、それも初めてじゃ無くてもう何回目かの怪我で、タイムだってマックイーン……同じチームの仲間とは競え無いくらい遅くなっちゃって、それで、なんて言うか、どうやって復活してやるーかなー、なんて……ハハ……」

「それで、私の所へ？」

「はい……！アセビボタンさんもスランプから、一気に強くなったから」

「成る程、ちよつとだけ気持ちの先が折れちゃったんですね。でも、まあ、簡単に言いませうけど大丈夫だと思えますよ」

「へ？」

「私がスランプと呼ばれた状態を脱したのは天皇賞秋でトレーナーさんからの応援が聞こえて、それに釣られるようにお父さんから頑張れ！ってかけっ子の時に言われていた事を思い出して、それで、”じゃ、頑張らないと！”となって、気付いたら元の様に走れました」

「そんな、簡単な事？」

「ええ。簡単な事です。同じチームのメンバーの為に、もしかしたら周りから頑張れと応援されて、簡単な、それでいて心動かされるナニカによって、きつとトウカイテイオーさんはまた走れる様になります」

時計の針だけが音を鳴らすこの教室にはアセビボタンの声と、時折トウカイテイオーの声が混じるのみ。

「……そっか」

「御免なさい。私、言葉が上手くなくて、トウカイテイオーさんの求める答えじゃ無いかもしれませんが、脚。早く治ると良いですね」

「うん。また、走りたい。会長みたいになりたいんだ」

「シンボリドルフさんですか？」

「そう、ずっと、ボクの憧れなんだ」

「それは良いですね。私も、追い掛ける背中があります」

「そうなの？」

「はい。遠い遠い先にある背中が、まだ、追い付けて無いですけど」

「そっか、へへ……なんだか、不思議」

「不思議ですか？」

「うん！ だつと、アセビボタンって言ったらトレセン学園で勝てるウマ娘はリギルでも一握りだーって、言われるくらいなんだよ？ ボクも、最初は話し掛けるの緊張した」

「そんな事は無いと思うんですが……まあ、勝負において”勝ちは一着のみ”ですから、その枠を奪い取るのならそれ相應の振る舞いをと心掛ける様にはなりました」

「へえ、なんか格好良いね」

「格好良い、ですか？ 初めて言われました」

本人の雰囲気なのか、声質なのかいつの間にか抱えていた緊張がいつの間にか無くなっていった。

本来ならば、注意されるかもしれない先輩へのラフな態度もアセビボタンというウマ

娘は許してくれる。受け入れてくれる。

自然と笑顔を見せるトウカイテイオーに、アセビボタンも釣られて笑顔を見せてくれる。

オレンジ色に染まるトレセン学園。

その一角で今日だけは、ずっと、ずっと穏やかな笑い声が響いていた。

155 : 名無しが適当語り ID : z v D Z m b q q E

良いか、クリーク。

これが本物のママだ。

156 : 名無しが適当語り ID : s m + O b l S h q

天然のママだ、破壊力が違う

157 : 名無しが適当語り ID : U n 8 0 d j d l g

>>>156

そんなクリークが養殖のママみたいなの……

158 : 名無しが適当語り ID : /KcQu68j5

>>157

本物のママなら、複数人にでちゆねを要求しないんだ

159 : 名無しが適当語り ID : vkB6WdpiI

それはそう

160 : 名無しが適当語り ID : cydPCs18v

なんも言えん

161 : 名無しが適当語り ID : VjDOnjoxk

でも別にボタンはママになろうとしている訳では無いのでは(名推理)

162 : 名無しが適当語り ID : H8AqjU8Nu

>>161

だからこそ時々出るのが良いんだろうが!!!!

163 : 名無しが適当語り ID : RTrAqizsY

普段はクリークで心臓に水を掛けて、良い所でボタンをキメるんだよ

164 : 名無しが適当語り ID : Oe34Pcpdl

>>163

※ウマ娘は合法です。

165 : 名無しが適当語り ID : OKZbSdIwT

>>164

元の競走馬も合法やろがい!!

166 : 名無しが適当語り ID : TyGsMTUaS

嫌、何故か金が無くなるから違法では??

167 : 名無しが適当語り ID : mhZru2Suf

>>166

競馬場行く前にATMに通うの辞めろ

168 : 名無しが適当語り ID : Dh7d0JXJ7

>>>167

そこに競馬系列のアプリケーションと、登録されたウェブサイトがあるじゃろ？
消せば解決やで。

169 : 名無しが適当語り ID : iYGr6c9UQ

(単勝に100円なら大丈夫やろ。記念馬券や、記念馬券)

170 : 名無しが適当語り ID : 8GZOZ/qXz

>>>169

そう言いながら破滅していくのが競馬民かあ

171 : 名無しが適当語り ID : ytXe2CMGh

1週間後には金融行ってそう

172 : 名無しが適當語り ID : J z H 7 k G y 5 H
 トウカイテイオーとアセビボタンの絡み良いなど思つて来たのに、ナニココ怖。近寄
 らんところ。

173 : 名無しが適當語り ID : o V l 7 s t S e E

>>172

危険予知できて偉い

174 : 名無しが適當語り ID : N D l a Z 3 Z D F

>>172

もうダメですこのスレ

175 : 名無しが適當語り ID : 9 E 3 e C l o s c

でもこのストーリーをアニメでやられたら泣く自信ある

176 : 名無しが適當語り ID : y 5 k 9 x 3 5 r g

>>175

分かる

177 : 名無しが適当語り ID : 7yDb1K0dj

>>175

アセビボタン3期で出ますか？

178 : 名無しが適当語り ID : wSF9kjXFh

>>177

無理かも、ですnee

179 : 名無しが適当語り ID : qgrm2i24A

>>177

ちよつと難しいかなあ

180 : 名無しが適当語り ID : nEWDL4nfa

悲しいなあ

181 : 名無しが適當語り ID : n3heFJWix

アニメは100歩譲るとしても、俺の端末にアセビボタンいないの可笑しく無い？

182 : 名無しが適當語り ID : tdGJS/Poa

>>>181

ほらそこに手を付けてないジュエルがあるじゃろ？

183 : 名無しが適當語り ID : jy rKnVkr l

>>>181

ご利用は計画的にな

184 : 名無しが適當語り ID : rXHskKL+y

金融行く前提なの草

初めて見る、馬酔木の花。

俺は昔から運動が好きだった。

公園にあるアスレチックは俺が1番遊んでいた自信があるし、怒られる事もあったが遊び方のアレンジは学校1。嫌、世界1。

特に走るのが俺の中ではお気に入りだった。骨さえ折れていなければ、何時でも何処でも楽しむ事が出来たから。

だから走って、競って、勝って、笑って、俺の夢はアスリートになる事だった。走りの特化をした、ウマ娘なんかに負けないアスリート。

ある日の事だ。

俺がまだ中学生の頃、近所に越して来たウマ娘と知り合った。生まれて初めてのウマ娘の知り合いだった。

その子はまだ小学生にもなっていない、世間的にはまだ小さい部類の俺でさえも「小さいなあ」と思う程には小柄な女の子で、人間とは違う位置にある耳で身長をカサ増している様に見えて可愛らしかった。

しかし、その頃の俺は所謂反抗期が始まったばかりのクソガキで、自分が学校では上位の運動神経を持っていたからこそ勝負を持ちかけた。

未だ保育園児のウマ娘と、中学生の俺による速さ勝負。

結果はまあ、お察しの通り。

ウマ娘のポテンシャルを舐め腐っていた俺は、赤子の手を捻るが如く置いて行かれて初めて敗北を味わった。

そこからはまあ、酷いもので。反抗期が始まった心に遊びとはいえ敗北の事実が耐えられない悔しさだったのか、一気に性格は酷くなり、汚い言葉で親を呼び、部屋に籠っては夜更かしをし、学校をズル休み。

懐いてくれていたウマ娘のあの子とは会話所か、顔を見る事も無くなった。

今思い出しても、とんでもない人間だなんて思うよ。

そんな俺が変わったのは、テレビでとあるウマ娘が引退をするというニュースを見たからだ。

そのウマ娘は大きな功績こそ無かったが、期待の新人としてインタビューをされる事も多かったからレースには無縁の俺でも名前を知っていた。

しかし、その期待を応える様に練習に没頭して膝を壊して、簡単に現役を退く事となった。

誰が悪いのかと言われれば、多分持ち上げた方と、練習メニユーを詰め込み過ぎたトレーナーと、自分の身体が出したサインを見逃したウマ娘本人か。

俺はニユースを見て、正直、馬鹿だなあつて思った。

俺だったら誰が見ても無理だと分かるメニユーなんて詰め込まないのにつて、ハードスケジュールをするのならそれに耐えられるだけの頑丈さとトレーニング以上のメンタルを含めたケアが必要なのにつて。

そこ迄が頭に浮かんで、俺は気付いた。

俺は、運動が好きなのは勿論だが、”運動をする方を支えるのも好きなんじゃないのか？”つて。

反抗中の脳味噌をフル回転させて思い出してみれば、思い当たる節があつた。

俺は公園や学校のアスレチックを制覇し、アレンジして遊ぶ男だつたがそれ以上にその遊び方や、攻略方法を友達に教えていた記憶。走る時、ドロケイ中に人の走り方に「こうすればもつと走れるぞ！」つて自己流のやり方でケチを付けていた記憶。

まるで、まるでウマ娘を一流にする為に支えるトレーナーの姿。

身体に電撃が走つた様だつた。気付いてしまつてからは、どうにも身体が熱くなつて悲しいニユースの筈なのに、テレビから目が離せなかつた。

”俺が育てたウマ娘が祝福され、歴史を作る光景”

きつと、俺の心に芽生えた想いは実現するには難しく、今活躍している一流トレーナーでも難しいこと。

それでも、それでも、夢が出来てしまったのなら仕方ないだろ。

夢が出来た俺は、まず目標をトレーナーになる事に定め行動を始める事にした。

今までの反抗期が嘘みたいに性格が変わり、なけなしの小遣いでトレーナーになる為の資料を買い漁り始めた俺を見て両親はとも驚いた顔をしていたが、その時の俺は反抗期なんて3文字は頭から完全に抜け落ちていた。少し不思議な反抗期の終わり方だったと思う。

高校生になってからは、立派な小学生となっていた近所のウマ娘と再び話す様になって、教本を読みながら指導の真似をした。あんなに酷い扱いをした俺ですら笑って、ブルーシールを奢るだけで許してくれた。

成長期の身体に負担が掛からない様に自分なりに意識して、時々大人を交えながらトレーニングをしてみればあの子は今までが嘘の様に速かった脚は更に速くなって、昔は感じていた悔しいという感情を通り越して憧れと尊敬の感情を向けていた。

トレーナーになるべく大学からは地元を離れ、上京して、初めて東京という土地を踏んだ。

何処にいても人がいて、何処を見てもウマ娘がいる。

俺が暮らしていた沖縄とは比べられない程の人がいた。

初めて、人酔いを経験したのもその時だった。

大学で自分なりに学び、トレーナー資格を受験して有り難い事に中央での合格が決まっ
つてから早数ヶ月。

広い、広いトレセン学園の芝のコース。

そこで、俺は初めてその背中を見た。

選拔レース。メイクデビュー前の学園内だけで行われる、言わばトレーナーへのア
ピールレース。

平日の昼。実況の熱も無い、見ているのは俺含めたトレーナー数人と、出走するであ
ろうウマ娘の友人が数人だけ。

そんな世界で一人のウマ娘に目を奪われた。

圧倒的な走りである筈なのに周りの誰も気にしない。

俺が知っているウマ娘とは、正反対の顔で走るウマ娘。

俺は、あの子を一目見て心を奪われた。

まるで俺の夢を見つけた時の様な感覚だった。

「……あの子が、笑顔で走っている姿」

それを考えただけで俺の脚は自然に動いていた。

もしかしたらもうスカウトをされているかもしれない。

もしかしたらこんななりたてのトレーナーには指導されたく無いかもしれない。

もしかしたら俺が話し掛けても無視をされるかもしれない。

様々な「かもしれない」が頭に浮かんで消える。

でも、それはそれだ。断られたら諦める。何回か粘って駄目なら手を引こう。

そう思ってしまう程に、若旅伊吹は、あの子の夢を叶えたいと思ってしまうた。

選抜レース、4枠8番、アセビボタン。

あの子は祝福され、歴史を作るウマ娘にきつとなる。

番外編：いつかのクリスマスは離れた場所で

「……そういえば、ボタンは冬休みは帰省するんだっけか？」

「はい。今年は年末にレースも無いですし、クリスマス前から年明けまで少し長めの帰省になります」

「ふーん。じゃあ、またトレーニングメニューは作って渡すわ」

「有難う御座います」

「ちゃんと休めよ」

「ふふっ、はい」

午後のトレーニングを開始する前のミーティング時間、私はストレッチをしながら、トレーナーさんは練習メニューが書いてあるバインダーを覗きながら何時もの様に雑談に花を咲かせる。

周りに目を向ければトレーニング中のチームはあれど、私達の様なトレーナーが一人にウマ娘が一人の構成は少ない。

「トレーナーさん」

「んー？何だ」

「何時も思ってたんですけど、トレーナーさんって他のウマ娘さんをスカウトはしなかつたんですか？」

「え？何だよいきなり」

「だって、他のチームだとウマ娘が数人にトレーナーさんが1人のチームが多いでしょう？」

「……あー、まあ、そうだな。でもな、俺ってこう見えて新人のトレーナーなんで、そんな人間が1人でウマ娘複数人とか無理。ボタン1人のトレーニングメニユー考えるだけで徹夜してるとつのに。……というか、新人でありながらサブトレーナーじゃ無くてトレーナーとして活動できてるのが奇跡なんだよ」

「まあ……それはそれは、私はその労力に応えなければいけませんね」

「そうどうぞ。しつかり応えてくれよな」

ウオーミングアップとして1,000メートルを1周、2周と緩く走り、その後はウツドチツプのコースも使いながら本気で走る。

季節柄、吸い込む酸素が冷たくて内臓が違和感を訴えてくる。去年は、この違和感に慣れなくて冬場のレースは散々な結果が多い。

メンタル面もそうだが、まだ、私には課題が山積みだ。

チカラちゃんにも聞いてみようかな。天皇賞の話みたいにはぐらかされそうだけど。

「よし、それじゃあもう一本行くぞ。今度は全力も全力でな」

「はい」

指定の場所に立ち、トレーナーさんが掲げている旗が地面に向いた瞬間地面を踏み込む。

沢山考えたい事はあるけれど、今はトレーニングに集中しよう。

・
・
・

「本日のトレーニングメニューはこれで終了とする」

「はい。有難う御座いました！」

1日のトレーニングが終わり、トレーナーさんへ今日の気になった事も報告し、ストレッチに入る。

時計は16:30を指しているが、もう辺りは暗くなり始めている。

「気になっていたんだが」

「? 何でしょう」

「ボタンの家って、クリスマスとかしたりするのか?」

「え? 普通に、しますが……何か変ですか?」

「いや、なんて言えば良いのか……ちよつと前に俺とボタンで消耗品を買いに行った事があるだろ? その時、家電売り場のテレビにやけに驚いてたから、凄い古い家なのか
なつて」

「トレーナーさん、失礼ですな……?」

「すまん。でも、ちよつとな」

「トレーナーさんは私を舐め過ぎですね。クリスマスは私の家に親戚が集まって大人はお酒で、私達はカルピスを持ったどんちゃん騒ぎです。お兄ちゃんがチビ達にキヤラメルを一粒ずつ配つて、私は長女なので2粒貰えるんです! それで、夜になつたら庭の松の木に飾り付けた電気の飾りがキラキラ光つて、それを皆で雪見窓から覗き込むんです! 素敵な夜なんですよ!」

「……やっぱり、ちよつと古いよな」

「え!?!」

「ゲームとか、しないのか?」

「花札にカルタ、双六に将棋。私の家には基本何でもありますよ？」
「おぼあの家感が凄い」

◇馬、人、雪が降る世界

毎日をチビと他のお友だちと過ごしていると、上から白いのが降ってくるんだ。

ヒトが言うには「雪」と言うらしい。

昔、わたしが呼ばれていたゆきかぜと少し被っていてなんだが好きだ。

この雪がたくさん降ると世界がしろくなくなって、ちよつと前のゆでられるみたいな気分がわるくなる日とは違つた日が始まる。

草が無くなって、葉っぱが無くなって、音が無くなる。

だけど、ちよつと前よりマシな日々。

「寒く無いかい？ポタンももう17歳だからね、少し心配だよ」

有難う、ほうじくん。大丈夫だよ。

それよりチビが心配だよ。あの子、あんなに小さいのに雪のかたまりに自分から入って行くんだ。

「でも食は問題無い様だし、そこは心配ないけど」

ご飯美味しいもん。まだまだ沢山食べるよ。もう少し、増やしてくれても良いくら

い。

走り回っていたチビが戻ってくる。

チビは「かげろう」って呼ばれてるけどわたしはチビっていう言い方の方が慣れてるから、ずっとチビって呼んでる。

それにわたしみたいに名前が変わるかもしれないし。

ほうじくんはわたしとチビを撫でて、満足げに他の子達の所へ行ってしまった。

少し暗い空をながめて、もう1度周りを見渡す。

お友だちとほうじくんと、走り回るチビ。

地面がちよつとずつ白くなり始めていて、なんだがワクワクする。

ねえ。つぶらやせんせい。

あなたもこの雪を何処かで見えてくれるのかな。

今日もチビが元気に走ってるよ。

ほら、見えるかな？

—————

今年もまた、この季節がやってきた。

少し前の茹だる様な暑さからは一点寒さ厳しい季節が始まる。

私はどうにも冬が苦手で、特注で作った生地の分厚い洋服を毎日着ては、その上からコートを羽織っていた日々。

友人の1人には冬など知らぬといった様子で1年中薄着で駆け回る者もいるが、私には到底真似できない。

だけど、今日はどうしても行きたい場所があるのだ。

人の波をふらふらと漂って、目的地へと向かう。

栄えた場所よりもずっと静かな場所へ。

あの場所へはもう何ヶ月、下手したら何年と言っていない筈なのに、自然とこの脚と、脳味噌は覚えた道筋をするすると進んで行く。

風景が変わる度にこの心は期待に包まれる。

もう直ぐで、もう直ぐで会える。

あの子をもう1度この目で映す事ができる。

普通なら、こんな寒い時期に来るなんて日本人からしたら首を傾げてしまうが、まあ、些事だ。些事。

「(確か、この通りを……)」

記憶の奥にある道を辿ってやって来た場所。

沢山の花が咲き誇るであろう花壇と、動物が飼育されているであろう形の柵。奥からは羊、犬、馬の鳴き声が聞こえてきて涙が溢れそうだった。

私の、最愛の1つ。

「あの子の元へ」

首を必死に動かして、あの子を探す。

見慣れた黒い身体をあの子。

「……見つけた」

自分の記憶より、幾分か色の抜けた身体。

小さな仔馬に顔を寄せて母の様な優しい顔をするあの子。

そうか、私がいなくなった後にあの子は母となったのか

「アセビさん……」

誰にも聞かれない声で名前を呼ぶ。

そうすれば、アセビさんがタイミンク良く顔を上げて、私の声に応えてくれた様で嬉

しくなる。

「どうか、幸せであります様に」

私が愛するもの全てが、健やかに生きられます様に。

手綱と牡丹は紅霞に沈む

夕方、トレセン学園。

太陽が本格的に傾きオレンジというよりも赤い色が濃くなつた時間。

グラウンドから人が消え、微かに有難う御座いましたと聞こえてくる芝の上で1人のウマ娘が靴紐を結び直していた。

周りにトレナーの姿は無く、そのウマ娘もこれから帰るといふよりは、まだトレーニングを続けるといふ様子で明らかなオーバーワークである。

「……ボタンさん。アセビボタンさん」

ウマ娘の元へ、1人のニンゲンが近付いて声を掛ける。

特徴的な緑色のスーツを見に纏つた理事長秘書、駿川たづな。

「はい、どうしましたか？ 駿川たづなさん」

「他のウマ娘の皆さんはもう練習を終えましたよ。追加の練習にしても、些かオーバーワークだと思います」

「大丈夫です。これくらいなら」

「……今は大丈夫でも、いつか必ず怪我に繋がります。続けるのなら、少し休憩にしましょう」

「……………分かりました」

アセビボタンと呼ばれたウマ娘は、たづなの言葉に長考した後、後に頷き、芝の上に腰を下ろす。

ドリンクボトルを傾け、タオルを肌当てる。

「あの…………」

「はい。なんででしょうか？」

「少し、近くありませんか」

「そんな事はありません。私はアセビボタンさんがちゃんと休めているか、確認しなければいけないから」

「そういうものですか」

「はい。そういうものです！」

広々としたグラウンドの隅で並んで座る。

ここから見える風景は遠くのビルとグラウンド特有の等間隔に並んだ木々と、芝生と柵。

面白みが無さ過ぎて黙っていると、息が詰まってしまふ。

「……あの、駿川さん」

「なんででしょうか、アセビボタンさん」

「ずっと不思議に思っているんです。駿川さんはどうして私に目を向けるのですか？」

「？私はウマ娘さん全員に目を向けていますよ」

「そう、では無くて……他と比べて話し掛けられる頻度が高いと言いますか」

「……気の所為ですよ」

会話が終わる。お互いにお互いの事をよく知らないから、立場の違いもあつて直ぐに会話が途切れてしまう。

沈黙が辛くなって、時計を確認すれば座り始めてからだいたい5分程経っている。

これならば大丈夫だろうと、コースに戻ろうと1歩を踏み出す。

「アセビボタンさん……！」

呼び止められる。なんだろうと思つて、後ろを振り返れば変に手を伸ばした駿川さんの姿。

「アセビボタンさんは、走る目標はありますか？」

「目標……あの子に勝つ事です」

「あの子？」

「はい。私の中には鹿毛の髪の毛を揺らしてずっと、ずっと先を走るウマ娘がいるんで

す。きっとその子は私の幻覚で現実にはいない。だけど、追い付きたくて、追い付けなくて……実は、貴女を見るとその子が現実にいる様で苦しくなる。只の嫉妬、なんですけど」

トレセン学園に入学して、駿川さんを初めて見た時に私は衝撃を受けた。

だって、私が嫉妬に狂い、焦がれる背中にあまりにも似過ぎていたから。

私が追い越したいと必死に顔を歪めて走っている時ですら、強さの持ち主はあんなにも優しい顔をしているのかと悔しくなる。

「奇遇ですね」

「奇遇？」

「私も幼少期に見た絵本のキャラクターに憧れていたんです。そのキャラクターは誰にでも優しくして、子供達を愛して、家族を愛して、外に出れば綺麗な髪がキラキラと輝いて」

「はあ……」

「そうだ！私達、似た者同士だと思うんです！だから、これからはもつと仲良くなれる様に名前呼び合ってみませんか？」

「え、ええ……？」

「私の名前は駿川たづなです。アセビボタンさん」

駿川さんが良い事を閃いたとばかりに手を叩く、手を握られて顔を寄せられる。

初めて駿川さんとともに話したが、まさかこんな人だとは思わなかった。

確かにあの子は強いけれど、あの子に似た姿の駿川さんも押しが強い。

どうにかこの場を切り抜けられないかと再び考えて、思い出す。

「……やつぱり、理事長秘書という役職の貴女を友達の様に呼ぶなんて不敬な事、流石にできませんよ」

「では誰もいない時にお願います。丁度、今の様な。ね、良いでしょう？」

私が考え付いた案を、呆気無く彼女は通り越してきてしまう。

どうして、こうなったのだろうか。

「ハア……たづな」

「はい、ボタン」

風が吹く、私達の髪の毛が揺れる。

全てが赤色に照らされる世界は今だけ2人きりで、向こうから楽しそうな声が響いてくるばかり。

静かに揺れている彼女の鹿毛と私の芦毛は混じる事は無い。

けれど、時折2色が触れ合うのを横目に見て、無性に”こうしてみたかった”と不思議な感覚に襲われた。

番外編：気まぐれ散歩

薔薇で作られたアーチ、池に浮かんだ蓮、いつ咲くか分からないリュウゼツラン。色とりどりに囲まれた植物園を歩く。

レースが始まるから、今の内にリフレッシュをしとけ。

新しい年になって、私も冬休みからレースへと出場する選手へと変わる。

次はG1である桜花賞の予定ではあるが、その前にステップとしてレースを何回か挟む予定だ。

どのレースも、どんな場所でも気を抜く事は出来ないし、トレーニングを怠る事も出来ない。

だからこそ、今の内に心身を充分に休めておく必要があると言われて、前から気になつていた植物園にやつて来た。

「綺麗」

花は好きだ。

自分の名前にも付けられているからか、なんだか親近感というか子供の様な気持ちで

見てしまう。

デイジーの花に、チューリップ、コスモスに、椿。

温度が調節されていて季節が重ならない花でも1度に見れて、なんだかお得な気持ちになる。

「私も、3つの花を手に入れられるウマ娘へ」

溢れた願望は、誰の耳にも届かない。

572 : 名無しが適當語り ID : mpvA88si+

アセビボタンのお出掛けイベントすこ

573 : 名無しが適當語り ID : 0qyAlSb+2

>>572

分かりみが深い

574 : 名無しが適當語り ID : fvr0Mplcu

名前に花が付いてるウマ娘が季節関係無く花が咲き誇っている植物園に行つて、バラ

バラの季節に挑戦するレースで3つの花が欲しいってなるの

575：名無しが適當語り ID：QlGDtgNZa

一般人としては檜の木に花が咲く所がびっくりポイント

576：名無しが適當語り ID：UUMmc7XOb

>>575

俺も調べてへえってなった

577：名無しが適當語り ID：ze+OwmRe9

プレイヤーにも学びをくれるゲーム、それがウマ娘プリティーダービー

578：名無しが適當語り ID：mjaczp5+v

※偶にプリティーが無くなります。

579：名無しが適當語り ID：VWc97s9kS

>>578

あ
あ
!!?

580 : 名無しが適當語り ID : q6WFXPI9B
イナリワンのプリティーどこ……… (こっ)………

581 : 名無しが適當語り ID : PqZii+ES8
アプリではプリティーだろうが！いい加減にしろ！

582 : 名無しが適當語り ID : WjCKcG/pb
シングレのイナリワンやっぱ太いよな

583 : 名無しが適當語り ID : cfqHtcWk2

>>582
太くねえって
!!!!!!!

584 : 名無しが適當語り ID : taacDrqb

>>582

屋上へ行こうや

585：名無しが適當語り ID：SeWjKMMc3

また無益な争いが

586：名無しが適當語り ID：LDPeVInLU

テンプレみたいなものだからね、仕方ないね。

587：名無しが適當語り ID：rLGv+fq20

それよりも!!!!
!!
んですか!!!!!!
!!!!!!
!!!!!!

588：名無しが適當語り ID：OYsZ6r4ZG

>>587

トレーナーも仕事があるからな

589：名無しが適當語り ID：DT4ReRO8i

>>587

ボタンのトレーナーは割と放任というか、大切な時以外は一緒にいない感じあるから植物園も一緒には行かへんやろ

590 : 名無しが適當語り ID : m4r0Jxsek

名目がりフレツシユやからな、トレーナーがいたら休まらんやろ

591 : 名無しが適當語り ID : Ar s 2 i Q 8 A /

ボタンのシナリオを担当したライターさんから「アセビボタンとトレーナーはCPさせない」という熱い情熱を感じる

592 : 名無しが適當語り ID : Y + l F + J H h W

>>591

ボタンはあの子ともう……

593 : 名無しが適當語り ID : z d Y Y E l m d i

>>591

なんかボタンは創作でカップリングする気にならんのよな

594：名無しが適當語り ID：5XY195OSj

言い方は変かもしれんが、そもそも史実がカップリングみたいなので……

595：名無しが適當語り ID：CN3kGyRA3

>>594

それや

596：名無しが適當語り ID：XGisbltB

>>594

成る程スツキリ

597：名無しが適當語り ID：wuoYOE6nm

>>594

今世紀最大の頷きをしてしまった

598 : 名無しが適當語り ID : J Y h t N 4 g / F
 公式が最大手というやつか？

599 : 名無しが適當語り ID : N G 5 9 q F g D w
 最大手過ぎるやろ

600 : 名無しが適當語り ID : k u w d b F Y K 3
 写真が見つかった時の盛り上がりエグかったもんな

601 : 名無しが適當語り ID : a D p d t l h 6 S
 数年前の俺も、まさか自分が馬主×馬にハマるとは思っても無かっただろうな

エピソード零？

今から少し前のトレセン学園。

チームに分け与えられた小さな部屋の中で1つの机を囲み、1人のトレーナーと、1人のウマ娘がスケッチブックを見つめている。

鉛筆と色鉛筆が散らばる中、トレーナーが口を開く。

「やっぱり、ボタンには和装の方が似合うよな」

口許に手を置き、唸る様に首を捻るその姿に対面に座るウマ娘、アセビボタンが反対に困った顔で続いて口を開く。

「あの、トレーナーさん。勝負服を考えて下さるのは嬉しいのですが、流石に早くないですか？ 私はまだメイクデビューしたばかりですよ」

「いいや、ボタンのポテンシャルを考えると今すぐに考えておいた方が良いでしょう。トレーナーなりたての俺からしてもとんでもない力を持つているのが分かるからな」

トレーナーである若旅伊吹が素直な気持ちで口によれば、目の前のアセビボタンは照れた様に顔を逸らす、言った本人はスケッチブックに集中している為それに気付か

い。

「……なあ、ボタンはどっちが好きだ？ マルゼンスキーみたいな洋装と、サクラチヨノオーみたいな和装」

「個人的な好みでは和装ですけど、皆さんの勝負服を見ている限り少し、丈が短くて「丈？」」

「はい。私は生まれてこの方肌が出る服装をあまりしてこなかったので、ちよつとソワソワすると言うか……制服もスカートの丈を私は他より長くして貰ったんです」

「成る程な。まあ、そこは丈を長めにお願ひすれば解決だな。じゃあ、デザインだけど「……あつ！ 私、牡丹の柄を入れたいです。名前にも入っていて思い入れがあるので！」
「フム。となると、スカート？の部分に入れるのが良いか？」

「ヤエノムテキさんの様に、腰にリボンを付けて結び目の所に牡丹の花飾りを付けるのも可愛いですよね」

「ヤエノムテキか……個人的にはボタンは装飾を少なくしたシンプルの方が良いと思うんだよな」

「？ そうなんですか？」

「いや、本当に個人的な意見だが、ボタンの髪の毛は特徴的な色をしているから、その部分も含めて一つの形にしたいなあ」と

「髪色……確かに、私も自分の色は好きです」

あれやこれやお互いに意見を出し合えば、段々とエスカレートし止まらなくなる。

それは、しっかり者である2人の意識を逸らすには充分で普段は学園の芝コースや、ウツドチップコースを走り回っている時間になっても話し合いは止まらずに、部屋の中がオレンジに染まって漸く気付く。

「ええと、明日は真面目にトレーニングするという事で、手打ちに、しましろう、か？」
「あー、そう、ですね……！」

今後の活動に対し、大切な話し合いという部分という点においては特に問題が無いのだが、トレーニングを忘れて話し合う初めての経験に2人は困惑しながらも机上に転がる鉛筆や、色鉛筆を片付ける。

時間を忘れる経験は2人にとって困惑を伴う経験ではあったが、そのお陰で「アセビボタンを象徴するもの」の1つを完成させた。

ワガママ魔法少女と長女のお花

特に目的も無く、リフレツシユ。というか気分転換として学園内も目的も無く歩いていれば、後者裏の方から特徴的な声。それも叫び声が聞こえてきた。

何か事故でもあったのかと思って駆け足に声の方へ向かってみれば、長い髪をこれまた特徴的なツインテール？にした子がしがんでいた。

周りに人は居らず、事故では無く怪我の可能性かと思いなるべく怖がらせない様に声を掛ける。

「あの……」

「…な、なによー」

私の声に振り向いたその子は目に涙を溜め、絵本で見る魔法使いの帽子、もしくはサントさんが被っている様な先が垂れた形の帽子を両手で大事そうに抱えていた。

そして、声だけだと気付けなかったが、帽子を抱えるその子は私もテレビで見た事があるウマ娘だった。

「叫び声が聞こえましたので、何かあったのかと」

「そ、それは申し訳無かったわ……でも大丈夫よ」

帽子を被って立ち上がるその子は何事も無かった風に応えるが、私の目には不自然な所が映ってしまふ。

「もしかして、帽子の飾りが取れてしまったとか……?」

「!?……どうして分かったの!?!」

「耳の横の所が少し解れている様に見えて、あと、顔を見てあなたがスイープトウショウさんだと分かりました。スイープトウショウさんの帽子には赤いリボンのトレードマークが付いていた筈です」

私がそこまで言えば、彼女、スイープトウショウはもじもじと手遊びしていた両手を開く。

小さな可愛らしい紅葉の上に取れてしまった赤いリボン。

「差し出がましくて恐縮ですが、其方の帽子を、私に直させて頂けませんか?」

「直せるの……?」

「はい。裁縫の技術なら、この学園で一番になれる自信があります」

「ほ、本当に?」

「はい!お任せ下さい!」

シヨックからなのか少し震える手を支えて目線を合わせる。

再び溢れそうになるその瞳を見れば、この帽子をどれだけ大切にしているかが分かる。

「直して……お願い、します」

「ええ。では、少し待っていて下さいね！教室から急いで裁縫道具を持って来ます！」

「いい、良いわ！お願いするのはアタシだもの。アタシも一緒に行く。アナタの、ええと、」
「申し遅れました。私、アセビボタンと言います。宜しくお願いしますね、スイープトウシヨウさん」

教室までの間、スイープトウシヨウさんは私の半歩後ろを歩いていった。

噂では「ワガママ」「魔法少女」なんて呼ばれているのを聞いた事があるが、後者はともかく、前者の雰囲気は感じられ無かった。

机に裁縫道具を広げて、糸を通した針を針刺しに刺してスイープトウシヨウさんから帽子を受け取り、なるべく補修した跡が見えないように気を付けながら大切に縫い合わせる。

しつかりとりボンを付けて、パチンと糸を切り、針刺しに針を戻してスイープトウ

シヨウさんの頭にそつと帽子を乗せる。

やっぱり、こちらの方が可愛らしい。

「はい、できました」

「……有難う」

帽子の両端を持って顔を隠す様に深く被る魔法少女。

なんだか妹を見ている様で、思わず帽子の上から頭を撫でてしまった。

1 : 名無しが適當語り ID : aJ e F V f 6 l c

唐突にアセビボタンのサポカをお出しされ、うひょろろ！とテンション上がって満足。と思つたら、高火力のボタン×スニーカーの組み合わせを見せられた皆様こんばんは。今墓です。

2 : 名無しが適當語り ID : u K A c F k 7 8 O

絶対に殺してやるという鋼の意志を感じた

3 : 名無しが適當語り ID : s B y O K a A F l

鋼の意思は桐生院だけが持てるものではなかったのか!?

4 : 名無しが適當語り ID : O w V N Y v u 4 f
 いやでも思わんで、

5 : 名無しが適當語り ID : K S S J G c I o M
 久し振りにボタンのサポカ出すで↑有能

それに伴いボタンの新しい一面見せたい↑有能

史実でアセビの祖だしお姉さん要素欲しいな↑有能

せや、スイーピーと絡ませたる!↑?!?!

6 : 名無しが適當語り ID : w O N i w q e b l

なんでスイーピーなんだろうと思っただけど、スイーピーの性格って姉妹の末っ子とかで普通にいそうなんだよね

7 : 名無しが適當語り ID : g i 5 7 M n r D l

我儘だけど、皆から可愛がられてるのが完全に末っ子

8 : 名無しが適當語り ID : k x s o X H S d u

そりやあもうボタンちゃんのお姉さんフィルター掛かりますわ

9 : 名無しが適當語り ID : 8 8 I x r q L P B

突然お姉さんムーブしてるのに、クリークとの違いとは

10 : 名無しが適當語り ID : B S i D D z v w G

>>>9

クリークほら、あれじゃん

11 : 名無しが適當語り ID : f E u 7 I O 6 K Q

>>>9

クリークは自分から出す。ボタンはふとした瞬間に出る。

この違いよ

12 : 名無しが適當語り ID : I E W U j a o i Q

味濃いものの後って水とか飲みたくなるじゃん？そういう事だよ

13 : 名無しが適當語り ID : f t F M E i e / K

>>> 12

どういう事だよ

14 : 名無しが適當語り ID : k X f e 2 v J l n

話題に出ないんでお出ししてしまうんですけど、スイーピーとボタンの身長差良くないですか？

15 : 名無しが適當語り ID : h K g + F U 8 l i

公式設定を見比べると余裕で頭1個分ある身長差ええぞ

16 : 名無しが適當語り ID : i K B 3 P 6 3 E l

マジでスイープが妹になってしまう

17 : 名無しが適當語り ID : U / i l F V r h v

「スィープ、君もアセビ冠にならないか？」

18：名無しが適当語り ID：M A y y D q J X H
アセビスィープはちよつと語呂が悪いので……

19：名無しが適当語り ID：p H 0 i L C K l e
まあ、その後ヤダヤダするんですけどね

20：名無しが適当語り ID：A u g A i l 6 E p

>>>19

安心感すらある

21：名無しが適当語り ID：v Y b O k K U Q F

スィープが帽子の一件で滅茶苦茶牡丹に懐くのほんま可愛い

22：名無しが適当語り ID：U 4 a N f N h 9 e

これにはトレーナーもニッコリ

23 : 名無しが適當語り ID : J m K a I g F w g

ガチ困惑だったかな

24 : 名無しが適當語り ID : M Z 3 H x t 2 r A

また雪が積もるまで待たされるんだろうなあ

25 : 名無しが適當語り ID : M F N j X d l 0 T

頑張れトレーナー

26 : 名無しが適當語り ID : 8 y Q U p j n U t

>>>26

トレーナーはお前だぞ

27 : 名無しが適當語り ID : l H K i 3 p + H T

>>>26

おまトレーナー定期

28 : 名無しが適當語り ID : L d 0 n r T W X 0
でもなんか、サポカのストーリーー見てやっぱり俺アセビボタン好きだ。つてなったわ。

29 : 名無しが適當語り ID : r u K V g P T l z
>>>29
分かる

30 : 名無しが適當語り ID : 6 l I H S H O x L
>>>29
それは、そう。

◇ある時代の、ある勝負の、或る実況

日本ダービー残り200メートルであります。

先頭は未だトキノミノル。その後ろには××がいて、××がおりますが、追い付けそうにありません。

残り150メートル。ここでアセビボタンがトキノミノルに迫る勢いで走って参りました。

身体半分はまだ距離が縮まっております。

残り100メートル。先頭は未だトキノミノルであります。アセビボタンがピツタリと横についております。

これは勝敗がどうなるか分かりません。

3番手は×、×、×が続きます。

残り50メートル。アセビボタン、トキノミノル一向にスピードが落ちません。歓声が響いております。

どうなるか、どうなるか、どうなるか。

今、ゴールを切りまして日本ダービー。

息も吐けない程の勝負でしたが、トキノミノルが一着、トキノミノルが一着であります。

1951年、東京優駿競走―日本ダービー―。

アセビボタンは後方の馬群に飲まれていきます。

先頭は××。続いて××××。アセビボタンが勝つには厳しい状態です。

第4コーナーを曲がりまして、他の馬が動き出す中アセビボタンは動き無しであります。

もう、あの馬に力は残っていないのか。

先頭は未だ××、変わらず××が続いています。

アセビボタンが動いた。

アセビボタンがあの日と同じ走りを始めました。

どんどん他馬を追い越して行きます。

残り100メートル。まるであの日の日日本ダービーを見ているかの様であります。

あの馬が、力を貸しているのでしょうか。

アセビボタンが今、先頭に変わりました。独走。

残り50メートル。誰も追いつけません。
夢を見ているかの様です。

アセビボタン、一着。アセビボタン一着。

1953年、天皇賞―秋―。

352：名無しが適當語り ID：d g 9 n u f H b F

ステイゴールドもビックリの最現実況大好き

353：名無しが適當語り ID：Q p h d K 7 / Q l

ダービー見てアセビボタン好きになっちゃったんだなつてのがよく分かる

354：名無しが適當語り ID：l s 6 r O 6 x V E

あのアナウンサーさんが現代におつたらコントレイルの菊ばりに良実況してそう

355：名無しが適當語り ID：f l j l V u X t s

「あの日、共に競った彼と比べて劣っているなんてもう言わせない。まぐれなんてもう言わせない！」

「アセビボタンが馬群の中からやって来たぞッ！もう周りは眼中に無し！あの日の夢を！只1人と1頭だけが走る旅路に敵は無し！」

「天皇賞―秋―の勝者はアセビボタン！彼女はもう1度！パーフェクトな走りを魅せました！」

356：名無しが適當語り ID：w u Y A Q y l I w

>>>355

見たい、見せろ（豹変）

357：名無しが適當語り ID：4 Q K p n E J y s

名前の通りパーフェクトだったけど、唯一身体だけは弱かったトキノミノル。

パーフェクトでは無かったけれど、身体の強さだけは唯一無二だったアセビボタン。

この対比すこ

358：名無しが適當語り ID：m 5 u e T I f C N

これでヒーロー列伝、名馬の肖像、どちらも無いってマ？

359：名無しが適當語り ID：ae4Vu8wqF

>>>358

写真がね

360：名無しが適當語り ID：/gFqmFTU7

>>>358

まあ、戦績やエピソードが良くても選ばれてない馬は沢山おるし、時代が時代だから区切りのなものでも仕方無いというか

全ての馬を対象にしたらそれこそ運営が死んでしまうのでね

361：名無しが適當語り ID：u55K4BJJN

>>>358

無ければ作ればええんやぞ。

某牧場は作つとる

362 : 名無しが適當語り ID : V W T l p h H Q t
流石や

363 : 名無しが適當語り ID : v s W f C x M o U
あの1族がアセビボタン系列でやってないもの無いやろ

364 : 名無しが適當語り ID : F 9 r v T W c i 6
>>>361

俺も牧場見学に行つて、噂の記念館入ったら手作りのヒーロー列伝と、名馬の肖像あつて変な笑い出た

365 : 名無しが適當語り ID : V Z f q E / m C t
脳が焼かれているというレベルでは無い

366 : 名無しが適當語り ID : t Q l p r 5 e t T
あれはもはやDNAの1部

367 : 名無しが適當語り ID : OK3Nu5ueA
 遺伝子に刻まれてるなら仕方ないね

368 : 名無しが適當語り ID : PBh+F4cuY

【あなたへ】

出会いは偶然で

欲なんてものも無かったけれど

あの日、

一緒に見た見た夢だけは本物で。

身体に感じる風をそのままに

共に走り抜けた

ああ、楽しかった

美しいものを見た

どうか、どうか、あなただけは

幸せであります様に。

369 : 名無しが適當語り ID : qwa/Jkj15

>>>368

何この、何？

370：名無しが適當語り ID：d6NRYB7Or

>>>368

突然のポエムは心臓に悪い

371：名無しが適當語り ID：dzKZqogW9

これが某牧場名物、非公式名馬の肖像（アセビボタンVer）だ。

震えろ。

372：名無しが適當語り ID：FggPgAiiQ

>>>368

これ作ったの親友さんじゃ無くて暴走した子孫の方なんだよね……

373：名無しが適當語り ID：/7te8aYDR

>>>372

!?!?!?

374 : 名無しが適當語り ID : Fk8QlA3KU

>>372

それでこの解像度なの？

375 : 名無しが適當語り ID : QR35vKS2z

>>372

高垣さん家、ちよつと怖過ぎる

376 : 名無しが適當語り ID : rkxorZng

何が怖いってアセビボタンを円谷氏、アセビボタンを小金井騎手の全てを網羅して
 所

377 : 名無しが適當語り ID : KTHjt4kMc

周りが目立ってるだけでイメージ無いけど、実は強火な小金井近江騎手

378 : 名無しが適當語り ID : 5 m 7 h y i B g K

>>>377

息子がああなので確実に遺伝してる

379 : 名無しが適當語り ID : 0 N f j k 9 d j B

息子「もう2度と馬に乗れなくても良いです」

380 : 名無しが適當語り ID : k O g M q l v V 5

>>>379

名インタビュー

381 : 名無しが適當語り ID : H b e e W x g 8 J

>>>379

あのインタビュー本当に満足そうで、満ち足りた顔をしてるの何回見ても貰い泣きする

382 : 名無しが適當語り ID : R k 7 f e f Y x T

関係者からこれからもアセビの馬に乗れ！って言われなかったら本当に辞めてたんだらうなって

383 : 名無しが適當語り ID : Y d k l + i P c j

【花束を君へ】

漆黒の身体は美しく、強く、晴れやかで。

物足りない日々も今では思い出の1つになった。

頑張ってくれて有難う。

今日からは白い彼女と生きてゆく。

これがヒーロー列伝V e r

384 : 名無しが適當語り ID : 6 0 c C + A V q p

>>383

お腹いっぱいだよお

385 : 名無しが適當語り ID : V L a N V x p x Q

あまりにも高カロリー

386 : 名無しが適當語り ID : RWYTSimr9

ねえ、本当に現役は見てないんだよね？知らないんだよね？

387 : 名無しが適當語り ID : Oew4XoKcR

映像は残ってるから……

388 : 名無しが適當語り ID : 8ulHdjCX9

競馬好きの俺でもこうはなつた事無いぞ

389 : 名無しが適當語り ID : 2UZyKaqqK

馬主からしたら所有馬は娘・息子みたいなものだから多少はね？

390 : 名無しが適當語り ID : hEmi53IVE

>>>383

名馬の肖像もそうだけど、こんな強火なものを抱えてるのにT w i t t e rだと普通なの二面性どころの話じゃない

391：名無しが適當語り ID：qtzWqPWJw
 牧場のT w i t t e rで「新しい資料が見つかりました！」でキャツキャしてるの見て今まではやったー！ってなってたけど、実は内側はこうだったと思うとよく「やったー！」だけの感情で済んでたなと

392：名無しが適當語り ID：jLYYPsa ha

>>391

140文字に収まる様に濾して濾して「やったー！」だけが表に出てるのでは

393：名無しが適當語り ID：zDdnWJy w H

>>392

有難う文字数制限

394：名無しが適當語り ID：56a03t0PC

コウロ君が勝った時も「良かった！頑張りました！」ってツイートしてたのも濾して濾した結果が微レ存

395 : 名無しが適當語り ID : o z B k P I v P F

しかも重賞だったからな、元は原稿用紙10枚くらいあったと思うよ

396 : 名無しが適當語り ID : A a Y 2 m p P u W

愛が重い

397 : 名無しが適當語り ID : L N j 0 z b A J z

>>396

重いだけで済んでるか？

398 : 名無しが適當語り ID : v b m z g p B g t

所有馬を可愛がってる馬主さんは沢山おるけど、ここまで1族で好きな馬主おる？いや、いないね。

399 : 名無しが適當語り ID : R v g 5 T o R t t

>>398

お爺ちゃん、お父さん世代ならまだしも子供も含めてやもんな

400 : 名無しが適當語り ID : O/T8CZiTb
た、た……

401 : 名無しが適當語り ID : XGSbxlVap
>>400
そのお方は殿堂入りだから

402 : 名無しが適當語り ID : xTMygpWT+
>>400
ガチ勢来たな

403 : 名無しが適當語り ID : l0qTjEqzL
しかし、アセビボタンの話題も尽きないね

404 : 名無しが適當語り ID : lry6zk7Zw

尽きないと言うか尽きたと思ったタイミングで生えてくるというか

405：名無しが適當語り ID：ivOSFd5rA

ねえ、アセビボタンとトキノミノルが1度しか戦ってないし、面識もそれっきりなのに仲良しだった。って本当？

調べてもイマイチ分からなくて

406：名無しが適當語り ID：eURrFKkOD

ほらな？

407：名無しが適當語り ID：Y2vZfW1bu

生えてきたな

408：名無しが適當語り ID：4R8i1l+EY

アセビボタン関連のスレこういうのばっか（もつとやれ）

409：名無しが適當語り ID：az/eI7Imd

草

410 : 名無しが適當語り ID : 47Y5I g N r k
 タイムリーだったな

411 : 名無しが適當語り ID : zYD1R I G 5 U

仲良しというか、日本ダービーの時に鼻を寄せたりして相性が良さそうやなあ……つて話が、高垣氏の日記にちよろつと載つてたつていうのは牧場の Twitter で呟かれてる。

たられただけど、トキノミノルが健康だったら繁殖で子供いたかも

412 : 名無しが適當語り ID : n g X s C 8 v 8 l

>> 411

はえー

413 : 名無しが適當語り ID : w J K K g I O 2 /

>> 411

たらればでも夢があるね

414 : 名無しが適當語り ID : f9Rh9QJ9o

>>411

俺が泣く
これでどちらかが恋してました。だってらあまりにもバトエン過ぎてパピエン厨の

415 : 名無しが適當語り ID : 6lCi8tbtk

だからゲームでもあんな絡みがあつたのか

416 : 名無しが適當語り ID : +Jl1tlbyc

夕方グラウンドの話は辞めるんだ

417 : 名無しが適當語り ID : bfgwBZonk

……てえ

418 : 名無しが適當語り ID : PrbOEsuRP

最後の「こうしてみたかった」っていうボタンの独白があまりにも、、

4 1 9 : 名無しが適當語り ID : 6 s G o n 4 K T O

アセビボタンに対してたづなさんがめっちゃ絡みに行くのそういう事だったんだ

4 2 0 : 名無しが適當語り ID : H j 6 2 f X R V G

たづなさん || トキノミノル説

4 2 1 : 名無しが適當語り ID : h H g 2 Z 3 1 b x

映像で見たかったなあ

4 2 2 : 名無しが適當語り ID : r Y f c o z O v l

こればかりは神のみぞ知るだね

4 2 3 : 名無しが適當語り ID : Y m K e d H W 6 x

ウルセエ!!!俺は描くぞ!!!

4 2 4 : 名無しが適當語り I D : 8 l o s y v 5 F U

>>> 4 2 3

その遅しさ好き

4 2 5 : 名無しが適當語り I D : J u O d E O c B a

>>> 4 2 5

良い値を払うから見せろ

4 2 6 : 名無しが適當語り I D : 5 3 r 6 Q n 5 o 3

たぬきで作るかあ

4 2 7 : 名無しが適當語り I D : a d x j Q r Y K a

>>> 4 2 6

アセビボタンの素材あるんか?!?!?

4 2 8 : 名無しが適當語り I D : / Q 9 X 3 j z T F

たぬきにはなんでもある定期

4 2 9 : 名無しが適當語り I D : x P C 5 3 l I e l
 キンタマーニすこ

4 3 0 : 名無しが適當語り I D : T K h 6 s c f S p
 もはやあれは金の玉なんよ

4 3 1 : 名無しが適當語り I D : R o B l c l q G f
 キンタマーニ(そのままの表現)

4 3 2 : 名無しが適當語り I D : I 0 3 4 B Q O E O
 キンタマーニへのイメ損

4 3 3 : 名無しが適當語り I D : 0 T 7 Y e Z a / l
 じ、実装されてないから……

4 3 4 : 名無しが適當語り I D : o H h Q L + L a q

苦しい言い訳過ぎる

435 : 名無しが適當語り ID : z1BA4eFWJ

アセビボタンの話題どこ行つた

436 : 名無しが適當語り ID : GZrVoSbTl

>>>435

アセビボタンのスレは初めてか? 力抜けよ

437 : 名無しが適當語り ID : nUqR0qQL

>>>435

アセビボタンのスレは直ぐに話題がとつ散らかる事で有名

438 : 名無しが適當語り ID : IbcDir1HC

これも全て乾巧つて奴の

439 : 名無しが適當語り ID : UYcYkeJko

>>438

(首が折れる音)

440 : 名無しが適當語り ID : F5V71xE00

あまりにも早い首が折れる音、俺でなきや見逃しちゃうね

441 : 名無しが適當語り ID : O2DEepikE

アセビボタンとトキノミノルのでえてえ話は何処へ

442 : 名無しが適當語り ID : eY9F7xpAQ

そこに無ければ無いですね

443 : 名無しが適當語り ID : GZFTlg3HV

>>441

そんなあ

444 : 名無しが適當語り ID : LuPxdCnKP

もう終わりだよこのスレ

445：名無しが適當語り ID：+gfKjk4E／

へーきへーき後10スレ後にはアセビボタン可愛い！って言ってるから

446：名無しが適當語り ID：EYLUH5mTu

アセビボタン可愛いやったー！

447：名無しが適當語り ID：dBjp／FEjo

1スレ後やないかい！

448：名無しが適當語り ID：ZRgxSlnlf

【あなたへ】

出会いは偶然で

欲なんてものも無かったけれど

あの日、

一緒に見た夢だけは本物で。

身体に感じる風をそのままに

共に走り抜けた

ああ、楽しかった

美しいものを見た

どうか、どうか、あなただけは

幸せであります様に。

4 4 9 : 名無しが適當語り ID : k W V F v C O 7 1

>>>4 4 8

フル詠唱辞めろ、お茶を濁すな

4 5 0 : 名無しが適當語り ID : x R 6 G X P 5 x 8

これはもう1歩半の後継者では？

4 5 1 : 名無しが適當語り ID : D H Z J R 4 m A G

>>>4 4 8

見たの2回目だけど、オタクだからちよつと泣いた

三冠バの演出家、一冠バの名花。

「ねえ、そこの君！」

誰かが、誰かを呼ぶ声が聞こえる。

「あれ？聞こえていないのかな……君だよ、君！」

再び誰かを呼ぶ声が聞こえて、私の肩が軽く叩かれる。

どうやら、私を呼び止める声だったらしい。

なんだか申し訳なく思いながら後ろを振り返れば、見慣れない「CB」という飾りが特徴的な帽子？を身に付けたウマ娘が立っていた。

はて、私はこんな美人に話し掛けられる用事があつただろうか。

「何でしようか」

「いや、特に急ぎの用事がある訳では無いんだけどね。君、アセビボタンでしょ」

「……ええ、私はいかにもアセビボタンですが」

「アタシ、ミスターシービー。宜しくね」

ウインクを添えたフランクな口調。

ミスターシービー、それは学園の中でも知らない人はいないと言われる程の有名なウマ娘さん。

尚更どうして私なんかに。

「えつと、ミスターシービーさん。私に何か御用ですか？」

「実はね、君の走りが”旅をしている様だ” って言われていたから、気になって……ねえ、ちよつとだけ一緒に走つてみない？」

ミスターシービーさんの口から告げられるまさかの言葉。

私が想像していたとは違う、返答。

まあ、それ以上に私の走りがそんな期待をされているなんて思つてもいなかつた訳だけど。

「それは、それは、有難い形容と提案ですが、私には貴女に見合う能力はありませんから」「過ぎた謙遜は、褒められたものでは無いよ？」

「ははつ。でも、謙遜しますよ、あの三冠バさんに目を掛けられているのですから」

そつかあ、なんて少し残念そうにするミスターシービーさんの顔を見て何となく疑問に思う。

どうして彼女は私と走りたいと思つたのだろうか。

「どうして、ミスターシービーさんは私と走りたいと思つたのですか？」

「え？……そうだなあ、君が、アセビボタンが自由に走るから。かな？アタシも自由な場所を走るのが好きなんだ」

「自由な、場所？」

「うん。小鳥が初めて飛んだ日みたいに、伸びやかで、どこまでも止まらない。君はそんな走りをしている。アタシはそんな姿を見て、同じターフを走ってみたって思ったんだ」

真つ直ぐな目で見つめられる。

世界の音が彼女の声だけになって、まるで一番前の一番良い席で、私だけに向けられた演劇を見ている様な気持ちになる。

私だけに向けられた言葉。今だけは私だけが求められている舞台。

差し出された手に私の手を添えて動き出せば、きつと。

”もう一度、君とミスターシービーの対決を!!”

ハツと、思い出す。

最近、毎日の様に学園内で囁かれているあの言葉を。

「御免なさい。やっぱり、私は貴女と同じターフを走れません」

「どうして？」

無垢な顔で分かり易く疑問を浮かべるその顔に、不快にならない笑みを返す。

私では駄目なのだ。今は、私だと。

「貴女は私以上に同じレースを走るべき相手がいますよ」

「ええ？ そんな子、いたっけなあ」

「いますよ。直ぐ隣に」

「……いないけど？」

「視覚では無く、ターフに……世間に疎い私にも届いていますよ。」もう一度、カツラギ
エースとミスターシービーの対決を!!”って囁かれているのが」

「へえ！それは知らなかった」

「今すぐにもでもレースの予定を立てるべきですよ。待っている人は沢山いるんですか
ら」

「そうかな？」

「ええ。悲劇や喜劇を飛び越えたレースという劇場の観客になりたい貴女達のファン
が、きつと」

「ふふっ……なんだか、小難しい事を言うね？」

「そうですか？でも、貴女が自由な時間を望むのならば、貴女が貴女であるのならば、ど
うか、私というさよならが遠い存在を優先しないで下さい」

笑い合いながら少し話して、ミスターシービーさんは1度何かを考えた素振りをして

から、踵を返して歩いて行く。

目的を持った足取りで、只、歩いて行く。

今、世の中に求められているのは演出家と翔ミスターシービー馬カツラギエースの対決なのであって、私では無い。

だから、君よ、振り向くな。

アセビホタン私はまだ、喝采の対象では無いのだから。

番外編? : チカラちゃん と ボタンちゃん

都会とは言い辛く、地方都市とも違う少し長閑な、静かな土地。

その丁度真ん中辺りに位置している立派な日本家屋。

周りの現代的な家々とは一線を画す、歴史に取り残されてしまったかの様な佇まい。

ふわりと香るイ草の匂いを楽しみながら2人のウマ娘が縁側に並び、座っている。

「チカラちゃんはさ、本当に天皇賞を勝ったウマ娘なの?」

牡丹の飾りが付いた芦毛のウマ娘がおずおずとお茶に口を付けながら言う。

それを聞いた紫の耳カバーにパールの飾りを付けたウマ娘がコーラを口にしながら

答えた。

「えー、トキちゃんまだ疑われてるカンジ? ちょっとシヨックかなー?」

「だ、だつて……映像とかも見た事無いし、盾だつてチカラちゃんの家になかった」

「ちつつちー。たったそれだけの要素でトキちゃんを押し量るのはナンセンスだぞ?

トキちゃんは、ボンちゃんの知らない所で努力してたのだ」

「うー」

「まあ、トキちゃんが走つてたのは昔だし、映像残つてないのもトウゼン? ってやつ」

「……そんなに歳離れてない癖に」

「なにをー!? こうしてやる! コチヨコチヨコチヨ」

「え!? うわつ、何!? ……撥りたい! んふふふふ」

静かな街の中に笑い声が響く。

2人が縁側に倒れ込んだ音に、日中の留守を頼まれている女中の1人が慌てた様子を顔に出すが、2人の様子を確認して微笑ましそうに笑いまた仕事に戻っていく。寮生活で頻度は減ってしまったもののこれが、この家での日常風景だった。

「あつ、そうだ! ボンちゃん秋の天皇賞に出るんだっけ?」

「……ええ、まあ」

「ン? なんだか元氣無さげだね?」

「元氣が無いというか、私、少し前までは少しばかり勝ち星を上げてたけど、今はもうすっかり駄目になっちゃったから、招待自体はされたけど、勝てるかどうか」

「フーン……じゃあさ、ボンちゃんが勝ったらトキちゃんとも走ろうよ」

「? どうしてそうなるのさ」

「だってー、トキちゃんが天皇賞勝ったのか気になるんでしょ？それを証明する為には一緒に走るのが手取り早いかなー？って、でも、今のボンちゃんだとトキちゃん圧勝しちゃうし……せめて秋の天皇賞勝つてくれないと同じ土俵にも上げて上げられないかなー？」

「自信满满だね」

「うん。だって、今のボンちゃん、誰から見ても弱つちいモン」

「……あーあ、言っちゃったな？」

「言ったよ。だから、勝つておいで。トキちゃんが持つてる栄誉と同じ名前の栄誉を。3, 200メートルをゼンリヨクで」

「そっか。そうだね、ちよつと、頑張ってみる」

夕暮れに染まり始めた空の下、大きな門の前で不器用な激励を送るチカラと、それを受け取るボタンは笑い合う。

年齢は少し離れているけれど、気の置けない親友である事に間違いは無い。

じゃあねと手を振って自分の家へと歩いて行くチカラの背を見送って、家に戻ろうと1歩を踏み出したボタンは気付き、その背中に大声を出した。

「あ、あの！チカラちゃん!!秋の天皇賞は2, 000メートルだよ!!!」

「へっ?!?!?そうだったっけ!?!」

やっぱりどこか締まらない、2人のやり取り。

もう1度、笑い合つて、それでも頑張ると話したポタンに、頑張りな!と返すチカラ。
秋の風が吹き抜けて、洋杯と盾が並ぶのは、もう少しだけ後の話。

◇ちやんねるで語り合う人々

1 : 名無しが適當語り ID : GaGRLtG+P

ワイ、ウマ娘から競馬に入った民なんやが、アプリに実装されてるアセビボタンの
 ジョッキーフってどんな人だったん？

現役のジョッキーフみたいな面白エピソードとか、強火なエピソードがあんまり出てこ
 なくて気になるから、息子の斗真氏と共にエピソードがあつたら教えて欲しい。

2 : 名無しが適當語り ID : 8r4iCNbf5

脳焼かれてる

3 : 名無しが適當語り ID : x2oYSKq5V

小金井家も漏れなくこんがりや

4 : 名無しが適當語り ID : 7QLW1zzNh

ジョッキーって、愛車欄にお手馬の名前書いたりするやん？それくらいはまあ……

5 : 名無しが適當語り ID : 2 u A O m K H 6 /

お手馬でG1勝った時に「もう馬に乗れなくなっても良い」と泣きながら答えた息子はあまりにも有名

6 : 名無しが適當語り ID : Y e J G l c t V U

落馬事故してから馬には乗っていないかった近江騎手が、番組の企画でn年振りに牧場で補助付きだけども馬に乗って涙ぐみながら「もう少し、この光景を見ていたかった」と呟いた回を見て俺は泣いた。

7 : 名無しが適當語り ID : L + 3 K r T E e O

>>>6

文字だけでも泣ける

8 : 名無しが適當語り ID : h c q P L S v V 6

>>>6

The 昭和親父の風貌で静かに涙ぐむ姿に俺の情緒もかき回されたよね

9 : 名無しが適當語り ID : z R n A v L l I Q

>>>6

私も騎手エピソードはあまり知らんのだけど、落馬事故の後PTSDにでもなつてしまったんか？

10 : 名無しが適當語り ID : / E r z a H X R C

>>>9

PTSDというより、自分のミスで他の騎手や馬、騎乗していた馬を危険に晒してしまったから申し訳ない。信頼してくれた厩舎の人、オーナーにも合わせる顔が無いって感じで自分から十字架を背負いまくつた。

落馬事故の瞬間は映像で残ってるけど、素人目にはどう粗を探しても「しようがない」って言えるものだった。でも、職人気質の人にはしようがないで済ませられなかつたんだと思われる。

その後、番組の企画で背負ったものと折り合いが付けられて、斗真氏のT w i t t e r に投稿されたアセビの馬を語る近江氏に繋がるんじゃ。

11：名無しが適當語り ID：XoAesJiZi

番組のラストでアセビの牧場に行つてボタンやスズナのお墓に手を合わせ、遅くなつたなつて撫でる光景を見て泣く斗真を見て泣く視聴者。

12：名無しが適當語り ID：lvRphRcwk

>>>11

あの光景はマジで泣いた

13：名無しが適當語り ID：jyZTMbq4o

>>>11

その後、高垣氏と語り合つてる姿はあまりにもあまり。どうして神様は……

14：名無しが適當語り ID：2TlxQ7QOY

文読んでるだけで泣けるんだけど、お前らよく知つてるな。

高垣氏と近江氏が語つてるって事は2000年より前の話だろ？

よく映像見つけたな

15 : 名無しが適当語り ID : s o r B R 3 7 S B

>>>14

見つけたのでは無く、公式が何故かアセビボタンが実装するタイミングでリマスターした映像をお出ししてきたんやで

16 : 名無しが適当語り ID : O z A x Z M 4 j 5
公式ちゃん、あまりにもフツ軽

17 : 名無しが適当語り ID : p l 8 9 S d v g d
どういふ事なの

18 : 名無しが適当語り ID : / m 4 h u 2 V W r

>>>17

今すぐURL先を見に行くのです。金払わんと見れないコンテンツだけど、この貴重な映像の前なら実質収入なのです。

<https://>

19 : 名無しが適当語り ID : FTNgBByS4

この映像見る度に斗真わつつつか!!! っつてなる

20 : 名無しが適当語り ID : b2gXR3DD4

>>>19

分かる

21 : 名無しが適当語り ID : lurcNb/uY

あの人も騎手補正で若く見えるだけで実際は結構いい歳や

22 : 名無しが適当語り ID : EyVSznAcS

>>>10

Twitterの動画見返してきたけど、心残りとは言いつつも笑いながら思い出
語ってて泣いちやった

23 : 名無しが適当語り ID : D64jpmc0V

俺だって、近江さんがもつと馬に乗ってる姿見たかったやで

24：名無しが適当語り ID：j b d m M 2 l M P

高垣氏と語り合う動画からの引用

「巽さんがこの場所について思いますね。彼もこの場所に、この机を囲んでいるものだと、あの時の俺だったら信じて疑わないでしょうね。どうして、才能ある人間を、神は愛するのでしょうか、凡人の俺は生き残ったと言うのに」

25：名無しが適当語り ID：S l l Y v r j C Y
おつも

26：名無しが適当語り ID：m P c p L c g w U
これは騎手重いエピソード入りですわ

27：名無しが適当語り ID：J 9 j / s y T E A
人間ちゅわん、自分自身を迫込しないでもろて

28 : 名無しが適當語り ID : y B a p g t l m C

十字架を背負うな

29 : 名無しが適當語り ID : n H l 7 Z i a b s

俺はこの空気を変えるぜ!

小金井斗真騎手と言えば、お付き合いもプロポーズも奥様からだけど、その度に「貴女より馬を優先してしまうかもしれない」って言ってるエピソード誠実なのか、馬キチ過ぎるのか分からんけどとても好き

30 : 名無しが適當語り ID : d L r B j 4 l 7 o

>>>28

両方だと思うぞ(換気助かる)

31 : 名無しが適當語り ID : 5 x y P X p T M e

貴女より優先してしまうかもって言われても、そんなお前が好きなんだよ!!(意識)する奥様格好良い。推させて。

32 : 名無しが適當語り ID : unjREczRO

奥様は今でも都合が付くレースの時は競馬場に行くらしいですね

33 : 名無しが適當語り ID : mnHRdZqCc

>>>29

とま氏、こんな事言いつつ奥様の妊娠が分かった時は自分から騎乗依頼を調整したり、臨月に入ってからには騎乗数を最低限まで減らしたりと推せるエピソードが出てきまくるのさあ

34 : 名無しが適當語り ID : +LQjeDo/N

>>>33

そんなん好きになっちゃうじゃん

35 : 名無しが適當語り ID : rjTVvV5QG

そんなお父様の姿を見てか、娘さんも競馬関係(バレット)の道へ

36 : 名無しが適當語り ID : resJlTP7s

バレットつてなんぞ

37 : 名無しが適當語り ID : b m o n m H U s t

>>>36

ざつくり言うとか騎手の助手みたいな感じ

38 : 名無しが適當語り ID : M 2 0 h D Q b J 8

>>>37

はえり、サンガツ

39 : 名無しが適當語り ID : e G u E J w a I k

娘さんのSNSで偶に投下されるお父様、お母様との家族写真で助かってる日々

40 : 名無しが適當語り ID : H 6 E R o + J y L

あの幸せそうな写真見て、此方も幸せになるという良い循環

41 : 名無しが適當語り ID : A o u U E F R S F

SNSはお仕事関係のRT程度&それに付随したツイートしかない小金井斗真さんの貴重な情報源

42 : 名無しが適当語り ID : uvY0 + smyu

騎乗予定纏めてくれるの本当に助かってます。有難う娘氏。

43 : 名無しが適当語り ID : OoRUv / wO0

娘氏との絡みなら、フアンの人が撮ってた騎乗後に斗真騎手のヘルメットとかを受け取った娘さんへ有難うって言いつつ、頭撫でてあつ……ってなる動画がととてもね

44 : 名無しが適当語り ID : VZG4IR18q

>>43

俺が初めて声上げた動画じゃん

45 : 名無しが適当語り ID : sLJwf0TA /

>>43

あつてなるって事は、無意識。無意識って事は普段からしている。

46 : 名無しが適當語り ID : E2iTvweY4

はくくく!!!

メデイア露出少ない癖に、露出したらしたで核弾頭級のものをお出ししてくる小金井斗真くく!!!

47 : 名無しが適當語り ID : ce2rNvxge

ウマ娘から本家を調べ始めなければ知らなかつたおじさん萌え概念

48 : 名無しが適當語り ID : d+bUV5Lfo

競走馬と共に魅力的な騎手が多過ぎるのがいけない

49 : 名無しが適當語り ID : VSSXKaWgd

全部、小金井つて苗字の奴らがいけない

50 : 名無しが適當語り ID : iH5ZXcdM

小金井斗真騎手を知って、SNSを覗き、本人の年齢にビビったあの日

51 : 名無しが適当語り I D : d I l F y z E l m

>>>50

分かる。あの人若者っぽい文字書くよね

52 : 名無しが適当語り I D : V Z K h Q x / h o

とある極一部の界限で見た「小金井斗真ギャル概念」はSNSが元ネタなのか

53 : 名無しが適当語り I D : I d 2 V u D u / D

なんだよギャル概念って

54 : 名無しが適当語り I D : U W i T S v / Z u

知らない概念持ち出さないでクレメンス

55 : 名無しが適当語り I D : i z 9 5 b A E F V

知りたく無いけど、滅茶苦茶気になる

56 : 名無しが適當語り ID : hgIesW8vd

そんなギャルの方が2000勝&ツバキ姐さんが20歳のお誕生日に投稿したのがこちら

「今でもあの時の歓声を思い出します。

出会えた事は偶然だとしても、私にはとても大切な旅の日々でした。

どうぞ、これからも息災で。」

57 : 名無しが適當語り ID : kL6/PDWhE

か、核弾頭級ですわね……

58 : 名無しが適當語り ID : B99QpL7mf

然も2000勝目がジャック・ル・マロワじゃ無いけど海外レースで、牝馬の芦毛というね

59 : 名無しが適當語り ID : CqnYnKmUu

あまりにも出来過ぎている

60 : 名無しが適當語り ID : LPnIKdNNI

というか、お父さんもそうだけどこの父子似てる所多いよね。偶然で後のG1馬を任されてたり、最初はあんまり上手く無い騎手だったり、思い出の馬が芦毛の牝馬だった

61 : 名無しが適當語り ID : 6Iibpnjwp

>>60

あと脳焼かれてるも追加で

62 : 名無しが適當語り ID : ooySxfHi

斗真騎手のツイート、普段は私的な事を呟かないからこそ威力が強い

63 : 名無しが適當語り ID : R/z0H+4o/

もしかして、最近話題の牧草贈るやつでツバキ姐さんに贈られたT・Kさんって……

64 : 名無しが適當語り ID : KzdR9KO+6

>>63

あつ……

65 : 名無しが適當語り I D : m R V M e 7 e U Z

>>>63

あつ……

66 : 名無しが適當語り I D : 2 r I N q / m D X

嫌、流石に違うと思う。

斗真騎手結構流行に疎い所あるから

67 : 名無しが適當語り I D : F + T 5 d e w Q O

>>>66

でも、娘さんが教えてたら？

68 : 名無しが適當語り I D : H 1 + W E 1 U 5 D

>>>67

あつ

69 : 名無しが適当語り ID : iOjdH / +NF
 TとKの組み合わせなんて幾らでもあるから！

70 : 名無しが適当語り ID : aUylg + hge
 知らぬ方が良い事もある。

. . .

986 : 名無しが適当語り ID : Ow5npP5o

【朗報】

私的ツイートをしないで話題の小金井斗真氏、(元)お手馬達に会いに行った写真をツイートする。

https://

987 : 名無しが適当語り ID : 0XWCx1X0W

あまりにも良過ぎる

988 : 名無しが適當語り ID : HTGHyRnCa
相変わらず鳩さんおるの草

989 : 名無しが適當語り ID : jXvCOs0Jt
そういうば、ロードお爺ちゃんにも乗た事あるんだっけか

990 : 名無しが適當語り ID : mwbd5xV/g
>>986
あ、あのあのあの、この写ってる御守りって

991 : 名無しが適當語り ID : zLHigIdfI
>>990
円谷オーナー↓小金井近江騎手↓斗真騎手と受け継がれてきたやつですねぇ!!

992 : 名無しが適當語り ID : hN6N5bDV3

真つ白ツバキ姐さん相変わらずふつくしい

993 : 名無しが適當語り ID : mLWqE / 0n7
でもどうして急に？

994 : 名無しが適當語り ID : 95TbPi0i
もしや : ツバキ姐さんが勝ったジャック・ル・マロワの開催日

995 : 名無しが適當語り ID : yWA6mKs3G
>>994
そういえば今日やんけ!!!!

996 : 名無しが適當語り ID : MKMlIYIPR
>>994
愛が重い〜
!!!!

997 : 名無しが適當語り ID : Fq19n2ID6

かーッ！これだから小金井は!!

998 : 名無しが適當語り ID : R O f x B T f y k
こんな終わる寸前でネタが降ってくるスレは久々だよ

999 : 名無しが適當語り ID : s t Z O e 6 r W v
にしてもお写真の斗真騎手とツバキ姐さん、近江騎手とボタンちゃんと同じくらいラ
ブラブっすね〜

新旧のステークス

「今、アセビボタンが1着でゴールッ!!桜花賞へ向けて期待のできる走りでしたねー」

アネモネステークス、1、600メートルの桜花賞へ向けたトライアル競走の1つ。

俺は先日契約したウマ娘であるアセビボタンが余裕そうな表情で後続を離し、先頭でゴール板を駆け抜けたのを確認して地下道へと脚を進める。

アセビボタンは「あの子」を目的にして、周りのスカウトを受けず練習レースにばかり出走していたから、実力はあっても本物のレースでは大丈夫なのかと心配したものが、蓋を開けてみたら大丈夫。というよりも、余裕の一言。

何時もの澄ました顔で、表情を崩す事なく終わった先程のレース。

しかし、僅かにだが脚の使い方が物足りない、様な、気がする。それを見ると、アセビボタンの適正距離はマイルというよりも中距離と言った所だろう。

まあ、ボタンの素質を見るにとんでもないものを持つているのは確か。本人が望むなら、距離に関係なくレースに出走させてみても良いかもしれない。

「よっ、お疲れ様」

「……はい。お疲れ様です」

「どうだった？公式のレースは」

「どうと言われましても、私は私の走りをして、あの子を目指すだけ」

「相変わらずだな。だが、俺がいる事で出れるレースが増える事も事実！」

「ええ。そして、私が更に強くなる為に必要な齒車の一つ」

「……お、おう。そんな事言ってくれるんだな」

「当たり前です。トレーナーと契約したのですから、実力を示して頂けなければ困りません。どうぞ、宜しくお願いしますね。私をあの子に勝てるウマ娘にして下さい」

「ああ……勿論だよ」

ボタンと軽く話して、脚に怪我が無いかのチェックをする。

細くもあるが、しっかりとした筋肉もある脚を軽く触りながら考える。

やっぱり、レースに勝てる。では、無いんだな。

騒がしい競馬場。

重賞では無いものの、かなりの人数が集まるこの場所で俺はたった一人でレース板の前に立っている。

2,000メートルに設定されたレースは概ね2分半あれば終わり、カップラーメンですら完成しない間に全ての結果が出る。

ファンファーレが鳴り、ウマ娘達が俺達からは離れた位置でゲート入りを完了させ、一斉に走り出す。

モニターで黒い体操着を確認し、走りに問題が無いかを大まかに把握する。

今の所は特に問題無く、教えた通り、自由に走っている様だった。

ラストの4角を周り切って、ボタンが逃げの作戦を取るウマ娘へとじわじわと脚を進める。

離れた場所にいるこの俺にできえ走る音が聞こえてきそうな踏み込み。

レースの終わりに近づくにつれ盛り上がる観客。

空気が揺れると呼べる程の熱気こそ重賞と比べ足りないが、それでも“想い”なら、重賞にこそ引けを取らない。

「アセビボタンが今、白富士ステークスを1着でゴールッッ!!」

「……………よしっ!」

誰にも見られない程小さな言葉とガッツポーズ。

それを俺は直ぐに隠して、表情を戻す。

着順が確定され、3の数字が掲示板の1着の部分へ映し出される。

それを確認し、地下道へ向かおうとすれば未だターフへ残っていたボタンが俺を見つ
け駆け寄って来る。

「あの、トレーナーさん」

「?どうした?」

「また今日も、あの子には負けちゃいました」

「……そうか」

「でも、レースには勝てました。勝利のブイです……!」

俺に対して遠慮がちにVサインを向ける。

恥ずかしかっていた割に、表情自体は誇らしそうだ。

「ああ、おめでとう。ボタン」

「はい!次も頑張ります」

昔と比べ、ヤケに性格が変わったボタンを微笑ましく思いながら早くターフから戻る
様に誘導する。

「……いや、性格が変わったというより、余裕が生まれたの方が正しいな」

誰にも聞かれない声で、俺は1つの答えに辿り着いた。

今日だけは、桜色を捧げて

2人の逃げウマ娘がレースを引つ張り、そこから約3馬身程離れて先行の集団が走る。俺の担当であるアセビボタンは集団の中では先頭。彼女にとっては1番良いポジション。

そのまま流れに沿って走り、何事も無ければきつとアセビボタンは勝てる。

レースに絶対は無いけれどあの皇帝と同じ様に「絶対がある」と言えるポテンシャルがあると、俺は信じている。

「オネストワーズとアツプツリーの2人が数多のウマ娘を引き連れて最終コーナーへと差し掛かります!! 1つ目のティアアラを手にするまでは後500メートルと少しの距離!! ウマ娘達にとって最も苛烈な勝負所です!!」

2人のウマ娘は今の所順位が変わらずに逃げている。

しかし、追込、差しのウマ娘はじわじわと脚を進め、先行集団もラストスパートをかける為にそろそろ勝負をかける始めるタイミングだろう。

アセビボタンは未だ脚を溜めているが、バ群に囲まれたらどうなるのか経験のないボ

タンがどうなるか少しだけ焦る気持ちに襲われる。

落ち着け、走ってるのは俺じゃない。

俺は、この場所から彼女を応援するだけだ。

「……走れ、頑張れ、ボタン！」

強く握っていた手に一層の力が入る。

【最終コーナー曲がりまして、残り約474メートル！ここで先頭変わってアップツリー！オネストワーズの脚はもう伸びないか!!……おおっと！アンチエンジリングが凄い脚だ!!最後尾から一気に先頭へとやって来たぞツ!!1番人気のエーネアスはバ群に阻まれて少し苦しいか!!】

「行け、ボタン……アセビボタンツ！」

【このままアップツリーの逃げ切り勝ちか!……ここで1人のウマ娘が突っ込んで来る!?!あれは、アセビボタン!!2番人気のアセビボタンがここで阪神ジュベナイルフィリーズと変わらない末脚で突っ込んで来る!!前に届くか、届いてしまうのかツ!!!】

1人だけ違うエンジンを積んでいるかの様な末脚、ここまで音が聴こえてくるかの様な強烈な踏み込み。

黒い勝負服と、白い芦毛を揺らしたそれは遠い遠い先頭の影にすらきつと届く。

【ゴールツツ!!!1,600メートル、1つ目のティアラを手にしたウマ娘はアセビボタン

!!このままトリプルティアラを手にするのか、それともアセビボタンを阻む1人が出てくるのか、今から見逃せないシーズンとなりました!!」

もう数えるしか咲いていない様な葉桜から、祝福する様に桜の花が舞った。

「……お疲れ様、ボタン」

「お疲れ様でした。トレーナーさん」

優勝レイを肩に掛け、大方の写真撮影やインタビュを終えて控え室に入る。

これからは軽く身支度を整えてから、ウイニングライブとなっている。

「次はオークスカ。良い状態で走れる様に、トレーニングをやっつけていこう」

「あの、トレーナーさん。その事なのですが」

俺の提案に、ボタンは困った様に表情を歪めて、おずおずと声を上げる。

ボタンの目標はあの子に勝つ事だから、もしかしたらティアラには興味が無いのかも
しれない。

「私、オークス……もですが、ダービーにも、出たいんです」

「ダービー?」

「はい。ずっと昔から、ダービーにだけは出なければいけない様な気がしていて、ダービーに出ないとあの子と同じ土俵にすら立てない様な、そんな、感覚があるんです」

「……そうか」

「ご、御免なさい変な事言つて！無茶ですから、どつちかに絞らないと駄目ですもんねー！」

「嫌、そんな事は無いさ。ウマ娘が出たいレースに出て、勝てる様にサポートするのが俺の、トレーナーの仕事だ。だから、日本ダービーに出よう」

「本当、ですか!？」

「ああ！勿論だ！でも、1つだけ約束してくれ。ダービーとオークスは感覚が短い。もし、オークスの後に疲れが残っていたり、少しでも問題があれば許可はできない。良いなっ！」

「分かりました。有難う御座います！」

「それじゃあ、まずはウイニングライブを終わらせよう。アセビボタンの晴れ舞台だからな！」

「はいっ！」

笑顔になったアセビボタンと次の目標を決めて、俺は彼女が着替えられる様に控室を出る。

扉に背を預け、目を閉じる。

日本ダービー。数多くのウマ娘が挑戦して、夢叶い、敗れてきた最高峰のレース。そして、オークスから間隔の短過ぎるローテーション。

俺は、その頂点へ自分のウマ娘を導けるトレーナーになれるのか。

怪我をさせる事無くボタンが存分にパフォーマンスができる状態で持っていけるか。「やってみなきゃ分からない。だな」

1 : 名無しが適当語り ID : iwBx21140

この時期の阪神第11R芝1, 600mG1を見る度にあの馬を思い出します

2 : 名無しが適当語り ID : N6OsY0YBT

映像も何も残ってないのにここまで語られるの稀有な存在やね

3 : 名無しが適當語り ID : D51GwaM9I

>>>2

ケウちゃん
!?!?

4 : 名無しが適當語り ID : QNY0qt17G

>>>3

おう、後ろに立って蹴られてこい

5 : 名無しが適當語り ID : Xqe2H23ZF

突然500台に体重減ってたから驚いたぞケウちゃん

6 : 名無しが適當語り ID : iFsvz0kP

500後半の体重あるのに驚かれる馬も珍しいわ

7 : 名無しが適當語り ID : sQ4NfAlDw

それはそれ、これはこれなんですけど今日に合わせてボタンの桜花賞イベ見直して泣いた奴おる？

8 : 名無しが適当語り I D : k + Q 9 v b N b B

>>>7

俺の話か？

9 : 名無しが適当語り I D : y p V P H i W 7 p

>>>7

突然ワイの事話すなよ、照れるだろ

10 : 名無しが適当語り I D : b T r w D y L D R

ハゲデブの照れた顔とか見てらんないわ

11 : 名無しが適当語り I D : g a 4 t 8 d n c X

>>>10

なんだア？てめエ……

12 : 名無しが適当語り I D : o T z 2 d L n R d

ウマ娘だとボタンが走った阪神3歳ステークスは今だと阪神JFになって格もG1だから桜花賞だと2回目の勝負服着用になるけど、史実準拠で行けば初めて着たピカピカの勝負服でお父さんに初めてのG1の景色を見せるっていうね

13 : 名無しが適當語り ID : 8vI0aEHoP

しかもボタンの勝負服って色が本当に最小限で作りもシンプルだから、優勝レイを肩に掛けたら色が映えて満開の桜を見ている感じになるの良いやね

14 : 名無しが適當語り ID : b/57ClzLj

>>>13

オタクにあるまじき語彙を見せるな

15 : 名無しが適當語り ID : SCUa/4Jkd

>>>13

君、一歩半の才能あるよ

16 : 名無しが適當語り ID : bXTVij/5l

なんだよ一歩半の才能って

17 : 名無しが適当語り ID : 3YY + n g J J 3

素直に「良いこと言うやん」でええやんけ!!!

18 : 名無しが適当語り ID : X 8 q B d L 3 q S

桜花賞だところな泣けるストーリーなのに、この後が暫く曇り一辺倒なの本当に合ってます？

19 : 名無しが適当語り ID : r V D W j j z R 5

>>>18

史実準拠なので

20 : 名無しが適当語り ID : R o b H 3 v m K 7

>>>18

アセビボタンは頂点から転げ落ちて再び頂点に上り詰める物語なので曇らせはある程度必要なのだ

21 : 名無しが適当語り ID : lMYKXjRFB

思ったけど、ウマ娘の中で日本ダービーに出走した事がある繋がりです。ウオツカとも何かあると思ってたんですけど、今の所匂わせどころか絡みも無いよね

22 : 名無しが適当語り ID : q348/xtAe

>>>21

そこ欲しくて永遠と待ってるけど、永遠に何も起こらん

23 : 名無しが適当語り ID : ST7Yk9Rh7

ウオツカが勝った日本ダービーの映像を見る（or 現地に行つて見ていた）アセビボタンに何故か話し掛けるたづなさんとか欲しい

24 : 名無しが適当語り ID : Se4ksuMON

どうしてたづなさんが……？

25 : 名無しが適当語り ID : wiXo86DQw

仲良しやからじゃない？（すつとぼけ）

26 : 名無しが適當語り ID : D d X J x u f j 0

そりやあもう、たづなさんがトキ

27 : 名無しが適當語り ID : l g z J L 3 a A i

……あれだけ戸締りには気を付けろと

28 : 名無しが適當語り ID : L E I Z Z P A 3 y

>>26

死んだか

29 : 名無しが適當語り ID : s m 0 g i J w k n

本当にワンシーンだけで良いんで、「こんにちは」「うつつ！こんにちは！」一言だけのやり取りで良いんで欲しい

30 : 名無しが適當語り ID : n f S y 7 W D V o

>>29

それはそう

31 : 名無しが適当語り ID : K / Q U 3 A d S k

>>29

ホンマに頼むわ

32 : 名無しが適当語り ID : / V 0 p A 7 n j A

アセビボタン新衣装V e r のイベントできたら良いなあ

33 : 名無しが適当語り ID : G J 4 R p m 3 Y t

そういうえば、ウマ娘の公式が投稿するイラスト見た？

34 : 名無しが適当語り ID : t R 6 E k 5 B x r

>>34

当たり前だよなあ!?

35：名無しが適當語り ID：q+mTG2Igt

>>>34

見ない人とかいるんですか!?

36：名無しが適當語り ID：cUIgaCPHf

>>>34

デアタクと並んでるのが堪らないですよ

37：名無しが適當語り ID：eQ3wqPrWr

タクトとポタンが背中合わせに桜の花を持っている構図が美しくてな、お爺ちゃん額に飾ろうかと思ったんじゃよ

38：名無しが適當語り ID：ClTyJeSt

真ん中の「あなたに捧げる桜色」って文章でオタクの涙腺はボロボロ

39：名無しが適當語り ID：bQjuZjYzs

ポタンはお父さん(馬主)、タクトは三冠を一緒に獲った騎手かな? って考えて俺は勝

手に死んだね

40 : 名無しが適當語り ID : f 0 q Z K Z M F L

黒白のデアリングタクトと白黒のアセビボタン、バランスが良い

41 : 名無しが適當語り ID : Y + 0 e 2 / n W B

和装と洋装で分かれてるのも好き

42 : 名無しが適當語り ID : U M k J F V V k t

運営的には絶対狙った訳じゃ無いんだけど、このしつくり感凄い

43 : 名無しが適當語り ID : N Y 1 L O M E W 1

今気付いたけど、記念イラストの2人桜花賞勝ち馬だけじゃなくて、実装されているウマ娘の中では活躍した時代が最古と最新のキャラって繋がりもあるんか

44 : 名無しが適當語り ID : E P H 7 + D O / z

>>>43

ホンマやんけ!!

45 : 名無しが適當語り ID : f Y Z x 3 f 2 U Y

>>> 4 3

可愛い以外の繋がりがまだあったのか!

46 : 名無しが適當語り ID : V X b z u 5 G U 7

経緯は全く違うけど、ボタンも1度勝てなくなつてから復活の勝利を挙げたし、タク
トももう1度つて思つてしまう。レースがそんな簡単じゃ無いっていうのは百も承知
で

47 : 名無しが適當語り ID : 9 q I i G b o p 8

>>> 4 6

分かる

48 : 名無しが適當語り ID : F l K d e j f l e

>>> 4 6

ワイもタクトがもう1度優勝レイを肩に掛けている瞬間を見たい

49：名無しが適當語り ID：yE9WY5100

ウマ娘を知ってからこんなんばっかりや

応援したい子が沢山いて時間が足らん

50：名無しが適當語り ID：uSUVdH1Cg

>>49

良い事やで！無理はしない程度にな！

まだ、目覚めていない君は

東京競馬場。第11R。

18人のウマ娘で争われるG1Iで、2着迄に入ればオークスの優先出走権が与えられるトライアルレース。フローステークス。

私はトレーナーさんをお願いして、本来はトレーニング日だった筈の予定を変更して貰い、レースを見に来ていた。

「それにしても珍しいな、ボタンが敵状視察をしたいなんて」

「そうですね。基本的に私は相手の事を調べる、という事をしませんが、何となく。本当に何となく、見たいなど」

「そうか、それなら有力株の走りをしつかりと見て本番に活かさないとな！」

「はい……！」

こんな事を話してる間にも枠入りが終了し、レースがスタートする。

始まってからは前情報の通り1人の逃げウマ娘さんが先頭に躍り出て、最初のコーナーを曲がる頃には先行集団へと6バ身程の差を作り上げる。

今日のレースは、逃げのウマ娘さんが1人、先行のウマ娘さんが10人、差しのウマ娘さんが2人、追い込みのウマ娘さんが5人という何ともアンバランスというか、先行と追い込みのウマ娘さんが少し多い印象である。

第1コーナーの奥からスタートして第2コーナーを回り向こう正面の直線、まだ動きは無い。

1000メートルのハロン棒を通過して、第3コーナー。徐々に後方のウマ娘さん達が動きを見せる。

残り600メートル、最後のコーナーを曲がれば約530メートルの直線。

差し、追い込みのウマ娘さん達全員が勝負を仕掛けるが、それは先行して走るウマ娘さん達も同じ。

逃げていたウマ娘さんはスタミナ切れか、単純に後ろがラストスパートをかけたからかバ群に沈んで行く。

ゴール板を団子状態になったウマ娘さん達が通過して掲示板へ着順が表示される。

フローステークスは重賞、そしてGIであるオークスへのトライアルレースという事もあり1着、2着になったウマ娘さんはお互いがライバルである事を忘れて抱き合っている。

「……………どうだった？」

2人でレースを走ったウマ娘さん達へ拍手を送りながら気になったウマ娘さんを報告し合う。

「私は、9番のウマ娘さんが印象に残りました」

「9番って言えば、ええと、11着の子だな」

「ええ。最後はバ群から上手く飛び出せずに惜しい結果となりましたが、光るものがあるかと……もしかしたらオークスは難しいかもしれませんが、もう少しだけあの方が成長した後にとっても大きな偉業を成し遂げるかもです」

「一目惚れみたいだな」

「一目惚れ、しちゃったかもしれないですね」

「育成ウマ娘イベント」

「気になる一目惚れ？」

426 : 名無しが適当語り ID : Y6 + o + u Q F 4
 そういえばアセビボタンの育成イベントでのフローラステークスの9番って、アセビツバキの匂わせで合ってます？

427 : 名無しが適当語り ID : neRaBBjxS
 バチバチの匂わせで合ってるぞ

428 : 名無しが適当語り ID : zTsr34OJw

アセビツバキ戦績

フローラステークス 11着

スイートピーステークス 5着

奇跡的にオークスへ出走できた！ 3着

429 : 名無しが適当語り ID : kaRYWlsyY

ツバキちゃん本当にシルバークレクターというか、日本での結果が振るわないというか

430 : 名無しが適當語り ID : YkEkNcuIZ

中央の重賞出れてる時点で上澄みも上澄みなのに、アセビ冠が付いたボタン後初の牝馬って事で変な期待されまくってたからね

431 : 名無しが適當語り ID : u5w3qFGuT

※尚、本馬の海外適正

432 : 名無しが適當語り ID : +y2w8p+1U

>>431

向こうで慣らしたとはいえ、国内であんまりだったのが海外G1だもんな

433 : 名無しが適當語り ID : a8rAMcLb4

もしかして：凱旋門賞

434 : 名無しが適當語り ID : DtmyeqrVo

安直に凱旋門、凱旋門言えないけど日本よりも比較的重めの斤量背負ってあの末脚で

きたんなら、あのまま滞在して調教続けてたら掲示板には入れたとは思う。

435：名無しが適當語り ID：o o 0 8 U t K o C
ツバキちゃんやっぱり強かったよな

436：名無しが適當語り ID：y H k 2 8 j 0 H w

国内G1は取れてないにせよ、G1含めた重賞で好走するし掲示板にも割と入ってたし、海外レース制覇は紛れもない強々牝馬さんや

437：名無しが適當語り ID：6 m H M D J 6 Y N
実装はできそうですか？

438：名無しが適當語り ID：Z 1 3 Q n o Y I X
海外レースがウマ娘に実装できないとなんとも……

439：名無しが適當語り ID：R O v M E W E k k
シリウスさんもそうだけど海外遠征要素をメインとしてお出しできない限りは難し

い
の
で
は

440 : 名無しが 適当語り ID : nyGGOSLCE

シリウスさんはいつ実装されるんですか!?

441 : 名無しが 適当語り ID : HNERnwmOC

>>440

その前にビコーなんだよなあ……

442 : 名無しが 適当語り ID : +JNuZn8ty

ビコーちゃん本当に早く来て。ボーノとトレーナーが待ってるんですよ

443 : 名無しが 適当語り ID : V9MB6TcE6

まあまあもちつけ。

ツバキ姐さんの最新画像でも見ろ。

https://

4 4 4 : 名無しが適當語り ID : L3CypFI d 2

>> 4 4 3

可愛い

4 4 5 : 名無しが適當語り ID : dAx6XPXNQ

>> 4 4 3

これは紛れもなくKAWAII

4 4 6 : 名無しが適當語り ID : miPCF5fk b

>> 4 4 3

シャワー浴びながら目キラキラさせとるの堪らん

4 4 7 : 名無しが適當語り ID : uKswZp5mY

ツバキ姐さんが可愛いのは勿論だけど、身体洗ってる牧場の方がニコニコしてるのも
良いね

4 4 8 : 名無しが適當語り ID : pOiqpMOVm

やっぱり姐さんは牧場の看板娘

449 : 名無しが適當語り ID : 2DFCwj+m2

>>443

一瞬間の洗いが写ってるけど、もしかしてお爺ちゃんか？

450 : 名無しが適當語り ID : 6OSaB6pEm

>>449

毛色と鬣結んであるからお爺ちゃんの間違いない

451 : 名無しが適當語り ID : N/UCjDxS8

ロードって鬣結んでいるタイプのお馬さんなんか

452 : 名無しが適當語り ID : CMk/uKN6g

>>451

現役時代の調教助手さんが、障害は平地とは別の危険があるから無事に戻って来ます様についてレース前、願掛けで一房だけ三つ編みにしてたのが受け継がれたんやで

4 5 3 : 名無しが適當語り I D : O f Y H 4 8 g 8 w

>>> 4 5 2

はえく

4 5 4 : 名無しが適當語り I D : A r s u v Q c 6 G

今では無事に戻ってじゃ無くて、お爺ちゃんが動きます様にとって願掛けになっ
てるけどな

4 5 5 : 名無しが適當語り I D : X f P C s X p H m

>>> 4 5 4

草。

お爺ちゃんは健康の為に真面目にお散歩して

◇下賜されるは、圧倒的な記録

最近ではもうあまり姿を見なくなったらしいVideo Home System、略してVHS。コンパクトカセットを大きくした様な見た目のそれを突然家にやって来て、突然渡してきたチカラちゃんに困惑しながら機械に入れ、読み込ませる。

そして、読み込みが終わり再生ボタンを押せば少しノイズの混じった音と映像がテレビに流れ始める。

【第纏阪? 回天皇賞―春―! 今回のレースは異例も異例! 阪神競馬場、――.
――.の3, 200メートルにて行われます!! まずは出走ウマ娘を見ていきましよう!】

所々聞き取り辛い部分があるが、私とチカラちゃんの年齢差を考えてもそんなに驚く程の変更はされていない筈だ。

それにしても天皇賞という大きなレースで出走ウマ娘が7人とは、確かに異例も異例である。

「一番人気はこの娘! GI、菊花賞を含めた現在9連勝中の綱縊Nタケ! 今日のレース

で10連勝という記録に昇華できるのか！2番人気はトキノチカラ！GI勝利こそありませんが、特別ルールでの中山記念制覇や阪急杯でのレコード勝利など、長距離レースで素晴らしい結果を残しているウマ娘です！」

画面に水色を基調として差し色に所々紫の入った勝負服を見に纏うチカラちゃんが、お客さんへとファンサービスをしている。

映像越しに見ても仕上がりは絶好調といった風で、ありきたりだが「強そうだ」という感想を覚える。

「ねえ、チカラちゃん。アナウンサーさんが言っていた特別ルールって？」

「ああ、それね。なんかURAが先取りレトロブームだったのか昔のレース状態でやってみよう！ってなったらしいよ……だから、中山記念も今は冬の1，800メートルだけあの時は春と秋開催で3，200メートルだったし、阪急杯だって今は芝の2，400メートルだけどトキちゃんはダート3，400メートルで阪神記念？って名前だった。この時の天皇賞も昔のルールで！って感じだったから、色々違って、だからGIなのにウマ娘集まらなかったんだよね」

「……もしかして、ルールが今と違うから私に天皇賞勝った時の話してくれなかったの？映像が残っていないって嘘までついて」

「わはは！バレちゃったなー！」

「自分からバラしたんだよお!!」

「んふふ……まー、まーお嬢様、続き見よ?」

「もう……」

何時もの様に飄々とした様子で、大事な所を有耶無耶にされ少し呆れた感情が湧き上がるが、仕方無く促されるままに画面へと視線を戻す。

「3番人気は縋ッ綱「綱上ち!今年のダービーウマ娘ですが、長距離のレースとダートで実績が少ない事から3番人気に落ち着きました。4番人気は……」

「……」新時代の先駆けとも称さ

れる彼女ですが長距離レースの実績、トキノチカラが2着となった中山記念での失格などが尾を引きこの人気に落ち着きました。5番人気はゴーフ縋エ綱シ纏ウ!日本ダービーにも出走しましたが、2桁順位と結果が振るわず人気も伸び悩んでしまっていますね。大どんでん返しを起こせるのか!6番人気は……」

「……」オークスから菊花賞というティアラからクラシックへの果敢な挑戦で、天皇賞という頂へ手が届くのか!7番人気は綱輔け縋サ縋、縋ウ。オークス3着と好走しましたが、他のウマ娘と比べ物足りない評価となりました」

7人しかいないGIレース。

緑では無く、茶色の地面。

ノイズが入る画面と音声。

全てが私にとって馴染みの無い光景で別の意味で楽しみなレースが今、始まった。

「さあ！異例尽くしの阪神競馬場、天皇賞という大舞台は残り1,000メートルを切りましてこのままトキノチカラが独走してしまうのか！」

アナウンサーさんが興奮した様に叫んでいるが、流れている映像は言葉通りの独走。

これはきつと、能力差というよりもダートへの適性、トレーニングで得たスタミナの差が出ているのだろう

「ああ!!トキノチカラが逃げ切るぞ！後ろも懸命に追うが追いつけない！これはもうセーフティリードだ！」

沢山の土を巻き上げてチカラちゃんだけの蹄跡だけが刻まれる。

確かにこれは、私の走りに取り入れられ無い。

見慣れない必死な顔で汗を流しながらチカラちゃんがゴール板を駆け抜ける。

「天皇賞―春―の勝者はトキノチカラ！トキノチカラです！勝ちタイムはなんとレコードの3.25.2！着差にして実に4バ身以上！2着には……」

「更には3バ身開いて3着は纏ッ纏
シ纏ウ。——は途中で競走中止しています」

終わってみれば、レース結果も異質なものとなった天皇賞は矢張りといふべきか特別
ルールによつて見た事が無い結果となった。

レースから意識を戻し息を吐き、お茶を一口飲んで純粹な感想を口に出す。

「これは……参考にできない、かも」

「でしよー？」

再び出会えた奇跡を掌で重ねて

一部の人間にとっては見慣れたも同然な特徴的な紫色の制服。

顔の横、俗称として触覚なんて呼ばれる部分を片方のみ垂らし、三つ編みのハーフアップを揺らした1人の女性。

白い耳に牡丹の飾りが特徴的なリボンを巻いたその人は、とある重賞レースが終わった後、記念撮影のタイミングでターフに現れ、関係者の横に並ぶ。

パシャパシャとシャッターが切られると、馬主と思わしき男に気前良く促され、勝ち星を挙げた馬に触る。

撫でられて気を良くしたのか馬は女へと顔を寄せ、女も寄せられた顔を抱き締めた。紫色の制服を知らない競馬のファンにとっては見慣れないが、少し絵になる光景だった。

1 : 名無しが適当語り ID : Waq / 5JKT7
今日もお疲れ。

適当に語って良いよ。

2 : 名無しが適当語り ID : TUO+8rY8I

【速報】

ウイナーズレディ×ウマ娘コラボとしてアセビボタン役千鳥洗さんが登場。

https://twitter

3 : 名無しが適当語り ID : QXIGhIkHG

まさか現れるとは……

4 : 名無しが適当語り ID : oVU66M2vR

せんどりさんこういうの絶対やらないタイプだと思ってたのに、まさか過ぎて椅子から転げ落ちた

5 : 名無しが適当語り ID : 2SriKdrh5

千鳥ネキが出て来るなら行けば良かった……ちくせう……

6 : 名無しが適當語り ID : b E e y T L j U N

>>> 1

それにしてもせんどりさん美人やな

7 : 名無しが適當語り ID : z 9 A v P p L b o

洗さんアセビボタンであれだけ脳焼かれてなのに、本物？のコスプレして平気なんか
???

8 : 名無しが適當語り ID : 5 B H d D U o A 3

流石に大丈夫やろ。大丈夫だよな？

9 : 名無しが適當語り ID : f e l b V j / q t

ウイナースレデイ用の制服がよくお似合いで

10 : 名無しが適當語り ID : C k / j K M v R P

俺現地行つてた民。

歴戦の競馬おじさんらしき男性と、一般競馬おじさんらしき男性（恐らく孫？）がい

てウイナーズレディとして出て来た千鳥さんの姿を見て「なんだあれは？」「あれはこれこれこうで〜」って会話しているのが近くに立ってたから偶々聞こえてただけど、男性が説明してる時の「〜で、あの方は声優さんでアセビボタンって名前のウマ娘を担当しているんだよ」って言い終わった後に「アセビボタン!?!?」って反応してたのが凄かったです（小並感）。

11 : 名無しが適当語り ID : BX0SISIEC

>>10

俺もそれ多分見てたわ。

年代的にボタンをリアルタイムで知ってる人はまだご存命な年齢だし、歴史の生き証人を見た気分だったわ

12 : 名無しが適当語り ID : wmcn6xFSp

ボタンでもギリおるんだし、スズナとかのアセビ冠をリアルタイムで見てた人もいるんだよなあ

13 : 名無しが適当語り ID : Qh27IVLEW

>>10

そのシーンを撮影してた人おるけど、お爺ちゃんが「アセビボタンなのか!？」って驚いてる声に千鳥さんが反応して、ちよつと振り向いた後手を振ってたのマジで所作がアセビボタンだった

14 : 名無しが適當語り ID : MFLQUyZIU

流石アセビボタン過激派オタクや

15 : 名無しが適當語り ID : uqDVWno4M

アセビボタンに相応しい女になりたくてジム通い始めた女は違うな

16 : 名無しが適當語り ID : Uihy6IOSO

>>15

また千鳥さんの知らないエピソードが増える……

17 : 名無しが適當語り ID : mGzQilSqq

千鳥洗、一年くらい不摂生な生活になってたらしくお風呂に入った時に見た自分の身

体があまりにもあまりで、こんな身体でボタンの視界に映るなんて、とジムと食生活の改善を開始。目に見えて体調が良くなった模様。

18 : 名無しが適当語り ID : 6rYdlfgBU

でも、千鳥さん言い方は悪いけど不摂生してた割にデブつてるとかはなかったよね

19 : 名無しが適当語り ID : vlH/2avWh

まあ、インターネットにおける様なドカ食い気絶部みたいな不摂生はしてないからな

20 : 名無しが適当語り ID : sMZbkXwZT

ガチ底辺ニートとある程度忙しくしてる人の不摂生の違いや

21 : 名無しが適当語り ID : HTlByFLgn

>>20

お?泣いてええか?

22 : 名無しが適当語り ID : 8oBhiWv55

>>21

泣く前に働け

23 : 名無しが適當語り ID : B L a G H W B O H

それにしてもレース後の記念撮影の時に勝ち馬が千鳥さんの方ガン見してる写真好き

24 : 名無しが適當語り ID : B m r 6 C H T Y k

あれ好き

25 : 名無しが適當語り ID : X + K B I W I W t

本物の馬にも同類だと思われてる可能性

26 : 名無しが適當語り ID : J c e B c m M 7 q

>>25

流石にそれは無い。無いよな？

27 : 名無しが適當語り ID : sKh025QVw
ただ単にじつとしてられないだけやろ

28 : 名無しが適當語り ID : uvtaFx3Pi
ワンチャン騎手とかを見ている可能性もあるしな

29 : 名無しが適當語り ID : hMNB4sRR5
勝利ジョッキーも小金井騎手だったし、推しと推しの共演は健康に良い

30 : 名無しが適當語り ID : dLWU6tuTi
>>>29

勝利ジョッキー斗真氏だったのか!!
まだしっかり情報見れてなかったから驚いた!なんと!

31 : 名無しが適當語り ID : MaIMNaI/l
アセビボタンがウィナーズレディのタイミングで小金井近江の息子が勝つとか筆
乗ってるな

3 2 : 名無しが適當語り ID : v B n l b + B 7 7

競馬の神はこういのがお好みなのね

3 3 : 名無しが適當語り ID : / Q x l R Z 0 t a

自分でもチョロいと思うけど、今日の勝ち馬が俄然気になってきたな

3 4 : 名無しが適當語り ID : O S x O h O v L g

>>>3 3

競馬なんてそんなもんや

3 5 : 名無しが適當語り ID : 6 W K z + / f 7 w

>>>3 3

今日のレースで重賞初勝利だけど6歳で馬主的にももう直ぐ引退になつちやうから、残りレースは何かなんでも買え。そして引退後も見守り続ける。

3 6 : 名無しが適當語り ID : / U F J D l C c J

>>35

そうなのか、有難う

37：名無しが適当語り ID：6yDjYpioA

今週はせんどりさんのウイナーズレディやったし、来週はVMだして盛り沢山やね

38：名無しが適当語り ID：q/w/iqBF1

来週もウイナーズレディとして出て来んかな……生ボタン見たい……

39：名無しが適当語り ID：VSjd8QZ7c

出ると良いな。俺も見たい。

40：名無しが適当語り ID：678CIFQHR

というかVMデーの日に千鳥さんがウイナーズレディするとして、更に白毛のアイドルが連覇なんてしたら

41：名無しが適当語り ID：bgEziyLhy

>>>40

美“じゃん

42 : 名無しが適當語り ID : F y R q 0 d G C L

>>>40

あー駄目駄目、そんなんカメラの容量足りなくなつてしまいましたわ

43 : 名無しが適當語り ID : o E Q 5 V D 7 6 Y

>>>40

大外も大外だけど追い付け追い越せ引っこ抜けできればワンチャン

44 : 名無しが適當語り ID : a d j a f j G M 3

>>>43

誰がゴリラだつて???

45 : 名無しが適當語り ID : H U T C m b 8 a H

>>>44

言っていないんだよなあ……

46 : 名無しが適當語り ID : L l X 8 r N H b d

>>>44

トレーナーが掛からないで

47 : 名無しが適當語り ID : S 3 f 5 X w p R S

アースちゃんでも良いよね。

三冠を期待された二冠馬と、三冠確実だと言える能力があつた一冠馬。

48 : 名無しが適當語り ID : 9 c u 7 E G L Z T

>>>47

良い……。

49 : 名無しが適當語り ID : z / W v t q C T I

競馬に絶対は無いし、ボタンと並んで欲しいから他の馬は負けろなんて意見は以外で、その2頭の何方かが勝つたら脳みそ焦土化するかもしれん

50：名無しが適当語り ID：K/CvdMMQK

分かる。

でも、俺から言えるのは皆頑張れ〜!!!

怪我には気を付けてな〜!!!

馬、人間がターフから去った後、関係者しか入れない場所で制服を着た女へ、白を基調とした勝負服を着た男が声を掛ける。

「えつと、千鳥洗さんで、合ってますよね？私は小金井斗真と申します」

「ご丁寧にどうも。ウイナーズレディとして並ばせて頂きました、ウマ娘のアセビボタンを担当しています。千鳥洗です」

「すみません、突然話し掛けてしまつて。厳密には違うものとは言え、私にも縁がある名前ですから」

「はい。私もいつかお会いしたいと思つていました」

サラブレッドでは無く、人間。

小金井近江では無く、その息子。

あの時代の日本を盛り上げた存在そのものでは無いけれど、確かに名を受け継いだ新しい1頭一人と1人の縁がこの瞬間に結ばれた。

6月に隠される耳

上質な生地、白で統一された着物は裏地が赤く染められている。金糸がふんだんに使われた鶴や花の刺繍が珍しくも無いが、あまり見る事も無い程に沢山。それでいて華美になり過ぎない絶妙なデザイン性を保っている。

着物を纏う女性の顔は、殆どが綿帽子に隠れていた。

莊嚴な森の中、何千年と歴史が紡がれている建物の前で佇む姿は一言で表すなら正に
 “美”。

木々の隙間から落ちる光と、錦帽子が落とす影、整えられた髪の毛から覗く瞳は藤紫。女性向けファッション誌の1ページ。本来ならば場違いだと言われても仕方無い結婚という結びを主題にした写真。世界に名を轟かせているデザイナーが初めてデザインした白無垢。

A4変型サイズいっぱい載せられた写真は数多くの女性を虜にし、出版社が発したSNSでの広告からいつしか性別、見ている層関係無く広まっていき、雑誌では珍しい重版を重ねる事となる。

しかし、全ての人間、全てのウマ娘から目を奪った写真のモデルの情報は一切無く、プロフィールすら見つからなかった。

数多くの事務所を探しても、業界の人間が是非にと探し回っても髪の毛一本分の情報すら手にする事は無かった。

いつしか件のファッション誌は「伝説」なんて身の丈に合わない呼び方をされ、写真のモデルは社会を巻き込んだ胡蝶の夢となった。

1 : 名無しが適當語り ID : j u 6 b J E r p Y
で、結局あの雑誌のモデルは誰だったの？

2 : 名無しが適當語り ID : I l r t x x l r X
分からない

3 : 名無しが適當語り ID : A O H h z e N V t
永遠の謎

4 : 名無しが適當語り ID : E d N i J 2 1 Z 4

雰囲気としてはウマ娘さんっぽいよね。特別美人Ⅱウマ娘さんって図が勝手にできてるだけなんだけどさ

5 : 名無しが適當語り ID : p F d V w j X 9 Q

>>>4

なんかそれ分かるわ。人間でもうわ美人!! って人沢山いるけど、ウマ娘はそれとはまた違う美しさというか

6 : 名無しが適當語り ID : P f a p X B X M 8

ウマ娘さんでも見つきりそうだけどなー

7 : 名無しが適當語り ID : 6 V P o 4 i P q x

ステルス能力が高過ぎるツピ

8 : 名無しが適當語り ID : a c Z o Y R b R U

マジで誰 i s どころの人

9 : 名無しが適當語り ID : h + W u K j N B y

出版社はモデルについてはダンマリだし、事務所所属しているモデルさんでそれっぽい雰囲気の人はおらんかったし、なんなら事務所側がうちの事務所に!!!してたけど見づからなかったから夢だったのかもしれない

10 : 名無しが適當語り ID : A i t z M G u z p

雑誌の重版がかかる程の夢……???

11 : 名無しが適當語り ID : b D 5 2 V I Q i d

もしかしたら、一般の、モデルとか芸能界とかには何も関係ない子だったりする？

12 : 名無しが適當語り ID : 2 / m 9 J V b o h

>>> 11

それは無いやろ

13 : 名無しが適當語り ID : r P A T I j r R A

>> 11

それこそ一般の子だったら事務所に所属するやろ

14 : 名無しが適當語り ID : C B n 4 R s 2 F c

でも、その子が本当にウマ娘だったら？ウマ娘ってシチーちゃんみたいな例もあるけど、基本的にレースが1番じゃん？

15 : 名無しが適當語り ID : 3 3 E d w f D t 7

そう言われたらそうな気もする

16 : 名無しが適當語り ID : + z K C E d Z j q

ウマ娘だったとして、突然プロの現場にどうも〜！って出来る？

17 : 名無しが適當語り ID : Y j I m g S w z h

それは、あのデザイナーさんだからよ……

18 : 名無しが適當語り ID : o 3 s a V g f n j

そういえば今回の白無垢デザインしたのって……

19：名無しが適當語り ID：iSYQFIU5Y

俄然有り得そうな気がしてきたな

20：名無しが適當語り ID：0E7NmIXLN

あの人突飛な事をする事で有名だからな

21：名無しが適當語り ID：L9frVTdzT

突飛過ぎてTGKでお客さんを引っ張ってランウェイ歩かせたんだもんな……

22：名無しが適當語り ID：x9uqve7G／

まあ、その方が今はパリコレモデルになってるんですけどね

23：名無しが適當語り ID：GOAt2KrvM

ほんとあの人倫理観を犠牲にして才能を見出す目を入れたからな

24 : 名無しが適當語り ID : M A e t C f e r W

じゃあ、あのモデルさんは日本 or 海外の一般ウマ娘さんという事で宜しいですね？

25 : 名無しが適當語り ID : V 8 l A h g 7 u K

>>>25

悲しいけれど意義無し

26 : 名無しが適當語り ID : K q F 4 f h y o e

>>>25

もうそれ以外無いでしょ

27 : 名無しが適當語り ID : I i c w 8 x f h f

いつかまたあの人の写真見たいなく。本当に綺麗だったもんね。

28 : 名無しが適當語り ID : 5 8 c H j N O 4 J

>>>27

それはそう

29 : 名無しが適當語り

I D : 8 0 S q C l 5 W 0

>>>27

めつつつちや分かる

30 : 名無しが適當語り

I D : r i / u V Z D H A

デビューを願って

猫は牡丹の花に集まるらしい

アセビボタンは動物に懐かれやすい。

幼少期から実家で飼っていた犬や猫、小鳥やハムスター等に触れていたからか、元来のアセビボタンが持つ才能か。

トレセン学園という一種の閉鎖空間に身を置くまではアセビボタンが野良猫を惹き付けて、ハーメルンの笛吹きウマ娘をする事で有名だった。

トレセン学園。

数多くの個性豊かなウマ娘が切磋琢磨する日本屈指の学び舎。

時刻は昼の12時、食事をするウマ娘、会話に花を咲かせるウマ娘、休息を取るウマ

娘と様々である。

「……………あれ?」

毛先だけが黒くなった特徴的な芦毛を揺らすアセビボタンは、目の前の通路に1匹の猫が寝転んでいる姿を見つける。

野良猫にしてはヤケに落ち着いていて、毛艶も良い。

誰かの飼った猫かとも思うがトレセン学園の寮はペット可の物件だったか?

それとも、過去にあった鹿や狸に懐かれた時の様な、突如現れたタイプなのか?

ボタンは様々な事を考えて、取り敢えず遠い距離にしゃがみ、手を伸ばす。

「猫さん」

ボタンの声に反応した黒い毛並みの猫は寝転んだ地面からゆっくりと立ち上がり、伸ばした手に擦り寄ってくる。

無意識に自身の尻尾が揺れる事を感じながら、徐々に触れる範囲を広げていく。

そうすれば直ぐに猫はお腹を見せ、ゴロゴロと喉を鳴らす。

「猫さん、猫さん、かいらしいね」

頬が緩むのを自覚しながら、残りの昼休憩一杯までこの場所にと心に決め掛けた所でボタンの耳に突然大きな音が響く。

「はーっはっはっは!!!そこにいるのは紛れも無くプリンセス!!!」

「にゅ!? ……あ、ティエムオペラオーさん」

「この場所ですれ違うのも何かの縁! ……おや? その美しい髪色に隠れている猫は……」

「この子ですか? 多分、野良猫さんだと思っただけです」

「フム。しかしプリンセス、その子はボクの、いやボク達の!!! 探し猫なのさ!!!」

「あつ、そうなんです。どなたかの飼い猫さんですか?」

「理事長のだね!!!」

「りじ……まあまあ、それは」

ボタンが抱き上げた猫は飼い主を心配させている事は気に留めず、腕の中で呑気に今も鳴いている。

「心配させては駄目ですからね」

「ニヤーン」

「あらあら」

「では、プリンセス。差し支えなければボクが理事長室までエスコートをしても?」

「ふふつ、お願いしても良いですか?」

「勿論だよツ! 任せてくれたまえ!」

嬉しそうに動くオペラオーの尻尾を見つめながら、ボタンは可愛らしい子だなあなんて思いながらその背を追う。

何故か呼ばれる様になった「プリンセス」なんて渾名に少しだけ、恥ずかしいなあと
思いながら。

◇馬とウマ、忘れられない鬼籍のヒト。

「アセビさん、ご機嫌は如何かな？」

うん。元気だよ。

つぶらやせんせいはお元気かな？会いに来てくれたのが久しぶりだから、わたしはとっても嬉しいの。

でも、ここはお外じゃ無くてお部屋の中だから騒がない。むかし、それで怒られたからちゃんと覚えたの。

「身体も、もう、白くなってきたね。アセビさんは芦毛だから成長がとても分かり易いよ」

んふふ、そうでしょう？

わたし、素敵なオトナになるんだもの。

わたしをいじめてた子達よりも綺麗でりっぱなオトナになるの。

あつ。つぶらやせんせいの頭もちよつとだけ白いわ。わたしと同じ、お揃いだね。

だけど、つぶらやせんせいは昔とちがって、最近はゴホゴホっしているから心配な

の。わたしの手とせんせいの手は違うから、わたしはせんせいの頭を撫でて「大丈夫」をしてあげる事ができない。

「……心配してくれて有難う、アセビさん。私は大丈夫だよ」

「先生。これ以上はお身体に障ります、もう休みましょう」

「そう、ですね……アセビさん、大丈夫。私は大丈夫だから、ね」

わたしはお返しにせんせいを撫でる事ができない。だから、代わりに精一杯顔を寄せてわたしの元気をつぶらやせんせいとにあげるの。

わたしのお鼻を寄せて「元気になあれ」って、たくさん沢山お願いするの。

カラカラって音を立てながら、つぶらやせんせいが丸いが付いたイスに乗ったまま帰って行く。

わたしはすっごく寂しくなるけれど、また来るねって約束してくれたから、わたしはお利口さんにして待っているの。

早く、つぶらやせんせいが来ないかしら。

せんせいに会えるのがとっても楽しみなんだから。

目覚まし時計の音が聞こえて、強制的に意識を戻される。

身体を起こせばカーテンから漏れる光に照らされる部屋と、歪んだ視界。目に異常でも起きたのかとそつと両手で触れてみれば、漸く私が泣いていた事に気付く。

幸せな、夢を見ていた気がする。

幸せで、ずっとずっと続けば良いなど願った日常を見ていた気がする。

それなのに何も思い出せない。

私の他に誰かがいた。

きつと大切な人の筈なのだ。

なのに、顔も声も思い出せない。

心の底から大好きで、大切な誰か。

「……………もう一度、会いたかった」

無意識に零れ落ちた言葉の矛先は誰なのか。

この、形容し難い小さな悲しさはどうすれば良いのか。

「先生が生きていたら、教えて、くれたのかな」

朝から心の中に生まれる違和感を抱えて学園に行く準備を進めていけば、その途中にカレンダーが目に入る。

ああ、そうか。今日は父の日なのか。

久し振りに先生に会いに行こうかな。先生なら、私の知らないこの気持ちの答えを教えてください。

そうだね。きつと、それが良い。

沢山の透百合を持って、会いに行こう。

少し昔の思い出と決意する心

「ローカルシリーズの上半期ダートチャンピオン決定戦帝王賞！残り500メートルを切ったが先頭はまだ逃げる！後続に3バ身のリード付けているが差が縮まらないッ！」
トウインクル・シリーズとは違い、平日の午後から開催され、ナイターと呼ばれる夜にもレースが開催されているローカルシリーズ。

その中で特に位の高いJpnI、帝王賞。このレースはローカルシリーズの子も、トウインクル・シリーズの子も等しくレースに出走する交流戦。しかし、歴史としては矢張りと言うべきかトウインクル・シリーズに所属している子の方が優勝率も、レース結果の総合的な順位としても高い。

だが、今日は違う。

ウマ娘の中でも特に特徴的な、緑の髪を揺らして後続を寄せ付けずに只一人。先頭を走る少女。

海を越え、九州の地からこの東京の地にやって来た俺の、幼馴染。

俺が地元から上京してしまった事もあって久しく姿を見ていなかったが、記憶にある

ちんちくりんな姿とは打って変わって、見た目も技術も立派になっている。

「そのまま逃げろ、走れ、トウカーナエ」

きつと、周りに掻き消されて聞こえない応援を必死に送る。

レースの終わりに比例して歓声が一段と大きくなる。

【独走状態で今ゴールインッ！後続にこれだけの差を付けて5年振りにローカルシリーズ所属のウマ娘が1着！サガトレセン学園所属のトウカーナエが優勝です！トウインクル・シリーズにも負けない輝きを示しました！】

トウカーナエがゴール板を追い越した場所で笑いながら観客へと手を振っている。此方は久し振りのローカルシリーズ所属のウマ娘が優勝ともあって興奮冷めやらぬといった感じで、暫く次に進みそうもない。

記念と思いい一枚だけ幼馴染の写真を撮って、俺は優勝インタビューまで待たずにレース場を後にする。

明日もまた、朝が早いから。

数多くのカメラに囲まれて、大きな照明に照らされる砂の前に勝負服を身に纏い、肩から優勝タイトルの刺繍されたレイを掛けたまるで沖繩の海のような髪色をしたウマ娘がマイクを向けられる。

「それでは、帝王賞を優勝されたトウカーナエさんへインタビューを行います。まずは、率直に今のお気持ちを願います！」

誰もが一人の少女を祝福する中、緊張した面持ちでその口を開く。

「あの、まだ………実感が湧かなくて………えつ、と、まさか、帝王賞に勝つとは、思うとらん、やった。」

ばってん、うちば指導してくれたトレナーさん………応援してくるつ皆さんへ、立派な姿ば見せらるつごと必死に走った。

………ダートン、頂上決戦と名高かこん名誉ば手にすつ事ができてほんなこつ嬉しか！

あいがとう御座った！よか夢ん見れそうばい！」

ローカルシリーズ所属のウマ娘特有の言葉使い。

時にそれは難解で、理解に苦しむ事になるのだが、トウカーナエの発する言葉は分かり易い。

たつぷりと時間を掛けて、訛りを織り交ぜて言葉を言い終わった再び惜しみの無い賛辞が送られる。

そして、少女は漸く、緊張を解して大輪の笑顔を咲かせたのだった。

空の川を眺めていた

七月七日、織姫と彦星が1年に1度、唯一顔を合わせる事が出来るとされている日。街は瑞々しい笹で彩られ、トレセン学園にも大きな笹が飾られた。

深い緑を飾り立てる色取り取りの長方形に込められた願い。

“脚が速くなりますように”

“怪我が早く治りますように”

“これからも健康に過ごせます様に”

“あの子に勝つ!!!”

“G1獲る！絶対獲る！”

人それぞれ、何百もの願い。

今頃は煙に乗って空に届けられているのか、はたまた水に乗って未来へ進んでいくのかは分からないけれど、私は強欲だから、全ての願いが叶います様にと願ってしまふ。

「チカラちゃんはお願い事書いた？」

「シー？うん。書いたよー何書いたかはヒミツだけどね」

「ええ？そう言われたら気になるなあ」

【ダメだよ。お願い事言ったら叶わなくなるって言うじゃん？ボンちゃんが教えてくれるなら、言ってもいいけど】

「ふふつ、私も嫌だよ」

【デシヨ？】

たつた1日しか飾られていなかったにも関わらず、強烈な存在感を放っていた笹がなくなつた広場の真ん中でチカラちゃんと笑い合う。

一体、チカラちゃんはどうなお願いをしたのだろうか。

〃長生き〃

〃お金持ち〃

〃世界一〃

〃恐竜になりたい〃

チカラちゃん性格を考えるのならば、こんな感じか、少し前に恐竜になりたいって言っていたし、真面目にそう書いてそれで面白い。

「あつ、もう少しで授業始まるから、そろそろ切るね」

【あいー。午後もガンバツテね、かましていけ〜！100回手上げてこい】

「100回は無理だけど、沢山頑張るよ」

【オー！】

もう慣れたやり方で通話を切って、身体を伸ばす。

教室に戻ろうと、携帯をポケットに仕舞って見慣れた影を見つける。

「トレーナーさん、こんにちは」

「……ボタンか。こんにちは」

「まだ数時間後の話ですけど、今日もトレーニング宜しくお願いしますね！」

「任せとけ」

「あっ！トレーナーさんは、七夕にお願いしましたか？」

「え？ああ、七夕か……七夕ね……残念な事に、この歳になると、イベントに疎くてなあ」

「何を言いますか。まだお若いのに」

「お若いって言っても、四捨五入して三十路はもうな」

「そんなもんですか？」

「そんなもんなんだよ」

ふーん。なんて、相槌を打ったら、狙いすましたかの様に予鈴がなる。後5分で午後
の授業が始まる。

トレーナーさんとの会話を切り上げて、私は怒られない程度に廊下を走る。

階段を登って、自分の席に着き、教科書を机に乗せる。

「あっ」

偶然視界に映った世界の遠くで、一筋の煙が見える。
野焼きか、それとも、願いを込めた帝の想いか。

口にしようが我が愛はいない

「あれ？こんな所でどうされましたか。もしかして、体調が優れませんか？」

「ん……ああ、嫌。違うよ。只、息がしたくてね」

「息ですか？……矢張り、喘息の症状でも……」

「そうじゃ無いんですよ。本当に、この場所で呼吸したいだけ、今日は破滅する気持ちでも無いから」

「？不思議な方」

「そうかな。そういえば、君は夢に身を寄せなくて良いのかい？」

「夢。私は今日、夢を見る日では無いので」

「そう」

騒がしいレース場。それも大きなレースが始まる瞬間の、沢山の目が一点を見つめる微かな時間に世界で2人だけが誰もいない空虚に隣り合わせて存在している。

1人はスーツを着た男。1人は頭の上に耳を生やした女。

2人にまともな音は無く、少し時間を隔てた喝采の様な盛り上がりも無い。

「お兄さん。レースはお好きなんですか？」

「お兄さんと呼ばれる歳でもないんだけどね、まあ、好きなんじゃないかな」

「そうですか。あつ、私の顔は知ってます？」

「知らないよ。僕は馬の顔しか知らないから」

「ウマの顔……やっぱり不思議。貴方と話していると、なんだか自分が特異な存在だと

勘違いしそうになります……お兄さん、好きなウマ娘はいるんですか？」

「ウマ……馬か。僕が好きなのは雷神様だったけれど、このセカイにはいないんだ」

「いない？まだデビュー前？それとも引退された方？」

「君が気にするものでも無いさ……そうだね、あの、ミスターシービー。その名前には注

目しているよ。今度は最後まで見れると良いんですけどね」

「そうですか。それは良かった」

「良かった？」

「ええ。お兄さんに趣味があった、それだけで我々が生きる意義が生まれる。ノンフィ

クションを届ける意味がある。お兄さんに趣味が無かったら、それこそ百鬼夜行の様

に、沢山の人を不気味に演技させる様な雰囲気があるから」

「それはもう、してしまっただかもしれないね」

「……なんだそれ」

1人の女はクフクフと笑う。

1人の男は笑いたく無いとばかりにぎこちなく顔を歪める。

2人の耳の奥に薄い歓声が響く。

男はそれを聞き届けると、壁に貼り付けた背を剥がす。

きつともう帰るのだろうかと察した女がその背中に声を届ける。

「また、遊びに来て下さいね……！」

「うん。また来るよ」

「今度は人が沢山いる中で、栈敷にでも座って、悲喜交交を夢に見に来て下さい」

「どうか……競馬、レースには、栈敷があるかな」

「無ければ作って頂戴な！」

「無責任だね」

「貴方だって、無責任にウマ娘を応援するのですから、お互い様ですよ」

「それも、そうだね」

男は静かに歩いて消えて行く。

先程まで静かだと感じていた世界から目を覚ますと、案外自分が五月蠅い世界にいたのだと女は気付く。

「あの！サイン貰えませんか！」

なんて、小さな小さな女の子が身体と同等の色紙を差し出して、女は笑顔でそれを受け取る。

手に収まる様な小さな色紙に名前を書いて、今更気付く。

「あの人の名前、聞き忘れちゃった」

まるで、文学青年らしい真面目そうな風体を成していた男の人。

少し恥ずかしがり屋そうな独特な近寄り難さを身に纏うヒト。

ヒトの子は昔の失恋を引き摺らない

私は今は引越して東京に住んでいますけど、幼少期は別の県、別の土地に住んでいました。

そこは田舎過ぎる事も無く、地方都市と呼んで差し支えないだろうなあ？といった風の土地で、バスもあればコンビニもあり、スーパー、ドラッグストアも一通り揃っている便利な場所でした。

だけど都市部では無いので、家の周りには畑があつて竹林があつて、森がありました。森は幼少期の私にとって、格好の遊び場です。

ある夏の日、危ないからと大きな水筒を持たされて、2時間経ったら帰りなさいと親心からの制限がキツくなっていた日。

私は、神様に出会いました。

信じられないのは当たり前で、私だつて今でもあれは夢だったんじゃないのかつて思

う事もあります。

でも、あの日の風景が目には焼き付いて離れないんです。

私の住む場所の近くには1つの神社があります。

神主さんもない様な、名義上管理する人がいる程度の小さな神社で私は生まれてからあの日まで気にした事も無かった場所です。

私が遊んでいたあの日、休憩しようと思つて偶々日陰になっていた神社へ行きました。

お母さんから持たされた水筒に口を付けて次は何をしようか考えている時に、真つ白い神様がいたんです。

神様は美しい声で「何をしているの」つて聞いてきました。

私が「遊んでいるの」つて返したら、「気を付けなさい」つて頭を撫でてくれたんです。一緒にいたのはほんの数分だけだったんですけど、本当に綺麗で、優しい神様でした。

私、久し振りに神様に会えました。

今回は一対一では無く、私が一方的に見つけただけ。

神様はウマ娘の神様でした。

暇だからと付けたテレビの中で中継されていたウマ娘のレース。

そこに、神様がいました。

昔と何一つ変わらない美しい髪に、二つの瞳。

着ているものは違いましたが、間違い無く私が出会った神様です。

神様はゲートに入っても静かで、ただ前だけを見つめていました。

ゲートが開いて、神様が走り出します。

神様は我々の心配なんて気にも止めずスツと前に出て、そのまま涼しい顔のまま後ろ

に何十メートルと差を付けてゴールをしてしまいました。

神様は美しく、強いウマ娘の神様でした。

でも、最近、神様は死んでしまいました。

あの日から半年以上経って、また、神様に会いたくなりレース映像を見ました。

その中にいた神様は昔の様な静かな雰囲気は無くなって、応援する観客に手を振って

います。

「神様は、ただのウマ娘になってしまった」

私はそう、理解しました。

そうなのだと理解してしまいました。

「もう……会えないんだ……」

私の神様は、いなくなってしまうました。

あの刃の様な冷たさを纏った静かなウマ娘は、ヒトの世に降りて来てしまったのです。

◇死人に梔子、

1頭の馬が隣に立つもう1頭へ鼻を寄せる。馬特有の挨拶の仕方。それだけならば特に珍しい光景でも無いが、鼻を寄せにいった馬は大の「馬嫌い」だと言われていた。

馬に乗る騎手、小金井近江はそれを見て思わず珍しいと口にした。

「どうしました?」

「ああ、いや。こうしてボタンが挨拶をするなんて珍しいなど」

「内気な性格なんですか?」

「そうでは無くて、生まれ育った牧場で周りと馴染めなかつた様で馬よりも、人に懐くんです」

「へえ。だったら、この光景は珍しいですね」

「全くです」

“もしかしたら、一目惚れかもしれませぬね。”

馬に乗る人間は笑う。

これから一世一代の勝負が始まるというのに、馬達の可愛らしい「もしも」に話が弾

む。

1951年6月3日、東京優駿競走（日本ダービー）。

どこまでも駆けて行ってしまった幻と、どこまでも人と歩む事を選んだ華。

アセビボタンのジョッキーが語った昭和から始まる恋物語の行方は、令和となった今でも答えは出ていない。

1：名無しが適當語り ID：WM3cxASr0

【超超朗報】謎多き馬？のアセビボタンに纏わる話が出てきた模様

https://

2：名無しが適當語り ID：OEO nX5I b B

お勞しい

3 : 名無しが適當語り ID : eTq+06E5B
え? お辛い話だったんだが???

4 : 名無しが適當語り ID : 3 / NR4miQ1
もう単純にたづボタてえてえとか言つてられない……

5 : 名無しが適當語り ID : acwHN1 / qW
馬の気持ちなんて完璧に分からないけど、これがもし本当なら悲恋どころの騒ぎじゃない

6 : 名無しが適當語り ID : 8k011kzv6
ボタンの話って事は円谷先生の文字だと思っただけで最後の一文がとても辛い

7 : 名無しが適當語り ID : Nqn4CeU3P
言い換えれば娘の恋を全力で応援しようとした瞬間にお相手の男性が急逝してしまつたって事だもんな

8 : 名無しが適當語り ID : / e C + l X I R 3

>>> 7

こうするとあまりにも救いが無い

9 : 名無しが適當語り ID : 9 H Y M i b c V +

円谷先生ちよつと掛かつてはいるけど、もし現実なら凄い綺麗な名前で想いも込められて生まれた子供がいる筈だったのか

10 : 名無しが適當語り ID : 6 n X 5 T j q Q G

スズナちゃんや長男じゃ無くて次男だった可能性か

11 : 名無しが適當語り ID : F / e E p K 5 n k

質感的に鉛筆だと思っただけど、消しゴムじゃ無くて線で消してるのがリアル感あつて無理。泣く。

12 : 名無しが適當語り ID : S Z Q z X V p Y L

ごめん。流れ切ってしまうんだけど、円谷先生の新情報とか今回も含めて高垣さんサイドから出る事が多いけど、円谷先生の親族の方は馬にはもう関係してないの？

13：名無しが適当語り ID：76XL5bUpK

円谷巽先生が亡くなって、馬主を高垣さんが引き継いでからは正直音沙汰は無いかな

14：名無しが適当語り ID：DNcecjTkg

高垣さんの親族もとい牧場アカウントがTwitterで公開しているから、円谷家との関係は切れてないから高垣さんが昔みたいにやらへん？すればまあ、って感じ

15：名無しが適当語り ID：yGRjDB2Ev

円谷先生のお家、資産的には馬主資格は取れるから天地ひっくり返ればね

16：名無しが適当語り ID：JGTyDhwaN

円谷一族、企業としての情報はあんだけどパーソナルな情報は全く出てこないのまぼろしのポケモン感ある

17 : 名無しが適當語り ID : rHzmU5mCd

アセビボタンの新情報が出る横で円谷一族の謎が深まるのオモロ

18 : 名無しが適當語り ID : w5h7cP2rQ

マジで情報「無」だからな

19 : 名無しが適當語り ID : bP0V7FgND

でも牧場のTwitter的にはアセビの馬応援してたり、遊びに来てくれるらしいけど

20 : 名無しが適當語り ID : 4/OwarFUX

巽先生ちよつとTwitterかブログやらん？

21 : 名無しが適當語り ID : o4Q5T8VIJ

蘇らすな

22 : 名無しが適當語り ID : 06mcxKNlk

円谷先生蘇らせるならボタンとミノルも蘇らせろ

23 : 名無しが適當語り ID : 80Xs7wKfq
 それだとトキノミノルが1人と1頭になっちまうよ

24 : 名無しが適當語り ID : Q0nKFHOjP
 ん?

25 : 名無しが適當語り ID : VzUPVtsU3
 >>25
 1人……?>

26 : 名無しが適當語り ID : OkgIC3AY6
 >>25
 おや?>

27 : 名無しが適當語り ID : m8DHSsAOv

もう言い逃れは出来ない程に証拠は揃ってるけどな

28 : 名無しが適當語り ID : I / a V 7 I v 5 l

蘇つたらどっちにしろボタンの気持ち知れて皆ハッピーでは？

29 : 名無しが適當語り ID : 6 b C O q p S G y

知らない方が美しい事もあるだろ

30 : 名無しが適當語り ID : T 8 s 3 T J y / H

>>28

もしかしたら本当に偶々挨拶しただけかもしれない……

こうして外野が勝手に気づいているくらいが丁度ええよ

「お早う御座います、たづなさん」

「さん、ですか？」

「お早う御座います、たづな」

「はい！お早う御座います、ボタンっ！」

ようこそ。

「ご機嫌よう」

「ご機嫌よう、ボタン」

トレーナーの様な見た目の男性と他にも沢山のスタッフを連れて彼女と、トレーナーさんと2人きりの私。

ビデオ電話を除いたら実際に顔を合わせるのは2回目になる。

「良い、レースにしましょうね」

「全力でお相手させて頂きます。ハイクレアさん」

金糸をふんだんに使った美しい装飾、紫と赤のコントラスト。並び立つだけでその差が歴然と分かってしまう存在。

でも、勝負の舞台で負けるつもりなんて無い。

そこにどんな身分の差や能力の差があろうとも、私は全力でぶつかるのみ。

I s t a n d b y

ゲートに入り、呼吸を落ち着かせる。

今日は私を除いて出走人数は9人。

10人目がゲートインを終えた音。

集中し、目の前が開けた瞬間に勢い良く飛び出す。

They're off the ten Superstars!

踏み出し、走り出して直ぐに横目に映る地面の起伏を分かり易く伝えてくる柵。

勢いを少しだけ落ち着かせ、自分の位置を陣取らせて貰う。

日本のバ場で海外のウマ娘が上手く走れない様に、私はこのバ場を上手く走れない。今だってたった数百メートルを走ったくらいなのに息が上がりそうになっている。

I Group 1 Juddmonte International has passed about three furlongs from the start, but Britain's Highclere is leading the pack! Japan's Asahi Botanis behind!

目の前を美しい勝負服のハイクレアさんが走っていて、私はその後ろ。綺麗に並んで3人程の集団でその背中を見つめている。

恐らく2バ身も無い様な差。

それでも、走り慣れていない私にとっては今直ぐにでも埋めてしまいたい程の10バ

身にも感じられる差。

今一度、視線を動かして距離を確認する。

トレーナーさんと事前に研究したレース場で覚えた風景から考えて1000メートルは通過している。

ここからが正念場。

本当に怖い、適正の壁と莫大な経験との戦いだ。

With five furlongs to go, the horse girls in the back of the field are gradually starting to advance their legs! Come on! It's now the moment of truth!

日本のレースでも苦手な蹄鉄を踏み込む音が鮮明に頭に響く、少しだけ心がザワザワとして思わず脚を進めそうになるが、理性で必死に押さえ付ける。

まだ動かない、もう少しだけ、あと、ほんの少しだけ。

Come on! The lead Highclere has gone for the last spurt!

ハイクレアさんだけが1人、最後の直線に入る。

私も遅れて、並んでいた2人のウマ娘さんと後方から追い上げて来たウマ娘さんに追

い抜かされて、漸く直線に入る。

「……………」

牡丹色の花卉が視界に舞う。

電撃が走る様に身体が震え、蹄鉄を踏み込む脚に力が湧く。

世界に今、色は要らない。

今いるのは、あの背中を追い越せる力と、狙いとなる輝く金糸の色だけ。

「さあ！勝負をしましょう!!」

「ええ！ワタシを捕まえてみて!!」

日本では味わえない。一世一代の大勝負。

私、凸凹の地面を走るの得意なんです！

俺の担当するウマ娘は、イギリスの地面を踏みながら得意げにそう言った。

「どうしてだ?」

心の底から出た疑問を投げ掛ければ、担当であるアセビボタンは自分の思い出をポツリ

ポツリと話し始める。

「実家が山の近くで、昔からよく山で遊んでいたんです。山道つて自分でも驚く程に凸凹で、歩き辛くて、後は」

日本だけど、今よりもずっと完璧でない様なターフの上を走っていた。

「そっちは夢ですけどね」

頬を掻きながら、照れた様に見てこれが世に言う「ウマソウル」なのだなんて考える。

例え夢だろうが、例え現実で無かろうが、イギリスのバ場に対応出来るのなら願ったり叶ったりで、こちらにも指導に力が入る。

「大丈夫だよ、ボタン。君の凸凹を走る力は、本物だ」

俺の目の前をバ場の違いをもろともせずにはスピードを上げて行くボタンの姿。

そもそもの話、彼女はとても頭が良い。どんなレースでも、どんなバ場でも一度走れば覚えてしまう。ウマ娘にとって、チートに似た性質を持っている。

「君は、このレースで一番完璧なんだ」

その身体と記憶に刻まれた力があれば、君は最強だ。

アセビボタンならばきつとヨーロッパの最高峰と渡り合える。

1人、2人、3人を抜かす。

目の前にはあと2人。

でも、それでも、距離が足りない。

せめてあと100……いや、50でも残ってれば彼女の背に追い付くのに。

駄目だ、足りない。

Highclere wins Juddmonte International
 1! And in second place was Asebi Botan
 from Japan!

ゴールした瞬間にがむしゃらに走った分のツケが回ってくる。先月、エクリプスステークスを走ったよりも段違いな疲労と、身体中の痛みで顔を顰める。

歓声もお互いを称え合う声も聞こえない。

そんな世界の中で唯一耳に入った音。

「ボタン。世界の壁、まだ高いでしょ？」

ほんの少し滑舌の甘さがある流暢な日本語。

目線を上げれば息が切れた程度、私とは正反対な様子のハイクレアさんの姿。
何度が深く呼吸をして、途切れ途切れに声を絞り出す。

「ええ……ほん、と、に」

「でも！本当に怖かった！……有難う。ワタシと走ってくれて、なんだか過去の自分を超えた様なの!!……愛しているわボタン！」

途端、私の身体は彼女の勝負服に包まれる。

背中に回された両手。私も今だけなら許されるのだろうと思って、その腰に、両手を回す。

「わ、私もです……ハイクレアさん……それにしても、疲れました」

「ふふっ！明日はワタシと一緒にベッドでゴロゴロ、ね！」

「それはなんとまあ、素晴らしい提案です」

悔しさの味と、微笑みの暖かさ。

次に来る時は、リベンジを。

I f

I f のプロフィール

「アタシの事、ちゃん付けしたら許さナイからな。」

A s e b i S u z u n a

アセビスズナ

誕生日：4月24日

身長：163cm

体重：筋肉量が少し増えた

スリーサイズ：B85 W62 H88

口調が少し荒く、一見するとヤンキーと間違われるウマ娘。

先輩や後輩にも態度を変えずそのまま接する為、とことん嫌われるか、とことん気に入られるかの2択になり易い。

しかし、レースで負けると徹夜をしてでも反省会をするなど猪突猛進な所がある。

口には出さないが、とあるレースを勝ちたいと思っている。

耳飾りは「右」

鈴蘭の様な形をした髪飾り。

右耳にオペラオーと同じピアスタイプの黄色い花の耳飾り。

〔継承〕

アセビスズナ

芝B ダB

短D マC 中A 長B

逃C 先B 差A 追B

「その背中を追い掛けて」

最終コーナーに差し掛かるタイミングで後ろの方にいると、周りを牽制してプレッシャーを与え速度を落とし、代わりに自分が速度を上げる。

固有二つ名

〔繋がれる絆〕

5つのクラシックレースから3つを勝利する。その際、必ず日本ダービーを勝利する。育成終了までにファン数を50万人以上獲得する。

アセビズズナのヒミツ①

「実は、お祝い事やイベントには積極的に参加したいタイプ。」

アセビズズナのヒミツ②

「実は、出掛ける時は1人より複数人いた方が楽しいと思っている。」

「ルーちゃんの最速。見ていてね。」

A s e b i L u p i n u s

アセビルピナス

誕生日：4月1日

身長：168cm

体重：洗練されている

スリーサイズ：B84 W64 H86

短距離レースなら、誰にも負けないと自負できる生粋のスプリンター。

見た目に似合わず脳筋な部分があり、レースにおいて作戦を守られる事はあまり無

い。

尊敬する相手であるアセビボタンが付けた「ルーちゃん」という渾名を気に入っている。

耳飾りは「右」

本体はシルバーで、真ん中にライムグリーンの宝石が嵌め込まれたシンプルなデザインのリング。

「音速、光速」

アセビルピナス

芝 A ダ D

短 A マ C 中 E 長 G

逃 A 先 C 差 F 追 G

「これがルーちゃんの走り方」

レースで終始前の方を走っていたら、勢いが付いて脚が速くなる。大逃げをしているともっと勢いが付く。

固有二つ名

「間延びした最速娘」

目標レースを含めて育成終了までに20戦以上の短距離レースに出走する。ファン数を40万人以上にする。

アセビルピナスのヒミツ①

「実は、せっかちだけどご飯はゆっくり食べる。」

アセビルピナスのヒミツ②

「実は、猫舌。」

「うらはのんびりと。ながい、ながーい道を歩くウマ娘。」

Asebi Road

アセビロード

誕生日：3月21日

身長：165cm

体重：こう見えて増減なし

スリーサイズ：B 87 W 61 H 89

常に眠そうな、何処か心ここに在らずといった雰囲気ウマ娘。

そのふわふわとした様子からは想像もつかない程のスタミナ娘。

体力が有り余っているので、辞め時を教えないと1日中走っている事もザラにある。

耳飾りは「右」

右耳にのみ黒い耳カバーを付け、付け根の所から鎖の様なチェーンが下がっている。

「彼方まで届く脚」

アセビロード

芝A ダC

短G マG 中C 長A

逃E 先D 差C 追A

「見つけた道筋」

レース終盤までにスキルを5つ以上発動し、出遅れをしておらず、レース中に掛かっ
ていなかったらとてつもない末脚を発揮できる。

固有二つ名

「未来を見つめて」

長距離の重賞レースへ5回以上出走し、勝利する。ステイヤーズステークスを2回勝利する。育成終了までに根岸ステークスを1回勝利する。

アセビロードのヒミツ①

「実は、1人称は人から移ったもの。」

アセビロードのヒミツ②

「実は、実はハードル走が学園1と噂されている。」

「吾が走った旅の成果は、世界へと」

A s e b i T s u b a k i

アセビツバキ

誕生日：6月18日

身長：171cm

体重：良いバランス

スリーサイズ：B90 W63 H83

何故か1人称だけが古臭いウマ娘。

包容量が高く、お姉さんになっている事が多い。

レースぶりはあと1歩という部分が多く、勝ち星自体は多くない。

しかし、いつの日かこの脚が世界に届くと信じている。

耳飾りは「左」

両耳に黒い耳カバーと赤いリボン。

左の耳カバーにのみ、白い椿模様がいっている。

「日の出を背負って」

アセビツバキ

芝B ダD

短C マB 中A 長E

逃C 先A 差E 追F

「Ever↓V」

作戦を「先行」でレースに出走し、レース中先頭から5番目までに着いていると周り

のスタミナを奪いプレッシャーを与え、自分のスタミナを回復する。

固有二つ名

「旅の末に咲く」

アネモネステークス、スイートピーステークス、紫苑ステークスに勝利する。育成終了時までにはファン数を75万人以上にする。

アセビツバキのヒミツ①

「実は、時差ボケはあんまりしない。」

アセビツバキのヒミツ②

「実は、世界の水質とお土産屋さんに詳しい。」

「成長中。いいえ、歩き始めたばかりです！」

A s e b i K ō r o

アセビコウロ

誕生日：2月2日

身長：158cm

体重：まだまだ成長中

スリーサイズ：B80 W60 H85

まだまだ成長途中なウマ娘。

レースにしても、勉強にしても甘い所があり、結果が振るわない事もしばしば……。しかし、憧れのウマ娘達に近づけるよう毎日のトレーニングは欠かす事が無い。

耳飾りは「右」

包装用にも見える簡素なりボンを下手な蝶々結びで飾っている。

「歩き始めたばかりの君」

アセビコウロ

芝C ダB

短C マD 中F 長G

逃D 先C 差B 追F

「いつか勝利を彩って」

最後の直線に入り、残り400メートルになると背中を押してくれた皆の応援を思い

出し、速度が上がる。

固有二つ名

〔初めての栄誉〕

育成終了までに目標レースを含め、合計20以上のレースに出走する。その中でG3のレースを1回勝利し、ファン数を20万人以上にする。

アセビコウロのヒミツ①

〔実は、初対面の人からも可愛がられる事が多い。〕

アセビコウロのヒミツ②

〔実は、時々憧れの人を真似た私服を着ている。〕

アセビボタン、トレセン学園にて

「……ばい……先輩！」

教科書を脇に抱えてトレレーニングや、レースの事を考えながら特別教室へと向かっていけば、突然肩を掴まれて思わず身体が跳ねる。

首を左右に動かして、相手を確認すれば後輩であるスーちゃんが焦った様に私の顔を見つめている。

「スーちゃん？どうしたの？」

「どうしたのって、先輩コレ落としやがったから追っ掛けて来たのに、呼んでもハンノーしねえから！後、スーちゃん呼ぶな！」

「そうだったんだ。ごめんね、トレレーニングの事とか考えてて……有難う。助かった。スーちゃんは偉いね」

「だからア！」

私から少しだけ下の目線にいるスーちゃん、アセビスズナが、可愛らしいほっぺを膨らませて地面を軽い力でトントンと不躰な地団駄を踏んだ。

駄目だよと言いながら、頭を撫でれば「撫でんな！」なんて口では言いながらも可愛らしい2つの耳が横へと向いた。

「次からは気をつけるね」

「アア、気を付けんの」

「……じゃあ、私は移動だから。スーちゃんもサボらない様にね」

「ン」

名残惜しいけれど、スーちゃんの頭から出を退けて目的の教室へ別々の方向へ脚を向ける。

それにしても、スーちゃんは相変わらず丁寧な口調では無いけれど、優しい子だな。

「……ア!!アタシの事またスーちゃんって呼んだ!!」

1 : 名無しが適当語り ID : G w l F v P s t P

オイオイオイ、スズナちゃん可愛いやんけ!!!

2 : 名無しが適当語り ID : V 3 t p C Q o 3 s

アセビズナ可愛い概念は幻覚じゃ無かつたんや!

3 : 名無しが適当語り ID : K h + z z g m u y

牧場さんもとい、現馬主さん本当に有難う……有難う……

4 : 名無しが適当語り ID : 5uRHZUXK5

スズナちゃんが実装されたって事は、これからはボタンちゃんが動かし易くなるって事でFA?

5 : 名無しが適当語り ID : RvbRMsB0d

>>4

やったー!!!

6 : 名無しが適当語り ID : dFoGAni5

>>4

待ってたんだ、この時をよオ

7 : 名無しが適当語り ID : FVg96iHc5

お姉さんしてるアセビボタン、良い。

8 : 名無しが適当語り ID : KdakuI9M

>>7

滅茶苦茶良い

9 : 名無しが適当語り ID : VCRIGEDOp

>>7

堪らん

10 : 名無しが適當語り ID : 8 z + x E P c k c

ストーリーも可愛いですけど!!あの!!固有の2つ名とか!!

11 : 名無しが適當語り ID : Q q A j J T v j l

ボタンの方が馬主さんに寄せてたのに対して、スズナはアセビの血を残すつて所に寄せてきたな

12 : 名無しが適當語り ID : U B P C R X l O w

継承、背を追い掛ける、繋ぐ

13 : 名無しが適當語り ID : I B K Y N 5 e N Z

なんだこの

14 : 名無しが適當語り ID : R o R S 7 M U o t

流石アセビの血やで

15 : 名無しが適當語り ID : g J M M M t b I T

にしても可愛い

16 : 名無しが適當語り ID : / 8 w O 7 J z + J

可愛い

17 : 名無しが適當語り ID : F V d K V P y E 3

身長はお姉ちゃんの方が高くて、体付きは

18 : 名無しが適当語り ID : b H i + R r u 4 M

>>17

辞めないか!!!

19 : 名無しが適当語り ID : l L V i P E Q m i

>>17

屋上

20 : 名無しが適当語り ID : m U I x x 4 b 7 l

>>20

死に方だけは選ばせてやる

21 : 名無しが適当語り ID : 4 t a o 2 v I U z

ボタンが俺の見た事の無い顔してた

22 : 名無しが適当語り ID : K e 2 Y w 9 z 3 S

>>21

そりやするやろ。お前と違って実の息子なんやから。

23 : 名無しが適当語り ID : s k 9 S e 3 Z c X

>>22

マジレス辞めて下さい泣いてしまいます。

24 : 名無しが適当語り ID : D a k K e f H K a

スズナちゃん、あんなにツンツンしてる割にはお出掛けは1人じゃ嫌なタイプなんだ
 へー、ふーん。

25 : 名無しが適当語り ID : A b X X / O M 2 m

>>>24

てえてえ

26 : 名無しが適当語り ID : J 2 E d 8 l x 6 p

>>>24

これはツンデレ

27 : 名無しが適当語り ID : O S Y x d a / C 5

>>>24

本当に牡馬か???

28 : 名無しが適当語り ID : d o B d Z Q w 9 h

>>>27

耳飾りの位置間違ってるよなあ!?!?

29 : 名無しが適当語り ID : b O W z w z C R K

アセビスズナ（全25戦6―7―4―8）

30：名無しが適当語り ID：c j 0 j W Y / i a

>>30

なんだこの可愛くない成績
!?!?!?

アセビボタン：いつか見る栄光

私はいつも同じ夢を見る。

それは、一人の女の^{ウマ娘}子を追いつける夢。

だけどその夢は毎回私が負けて目が覚める。一応、ゴール板を同時に通過した様な気になった時が一番あの子に迫れた夢。

物心がついた時には見ていた様に思うその夢は、皐月の季節に近付くと見る頻度が増える。

何故、この時期なのかずっと気になってはいたけれど、きつと大きいレースに世間が盛り上がっているから私もそれに触発されるのだろう。

今年は、私もそのレースに出走する事が決まっている。

グレードの最上位に位置する名誉。

「夢の所為で調子を落とさなければ良いけれど……」

鹿毛色の髪の毛がキラキラと太陽の光を反射して輝いて、緑と黒のコントラストが特徴的な衣装を見に纏い、私の先を行くあの子。

顔を見た事は1度も無く、後ろ姿だけを私は見つめている。

能力も走り方も違うあの子と同じなのは、耳と尻尾がある事くらい。

きつと、私の前世は同じ馬^{ママ}なのだろう。それも、あの子とライバルか負けた事がある様な、そんな存在^馬。

名前も顔も分からない彼女を”あの子”なんて勝手に呼んで、只の夢に悔しさを感じながらここまで来た。

それでも、私がどれだけ練習を重ねて昔より何倍も脚が早くなった今でも追い付ける気がしない。

「……でも、今日は違う」

レース前の控え室で解けない様にと耳飾りのリボンを結び直して、集中できる様にと靴紐をキツく結ぶ。

今日は1年間で開催されるレースの中でも特に注目されるレースで、この部屋までお客さんの声が届いてくる。

珍しく緊張をしているし、あの子に勝ちたいという気持ちで身体が震える。

私は、きつと変わった。

昔の様に1人であるの子を目指さなくなった。

人の力を借りる有難さ、心強さを知った。

気付いていなかった沢山の気持ちと、知識を貰った。

沢山、沢山支えて貰った。

ベチンと両頬を叩く。

「………… 大丈夫そうか？」

「はい。もう、大丈夫です」

「よしッ！じゃあ、俺からは1つ………… 楽しんでこい、アセビボタン」

「ええ。楽しんできます、トレーナーさん」

【東京競馬場最後の直線！どのウマ娘が仕掛けるのか！先頭は未だビアンコグリモアが走ります!!リードは3バ身ッ！】

やっぱり、早いなあ。

何バ身か離れた先に栗毛の髪が輝いている。

東京競馬場、日本ダービー。ラストの約526米。

お客さんの興奮も最骨頂で、私達が最も全力を出す所。

脚は？

まだ大丈夫。

呼吸は？

教えられた通りに出来ている。

気持ちは？

絶対に、負けたくない。

苦手なバ群の中から飛び出す様に地面を踏み締める。

目の前の綱医あく綱弱のA綱弱子Nを視界に収める。

世界から色が消えて、牡丹色の花弁が舞う。

今だけは、色も、音も、走り方を考える思考も要らない。

私の全力をもって、目の前を走る幻を打ち砕く。

【ここで一人、アセビボタンが抜け出したツツ!!!とんでもない加速だ!!この末脚はゴールまで持つのか!持ってしまおうのか!?!】

「さあ。勝負をしましょう」

全力で芝を駆け、ゴール板を通過する。

直ぐには止まらずに徐々に脚を緩めて歩く。

急いで掲示板に目を向ければ「確定」の2文字。

【日本ダービー!! 最も運のあるウマ娘が勝つと言われているこのレースを制したのは】

【アセビボタン!!! 見事な末脚でした!! 勝ちタイムは2 : 31 : 0!!】

お客さんの歓声が頭に響く。

掲示板を見つめていた視界が何故だか突然ぼやけて文字が見辛くなる。

全力で走り切った脚が震えて、思わず芝の上に座り込んだ。

「っー」

どうしよう。どうしよう。どうしよう。

こんな気持ちになるのは初めてで、上手く咀嚼できそうに無い。
ああ、こんな時どうすれば！

そうだ。そうだ、これはG1のレース。

それなら、皆さんと同じ事を私にしても、きっと許される。

「……………や、つつつだあ”あ”あああ
！！！！！！」

漸く、あなたの横顔を見れました。

アセビロード：ステツプでリズムを刻んで

ウマ娘が走るレースは殆どが芝やダートといった平地競走であり、地方や中央の学校で見ても9割の生徒が平地競走で実績を上げたいと切磋琢磨している。

そんな中で、残りの1割のウマ娘は平地競走では無い所謂障害競走へと脚を向ける。

障害競走、人間で言う所のハードル走や、障害物競走に当たるウマ娘のレース。

平地とはまた違った過酷さと危険があり、G1に至っては1年に2度、重賞の数自体が少なく注目度も平地と比べてまだ低い。

そんな世界で、1人のウマ娘がゴール板を今、1着で通過した。

「アセビロードが今1着でゴールツツ!!デビューからは悔しい結果が多かったウマ娘が、障害レースでは未勝利からオープンまで4戦4勝!」
「ふう〜、お疲れ様でした」

「何言ってるんだ涼しい顔しやがって」

「そんな事は無い。と思うんだけどね？」

「おーおー、後続に5バ身つけてたの見てたからな？後ろ全員バテてたぞ」

体操服についた砂埃を軽く払いながらトレーナーと笑いながら話すアセビロードと呼ばれるウマ娘。

平地競走では15戦2勝。2、3着を含めても全5勝。重賞に出走するも惨敗と錚々たるウマ娘が通う日本ウマ娘トレーニングセンター学園の中では中の下、下の中といった成績のウマ娘である。

そんなウマ娘を担当する若旅は彼女の走りを見て1つの仮説を立てた。

「体力があり過ぎて、逆に平地では上手く走れないのでは？」と。

馬鹿げた発想ではあるが、実際アセビロードは短距離く長距離の平地レースで息を切らした所を見た事が無い。勿論、普段のトレーニング時でも。

だからこそ、距離が長く、障害もある障害レースへと挑戦させてみた。

まあ、こんなにもハマるとは若旅伊吹も想像していなかった訳だが。

障害レースは面白い。うらははそう、思う。

何も無かった真つ直ぐな道を走り、カーブだけに気を付けるよりも、芝とダートが両方あって、ハードルも飛んで、水濠を飛び越える。

うらの体力を全部使って頑張れる。

「でも、怪我には要注意。ですな〜？」

アセビロードの快進撃は止まらない。

(障害) デビューからオープンまでを無敗で4勝し、重賞へと挑戦。2着、3着を繰り返しながらも連対率が高く、平地にいた時よりも生き生きと走れている様にも見える。

障害レースを始めてからは10戦5勝。昨日の東京ジャンプステークスでは2着に6馬身もの差を着けた。

正に、才能開花。アセビロードの本領は障害にあつたのだ。

「中山大障害？ですか？」

「ああ、有馬記念と同じく、障害レースの。4, 1000mの長距離に加え、アップダウンの激しい道にハードル。盛り沢山のレースだな」

「それを、うらが？」

「そうだ。農林水産省賞典中山大障害、J・G1の栄光を手にするチャンスがロードにも回ってきた」

「！やって、み、たい……凄く、楽しそう！」

「よし、そうこなくつちやなあ！年末は、アセビスズナとアセビロードで勝利を上げようか！」

・
・
・

1番走り易いシューズに障害の邪魔にならないパンツスタイル。多くても1年に2度しか袖を通す事が無いうらの勝負服。

「体調は？」

「大丈夫」

「身体に少しでも違和感はあるか？」

「無いよ」

「ロードが1番になる所、皆で見てるからな」

「任せて。うらはは、頑張るよ」

「アセビロード！今単独でハードルを飛越！美しいフォームです！しかし、前方には3バ身。先頭には10バ身以上の差が出来上がっています！その末脚はレースを覆す事ができるのか！」

もう少し、もう少し、まだ行かない。

うらはは少しのんびり屋さんだから、大丈夫ってなる迄は前に行きたくても耐える。

教えられた通りに走って、障害を超える。

「(ロードが見える迄、耐える)」

残りの3,000メートル。小さな光。

まだ、これからだよ。

「さあ！先頭は最終コーナーへと差し掛かる！アセビロードは漸くスピードを上げて来た！間に合うのか!!」

温まった脚の回転数を徐々に上げていく。

真つ直ぐ伸びる小さな光へ手を伸ばす。

見つけた道筋、見えた勝利。

最後のハードルを薙ぎ倒す様に飛越して、2歩で立て直し、後は全力で走る。

この無尽蔵な体力を残りの2ハロンで使い切る。

「この道は、うらのものツ!!」

友達と並んでレースを見る。

目的は、アセビロードという名前のウマ娘。

障害の飛越は美しく、見惚れてしまう。

「ねえ、私達もあんな風に走れるかな」

「俺は走るぞ」

「ま、あなたはそう言うわよね。それにしても凄い追い上げ」

「ハッ！俺もあれくらいできるけどな！」

「何言ってるのよ。あなたの飛越、見てて怖い程なのよ？」

「馬鹿野郎、効率が良いつて言え」

白い髪が風に揺れる。

水色の髪飾りが揺れる。

暮れの中山、大障害のゴール板前で2人のウマ娘が話している。

軽口を言いながらも、焼き付ける様に目線外さない。

静かな2人とは対照的に騒がしい観客に包まれて、彼女は、深い茶の髪色を靡かせて

初のG1タイトルをもぎ取った。

「私もいつか、このレースに勝てるかしら」

「俺は全部勝つぞ。後、有馬にも出る」

「馬鹿みたいね。あなたは」

「馬鹿じゃねえ。やってやろうぜ、俺とお前で障害レースの伝説を作るんだ。そうだなあ……前王者、現王者って呼ばれたりなんかしてさ！」

「前王者は勿論あなたよね？」

「んだとお!？」

色とりどりを渡しに

「ボタン様、今お時間宜しいですか？」

「ん？ええと、うん。大丈夫だよ」

「すみません。あの……これ……」

「これは、ブレスレット？」

「はい。海外へ遠征をしていましたので、そのお土産と言いますか」

「そういえば……見てたよ、おめでとう。お土産も有難うね」

「い、いえ！吾の實力は皆様のお力添えがあつたからこそ！」

「ううん。謙遜しないで。確かに私達はお手伝いをしたけれど、勝つたのはツーちゃん

の力だよ」

「……はい」

「ブレスレットは他の皆にも？」

「はい、トレーナーさんを含めチームのメンバーや友人の何人かに」

「それじゃあ、今日は一日学園を走り回らなきやだね」

「ええ。頑張らないと、です」

「スズナさんッ！」

「ア？ドーしたよ？」

「こちらを」

「ナンダー？ブレスレット？これを、アタシに？」

「はい。遠征のお土産と、トレーニングをお手伝いして頂いたお礼を兼ねて」

「ハッ！なんじゃそりゃ！」

「す、すみません……ご迷惑、でしたでしょうか？」

「そーじゃねー、トレーニングの礼は必要ねエ。同じチームだからな。ツバキはお土産
デスー！つって、渡してくれば良いんだよ。一々トレーニングの礼とか考えんな」

「しかし、」

「しかしも駄菓子もネーの！良いか？返事ッ!!」

「は、はいッ！」

「うし。そんじゃー。アリガトよ！」

「ルピナスさん！」

「んー？ どうしました、かー？」

「お忙しい中、申し訳ありません。遠征から戻りましたので、お土産を渡したく」

「おー！ 見えました、見えました。おめでどうとお帰りーですねー？」

「有難う御座います。こちらを……」

「有難うー。ルーちゃん、大切に、大切にしますー！」

「はい。そうして頂けると、吾も嬉しいです」

「んふふ。相変わらずー、ツバキは可愛い。可愛いですねー」

「!? そ、そんな事!？」

「そういう所が可愛いん、ですねー？」

・
・
・

「ロードツ！」

「お？うらに何か様なのかな？」

「土産だ。先日遠征から戻って来た」

「あー、確かそんな事をやっていたなあ。結果はどうだったんだ？」

「……お陰様で」

「それは、それは、めでたいなあ！良いねえ。青春だねえ」

「その無駄に俯瞰した様な口調はなんなんだ」

「何って、これがロードさんだろお？」

「ま、それはそうか。これ」

「有難う、綺麗だねえ。好きだよ、こういうの」

「だろうな。好きそうなのを選んだから」

「んっふっふ。うらったら、愛されっ子」

「全員に渡してるが？」

「そーじゃ、無いんだよねえ〜！」

「コウロ、今大丈夫ですか？」

「は、はい！大丈夫です！先輩！」

「あなたにも世話になりました。これ、お土産です」

「そ！そそそそそんな!!!め、滅相もない?!?!」

「いえ、お世話になりましたよ。有難う」

「あ、あわわわわ」

「そういえば、吾は見れませんでした、あなたも重賞のレースで勝ち星を上げたと聞きました。おめでとう」

「びゃん!!……恐れ多く!!」

「ふふ。今度は、コウロの祝勝会をしなければ、ですね」

「ぶ、武士の誉れ?!?!」

「武士……?」

◇アセビズズナ：慈愛／晴れ晴れと

昔から、アタシの中からはナニカが抜け落ちていた。

ウマ娘という種族に生まれて、周りの男の子や、女の子よりも力が強くて速く走れる身体を動かしては、漠然と「どうしてだろう？」と疑問に感じていたんだ。

ウマ娘の友人は、走るのが好き！と言う。

お母さんからは、走るのが好き？と聞かれる。

お父さんからは、どんなレースに出たいか？と沢山のレースを見せて貰った。

その全てに、アタシは何の感情も湧かなかった。

G1という舞台に出れるのは凄いのだろう。

重賞に勝つのは素晴らしい名誉なのだろう。

トレーナーに指導され、メイクデビューをスタートするのは輝かしい毎日なのだろう。

でも、だからどうした？

ウマ娘には走りたいという想いが基本として備わっているらしいが、アタシは特にそ

の気は無い。

何方かと言えば、地元でかけっ子をするくらいで丁度良いのだ。

華々しいレースよりも、アタシにはこの河川敷と砂場が似合っている。

「……ねえ、パパ。あの画面に映っているのはだあれ？」

「え？ああ、ズナと同じウマ娘さんだね。アセビボタンって言うんだって。……凄いな、とんでもない脚だ」

あの日、あの時、あの場所でアタシの身体に抜け落ちたナニカを埋める様にして、別のナニカが無理矢理に詰め込まれた。

アセビボタン、アタシと少し名前の似ているウマ娘。

「アセビボタンツ!!」

「……ん？」

電気屋さんに並んだテレビから衝撃を受けて早数ヶ月、アタシは今までは見向きもしなかったトレセン学園へと入学した。

周りのウマ娘の様な意欲は未だに無いが、それでも心動かされた存在がいるのは大きい筈だ。

「日本ダービー、負けたそうだなア？」

「あー、うん。そうだね。スーちゃんが期待してくれたのに、ごめんね」

「スーちゃん言うな!!……嫌、今日は許してヤル。先輩」

「なあに？」

「アタシはダービー獲るからな」

「……うん。それなら応援しなきゃだねー」

別に先輩の為にダービーを獲る訳では無い。

それは向こうも、アタシも分かっている事実。

それなのに、どうしてか、こうして”宣言しておかなければ”と、身体が動くのだ。

これが彼奴らが言うウマソウル？運命的なナニカつてやつ？

「マア、どうでもイーケド」

勝つのは簡単だ。

早く走ってゴールすりゃあー着で、途中で抜かれたら負け。

だがアタシは元々の欲が少ないから、スイツチの入りが周りより何倍も遅い。アタシの勝負は如何に油を早く温めるかだ。

2, 400メートルなんて凄腕達のお陰で瞬きをした一瞬で終わっちゃう。

「スズナ、大丈夫か？」

「あ？誰にモノ言ってるか？」

「それもそうだな。いけるか？」

「何を聞いてクルと思ったら、ハッ！笑わせんな。アタシは勝つぞ？今日のツキはアタシにしか向いていない、勝利なんてモノはアタシにしか渡されない」

「……言うじゃねえの」

「アア、言うさ。だから、トレーナーも確信を持ってゴール板の前に突っ立ってろ」

「なんだそりゃ。楽しみになって来た」

「魅せてやるよ。このアタシ、アセビスズナの激情をな」

・

・

・

回路を回せ。

脳味噌を沸騰させろ。

無理矢理にでも回転数を上げる。

身体中の全てを呼吸も忘れるくらいに捲し立て、脚と闘志と肺へ理性が焼き切れるまで送り込む。

「全部、喰らい尽くすぞッッ」

全ての芝を抉る程の踏み込み。

怪物すらも恐れる顔付き、その走り。

全てを置きざるなんて美しさは要らない。

全てを、喰らい尽くして捨て去る。

スズナはまるで、東京優駿競走だけを走る為に生まれた様な馬でした。

母であるアセビボタンが最初に敗北をした同レースを息子が勝つなんて、まるで仇を打ったかの様です。

スズナは東京優駿競走を勝つてから、走る意欲はあるらしいのですが、どうも芝の地面に立つ事を嫌がる様になりました。

なので走る欲が残っている内は、別の県に移して走らせようと思います。

・
・
・

「ねえ、スーちゃん」

「んだよ」

「私。優勝レイを肩に掛けて、トロフィーを持ったスーちゃんと一緒に写真が撮りたいな」

「ソーカヨ」

「うん。……あつ、ごめんね。我儘言つて」

「ちげーよ。汗クセエから、シャワー浴びてくる。直ぐ戻るよ」

「スーちゃん。有難う。」

◇アセビルピナス：電撃6ハロンの隣にいるウマ

アセビルピナスという馬はとても不思議というか、癖のある馬で走り出した瞬間に鞭を入れて、それでスイッチが入らないと走れない。そんな馬でした。

恐らく、本質的にレースのルールをよく理解できていなかったのだと思います。だからこそ此方側から走つてと合図を出して、ルピナス自身が走らなきゃならない限り、本気を出せなかった。

調教の時ですらその様子は変わらないので、そこだけは少し、苦労しましたね。??

アセビルピナスというウマ娘はとことんスイッチの切り替えが下手であった。

ゲートが開いてスタートが上手くできても、それ以上の成果を出す事ができない。良くて掲示板入り。

ズブさの所為でそうなるのかと思って中・長距離を走らせてみたら体力が持たず、マイルで末脚を上手く使えたら御の字と生粋のスプリンター。

もしや走っている途中に考え過ぎるのかと思ひ、作戦を簡単に伝えてみてもゴール後

には殆ど忘れてしまっている始末。

学園内で話題の委員長の様にも良いのだが、やはりスイッチの切り替えが問題に出てきてしまう。

「ルピナスさんよ〜」

「おー？ ナーさん、どうしました。かー？」

「お前さんの走りをどうしようかって、考えて寝不足になっちゃったよ」

「それは、それは。ちゃんと寝なきや。ですなー？」

「そうなんだけどな、なあ、どうやったらレースをちゃんと走れるんだ？」

「どうと、言いましたもー。ゲートが開いて、1歩踏み出した瞬間に、駄目だ。つてなると、無理なん、ですよねー」

「……そーかー」

「そーですー」

・
・
・

10月、もみじステークス。

出走人数は10人。アセビルピナスの結果は6着。

「お疲れ」

「お疲れ様、でしたー」

ルピナスは軽く滲んだ汗を拭きながら、ほわほわと何時もの調子で笑っている。

現在の戦績は10戦1勝。メイクデビューに勝利したのみで、4戦目に1着が降着した形で掲示板入りしたのが1回と、中々に伸び悩んだ結果である。

トレセン学園の上位の何パーセント達のようにG1を何勝だとか、G1連覇だとかは目標にしていないが、なんやかんやでG1を獲る素質はあるのだから、卒業迄に重賞の1個は獲らせてあげたい。

チームメンバーにもG1を獲るウマ娘がいるのだから、稽古を付けてもらうか? いや、それはもうやったんだった。

「今日も」駄目だ” ってなったのか?」

「はいー。何となく、駄目だーって」

「でも、メイクデビューは勝てたよな?」

「その時は、頭の中で、お花が咲く時みたいな、ふわあ〜っていう感覚が、ありましたー」

「お花が咲く?」

「はいー。歯車が噛み合わさる、とも言いますねー」

「歯車……なあ、試してみたい事があるんだ」

「?はいー。良いですよー」

メイクデビューの時、初めてだから緊張し過ぎない様にとルピナスの背中を叩いたのを思い出した。

もしかしたら、それが、

・
・
・

11月。福島ジュニアステークス。

出走人数は16人。

「ルピナスはこれから、走る前に俺から、そして出走前に自分で何かアクションを起こして欲しい」

「アクション?」

「そうだ。ルーティンと言えば良いのか、走るぞ! ってスイッチを入れられる様に」

「なるほどー」

「俺からは、そうだな。背中を叩くとか」

「じゃあー、ルーちゃんは、自分のお尻を叩きますー」

「お尻」

「はいー」

出走前、ルーちゃんとナーさんで新しい作戦を決める。

ルーちゃんは、どうしてかゲートが開いて踏み出した瞬間に駄目だつてなると、走れなくなる癖があつた。

2人で決めたルーティンはそれを無くせれば良いなあという、苦肉の策らしい。

トレーナーさんから軽く背中を叩かれて、1歩を踏み出す。

ゲートの中、軽く自分のお尻を叩いた。

カチリ。

何故か、自分の中で“これだ”という感覚に襲われた。

「うん。やってみようかー」

「……うっそだろ、オイ」

1, 200m。1分半もあれば終わってしまう短距離の勝負。

それを、2人で決めたルーティンを行っただけで、今までの走りが嘘の様にアセビルピナスは圧勝した。

16人出走の、16番人気。穴ウマもしくは番狂わせ。

彼女の中で何が良い動きをしたのかは分からないが、漸く、アセビルピナスというウマ娘を大きな舞台上で走らせられる設計図が、頭の中で構築された。

??

―本日、アセビルピナス号で優勝されました小金井近江騎手です。

・
・
・

―では、最後になりますがこのレースを見ていたファンに向けて一言お願いします。

そうですね。まずは、今までアセビルピナスを応援して下さって、有難う御座いました。今後はね、馬場の状態が、調教技術が変わったりなんかして、ルピナスの出したレースタイムも未来の強者達に塗り替えられていくと思います。

でもね、アセビルピナスはきつと、皆様が応援したアセビの最速はきつと、その強者達と肩をいつ迄も並べていると思います。

今日は凄いものを見た。とんでもない走りだ。アセビルピナスと走らせてみたいな。なんて言いながら、きつと記憶に残り続けます。

そんな強者の背に乗れた事、感謝しかありません。

本当にルピナスを応援して下さい、有難う御座いました。
―以上、優勝インタビューでした。

反転した歴史

ある日のメイクデビュー戦にてとあるウマ娘が初の勝利を収めた。

芝2000メートル、出走人数は10人。

各々が緊張し、武者震いとは違った震えを携える中、8番のゼツケンを付けたウマ娘だけは澄ました顔のまま、その時を待っていた。

ゲートが開く、勢い良く飛び出したり、出遅れたり、掛かってしまったりと初々しい走りを見せる中、件のウマ娘だけは淡々と脚を進めている。

1000メートルを過ぎる頃には徐々にその差が現れた。

1バ身、2バ身、最終的には2着のウマ娘に対し6バ身もの差が開き、着順としては入学したてという事もあり2着のウマ娘へ「大差」でのゴール。

しかし、メイクデビューを見ていたトレーナー達は特に気にする事は無かった。

それは何故か。

そのウマ娘に、ヤバい奴が入学した！と思わせる覇気が無かったから。

シンボリルドルフや、ナリタブライアン、ミスターシービーが放っていたいつかのオーラが無かったから。

淡々と走り、淡々と終わらせるビギナーズラックで片付けられる走りをしたアセビボタンという名前のウマ娘。

数ヶ月後には「ターフの蹂躞者」と呼ばれるウマ娘である。

トレセン学園にとあるウマ娘がいた。

1950年代の日本にとある競走馬がいた。

そのウマは、負けを知らなかった。

その競走馬は、全戦全勝という結果を残した。

美しい姿でターフを駆けるそのウマ娘の名前は。

今でも「最強」の一角として刻まれるその競走馬の名前は。

走る。自分の力を過信せず、只、前だけを向いて走る。

日本ウマ娘トレーニングセンター学園に入学し、メイクデビューを果たしてから私は

有り難い事に全戦全勝という結果を残していた。

でも、結果には特に興味が無い。

私は本能のままに走りたいだけなのだから。

【アセビボタンどんどんどん差を広げていく!!】

風の噂で私の事を「ターフの蹂躪者」なんて形容する人がいた。

その人は私の走りを見て他のウマ娘が「可哀想だと思った」と言っていた。

【先週のオークスに続き、ダービーの栄冠までもをこのウマ娘は手にしてしまうのか!!】

インターネットで、私の走りが八百長である事を指摘していた人がいた。

私一人にレース結果を変える程の権力も、財力も無い為に初めて「何を言っているんだ」と思ってしまったけど、歴史あるレースに八百長をしているウマ娘の名前が載るなんてと言われたら、流石に気分は良くない。

【残り200メートル!!6番のクライネクステが迫りますが、ここで更にアセビボタン加速!!どうなっているんだこのウマ娘のスタミナは!!】

だから、誰も文句が言えない様に、私の実力を示す。

【こんなウマ娘、見た事がありません!!!先週のオークスに引き続き、なんと!日本ダービーまでもを制しました!!アセビボタン!!人々の記憶に刻まれる、花の名前です!!】

誰も文句を言わない。言わせない、そんな王者の一人になるんだ。

「アセビボタンさん、先ずは日本ダービー優勝おめでとう御座います！」

「有難う御座います。」

「オークスに続き、ダービーまでもを制覇した今、どんなお気持ちでしょうか！」

「自分でも良い走りが出来たと思います。そして、家族に堂々と報告が出来ますので、安心しています。」

「目指すのは矢張り、3冠ですか？」

「そうですね。何も無ければ、挑戦したいと考えています。」

「有難う御座います。では、最後に一言お願い致します！」

「これからも、頑張ります。」

「以上、アセビボタンさんの勝利ウマ娘インタビューでした！」

アセビツバキ：海を超えて、完璧へと至る

吾はきつと、才能が無いのです。

中央に位置する学園に通えているのも、オープンウマ娘になれたのも、今、こうしてG3のレースに出れているのも、全部運が良かったから。

吾の才能自体は本当に無くて、レース結果にも反映されている。17人中の16着。しかし、吾の後になっている子はレース中、アクシデントがあり競争を中止したので吾が実質のドベ。

「……申し訳、ありません」

「大丈夫だ。今日は不良馬場でも走れるかの確認みたいなものだしな」

「それでもッ！」

「大丈夫だ」

「……はい」

トレーナーは確認だと言ってくれてはいるが、内心では「使えない」と思っているのだ。

そう言われるに吾は相応しい。

「ツーちゃん」

「……………ボタン様!？」

突然憧れのウマ娘である先輩から声を掛けられて背中を向ける。バレない様に、手早く目の端を擦った。

「御免なさい。タイミング、悪かったかな？」

「い、いえ!そんな事はありません!」

「そう?なら、失礼するね」

「はいッ!此方へ」

ボタン様が定位置座って、吾も自然と何時も座っている場所へと腰を下ろす。そういえば、ボタン様と2人きりになるの、初めてだ。

「ツーちゃん。隣、おいだよ」

「そんな、畏れ多い事は」

「良いから。お願い」

「……はい」

緊張しながら近くまで歩き、震える膝でボタン様の隣へと腰を再び下ろす。

「トレーナーさんから、元気が無いって聞いてね」

「元気が無い、ですか？」

「そう。思い詰めた顔をしているって……今日は、お休みの日だから、誰も来ないよ」

「……欲深い吾に失望、しているのです」

「……ウマ娘で、このトレセン学園に入学できて、メイクデビュー、1勝、2勝とクラスが上がって、オープンウマ娘になれて、吾は結構凄いウマ娘なんだって勘違いして、いざ鼻高々に重賞へ挑戦したら掲示板に入る事も出来ない惨敗続き、勝手に調子に乗って道化師になっていた」

「トレセン学園に通える事、メイクデビューを勝てた事、オープンウマ娘になれた事が凄い事だつて理解、しているんです。全体を見れば、オープンウマ娘になれない子、メイクデビューを勝ち上がれない子の方が多いのは理解、しているんです。……それなのに、偶々吾は早い段階でそれになれてしまったから、偶々でも勝ててしまったから、余計に己の力の無さが苦しくて、少し前迄自信満々にG1も夢じゃ無いって息巻いていたのが恥ずかしくて」

止まらなかつた。止められなかつた。

こんな酷い姿を尊敬するチームリーダーに話すなど。

こんなの、言い訳をしながら不貞腐れているのと同じだ。

「……嫌いに、ならないで」

「へ？」

「御免なさい、御免なさい、もう、弱い姿なんて見せないから、これからは骨が折れてでも練習を頑張るから、早く強いウマ娘になるから、捨てないで」

どうしてか、涙が溢れた。吾に泣く権利なんて無いのに。

無意識に縋り付いていた。

「ツーちゃんは、気を張り過ぎたんだね」

「確かにツーちゃんの言った事は正しいと思う。オーブンウマ娘、メイクデビュウ、それを楽々超えちゃう方が難しいって、でもね、ツーちゃんが責任を感じる事は無いんだよ」

「ローちゃんもさ、今は障害で沢山勝ち星を上げているけれど、その前は15回走って2回勝つたくらいなんだよ。ツーちゃんはどう？前回の5回目くらいでしょ？焦るのはローちゃんの15回を超えてからでも遅く無いと思うんだ」

「今、ローちゃんに対して失礼な事言ったと思った？……それで良いんだよ、それくらい
の感覚で。長い旅を走る私達は、人生の中で何か1つだけでも輝く様な思い出を作れ
ば。私はきつと、あの子に勝つ事。ツーちゃんはどうか？」

優しい言葉。否定もされない、だけど、本当に必要な言葉は言ってくれない様な適当
さ。

深く考えず、いつもチームの皆で話している時と何1つ変わらない。手を繋いでくれ
ているのに、此方が引つ張れば直ぐに離されてしまう様な。

吾の何か1つ輝くもの。

そうだ、自分の身の丈に合わない馬鹿げた夢があったんだ

「……海外のレースで、勝ちたい、です」

「そつか。それじゃあ、頑張つて練習、しないとだね。まずは、最低でもG1で3着入りかな」

「はい……！……へっ？」

「次の目標、桜花賞で3着入りだつて？」

「あ、あー、ハハ……はい」

「大好きなリーダーダーに泥付けたく無いよな？」

「ええ、まあ……」

「なら、練習しか、無いよな？」

「そー、です、ねー」

「ボタンからツバキのメンタルはもう大丈夫だつて言われたんで、今までの倍、今まで以上のキツさでメニユー組んできたからな」

「あははー、吾、ちよつと、実家に」

「海外レース、出るんだもんな？」

「yes, sir!!!」

265：名無しが適當語り ID：T2KJH/Nt2

最近アセビツバキちゃんの快進撃凄くね？

266：名無しが適當語り ID：uhzikAdt6

>>265

分かる。

ちよつと前まで大丈夫か？この子つてなるくらい体調悪そうにしてたのに

267：名無しが適當語り ID：F/YixWsAs

噂ではトレーナーからの扱きと、なんか諸々で吹っ切れたらしいけど

268：名無しが適當語り ID：J2P5ko/mH

吹っ切れ過ぎでは???

269 : 名無しが適當語り ID : DF6T1RV48
 ウマ娘ちゃんそういう所あるから

270 : 名無しが適當語り ID : 4Jr18Wi a /

>>>269

どういふ所だよ

271 : 名無しが適當語り ID : bLKZjU8cU

でも惨敗だったのが徐々に着順上げてつて、桜花賞では4着、宝塚ではクビ差で2着
 をもぎ取つて次は海外やろ？

272 : 名無しが適當語り ID : XRZA x 6 l D m

海外は早く無いつすか？

273 : 名無しが適當語り ID : xNeTMxDx l

本人の熱い希望やからな

274：名無しが適當語り ID：70SW53sK9

俺はツバキちゃんが無事走って、戻って来れたらそれでええわ

・ ・ ・

日本とは違う風、違う匂い、違う感触。

宝塚後、約1年以上をかけてこの場所で身体を作ってきた。

海外のこの芝にも殆ど慣れたし、後は当日の天気次第。

稍重までに止まってくれたなら吾はきつと、良い結果を残せる可能性がある。

芝、1600メートル、直線コース。出走人数は9人。

トレセン学園の歴史の中で、未だ1人しか勝っていないレース。

・ ・ ・

1次々とウマ娘がゲートに入ります。本日の見所は日本から挑戦するアセビツバキ。

未だタイキシャトルしかなし得ていない偉業に挑戦します。1

静かにその時を待つ。

深呼吸をして、気持ちを含める。

周りのウマ娘達は吾の事など眼中に無いだろう。いくら長期遠征で身体を馴染ませしてきたとはいえ、本場で何十年と練習してきた子達より劣っているのは明白だ。

ーアセビツバキ、落ち着いた様子で、その時を待ちます。ー

9人目のウマ娘がゲートへと入り、

ーゲートイン完了。今、スタートしました!!ー

開いた瞬間、飛び出す。

ーアセビツバキ、良いスタートを切りました!走りも問題無い様に見えます、これは激戦になるのでは無いでしょうか!ー

走り始めた瞬間から体力を奪う日本とは違う芝。

周りには骨格から違う迫力のあるウマ娘達。

沿道に沿って立つ、沢山の吾以外を応援するファン達の声援。

ーアセビツバキ500メートルを通過、前から4バ身程離れて現在5着の位置。トレーニングの成果か、表情には闘士が残っていますが、どうなるか!ー

この国に、吾の仲間はいない。

チームメンバーは日本にいるし、トレーナーさんの声も周りに掻き消されて吾には届

かないだろう。

孤独の戦い。このターフではたった1人で立ち向かう大きな壁。

ーアセビツバキ！徐々に脚を早めていきますが、それは他のウマ娘も同じ！残り400メートル！ここからは速さ、そして一瞬の駆け引きが勝利を握る鍵となります！！ー

地面を踏み締めて、沢山の根が張る芝に蹄鉄の跡を残す。

桜花賞は4着、宝塚は2着、今まで掲示板入りも出来なかつた吾が、大きなレースでそこまでの結果を残せた。

ポタン様が、トレーナーさんが、チームの皆が沢山沢山応援してくれた。練習をいつでも付き合ってくれた。

なら、この瞬間も

「頑張れるだろツ!!!」

レースが終わつたら、2度と走れなくなつても良い。

勝てるのなら、出来の悪かつた吾が大きな舞台で勝てるのなら、この脚が砕けようが、命を削ろうが、何でも良い。

吾も、輝く1つを掴み取るんだ。

「ゴールツツ!!最後は大混戦となりました、写真判定となります。アセビツバキは最後の追い上げが凄まじかったのですが、どうなるか。日本の中継からはアセビツバキが先着の様に見えましたが……」

「ゴール板を走り抜け、力が抜けてクールダウンも出来ないまま芝の上に倒れ込む。他の子達が心配をしてくれているけど、それに応える元氣も無い。」

過呼吸にも似た酷い呼吸をしながら、辛うじて霞む目線だけは掲示板へと向ける。

電氣の光が、1着を指し示す部分へ吾の、アセビツバキの番号を灯す。

「今、結果が出た様です。……!アセビツバキ……!1着!!アセビツバキが

1着の判定となりました!!フランス。ジャック・ル・マロワ賞。漸く咲いた美しき花!アセビツバキ!!小さな蕾を、海を越えたその場所でみごとに咲かせてみせました!!G1初勝利!!」

頭が真っ白になって、周りが呼んでくれた担架に乗せられながら、涙が溢れた。

「やった、……やった……!」

吾も輝く1つに手が届いた。

もう、何も望むものは無い。

「ここで、アセビツバキの情報です。アセビツバキは入着後倒れ、医務室へと運ばれた
そうです。幸い意識はしっかりしており、怪我等はしていない様ですが、……レースの
様子から、少し心配ですね。」

クリスマスは其々の思いの中で

「……それじゃあ、乾杯」

「シー」

「乾杯、ですー」

「かんぱーい」

「乾杯」

「か、かかか、かんぱい」

チームシエアトに充てられた部屋の中で机を囲み、各々のお菓子を持ち寄って好きな飲み物で乾杯をする。

私はお茶を、スーちゃんは紅茶、ルーちゃんは牛乳で、ローちゃんは水、ツーちゃんがコーヒーの Cowちゃん人が人參ジュース。

6人が全員バラバラで、机に広がるお菓子だつて自分が飲む物に合わせてるから何処か不思議な組み合わせ。

それでも皆と過ごせるのが楽しくて、思わず頬が緩んだ。

「ルーちゃんは、有馬記念を見に行くんだっけ？」

「はい。後輩が、出るらしく」

「後輩って、ロードの後輩も障害の選手じゃ無かったか？」

「そうだね。うらもビックリしたねえ、でも、投票で選ばれたらしいんだわ」

「成る程な……」

「あれ？投票と言えば、ルーちゃんも投票で選ばれてなかったっけ？」

「ア？アタシはダービー勝ったからパス。それに、ファルコン先輩が来いってウルセーから、園田行ってくる」

「あら、気を付けて行くんだよ」

「オー……って、子供扱いスナナ!!」

「コウちゃんは？」

「無視スナナ!!」

「わ、わわわたくしはですね!?!ええと、そのおゝ学園に残ってトレーニングです!!!」

「ルーちゃんと、一緒。ですねー」

「へええ!?!?!?」

「そっか! 怪我だけはしない様にね」

「先輩として、ちゃんと責任。持ちますねー」

「うん。お願いね」

「あわわわわわ……」

「ツーちゃんは?」

「吾は、そうですね……実家に帰省しようかと」

「ツーちゃんはきつとそれが良いね。ちゃんと顔を合わせて、話しておいで。今年は凄
い結果を出したんだしね」

「……はい!」

一通りメンバー全員の予定を聞いて少し温くなったお茶を飲む。

もし、一人で冬休みを過ごす様な子がいれば一緒にいようかと思っただけ、杞憂で
終わってしまった。

持って来たお煎餅をもう一枚手にして口に入れば、スーちゃんが何やら企んだ顔で
私と肩を組む。

「つて、言うけどヨオ。先輩はドウするんだ」

私は、どうするか。

考えながら口の中のお煎餅を咀嚼して飲み込んで、また考える。

「そうだね。実家に戻って、いつもみたいに宴会。かなあ」

「フーン。面白くねえの」

実は、このチーム。他のチームと違って家族レベルで名前が似ているウマ娘達が集まっている割に、共に過ごすという事が殆ど無い。

一緒にトレーニングはするし、お出掛けもする。だけど、こうしたイベントや節目のタイミングで揃う事は今まで1度も無い。

まあ、でも、今日の机の上くらいバラバラでも仲良しなのに変わりは無いから、別に良いかな。

仲良しだからこそ、普段は一緒にいないっていう関係性も素敵だよな。

・
・
・

「すまん。遅れた、まだ間に合うか？」

そう言いながら、トレーナーさんが扉を開ける。

その手には缶に入ったコーンスープと、おつまみみたいなお菓子が入った詰め合わせ。

「ふふっ」

「?どうした?」

やっぱり、このチームは皆個性が強い。

まあ、こんな十人十色な皆が大好きなんだけどね。

アセビコウロ：まだ、走り始めたばかりの君へ。

わたしは今、船橋にある千葉ウマ娘フナバシトレーニングセンター学園に通う平凡なウマ娘です。

目指すレースはわたしの地元でもある浦和で開催されるさきたま杯と浦和記念です。どうして浦和のトレセン学園に通っていないかは、まあ、後々教えるという事で……。

「今、先頭でゴールツツツ!!! 第 回、浦和記念の勝者は船橋からやって来たアセビコウロ!! 2, 000メートルの大どんでん返し! 素晴らしい末脚と、追い込みでした!」
「……あ、あわわわ?!? やった……! やってしまいました!!! 杜若^{つばちゃん}トレーナー!! ほ、ほほほほんとにわたしの番号ですよね?!? ゼッケンと変わりありませんよね?!?!!」

「おー、オメデトー。コウロ、ようやくとるわあ」

「な、なんですかその! やる気の無い言葉は!」

「何て言うかコウロが喜び過ぎてるからか、1週回ってあーしは虚無だわあ。……でも、なんか凄い事をしたんだあってのは分かるよ。あーし、いつまでも、どんな時もどんな場所でも、コウロを応援してっからねえ」

「も、もつと喜んでくださーい!!」

「喜んでるよお」

携帯電話に入れて貰ったウマッターを開く。

これは、SNSと呼ばれるもので様々なウマ娘が利用していたり、レースの情報が見れたりする便利なものだ。

私はインターネットに詳しく無いから、アカウントも作って貰ってフォロー?だったり、私が呟いた事は1度も無い。

フォロワー?の数字だつて1桁で、名前も全て知っている方々だけだ。

「浦和記念、新進気鋭のウマ娘が新たな勝利へと……か」

画面に映るのはローカル・シリーズと呼ばれるレースの1つで、私は経験の無いダートのレースである。

画面に大きく汗を光らせて、笑顔で笑う黒髪の少女と、隣で薄く笑うトレーナーらしき女性。

目指すのは、次のさきたま杯。今はJ p n I Iに設定されているものの、もう直ぐJ p n Iに格上げされるレース。

浦和記念より600メートルも短い1, 400メートルで、アセビコウロが見せた脚が次のレースでも通用するかが鍵。

「……うん。この子、強いな」

・ ・ ・

アセビコウロ、それがわたしの名前。

戦績は8戦3勝、昨日の浦和記念を入れれば9戦4勝。

重賞は勝たせて頂いたものの、至って普通の、平凡なウマ娘。

オグリキャップさんや、ユキノビジンさんの様な地方から中央へ移籍して人気のまま結果を残す様な夢も見るが、それは本当に限られたウマ娘が出来うる事で、わたしなんかか

「私。貴方をスカウトしに来ました」

「…………へ？」

「特別移籍、と言えば良いのでしょうか。アセビコウロさん。共に切磋琢磨する一人として、中央に来る気持ちはありませんか？」

と、思っていたんですけれど……。

・ ・ ・

お父さん、お母さん、私。アセビコウロは元気に頑張っています。今年の冬は、実家に顔を見せられなかった事は御免なさい。

今回はとても大切な用があり、久し振りに手紙を書きます。

今日、練習中にとあるウマ娘さんから声を掛けられました。あの中央で活躍しているアセビコウロさんです。

そんな凄い人が、わたしを中央のトレセン学園にスカウトしたいそうです。正直、今も手が震えています。

次の3連休の日、実家に帰ります。

中央の役員さんと、アセビボタンさんがお話をしたいそうです。勿論。わたしのトレーナーさんも一緒です。

何故わたしに声が掛かったのか。周りのウマ娘さんを差し置いて何故わたしだったのかは分からない。それでもわたしは、結果がどんなものであれ頑張れるのなら頑張りたいです。

だから、今の気持ちは、わたしだけの気持ちとしてはスカウトのお話を受けようと思っています。

どうかスカウトのお話や、相談を聞いてくれると嬉しいです。

アセビコウロ

明けましておめでどう御座います

初詣というのは場所によつて深夜から長蛇の列が形成され、賽銭を投げる迄に何時間も寒い中待つというのは最早風物詩であり、新年初の1大イベントである。

しかし、全ての寺社仏閣がそうでは無く、所謂有名どころ以外は静かな場所が多い。特に地元の間人しか知らない様な場所だと特に。

「明けましておめでどう御座います。今年も、チームシエアトで頑張ろうね」

トレーニング以外では基本下ろしている髪を綺麗に纏め、見慣れない着物を見に纏うウマ娘が口を開く。

そのウマ娘の周りには5人のウマ娘がおり、個性豊かに其々の格好をしている。

スカジャンにショートパンツ。学校指定のコート。普段は見る事の無い髪型。珍しい海外ブランドの洋服、逆に着物に着られていたり様々。

「それじゃあ、初詣行こっか。終わる頃にはきつと初日の出も見られそうだね」
「オー」

「皆さんは、絵馬。書きますかー？」

「ローちゃんは書くよお」

「吾は絵馬と御神籤を」

「わ、わたしも書こうかなー……なんて」

「うん。それじゃあ皆で新年初の運試し、だね」

6人はワイワイと会話に花を咲かせながら長い石段を登り始める。

登り切った神社は絵馬や御神籤、お守りや破魔矢の販売などしつかりしているが何故か地元の人間＋地元のウマ娘＋観光でしか人がいる姿を見ない不思議な場所だ。

・

・

・

静かな境内で本坪鈴をガラガラと鳴らし、思い思いの硬貨を賽銭箱に投げ入れて手を合わせる。

「……ねえ、皆は何をお願いした？」

「……秘密」

「それは、乙女の内緒。ですわー」

「ふっふっふー」

「申し訳ありません。お願い事を言ってしまうと叶わなくなるという噂を聞きまして……」

「ぎや、逆に！ボタン先輩はな、何を」

「そうだなあ……私も秘密。かな」

6人を除けばまだ数人しかいない境内でキラキラキラと笑う。

そうしていれば、頭を出し始めた太陽の光に目を奪われ耳が動いて、尻尾が揺れる。導かれる様に敷地を囲う柵迄寄れば袴を来た男性から、お参りに来た近所の顔馴染みから気を付けてねと声を掛けられて、元気良く返事をした。

キラキラと太陽が煌めいて、世界を照らす。

見慣れない美しい風景に夢中になった。

《ボタン達は初詣か？》

「はい。トレーナーさんですか？後ろから声が聞こえます」

《おう、ちよつとした仲間とな……こつちは人が多過ぎて初日の出が昇るのを見逃した》

「それはそれは」

《来年、もう今年か……駆け出しトレーナーだが宜しく頼む》

「はい！私からもどうぞ宜しくお願ひ致します。それと……」

《それと？》

「「「明けましておめでとう、トレーナー……」」」」

《……なんだ勢揃いしてやがったか、おめでとうウマ娘達教え子達》

番組ジャック……？

「ぼ、ボタンちゃんのぽかちゅーぶ……？」

こんにちは。本日はゴールドシップさんの代打として出演をお願いされた私、アセビボタンがお届けします。

……と、言っても私は何をすれば。

い、いえーい。見えてますか？

ああ！やっぱり恥ずかしい……。

そ、そうだ……！」

「ア!?先輩なにスルんだよツ!？」

「スーちゃん、ほら、動画?を撮ってるから」

「スーちゃん言うな!!……ハア、こういうノハ適当に手を振ってれば良いんだよ」

「本当?」

「アー、ほんとほんと」

「……そっか! 楽しんでますかー?」

「アツハツハハ!!!先輩!!未だにコーゾクみてえな手の振り方シテンの!!!ヤバ!!!」

395 : 名無しが適当語り ID : z v m 6 d l F v K

【速報】

アセビスズナ、笑い声がヤバい。

396 : 名無しが適当語り ID : j B Z f Q F x n L

現実でも中々見ないタイプのゲラだった

397 : 名無しが適当語り ID : l M Z F R d f q g

ボタンちゃんと仲良し

後輩属性

癖強めな話し方

ゲラ↑New

398：名無しが適當語り ID：gHYFoynyl

これだからアセビ冠は（褒め言葉）

399：名無しが適當語り ID：YbM7fFiOW

アセビズのほかチューブ出演&てえてえやりとりは助かるが、スズナちゃんはほんまにこれで良かったんか？

400：名無しが適當語り ID：sdH7icn9O

アセビはまだシナリオの登場頻度も少ないし、ギャップを狙うなら良かったのでは??

401：名無しが適當語り ID：rCIYUYxxz

>>400

ギャップに関してはボタンの史実で既に分からされてるだろいい加減にしろ!!

402：名無しが適當語り ID：TiU3Tf9nE

トレーナーがアセビボタンに分からされる同人誌とかニツチやな……幾らだ？

403 : 名無しが適当語り ID : C D P 3 M X u W p
財布を開こうとするんじゃない

404 : 名無しが適当語り ID : 3 a T b F G e + A
にしても今回のほかチューブはタイトルコールの声から違うから、またゴルシが頭可笑しくなったのかと思った

405 : 名無しが適当語り ID : 8 q 9 2 B n w E u
ゴルシが頭可笑しく無かった事なんてあるか? いや、無い (反語)

406 : 名無しが適当語り ID : T g j P V C K E k
ゴルドシップ……おもしろー馬……

407 : 名無しが適当語り ID : 6 x J k X 4 9 r e
戦績とキャラクターの違いから脳がバグを起こす史実のゴルドシップさん

408 : 名無しが適當語り ID : A a s / d Z H a 8
 「牝馬? だいたい抱いたぜ!」

409 : 名無しが適當語り ID : 9 p h U t j K n T
 あながち間違っても無いのが

410 : 名無しが適當語り ID : C A g n R v g p /
 種付け自体は競馬関係無く種として普通の事なのでセーフ

411 : 名無しが適當語り ID : 9 Z y J l K R q 4
 馬は雌が誘って雄がそれに応えてだからな。抱いたぜ! よりも、誘われたから断らな
 かったぜ! の方がしっくりくる

412 : 名無しが適當語り ID : y k N u a 5 t m /

>>> 411

どっちにしろイケイケやんけ!!

413 : 名無しが適當語り ID : O5h5K / +f0

>>>412

涙拭けよ

414 : 名無しが適當語り ID : nOZpis27n

>>>413

泣いてないんだが

!?!?!?!?

415 : 名無しが適當語り ID : Elc rNOB5B

アセビ親子の話題どこ?ここ?

416 : 名無しが適當語り ID : rldKaAlle

>>>415

ここで間違い無かった筈なんだけどな……

417 : 名無しが適當語り ID : plddixWt

俺、アセビスズナがアセビボタンに見せるツン大好き侍も申す者(唐突な話題転換)。

4 1 8 : 名無しが適当語り I D : v d H b r o q G a

>>> 4 1 7

分かる。

4 1 9 : 名無しが適当語り I D : b u Z r X t / v 2

>>> 4 1 7

口では離れろとか、口調が結構強めなのに自分からは離れないし表情とか尻尾とかでは喜んでるのほんまさあ

4 2 0 : 名無しが適当語り I D : b E h k t s f 9 y

これだからスズナは牝馬って言われるんだぞ

4 2 1 : 名無しが適当語り I D : + 3 a D I p 8 S h

>>> 4 2 0

これはまごう事なき牝馬の風格

4 2 2 : 名無しが適當語り ID : F G 8 1 Y r G E O

>>> 4 2 0

言い逃れできなくなっちゃったね……。

4 2 3 : 名無しが適當語り ID : M g b X x a X 0 1

というか、スズナちゃん育成ではこんな笑い方してなかったよね?!?
ストーリー上と言われればそれ迄だけど、これは気を許した相手になら素で笑う……つてコト!?

4 2 4 : 名無しが適當語り ID : 9 j + z n v + 1 d

トレーナーには気を許してない……?!

4 2 5 : 名無しが適當語り ID : Y e V K U q s T 0

……興奮してきたな。

4 2 6 : 名無しが適當語り ID : G z 5 P w d 8 D G

>>> 4 2 5

興奮する要素どこだよ（どこだよ）

427：名無しが適當語り ID：2／1A3chIZ

>>426

俺らの好感度が入る余地が無い程にボタンへの好感度が高いってことやろ？

428：名無しが適當語り ID：iGp+onlOu

あ、あらく!?

429：名無しが適當語り ID：J7Eph tM+Y

キマシタワー!?

430：名無しが適當語り ID：c a a p w B d N h

だからウマ娘は百合じゃねえって!!!!
チャレンジャー海淵に沈めんぞ!!!!

431：名無しが適當語り ID：5NgpOKILX

チャレンジャー海淵とかガチャん

4 3 2 : 名無しが適當語り ID : 4 R E j d Q b L l

1 番深い所来たな

4 3 3 : 名無しが適當語り ID : 0 5 C k g u x 5 8

深い所 (誇張無し)

4 3 4 : 名無しが適當語り ID : U w A Y T T 7 i 3

今思ったけど、ゴールドシップはどうしていなかったんだ?

4 3 5 : 名無しが適當語り ID : S 6 v u V R l j t

>>> 4 3 4

宇宙行ってたんやろ

4 3 6 : 名無しが適當語り ID : I L v t n h b t a

>>> 4 3 4

ゴルシも忙しいだろうからな。洞窟でカジキマグロを仕入れるのは大変って聞くし

4 3 7 : 名無しが適当語り ID : l G e 9 K v L X L

>> 4 3 4

ゴールドシップなら宝塚の駅前で歌いながらたこ焼きを振舞ってる途中、飛び入りで大階段降りに行ってたよ

4 3 8 : 名無しが適当語り ID : S u x k + B t y B

くここまでまともな理由無し

4 3 9 : 名無しが適当語り ID : 6 j Q 2 e S b 6 g

まあ、ゴルシがいなかったからこそ2人のてえてえが見れたというのでヨシツ!

4 4 0 : 名無しが適当語り ID : b U C + t Z V 2 Z

アセビはほんとストーリーに出てこないからな

4 4 1 : 名無しが適当語り ID : S N N 3 5 1 Y u x

>> 4 4 0

ビコーの事、忘れないでね……

442 : 名無しが適當語り ID : G9Hr+9Xhi

>>441

マーちゃんも忘れて無いし、ビコーの事も忘れてないからビコーは早く来い

443 : 名無しが適當語り ID : /o+9VpK/V

ビコーはイベストでも良いから出てきてクレメンス

444 : 名無しが適當語り ID : VxC8+WTdQ

ウインディちゃんも御用意されたのに

445 : 名無しが適當語り ID : vpnFlTgZ6

ビコーペガサス「進捗が駄目って事だろ？」

446 : 名無しが適當語り ID : QvdyNePBz

>>445

駄目にしないで下さい、オタクは待ってるんです

447 : 名無しが適當語り ID : OT3GvlvVW
いつからこんなにも涙が出るスレになったんだ？

448 : 名無しが適當語り ID : BaocNppbk

>>447

勝手に泣いてるだけなんだよなあ

449 : 名無しが適當語り ID : G72vZdW9s
もっとアセビの話してホラホラ

450 : 名無しが適當語り ID : VxNpbLV4k
アセビと言えば、ウマ娘関係無いけどカレンダーが出るらしいですね

451 : 名無しが適當語り ID : VgicB6U4Z

>>450

マジで関係無くて草。スレチやろ

452 : 名無しが1 ID : l i O E 5 V S U 1

>>>450

スレ立てた人です!!

こちらのスレはアセビ冠名の馬（関係者）に関する事ならなんでもオーケーなので、
じゃんじゃん語って下さい!!

カレンダー楽しみです!!

453 : 名無しが適當語り ID : 6 q F d K U y 3 o

カレンダーなあ、滅茶苦茶欲しいけど受注じゃ無いから予約戦争に負けそうなんよな

454 : 名無しが適當語り ID : 4 t S S B b U 1 o

s a m p l e の文字が被せてあるけど隠し切れない写真の可愛さ

455 : 名無しが適當語り ID : J l q B d l j J F

関係者さんが撮ってくれる写真も助かるけど、プロのカメラマンさんが撮った写真に

も高い栄養素がある

456 : 名無しが適当語り ID : Z5c / xJAXJ

確か牧場運営してる高垣さん家の娘さんがカメラマンしてるんだっけか

457 : 名無しが適当語り ID : ktM2nYmgG

>>>456

せやで。

しかも写真家としてまあまあ売れてる人だから、本来ならスケジュールに空きが無かった筈なのに「オイオイ、俺の家の馬だぞ？俺が撮らなくて誰が撮るんだよ（意識）」するくらいには家の動物大好きウーマンさんだ！

458 : 名無しが適当語り ID : DaWVA3pga

あら、脳焼かれてる……

459 : 名無しが適当語り ID : uK2dbWLl /

通常運転やな（洗脳済み）

460 : 名無しが適當語り ID : ToOgCRDH

まあ、馬だけでもとんでも無く金掛かるし微々たるものだとしてもカレンダーの売り上げを運営に充てて貰えればね、オタクは大満足ですよ

461 : 名無しが適當語り ID : fPhRNv73 /

>>>460

それ

462 : 名無しが適當語り ID : 8hOpGllwR

カレンダー見本として1〜5月までは写真出てたけど、6〜は明かされていないから楽しんで

463 : 名無しが適當語り ID : E0gkl7LrZ

1月 : 犬

2月 : 馬 (アセビロード)

3月 : 羊 + アセビツバキ

4月：馬（アセビツバキ）

5月：現役時代のゼツケンや優勝レイ

464：名無しが適當語り ID：qHfIDpJiY

>>463

これ馬の他にも牧場で飼つてる動物の写真もあつて本当に家にいる動物皆好きなんやなつて

465：名無しが適當語り ID：J6n4GltWS

まあ、円谷動物園を隣で見続けて、見続けた末に動物園を受け継いだ人やからな

466：名無しが適當語り ID：AJiYBwW03

>>465

高垣芳司氏からずっと動物園受け継いできて、1度も経営とかで行き詰まつて無いの有能1族過ぎる

467：名無しが適當語り ID：A6oxNu4X0

>>466

まあ、日本のみならず世界でも名が知れ渡ってる会社ですしお寿司

468 : 名無しが適當語り ID : en8afibJK

なんか取引先のお偉いさんがとねっこ時代のコウロ君にメロメロになってた話無
かったつけ?

469 : 名無しが適當語り ID : V9kf4OBBS

>>468

あの可愛さだけで契約取れたやつか

470 : 名無しが適當語り ID : w2N2pD76+

なにそれ知らない

471 : 名無しが適當語り ID : PUCamJwO7

海外の有名企業とお話しが

←

取引相手が動物好き

←

ウチ牧場やってますよ！見ます？

←

コウロ（とねっこ時代）を見て取引相手が一目惚れ

←

この子を養う為にお金ガツポガツポ稼ぎましょう！契約？オーケーオーケー!!!

472：名無しが適当語り ID：1S84gush t

>>471

分からん

473：名無しが適当語り ID：BgMg9Vae j

>>471

円谷先生の強盗説得事件と同じくらい分からん

474：名無しが適当語り ID：1SsDAHqPN

>>471

意味分からん方法で物事を解決させる感じ、やっぱり類友やなあ

475 : 名無しが適當語り ID : m c P 6 g Q x e V

まあ、とねっこコウロは可愛いから仕方ないね

476 : 名無しが適當語り ID : R t E S L V 9 6 o

コウロ君パドックとか返し馬の時にびよんびよん跳ねてるの可愛いよね

477 : 名無しが適當語り ID : M q u C X Y D Z L

>>476

あれは可愛い

478 : 名無しが適當語り ID : v 6 k G d t 4 f X

雪にはしゃいだロードお爺ちゃんが跳ねてるのを見て真似したのが始まりと言われているコウロジャンプ

479 : 名無しが適當語り ID : f s 3 8 G s D v U

>> 478

お爺ちゃん本当に心配になるからほどほどにしてくれ

480 : 名無しが適當語り ID : V u b G N f W x x

飛び跳ねに關してはチケゾーもしてるので

481 : 名無しが適當語り ID : j m u p f I 8 1 B

チケゾーは規格外過ぎるのよ

482 : 名無しが適當語り ID : 4 A 2 / X K U U U

雪を見てはしやくG1優勝馬アセビロード(30歳)

483 : 名無しが適當語り ID : N / 6 B 4 Q d i s

>> 482

アセビロードの年齢知らなかったけど思った以上にお爺ちゃんだった

484 : 名無しが適當語り ID : v w o I I B m N 9

ツバキさんも25歳くらいだっけ

485 : 名無しが適當語り ID : 0 7 f s q w 6 2 8

ツバキ姐さんは来月で26歳になるんや……なるんか……元気でいて……

486 : 名無しが適當語り ID : x D 5 t Y 0 L z D

>>485

もう26歳なんか、俺が現役を見ていた時代から約……ウツ……

487 : 名無しが適當語り ID : C s 8 k f a / 2 /

競馬あるあるでダメーじ負ってて草……うっ

488 : 名無しが適當語り ID : i a B m 6 H Y N B

>>487

オマエモナー

489：名無しが適當語り ID：IB/E+Mou1

アセビの馬は長生きとは言うけど、やっぱり寿命がある訳で、会いたいね

490：名無しが適當語り ID：8z5VKS5S2

予約が取れません

491：名無しが適當語り ID：xeuAOlk+B

ウマ娘効果ホンマヤバいな

492：名無しが適當語り ID：lMukQODTc

アセビが長生きなのは分かったけど、1番短命なのって誰なの？

493：名無しが適當語り ID：zqC63Ocx/

>>492

デビューは結局しなかったけどツバキ姐さんとコウロ君の間に1頭いて、その子が病気で20歳没だったはず

494 : 名無しが適當語り ID : x y U t W a I / C

>>>493

(馬換算で) 短命の法則が乱れる

寒い季節を熱くする

ジリジリと太陽の熱がコンクリートを加熱する7月。

青々とした芝の上を歩くも、日本の日差しがマシになる筈も無く、汗が噴き出る。

地元も暑い地域ではあるものの、本土の方もまた違った暑さで参ってしまう。

「……大丈夫か？」

「んー、今の所は、大丈夫。ですねー」

レース前の控え室。

ルピナスと共に水分を摂りながら、時間を待つ。

壁に設置されたモニターから現在行われているレースが映っているが、画面越しに暑さが伝わってくる。

「幾ら短距離とは言え油断して良いって訳では無いからな。体調に変な所があったら、出走直前でも言ってくれ」

「あい。分かっていますよー」

ルピナスは俺が担当している中でも屈指ののんびり屋だから、もしかしたら既に体調

が悪くなっているのに気付いていないのかと邪推もするが、のほほんとした顔でお茶を飲んでのを見ると、杞憂だなど安心して。

「……よし、そろそろ時間か」

集合時間に近付き、席を立つ。

俺に続いてルピナスも席を立ち、控え室の扉を開ける。

「それじゃあ、かましてこい最速娘」

「……うん。いっちょよ、走ってくるよー」

背中を軽く叩いて、ルピナスを見送る。

雰囲気は変わらないものの、顔付きはアスリートのものへと変わる。ゆっくりと歩いて行く後ろ姿を確認して、ゴール板前へと移動した。

ー夏の日差しが厳しい中、ここ新潟競馬場1、000メートルで行われるG3、アイ

ビスサマーダツシユへと出走するウマ娘達が次々にゲートへと入りますー
ゲートへと入る。

少し手狭でソワソワする気持ちを落ち着かせながら、自分のお尻を軽く叩く。

ーゼツケン18番が今、ゲートへと入りましたー

カチリと嵌ったナニカに意識を集中させて、目の前が晴れるのを待つ。

ーゲートが開いて、アイビスサマーダツシユ、今、スタートしました!!!ー

出だしは上々。

ルーちゃんは自分の枠番から近い内ラチに沿って走る。

でも、芝が少し荒れているから内には行き過ぎない。ルーちゃんは、ルーちゃんなりに走るだけ。

ーアセビルピナス内ラチに沿って1人旅!!半バ身後ろにリードマガジン、そこから1
バ身はなれてラヴィアンローズ、ユイイツムニ、ミニペロニーが続きます。残り800
メートル!ー

周りの皆は殆どが外ラチを走っているから様子が分かり易い。

黒髪の子がピツタリルーちゃんを追っていて、金髪の子がその後ろ、眼鏡の子、赤髪の子。

1,000メートルというスプリンターズステークス、高松宮記念よりも短いこの

レースでは一瞬の油断が命取り。

ー残り400メートル!!ここで、ユイイツムニ、ミニペロニーが脚を進めました!お
おっと、後方からフリルドマンダリンが突っ込んで来たぞー!!!アセビルピナスは逃げ切
れるのか!今回こそ、捕まってしまうのか!!ー

とあるウマ娘を誰かが「逃げて差す」と形容しているのを聞いた事がある。

それがどんな意味なのか、どういう事をしていたのかはルーちゃんが言われた本人で
は無いから分からない。

でも、そのウマ娘さんと一緒なのは、ルーちゃんも全力で走っている。ルーちゃんだ
けの先頭を走っている。

それだけだ。

ーアセビルピナス再加速!!!一度はフリルドマンダリンが踏みかけた先頭を譲りませ
ん!!!残り100メートル!!ここまで来たらもうアセビルピナスは止まらないぞ!!ー

アセビの最速を、証明する。

これが、ルーちゃんの。アセビルピナスの走りだよ。

ーまたまたアセビルピナスが短距離レースを逃げ切った!!!タイムはなんと53.7
!!!レコードに迫るスピードでした!!!ー

「ふうーっ、ルーちゃん。勝利のV〜！熱々な季節を、更に熱々に、しちやいましたー」

幻覚の中で出会う2人

「あの、落としましたよ」

あの日、あの時出会ったウマ娘の貴女。

話した時間は30分と2分半。

たったそれだけの時間だけど、私の心に深く深く残っている。

美しい思い出の1つ。

・
・
・

「でも、私は今、少しスランプで……勝てないんです」

「そうなんです」

「気持ちに身体が追い付かないというか、1歩を踏み出せ無いというか」

「成る程。私も土俵が違うとは言え、スランプを体験した事があるので、お気持ちお察します」

「へへっ……有難う御座います」

オジサンとウマ娘の学生が並んで話してるなんて、側から見たらどうなんだろうなあ
と思いつつ、その話に耳を傾ける。

懐かしいなあ、私もスランプになつて何も出来ない日が続いて病みかけた日々を思い
出して苦い顔になる。

でも、そうか、ウマ娘もスランプになるもんなんだな。

「……あの、貴女の次のレースは何ですか？」

「へっ？ああ、えっと、秋の天皇賞です」

「天皇賞！私も名前だけは知っています！」

天皇賞、私が有馬記念と日本ダービーの次に知っている大きなレースの名前。

たった30センチの隙間の向こうに座る彼女はこんなにも凄いウマなのか。

「見に行きますね」

「えっ?!いい、いや!そんな!!こんな状態の私は絶対負けてしまうので!」

「いいえ、勝ち負けなどどうでも良いのです。袖振り合うも多生の縁。今日この縁で繋
がった貴女の勇姿を私は見たいと思いました」

「……はい」

「あつ!今更ですけど、お名前は?私は円谷巽と言います」

「ボタンです。アセビボタン」

「アセビさん、貴女の旅路に幸多からん事を」

「はいっ！頑張ります、もう1度咲いてみせます」

毛先だけ黒い、人間には人工的にしか作る事の出来ない不思議な髪色。

頭の上で揺れる2つの耳、意思を持ったかの様に揺れる尻尾。

私とは全く違うウマ娘という種族の彼女。

接点も、関係性も全く無い筈の私達。

それでも、心の底から応援したいと思つてしまった。

人混みの中でもよく分かる特徴的な髪色。

あの時とは違う和装に似た綺麗な衣装。

皆、必死に走っていて、誰が勝つても可笑しく無い勝負。

東京の競馬場、最後の直線。初めて来たけれど、熱気に気圧されてしまった。

目的のあの子はまだ後ろで、沢山のライバルに囲まれている。

本来なら初めて見に来たレースではしゃぐなどみつも無いと思つて、後ろの方で

黙って居ようと。

こんなオジサンが声を荒げるなんて恥ずかしいかな、なんて考えていたのにこんな熱を見せつけられたら

「走れーッッッ!!!」

まあ、人生で最初の最後なんだ手すりに身体を寄せて叫ぶくらいはやつても良いか。

私が勝てたのは、とある人から応援されたからです。

その人はレースを普段は見ない人なのに、私の応援をしたいと今日のレースを見てくれました。

走っている時は色々な音が聞こえて応援の言葉を一つ一つ理解する事は難しいです。

でも、貴方の声は確かに届きました。

本当に有難う御座いました。

私は、もう少しだけ旅をしてみます。

—

「異君、突然家で倒れたと聞いたから顔を青くして飛んで来たのに、ナンダ、案外ぴんぴんしているね？」

「ああ、嫌。恥ずかしながらこの歳で興奮から大声を上げてしまつてね、後々立ちくらみで」

「馬鹿だねえ……君、身体は弱い方なんだから自重しなさいな」

「芳司君には心配をかけた」

「全くだ。俺も、妻も心配した。1番は君の奥方だけだ」

◇ご高覧あれ、美しき名花の走り

走る相棒の背に乗って、呼吸を合わせる。

G1の舞台は他の重賞、レースと比べても緊張感があるものだが、今日は一層その気が強い。

誰しもが勝ちたいと願い、天上人へ勝利を捧げる榮譽を狙っているが、それは馬には分からない。理解出来ない概念だ。

だからこそ俺は、何時もの様に、彼女がすつと気持ち良く走れる様にアシストをするだけ。

2, 000メートル。最後のコーナー前。

彼女のラストスパートを邪魔されない様に進路を取ろうと手綱を握り直せば、誰かから「まえにいきたい」と言われて思わず顔を不自然に上げてしまう。

目を動かして声の主を探っても勿論、そんな事を言う騎手はいない。

幻聴かと思ひ、レースへと今一度集中すれば再び「だいじょうぶ、いけるよ」と声が聞こえた。

初めての感覚と体験。

もしや馬の声が聞こえたのかと思つて、相棒の表情を窺えば今までとは違う、ギリギリと焼け尽くされる様な闘志を感じる。

「そうか。なら、信じよう……！」

鞭を1発、合図を送れば、それだけでスルスルと加速し小さな隙間を撃ち抜いて前に出る。

もう大丈夫だな。と、頭の片隅で感じる。

彼女は最高だ。と、確信する。

此処まで来たなら、俺ができるのは、たった1つ。

アセビボタンから振り落とされぬ様にする事だけだ。

・
・
・

あの日の天覧競馬を見たファンは口を揃えてこう言った。

「凄いものを見た」

最終コーナー前からの無鉄砲なラストスパート。

馬群の中をスルスルと飛び出す少し小柄な馬体。

最強だと言われた彼女が、最強のままファンと、チームと、あの最上階からご覧になっている2人へ魅せた走り。

かのヘブンリーロマンス、かのエイシンフラッシュとはまた違う敬意の示し方。

ゴール板を過ぎ去って先程とは違う、緩めた足取りで芝の真ん中へ綺麗に止まった未だ黒い馬体、鞍上がヘルメットを外しその首筋へ軽く2回「そのままできてね」と合図を送り噛み締める様に頭を深く、長く下げる。

それを真似たのか、只偶然そうなたかは誰にも分からないが、鞍上が頭を下げるその下で最強で最高の相棒も前脚を軽く曲げ、その頭を深く下げた。

ヘブンリーロマンスが礼儀正しいお辞儀。

エイシンフラッシュが格好良いお辞儀。

そう例えるとしたら、アセビボタンは少女がカーテシーをする様な「美しいお辞儀」だったのだ。

湧き上がる完成と拍手、それは人馬が共に検量室へと消えて尚、1人と1頭へ向けられ続けた。

1 2 3 : 名無しが適當語り I D : o T H f t G 6 Y Y
アセビボタンの天覧競馬好き

1 2 4 : 名無しが適當語り I D : U v Q c e G l l Q
分かる

1 2 5 : 名無しが適當語り I D : w P i x m k V 0 9
1日に1回見直してゐる気がする

1 2 6 : 名無しが適當語り I D : o y a W + c n T /
レース自体も最高だけど、その後がもつと最高

127：名無しが適當語り ID：Y P X s x Y c T s
 騎手が馬上敬礼した後にアセビボタンも釣られてお辞儀する流れが美しいんだ……

128：名無しが適當語り ID：n t A E B X I 6 d
 多分落ち着かせる為の首ポンだとは思うんだけど、結果的にお辞儀しようねの合図に見えて可愛い

129：名無しが適當語り ID：/ V q q Q D p d M
 >>>128

ボタン「オーミがお辞儀してる！私もやらなきや！」

130：名無しが適當語り ID：G F h v A 6 R 7 a
 >>>129

可愛い

131：名無しが適當語り ID：G c B j U V o d h
 近江騎手勝利を噛み締め過ぎて10秒くらいお辞儀してたけど、ボタンの方もずっと

お辞儀してたの、ほんま、ほんま、

132 : 名無しが適當語り ID : g v v r e o P R E

ボタン、お前本当に馬か？

133 : 名無しが適當語り ID : F l V 8 A k l D E

U M A かもしれない

134 : 名無しが適當語り ID : H + 3 l b 8 J N u

少なくともアセビボタンが可愛くて頭が良いという事は間違いない

135 : 名無しが適當語り ID : v k 4 6 r o n S E

>> 134

それだけは正しい

136 : 名無しが適當語り ID : d g g 7 L V h B 2

>> 134

ベストアンサーにしますね……

ステップの確認事項

「ロード！次のレースは、根岸ステークスに決まったぞ」

「根岸、ステークスって、ダートの然も短距離じゃなかったかな？うらは障害レースに出ると思っていただけだね？」

「アセビロードが障害レースに行く事は決定事項だ。しかし、地面が殆ど芝とはいえ、ダートの場所もある。ロードが砂を走れるか、走れないか、言ってしまうえば確認の為だな。勿論、勝ったら勝ったで大金星だ」

「勝つかー、ふむー、うら的にはプラス2, 000欲しいね」

トレーニング後のストレッチ、チームの皆と一緒にクールダウンをしていればトレーナーに声を掛けられて、まさかの提案に珍しく驚いてしまう。

他の皆だつてうらの適性外のレースへの提案で変な顔になっている。

「だけど、訳を聞いてみれば案外納得できるもので、出走枠を1つ潰した気分になつて少し申し訳なくなるが、これもうらが成長する為だ。ご勘弁、だね。」

「ダートを走れるかの確認だが、勝負には本気でな」

「勿論。そこは重々承知、本気で行くさ」

【東京競馬場。第1ーR。根岸ステークスに出走する全16人のウマ娘がゲートへと向かいます。注目のウマ娘はシャバランケ、チーフパーサー、デユンナ。逃げと得意とする3人は一体誰が逃亡者となるのか】

係員さんに案内されて、ゼツケンと同じ8番のゲートに入る。

【そしてアセビロード。普段は長距離、芝のレースに出走している彼女ですが、まさかのどんでん返しを起こせるのか】

次々とライバル達がゲートに入るのを待つ中で、うらの事が紹介されて少し照れ臭くなった。

今日は初めての砂。それに距離もうらにとつては短過ぎる。

「確認だから」

そんな大義名分を掲げれば勝てなくても良いのだろうか、適性外でもうらは1人のウマ娘として、勝ちたい。

ゲートの中で怒られない程度に脚を動かして、その時を待つ。

【第×回、根岸ステークス。スタートしましたッ!!】

ガコンと開いたゲートと同じタイミングで飛び出す。

うん、良い感じッ!

【残り200の標識を通過! 現在先頭はチーフパーサー! その後ろをリードノベルが追っていて、その次ドユンナ、フリルドベリー! アセビロードは未だ最後方です!】

脚の感覚が違う、距離が足りない、経験も足りない!

やっぱり短距離の時間はうらには早過ぎる!

でも、でもでもここで諦めたら、障害レースで勝つなんて夢もまた夢。

まだ、道は見えていないけど、参考に見た過去の根岸ステークスでやっていたあのウマ娘さんみたいな追い込みを、やってみる。

【アセビロードが後方から一気に飛んで来たぞー!! 凄い脚だ!! 前に届くか! 届くか!! 届

くか!!!」

少し無理矢理に脚を使った所為で、1, 400メートル走っただけなのに珍しく息が上がった。

流れる汗を拭って掲示板を見ればうらの番号である8は掲示板に入っていないかった。判定の映像を見る限り、どうやら5着のウマ娘さんと頭の差で負けたらしい。

「根岸ステークスお疲れ様、ロード。凄い脚だった」

「うん。でも、負けてしまったねー」

「それはまあ、悔しいけれど、仕方のない所もあるさ……ダートでも走れそうか?」

「そーだねー。うらは、走れる。と!思うね」

「そうか。では、疲れが取れてから本格的に障害の練習を始めようか」

「あいあいさ!宜しく頼むね、トレーナー」

そんな話をして、ちよつとの休息を挟んで始まった障害レースの練習。

流石に本番と同じ障害は用意できないので、簡素な物にはなっているが種類の違う障害を並べて、芝の上にごっこからトレーナーが持つてきた砂を撒く。

「トレーナー？あの、これは？」

「簡易版、芝とダートの境目だ」

「境目……？」

「俺も噂でしか聞いた事無いが、障害レース中の芝とダートが切り替わる部分で怪我やミスをするウマ娘が時々いるらしい」

「えー、本当なのかな」

「正直俺も半信半疑だ」

強者達が舞う、未だ高い壁

とある日、トレセン学園に響いた一つの叫び声。

肺活量を存分に生かしたその声の主は成長を見越した少しぶかぶかなジャージを着た黒髪のウマ娘である。

何故、そうなってしまったかは今からたった5分前に言われたとある言葉が引き金になっっている。

・
・
・

未だ寒さが残るが、暖かいと感じられる日も少しずつ確認でき始められる様になった2月の某日。

チームシエアト、フルメンバーの6人でトレニング前のストレッチをしていればトレニングメニューが書かれた書類を挟んだバインダーを持つトレーナー、若旅伊吹がアセビコウロに話し掛ける。

コウロはまさか怒られるのでは無いかとビクつきながらトレーナーの元へ近付いた。

勝負服に身を包んだ16人のウマ娘が東京競馬場のターフに立つ。

G1レースという事もあり、全員の顔が自信に満ち溢れ、いつも以上に緊張感が漂っている。

そんな中、唯一3枠5番のゲートに割り当てられたピカピカの勝負服を身に纏うアセビコウロだけは今にも倒れてしまいそうな、他とは違う意味の緊張感を漂わせている。控え室で皆から背中を押して貰った筈なのに、既に泣いてしまいそうである。

【第 回。フェブラリーステークス、全ウマ娘がゲートへ入りまして……今、スタートしました！】

奇跡的に出遅れは無く、綺麗なスタート。

歓声が五月蠅い程にウマ娘達へ送られ、自分が夢を見たウマ娘の奇跡を信じる。
1, 600メートル、たった2分の戦いが始まった。

「お疲れ様」

「……わたし、14着でした」

「ビリじや無かった。最高の結果だったよ。走りも悪く無かった」

「でも、こんな結果じゃG1なんて……」

「何言ってるんだ。コウロはまだ中央に来たばかりだろ？結果は急ぐものじゃ無い」

「で、でも……障害レースの先輩は有馬に出ても9着だって聞きました……」

「彼奴は別枠だ。絶対王者、100年に1度の天才、障害レースの最終障害って言われて

いる奴と、コウロ違うんだよ」

「……はい」

「俺が教えた通りに走れたか？」

「……はい」

「今日は何で負けたと思う？」

「……歓声なんですけど、耳に響いて、慣れなくて」

「成る程な……よし、次行くぞ」

「へっ!!次!!」

「明日からまた練習三昧だ。次こそ中央の重賞を獲るぞ」

「!……お、おす!!」

憧れと癖者とG1初勝利

1 : 名無しが適當語り ID : T P q 4 Z j C D v

【朗報】

終身名誉小金井騎手オタクの百合江水仙騎手がG1初勝利を挙げた模様。
クソオタクおめでどう
!!!!!!!

2 : 名無しが適當語り ID : O U 4 Y w n T l t
おめでどう!! 限界オタク!!!

3 : 名無しが適當語り ID : f 7 K A m P b 9 h
めでたいなあ! 言動以外!!!!

4 : 名無しが適當語り ID : I c C l f B r C j
応援してて良かった……限界オタクさん……おめでどう……

5：名無しが適當語り ID：Ah/90EFhy
 騎手全然分らないけど、G1初勝利という事でスレ覗いてみたらボロクソでワロタ
 愛されてるんだよね???

6：名無しが適當語り ID：iu3Oy4FME
 >>>5
 めっちゃ愛されてるよ

7：名無しが適當語り ID：gdxjrur3YR
 >>>5
 (スレからも、騎手からも) 愛されてる男だよ

8：名無しが適當語り ID：W+YZ/CVzc
 乗馬経験無し、競馬村とも関係無しでありながら競馬学校を2番目の成績で卒業し、
 デビューから初勝利も早く、重賞でも中々良い成績を残しながらもG1は今回が初。
 優勝インタビューで「馬が私を信じてくれて、斗真さんが私を信じてくれて、ファン

が私を信じてくれた。だからこそ私が関係者の方々を信じる事ができて勝つ事ができた1勝です。皆で獲った大切な1勝です」

こんなん好きになっちゃうでしょ

元々おもしろい男だった事は置いておくとして

9 : 名無しが適當語り ID : V P w W f w X t 3

競馬学校卒業して斗真さんと初めて顔合わせた時、初めてじゃないです！ファンレターでご挨拶はしていたので！とか言ってたのほんま草

10 : 名無しが適當語り ID : G U l W j P s u W

>>>9

本人はド緊張してたから……

11 : 名無しが適當語り ID : 3 6 / j i A 4 d d

>>>9

それのお陰？お陰で小金井騎手に師事できたのでオツケーです

12 : 名無しが適當語り ID : x88n2+2SP

百合江騎手、小金井騎手リスペクトで馬降りる前まではガッツポーズとかあんまりしない人だけど、今回ばかりはガッツポーズ出ちやってるの好き

13 : 名無しが適當語り ID : /VtXE0eOm

>>12

分かる

14 : 名無しが適當語り ID : 44VrFu1P0

>>12

すっかりカメラ抜かれて、ガッツポーズ後にあっ……っとなってるのも好き

15 : 名無しが適當語り ID : mlH/6DoJt

地下道に戻って来た時に小金井騎手が百合江騎手以上に喜んで泣いちゃったのマジで「愛」だった

16 : 名無しが適當語り ID : zCzCYT6Zx

20年くらい前にもう馬に乗れなくても良いって言ってた男が周りに引き留められ、馬に乗り続けたこそその名シーンだった

17：名無しが適当語り ID：Eu7NzaXxl

>>>16

あの時、本当に騎手辞めてたら百合江騎手が騎手になる事も無くて、俺らのはわわってなる事もなかったんだもんな

18：名無しが適当語り ID：PP03yckZw

そう考えたら小金井騎手を引き留めた方もっと褒められて良いのでは？金一封くらい

19：名無しが適当語り ID：mLKEhxXNy

「百合江水仙が1着ー！ツ！あの日の背中を追い掛けて、漸くその背と並び立ちましたッ！G1、初勝利です!!」

20：名無しが適当語り ID：navTZAAqG

>>>19

今年の上半期名実況入りやろ

21：名無しが適當語り ID：odKY/YEVj

>>>19

小金井騎手が乗ってた馬と競り合った末の1着+この実況で俺の脳はもうボロボロ

22：名無しが適當語り ID：ClvjBMbCA

思わずガッツポーズした百合江騎手の横を笑顔で通り過ぎる小金井騎手があまりにもね、良いんすよ……

23：名無しが適當語り ID：SA71mdvl6

デビュー当時から小金井騎手を応援してて、その流れで百合江騎手も応援してたけど、今回ばかりは父親面になってしまった

24：名無しが適當語り ID：PAQZpsHaP

「私は只の斗真さんが好きなんじゃなくて、馬と触れ合っている斗真さんが好きなんす

よ

「1日だけ小金井姓を名乗りたい」

「私と斗真さんの年齢差が親子程あって本当に良かった」

25 : 名無しが適當語り ID : f D L Y 8 h w T D

>>>24

感動の中特級呪物をお出ししないで

26 : 名無しが適當語り ID : m p m i 9 x O / H

>>>24

なにこれ。本当になに。

27 : 名無しが適當語り ID : T X k X B Z o v S

3つ目だけ意味が分からん

28 : 名無しが適當語り ID : X h 9 Q 6 t n q S

>>>27

「初めて斗真さん呼びした時に小金井騎手からデカイ息子が突然できたみたいだな！
と言われ）私と斗真さんの年齢差が親子程あつて本当に良かった」

29：名無しが適當語り ID：j s a 9 W R Y f 9

>>>28

鳥肌立った

30：名無しが適當語り ID：6 n 6 g b P h O 6

>>>28

こんながレースではフェアプレー賞常習者とか嘘だろ

必死だった。今度こそだと思った。

私を信じてくれた人、私が信じた人に報いる為に唯一無二の相棒の背に乗ってターフを駆けた。

隣で誰かが私と競り合っている。

でも、今の私は、私達は、負けない。

ゴール板を駆け抜けて、私が一番になったのだと分かった時、普段は行わないガッツポーズが無意識に出た。

やっとだ。やっと、あの人の背中に並び立つ事ができたんだ。

沸騰する頭のままターフを余計に周って、私も地下道へと戻る。この歓声が全て相棒と私、仲間達に向けられていると思うと堪らない気持ちになった。

「おめでとうー！」

「良くやったー！」

「頑張ったなー！」

沢山の言葉を貰って、馬から降りる。

どつと疲れが押し寄せてきて倒れそうになる身体を誰かに支えられて、抱き締められる。

親以外からこんな事をされるのは初めてで、誰かと思いい顔を向けたら、私の憧れる人の顔があつて

「おめでとう!! ああ、自分が勝った訳では無い筈なのに、なんだろうなこの感情!! おめでとう! 水仙!! 嬉しいなあ!!」

私以上に感情を爆発させて喜ぶ様を見て、私も釣られたのか腹の底から例える事のできない想いが湧き上がって、久し振りに涙が溢れる。

「はい……! はい! やった、やりました!!! 私と、相棒オシリイバデーで!!!」

◇在りし日を思う

あれは、10歳の誕生日を迎えて直ぐの話だ。

僕は走って数十分程の場所にあるとある施設に潜入した。

そこは海の近くにあつて、校庭よりも広いのに何をしているのか分からない場所。

両親からはお前にはまだ早いと言われたけれど、施設に入つて行く人達の楽しそうな表情を見たら気になつて、仕方がなかつた。

誕生日前までにしっかりと調査して、その施設に入るには1000円という大金が必要なる事を知つた。しかし、僕の貯めに貯めたお小遣いを使えばなんとかする事ができるので問題はなかつた。

おじさんの後ろを歩いて親子を勝手に装い、念願の謎の施設に入る。

その場所は木が一本生えたグラウンドに、沢山の座る場所が並んだ謎の建物、更には最初に見たグラウンドよりも大きいグラウンド。

成る程、ここは運動ができる施設なのか。

納得と共に両親は何故この場所が僕には早いと言つたのか、何故運動施設なのに人が

グラウンドの中に居ないのが新しい疑問としてやってきた。

「なあ、おじ」

疑問を解消しようと近くにいたおじさんに話し掛けようと思つたら、小さなグラウンドの周りにいたおじさん達が声を上げて思わずそちらに釣られて顔を向ければ、なんと、グラウンドの中に馬がいたのだ。しかも10頭以上。

見慣れない動物と、訳の分からない施設にずっと頭が混乱していた。

「な、なあ、おじさん！どうして馬がいるの!？」

今度こそおじさんへ興奮気味に話し掛ければ、おじさんは面倒臭そうに煙草を吸いながら「ケイバジヨウ」である事を教えてくれた。ケイバジヨウは沢山の馬を走らせて、1着になる馬を当てる遊びができるらしい。

「それ、僕もできる?!」

「ア?……ガキには無理だ」

「どうして?」

「1回遊ぶにはな、入場料の倍以上の金が掛かるんだよ」

「入場料の、倍……?」

頭がクラクラとした。

僕がここに入る為のお金を出すにもお小遣いを切りはたいて苦労していたのに、高々

1回遊ぶだけで倍以上なんて出せる訳が無い。

まさか、僕はとんでもないお金持ちの遊び場に来てしまったのかもしれない。

「坊主、お前何でこんな場所に来た」

「え？えつと、ずつとこの場所がどういうものか気になって、先週10歳になったから、突入してみようと思ったんだ」

「ハッ、お前もクソみてえな場所が気になったモンだな」

おじさんは僕を鼻で笑いながら吸い終わった煙草を地面に押し付けて、2本目に火を付けると、どの馬が気になると聞いてきた。

僕は正直、毛の色の違いしか分からなかったけど、何となく目を奪われた馬を指差す。

「あれ！あの、3番の馬！」

「ほお、中々良い馬に目を付けるじゃねえの。あの馬はな、少し前にダービーに勝ったんだ」

「ダービー？」

「ああ、何万頭といるかもしれないねえ馬の中で1番になった馬だ」

「！凄い！じゃあ、あの馬が1番だね！」

「嫌、分かんねえぞ。なんだって、ダービー馬の癖に今はこんな所にいるんだからな」

「？」

日本ダービーが凄いという事は分かったけれど、おじさんの言っていた言葉はよく理解ができなかった。

首を傾げる僕をおじさんは態々大きい方のグラウンドにまで連れて行って、色々教えてくれた。

僕はおじさん達が持つ券？を買う事も出来ないが、3番の馬を応援しようと思った。

馬がグラウンドに集まって、一斉に走り出す。

僕が応援する馬は茶色い毛で、他と見分けが付けられなくて必死に「3」の文字を目で追った。

馬の名前が分からなくて3番！頑張れ！って応援したら、隣のおじさんは笑っていた。

3番の馬はスタートが下手だったのか走り出してからはずつと、後ろの方にいて勝てそうにも無かった。

だって、3番の前を沢山の馬が走っていて、先頭なんかはもう何十メートルと離れている様にも見えたから。

口では応援しても、頭は冷静に負けの2文字を受け入れていた。

目を惹かれて勝って欲しい馬ではあったが、遊びにしつかりと参加している訳では無いから仕方ないと思った。

「僕の3番、勝てないね」

「ん？……ああ、まあ、初めてはそう思うわな」

「どういう意味？」

「競馬はな、人間のかけっこと違うんだよ」

見てみなど視線を誘導されて、大きいグラウンドへと目線を戻せば3番よりも後ろを走っていた白い馬が段々と前へ、前へ脚を進めていた。

3番もさつきよりも脚が速くなっている様にも見えて、思わず立ち上がる。

4本の脚で地面を蹴って、徐々に、徐々に他の馬を追い越して行く。

無理だと思った1番前との差も狭まって、瞬きをした内に遂には抜かしてしまった。

周りの何人かのおじさん達が声を荒げているのも気にならないくらい心臓がバクバクと早く動いて、息が荒くなる。

「………凄い」

「おー、久し振りに良い走りしやがったな……5レース振りの勝利か」

「ね、ねえ！おじさん！あの馬、なんて名前なの?！」

「あいつかあ？あいつはな」

2022年8月20日（土）

見ていた風景が歪んで、思わず目を開ける。

そこにはあのおじさんも競馬場すらも消えて、自分の家に戻っていた。

膝の上には1冊の本が乱雑に置いてあって、自分がどうしていたのかを思い出す。

昔の様には動かない不便になった身体で立ち上がり、水でも飲むとうと部屋を出れば、見慣れた我が家が広がっている。

湯呑みを持つて居間へと入れれば、昨日から遊びに来ていた孫が携帯電話を弄つて何やら嬉しそうに騒いでいる。

「どうしたんだ？」

「あつ！爺ちゃん！爺ちゃんつて、競馬とか見てる？」

競馬。10歳の時分以降は勉強やら、仕事やらですっかり見なくなっていたもの。

の
けれどあの時の光景が目焼き付いて、もう1度見たいと時々テレビで流していたも

「少し見る程度だな」

「じゃ、じゃあさ！昔の馬は知ってる？」

「昔？突然どうしたんだよ。はまったのか？」

「……はまったというか、」

孫の口からポツリ、ポツリと放たれる先程喜んでいた訳。

今の時代は競走馬をモチーフにしたゲームが人気になり、孫もそれが好きで今はモチーフとなった競走馬を調べるのがブームなのだそう。

「はあ……だが、爺ちゃんだって有名な名前を知ってるくらいだから、お前が好きな馬はなんて言うんだ？」

「えつとね、」

孫が口にした言葉。

その言葉はどうにも俺と、関わりがあり過ぎる名前で笑ってしまふ。

「懐かしいな。……アセビズズナか。覚えているよ、荒尾の海を背にして走り抜けた茶色の馬、差すのが得意な3番の馬」

もう、その馬が走る姿は見られない。

もう、その馬が走った場所に行く事も叶わない。

だけど、久し振りにその馬がその競馬場で走っている姿を思い出せた。

「……今日は寿司取るか」

「え!? お祝い事なんて何も無いよ?」

「爺ちゃんが今決めた。孫への感謝だ」

「尚更意味が分からないんだけど!」

飛べ、その手が触れる前に

中山競馬場。

明日の大レースと比べると少し寂しい雰囲気のあるこの場所で年に2回しか演奏されない、少しだけレアなファンファーレが鳴り響いた。

うらはは今日、出走の予定は無いが仲良くしている子達の応援の為、この場所にやって来た。

「頑張りな！怪我はしない様にね〜！」

ゲートへと向かう途中の2人に声を掛ければ芦毛の彼女は会釈を、鹿毛の彼女は今日も抜かすと意義込みをうらに残して歩いて行った。

何回か同じレースにも出走した2人は正しくライバルで、今日はジュウちゃんが勝ち星を上げるのか、それともデイトちゃんが見せつけるのか。

4, 250メートルの戦いが今、始まった。

【現在先頭のアップトゥウデイトが5番目のハードルをジャンプしました！安定した飛越です!!……そして今、後続のオジュウチヨウサンが5番ハードルをジャンプしました！打って変わって薙ぎ倒す様な荒々しい飛越です！】

一瞬だけ止めていた息を吐く。

最後尾の子が無事ジャンプしたのを確認して拍手を贈る。

ジユウちゃんとデイトちゃんは同分野の選手でありながら、攻略方法は正反対だ。

デイトちゃんは模範的で綺麗な飛越をロスなく行い、ジユウちゃんは殆ど跨いでるに近い怪我するギリギリを攻める飛越。

だからうらははジユウちゃんがハードルに差し掛かった時には息を止めてしまう。

もう少し経験を積んだら、ちゃんと跳べるようになれば良いんだけどね。

・
・
・
【12番目のハードルをオジュウチヨウサンが今ジャンプしました！リードを5バ身程付けてアップトゥウデイトが追います!!】

最後の直線。中山の400メートルも無いターフをジユウちゃんが1人で独走する。

トレーナーさんが変わってからには正に才能開花としか言い様の無い、王者の走り。

デートちゃんも必死に食らい付いているのにその差は絶望的で追い付けない。
オジユウチヨウサン、1着。

アツプトウデート、2着。

ゴール板を駆け抜けて、減速した2人が敵では無くライバルとなって戻って来る。

「お疲れ様、なんだね」

「今日も俺の勝ちだな！」

「そうね、おめでとう。でも、相変わらず飛越は下手ね」

「は、はあ!? 勝者に対する第一声がそれかよ!?」

「気を付けなさいって言ってるの」

「んだとお!」

「まーまー、2人共良く頑張りました。だから今日は、そういうの無しでお祝いをしよう

と思ってるんだけどね?」

「マジ!? ゴチになります!」

「全く……貴方ってば」

「んふふ。良いライバルは、素晴らしいね」

「ライバル?」

「貴方が?」

性格も、レーススタイルも、生き方も違う2人が見つめ合ってギラギラとした闘志を目に写す。

「次も勝つ」

「……あっ！でも、ジュウちゃんは打ち上げ前にちゃんと、危険な飛越をした事をトレナーさんから絞られて来るんだよ」

「オジュウ、こつちおいで」

「げえ！もう来やがったのかよ!?!」

「ほら、早く行きなさい」

「……ちつ、こうなったら投げ飛ばしてでも逃げるしかないか……!」

炎に焚べる、新緑の香り

私のチームにはじやじやウマ娘がいる。

その子は口と素行が少し悪くて、レースにもあまり意欲的では無い。

成績はデビューから全戦全勝のストリートでオープンウマ娘入りした凄い子なのに、それ以降は勝ち切れない。

ポテンシャルだけならきつと学園でも随一なのだからもう少し真面目に言って
も、アタシには関係無いの一点張り。

ちよつとだけ難しい気性の頑張り屋さん。

「それじゃあ、頑張つてね。私は観客席で見てるから」

「別に、先輩ハもう帰つても良いんだケド」

「そんな事言わないで。私はスーちゃんの活躍が見たいんだから」

「スーちゃんって呼ぶなし」

私とは違う洋装の勝負服に身を包んだスーちゃんこと、アセビスズナは面倒臭そうに控室の椅子に座つて脚を組んでいる。

これから始まるG1レースに出るとは思えない落ち着きようで、側から見れば緊張をしておらず、私から見たら案の定意識がどこにも向いていない。

「今日、勝てるかな？」

「どうだろうな。マア、悪い結果にはならないダロ」

「私、スーちゃんが久し振りに勝つ所、見たいよ」

「気が向いたらナ」

いつもと変わらない会話。

私にはスーちゃんの気持ちをどうにかするなんて出来なくて、頑張れます様にとって祈る事しかできない。

暫くして、スーちゃんはスタッフさんに呼ばれて控室を出て行った。それを確認して、私も観客席へと向かう。

・
・
・

「……トレーナーさん。どうしたら、スーちゃんは走れるのでしょうか」

トレーナーさんが空けておいてくれた席に座って、ターフを見つめる。

私は今、スーちゃんへの期待よりも心配の方が大きくなっている。

「俺も分からん。模索してどうにかできないかと思っではいるが、スズナからは回路が回らないとだけ言われてお手上げだ」

「回路、ですか？」

「そう。スズナの中には確かに譲れないモノがある。だけどそれはスズナの人生というよりは、スズナが目指すたった1つにしか作用しない。スズナが全てを費やして走るのはきつと人生の中でほんのひとつまみ程度の瞬間しかない」

「そう、なんですね……今のスーちゃんやんが信念から来るものなら、きつと、私のお小言なんて聞いて貰えないですね」

「そんな事言っつてやるな。スズナの信念は、ボタンにもきつと良い方向に作用するさ」
ファンファーレが演奏される。

スタンドから近い場所に設置されたゲートへと勝負服姿のウマ娘達が落ち着いた様子でスムーズに枠入りを進める。

最後の1人が入り、一瞬の静寂。

「………始まる」

ガコンと一齐にゲートが開いてクラシックの最初の冠、皐月賞が始まった。

「……スーちゃん。お疲れ様」

「ン」

1：59：8で決着した皐月賞でアセビスズナは5着になった。

最後の末脚は上手く出来ていたけれど勝負所が少しだけ遅く、ギリギリ掲示板入るのが精一杯だった。

「スーちゃんはクラシックを目指しているから、次はダービーだね」

「オウ」

「覚えている？スーちゃんが入学して、私と出会って直ぐの頃、ダービーで負けた私を挑発したの」

「事実ダロ？」

「それは、そうだけど。……あの時のスーちゃんはダービーに勝つて言っていたけれど、今も「アタシはダービーに勝つぞ」……そう、思ってるの、か、な……？」

私の言葉に割り入ったスーちゃんの言葉。

こんな事は珍しくて、思わず自分の手に落としていた視線をスーちゃんへと向ければ強い意志と、今までとは違う勝利へと喰らいついてしまう様な鋭い瞳と交差する。

初めて見た。アセビスズナが見せる本気の欲。

「スズナの中には確かに譲れないモノがある」

トレーナーさんの言葉がふと頭によぎる。

そうか、これが。

あの時限りの宣言なのでは無く、渴望し炎を燃やすそれが、スーちゃんの望むもの。

あどけない君へ偉大な2分間を

わたしは昔より、ずっとずっと強くなったと思います。

最初は中央で結果を残すなんて夢物語だと思っていたけれど、わかさんトレーナーやチームの先輩達のお陰で名だたる強豪と遜色無い走りを出れる様になりました。

目標だったさきたま杯と浦和記念にも勝てました。

そして、目標を達成した今、何を目標にすれば良いのか分からなくなりました。

惨敗したフェブラリーステークスでも私は勝てる様になって、なんと言うか、強くなれたのは良い事なのに、ここまで来てしまうと心がびっくりして、前に進めないんです。

「わたしは、どうすれば良いんでしょうか」

目の前のわかさんトレーナーは難しそうな表情で、何かを考える。コウ口はどうしたい？と聞かれても、わたしは答えられなかった。

目標を達成してしまつて、わたしの中のナニカが無くなつたしまつたかの様な感覚でどうにもレーススへの意欲が湧かなくなつていた。

わたしの心は「走りたい」「強くなりたい」つて言っているのに身体が動いてくれない。「地方のわたしが中央においでとスカウトされて、最初は皆に全く歯が立たなかつたの

にチームのお陰で、さきたま杯と浦和記念に勝って、中央のレースにも勝って、上手く行き過ぎた所為で……」

「それは全てコウロの努力があったからこそだ。俺達は少し背を押しただけでそれ以外はコウロが積み上げたものがあつたからこそ」

「でも、何かが無くなつてしまった。贅沢な悩みの筈なのに、こんなにも苦しい」

わたし達はレースに出る度に他の17人の夢を破って1番になる。17人を絶望に落としながら栄光を掴む。

「……じゃあ、こうするのはどうだろう？コウロが目標を見つかるんじゃ無くて、コウロが目標になる」

「わたしが、ですか？」

「ああ。コウロは地方から中央にやって来て、良い成績を残している。それは紛れもなく目標とされるに相応しいウマ娘だ」

「で、でも、わたしと同じ様な経歴を持っていてもっと凄いうマ娘さんは沢山います」

「だろうな。でも、コウロが唯一と呼べる栄光を手にしていけば同じなんて言葉は使えない、思われたい」

「唯一？」

わかさんトレーナーが徐にノートパソコンの画面をわたしに向ける。そこに写って

いたのはとあるレースの映像。

日本のレース場らしからぬ雰囲気と、方々で聞こえる日本語では無い言語。

「地方から中央を制する、そういうウマ娘はいた。だが、地方から中央を制して中央以外も制する。これは中々ないだろ?」

パソコンから流れるアナウンサーさんの声。

拙いリスリング力を駆使して聞こえたのは「ケンタッキードービー」というタイトル。
わたしにも覚えがあるアメリカのG1レースで知名度、名誉共にとても高いメインレース。

「このレースで、地方から海外に飛んで尚且つ奇跡みたいな事をやったウマ娘が出走している。誰もが夢を見る走りをした凄い奴がいる」

紫色の勝負服。

高く結んだ黒髪のウマ娘。

「コウロも、こういうヒーローになれるんじゃないか?」

ヒーロー。わたしが、ヒーロー?」

無理ですよ。わたしには。

思わず溢れた言葉は飲み込んだ。その代わりに別の言葉を吐き出す。

「わたしにもそんな事ができるでしょうか?」

「できる。とは、簡単に言えないな。スポーツの中で最も偉大な2分間と称されるレースだし、ダービーじゃ無かったとしても世界の壁は高い。だけど、一緒に行こうとは、言える」

「……わたしが、その舞台に行きたいと行ったら、着いて来てくれるんですか?」

「同じ飛行機、ファーストクラスを用意しよう」

思わず笑ってしまう。

ファーストクラスなんて莫大な出費、いくらトレーナーという職業でも難しい筈だ。

でもそんな事を言ってくれるくらい、わたしのことを信じてくれるなら。

「約束、ですからね」

「約束だ。これからは暫く、どうすればなんて言えなくなるからな」

「……はいっ!」

育成目標：オークスで3着以内

【第 回優駿牝馬、これから始まる2分半の戦いで今年の櫛の女王が決まります。1番人気は日本ダービーにも出走した異例のローテーションに挑戦するアセビボタンツ！】
建物が壊れんばかりの歓声に包まれながら、1人のウマ娘が地下道からその姿を表す。

毛先だけが黒い葦毛に左耳に結ばれた花飾りが付いたりボン。見慣れた紫色の制服とは違う、落ち着いた色で纏められた勝負服。

コツコツと音を響かせながら、落ち着いた様子でコンクリートを越えて芝の地面に脚を沈ませる。

周りがファンや友人、トレーナーへファンサービスをしながらゲートに向かう中、1輪の花だけは前だけを見て真っ直ぐに歩いて行く。

その目に牡丹の色を灯しながら。



【さあ、貴方の愛バが女王になる瞬間を見届けよう！第 回優駿牝馬が今、スタートしま

したっ！」

一斉に開いた鉄の扉と同時に18人のウマ娘が飛び出した。レース前インタビュの通りにポジション取りが進んでいるが、1番人気に押されたアセビボタンは出遅れたのか後方に近い位置に収まっている。

「おおっとここで、アセビボタンが出遅れたか後方のレース運びとなりました！初めて見る位置取りですが、矢張り先週のダービーが響いたか！」

「……クソっ、やっぱり出遅れた！」

応援の声に掻き消される中で、1人の男だけが苦々しい顔をして第1コーナーを回って行ったウマ娘達の背を見送って、ターフビジョンに視線を移す。

男が見つめる葦毛のウマ娘は相変わらず先頭のウマ娘から10バ身以上を離された位置にいた。

「だが、これはまだ想定済み。作戦は伝えてあるし、他のウマ娘にも囲まれていない……！」

それに、ダービーの2着でスイッチが入ったのか出遅れという大きな要素が気にならない程に、彼女は今、最高の状態に仕上がっている。

1週間という短過ぎる休みの中で彼女は疲れを残す所か、更に上へ行った。

「お前の旅は、誰にも邪魔されない」

届かない声援^{祈り}。

それでも、言霊なんてスピリチュアル的な考えが信じられているのだから、その男も、全力で自分の教え子に言霊を乗せる。

「……走れ、ボタンっ」



第4コーナーに入る。

先頭で逃げるウマ娘さんの背中はこの位置では見えない。

ラストスパートを仕掛けるタイミング。でも、前は沢山のウマ娘さん達がいて、私はバ群に入っていく事が出来ないから内を進むのは難しい。

初めての後方で走るレース。初めてのバ群の交わし方。

迷惑にならない様に気を付けてコーナーで態と膨らむ。

そして、直線でラストスパートッ！

「ここで、ここで！アセビボタンが外に持ち出してラストスパートを掛けるツ！東京レース場、残り約526メートル！連闘したその脚は坂を越える力が残っているのか!?」

私かもしここで負けるだけなら、次は頑張ろうって言われて終わる。

でも、私は自分の我儘を言ってダービーにも出走したのだから負ける事は出来ない。

ここで負けたら、不調のまま担当ウマ娘を出走させたなんて言われて、トレーナーさんも優しいから私を守ってしまおう。

それだけは、それだけは嫌なんだよ。

私は、ここで負けられない。

ダービーに出したからなんて言わせない。そして、幻あの馬子と隣で並び立てる様に。

「私が、勝つ!!」

このレースで、私は私の歴史負けを打ち破る。

【アセビボタンが今一着でゴールイン!!この瞬間に櫛の女王が決まりました!女王の名はアセビボタン!“花の王”として名高い牡丹を名前に持つウマ娘が異例のローテーションで2冠達成!!前回の悔しい結果にリベンジすると共に、優勝として3冠が期待されます!!】

「……トレーナーさん」

「おめでとう、ボタン」

「次は、秋のイチヨウを獲りに行きませんか？ 私達ならきつと、できると思うんです」

「ああ、ああ!! 獲りに行こう。俺がその道を完璧に整えてやるからな!」

「……はいっ。約束、です!」

何処かの世界で生まれた同じ名前の存在は日本ダービー後、低迷した時間を過ごす事となる。

だけど、その歴史を変えられるのならば。変えても許される世界ならば。多くの夢を、その背に乗せて。

アナタがただ一つだけ、落としたものを

「……うん。書類関係はこれで全部、記入漏れと不備も無し。ようこそアセビスズナ、チームシエアトへ」

「宜しくお願いシマース」

広大なトレセン学園の中に設けられた一室。

時間を掛け、書類を満遍なく確認した責任者であり、トレーナーである若旅伊吹は焦茶の髪を高い位置でシヨートポニーにしたウマ娘、アセビスズナのチーム加入届けを受け、理し大切そうにファイルへと挟んだ。

チームシエアト、ペガスス座から名前を取ったそれは「チーム」とは名ばかりのアセビボタン、若旅伊吹のコンビであった。それが今、スズナが加入した事によりチームを冠する一步を踏み出したのだ。

少し癖のある文字で書かれた書類から顔を上げ、若旅は簡単な質問を、言ってしまう。ば定型文の質問を投げ掛ける。

「えっと、なんて呼べば良い？」

「なんでもイイ。アタシをちゃん付けしなれば」

「じゃあスズナで……スズナの目標は？」

「アセビボタンを扱き下ろすこと」

「え〜と、あつ、名前が似てるしもしかして姉妹なのか？」

扱き下ろす。なんて、初対面の相手にはまず出ない言葉。

もし、アセビボタンが人から恨みを買ひ易い、気性に癖のあるウマ娘なら分かる話だが、実際の所気性難とボタンとでは辺戸岬から喜屋武岬くらい程遠い性格をしているウマ娘である。恨みなんて買う筈が無い。

その為若旅は2人が姉妹である事を予測した。

2人は共に「アセビ」の名が付いたウマ娘であり、血の繋がった家族ならばスズナが現在思春期であり、ボタンに対して少しだけ難しい時期なのだと考えた。

「あ？アイツとアタシは無関係だ。アタシはアタシの家族がいる」

「そ、そうなのか……」

しかし、予測は外れチームへと歓迎して直ぐに若旅はとんでもないウマ娘を受け入れてしまったと、胃を痛めそうになった。

だがそこはトレセン学園所属のトレーナーとして、ウマ娘同士の相性は今後どうにかすれば良いと頭の片隅に一旦追いやり、2つ目のこれもまた定型文の質問を投げ掛け

る。

「アセビズズナの勝ちたいレースはなんだ？」

口にして仕舞えば5秒もいらぬ。20文字にも満たぬ質問に一瞬、アセビズズナの鈍い黄色の瞳が光る。

若旅が見えたのは、どこか無気力に見えるスズナの中の激しく燃えているような苛烈さ。

「……ダービーだ。日本ダービー、アタシはそれが欲しい。それ以外はいらぬ。例えば、アタシが5年後には忘れ去られた存在だとしても、それだけは奪い取って行く……アタシを、ダービーで勝たせろ」

広く無い。けれど、狭くも無い部屋が一瞬にして威圧感に支配される。呼吸が阻害されるかの様な不快感を覚える。

これが、アセビズズナが譲れないもの。

全てのウマ娘が、全てのトレーナーが、目指し、勝つたら引退しても良いなんて言葉があるその頂へと鎬を削る只一つだけ、たった一人だけに与えられる榮譽。

「分かった。トレーナーとして、君を世代の最強へと連れて行くこう」

「当たり前だな」

硬く結ばれた手。それは、歓迎の合図でもあり運命共同体の始まりの一步。

デビュー戦、勝利。

条件戦、勝利。

オープン戦、勝利。

弥生賞、3着。

皐月賞、5着。

これが、アタシの成績だ。

オープン戦までは概ね順調に進んだが、それ以降のクラシックに関係するレースには次に進めるギリギリでしか結果を残せない。真面目にやっても、何故か脚が進まない。

身体の不調も無く、レース運びや作戦だって完璧なのに操られたかの様に結果が出ない。

これがアタシのウマソウルなんてものが起こす不具合なのか、カミサマからの天命なのかは分からない。

日本ダービーの事を考えるだけで胸の辺りがガラガラと何かが燃え盛る様な感覚に

なるのに、それ以外では心が震えない。

こんな状態で本当に勝てるのだろうか。アタシと違って、他の17人は1つの榮譽へ向かって直向きに努力している。

アタシが日本ダービーに出走して、勝った後は？もし負けたとしたら？ぐるぐると思考の海に吞まれて時間を使っても、答えは出ない。

「……虚無だ」

やっぱりアタシには、ナニモノナイ。

だけど、日本ダービーを勝ちたい。それだけは、虚無の中にある唯一の光。暖かさ。

欲。

僕は、例え偽善でも、お母さんの忘れモノを届けてあげたいんだ。

「……忘れモノって、ナンダ？」

アタシは今の今まで忘れ物なんかした事ないのに。

【第 回日本ダービー。今日、このレースで世代の最強が決まります。誰もが望み、目指す頂へと辿り着くのはどのウマ娘なのか】

【次は16番、アセビズズナ。あのアセビボタンと同チームという事で注目されましたが、直前の皐月賞とオープン後からの成績、大外枠である事が尾を引いて、現在17番人気です。この人気薄をどうひっくり返すのか、目が離せないウマ娘です】

この場所にいる何十万のニンゲン達の中でアタシを目的にしているのは数える程しかいないだろう。

だけど、それで良い。その方が大番狂わせをするのに丁度良い。

アタシの中で炎が燃えている。あんなに虚無だった中身が今だけは抱え切れない程に、震えている。

人気薄、大外枠から並み居る強豪共を差しおいて、アタシが最強になる。

そして、この場所を絶叫の渦に落としてやんよ。

【勝利の女神は一体誰に微笑みかけるのか！今、第 第 回日本ダービーがスタートしました!!!】

笑つてしまふ程簡単に、救われる時もある

私は、死のうと思いました。

特に理由があつた訳ではありません。

家庭環境は良好で、友人にも恵まれ、苦しい事もあつたけど心を蝕まれ過ぎる程ではありませんでした。

でも、死のうと思つてしまつたのです。

人が自殺をする時突拍子も無く行動してしまうのと同じ様に、私も突拍子も無く死のうと、もしかしたら「死後の世界」というものへ興味があつたのかもしれない。

人が陰謀論にハマる様に、私も早く死後の世界を見たいという魅惑にハマつてしまつた。

毎日どうすれば苦しまずに死ねるのか、何処で死ねば比較的周りへ迷惑を掛けないのか考えました。

ある日の事です。

私はこんなにも理由無く死にたいと思つている中で、とある作品のキャラクターと出

会いました。

現実の競走馬、サラブレッドを擬人化したゲームに登場した「アセビツバキ」という女の子。

私は昔から頑張る人が好きでした。

例えば部活、例えば習い事、例えば趣味と特に分別無く頑張っている人が好きでした。だから、そのサラブレッドを擬人化したゲームも出てくるキャラクターが皆頑張りでとても好感が高かったんです。

私が気になったアセビツバキという女の子は、最初、あまり活躍できていなかったのが努力を重ねた末に大きなレースに勝つことが出来た。

その生き様はとても好ましくて、私はモチーフになったサラブレッドに会いたいと思いました。

だけど、調べてみて自分が住む場所と、アセビツバキがいる場所は離れていてゲームの影響もあつてか会おうと思つて簡単に会える存在ではありませんでした。

「アセビコウロ……っ？」

そんな時です、とある競走馬と出会つたのは。

私が好きな女の子と同じ名前を持つサラブレッド。

競走馬の世界には「冠名」という苗字の様なものがあつて、まさかと思ひ調べたら、ア

セビコウロはアセビツバキと同じ人が所有する競走馬でした。

私はアセビコウロが次のレースで地元の競馬場で走るといふ事を知って、競馬場の入り方なんて知らなかったのに、思わず脚を向けてしまいました。

「アセビコウロがー着でゴールッ！激しい競り合いの末に浦和記念制覇あ!!」

目の前のゴールを応援していた馬が駆け抜けた瞬間、心臓の音が聞こえました。

バクバクと息が乱れて、頑張れと書かれた人生初の馬券を握り締めていました。

アセビコウロがゴールの向こうから戻って来た時、偶然にも私と目が合いました。

その瞬間、希死念慮に近い感情が私の中から消え去っていくのを感じました。

たった一瞬、クリクリとした目に見つめられただけでノートを何冊も埋める程あった感情が全て無くなったのです。

人間は、簡単な生き物でした。

自分でも驚く程に。

その昔、「感動秘話」と称したテレビ番組で、とあるレースを見た人が自殺を思い止まった話を思い出して、

「こんな気持ち、だったのかな」

辛うじて撮れた、画質が悪くて人の顔も潰れている様な口取りの写真を表示する携帯を握り締めて、漠然とそんな事を考えた。

心を震わせる力はきつと、皆が持っている。

うら達ウマ娘が走るレースは基本的に芝で走る平地レースが基本だ。その昔はダートも芝と比べたら格下のレースなんて思われている時期もあったけど、最近では「ダートは魔境」と呼ばれる程に強い子が沢山集まっている。

しかし、うらが走る障害はそうでは無い。

芝の上では息をする事が出来なかった子達の最終受け取り口、それが障害レース。

芝では二十三戦走ったけれど、重賞レースに申請すらも出来ない条件戦止まりで、勝利を抜けるのに十三戦。然も勝ち鞍はその十三回目の未勝利戦のみ。なんて子が、障害に転向した途端十二戦走って連帯率百パーセント、つまり一着と二着しか取らなかったという素晴らしい成績を記録した事実と、障害に転向してから才能開花したウマ娘の歴史は意外とある。

それなのに、知名度が低い。見て貰えない。

日本は平地レースの三流、四流扱いだし遠征先であるヨーロッパは障害の方が主流だけど、日本と比べて距離・馬場などが違い過ぎて目標にすら出来ない。そもそも地方

レース場に障害コースが無いから重賞全てを合わせても年間で全十レース。平地が約百三十レースある事を考えたらその差はお察しである。G1に至っては年二勝って、UR Aにはもう少し頑張って貰いたいね。

「つて、事で。うらは君達に期待しているんだね？」

「突然何だよ、後君「達」って何だ」

「君達は、君達。だね？目の前のジユウちゃん、そして、デイトちゃん」

「は？彼奴に期待してるウ？」

「うん。あの子は正に模範。綺麗に飛ぶ」

「あんな奴がねえ」

「君は、荒々しい。見ていて心配になる、だけど、その強さはきつとヒトを惹き付ける。デイトちゃんと二人で障害レースの二代巨頭になるはずだ」

「ふーん……」

制服のうらと違って、体操服に身を包むジユウちゃんことオジユウチヨウサンは、つまらなさそうにストレッチを進める。目線の向こうでは、デイトちゃんことアップトウデイトが既にウォーミングアップのランニングを始めている。飛越だけでは無い、走る姿すら綺麗な姿勢。

思わず見惚れそうになるのを抑えて、目線を戻し、ジユウちゃんの周りにある高さの

違うハードルを見つめる。もう少しで障害レースの重賞、東京ジャンプステークスなどに天下のトレセン学園ですら障害の練習にはこれ程の物しか用意出来ない。

芝のメイクデビューと比べ、障害の転向した後の未勝利戦だとURR Aが定める最低人数の五人でスタートする事もザラな事を考えれば設備にお金を掛けていられないという事も理解しているが、この現状を変えられないうら自身にうらは失望する。

「……………そういえば、先輩は期待しねえの？」

「へっ？期待って、何にかな？」

「自分自身」

「……………あー、えっと、うらはそこまでの力無いしくへへッ」

「そうか？俺とアツプは、先輩の大障害見てこのガッコー来たのに」

「それは初耳だね!？」

「今初めて言ったからな」

サラリと告げられる初めての告白に思わず顔が熱くなる。

まさか、ジユウちゃんからこんな事を言われるなんて思ってもいなかったから、どう反応すれば良いのか分からない。

うらの走りに影響を受けてくれたのか、それは、とても、嬉しい事だね。

「うん。とっても嬉しいね。初めて言われた感じだ」

「そうか、言わない方が良かったか？」

「ふふっそんな事無いね！これからの障害界を宜しく頼むんだよ！」

うらが走った所で足を止めるのは片手に収まる程度だろう。それも普段は見慣れないものだからという好奇心から。

だが、デイトちゃんとジジュウちゃんなら両手を飛び越えて何万人が目を止める存在になる筈だ。

圧倒的なカリスマ性と実力。平地レースで手に汗握る勝負を見る時と同じ熱狂で。

それだけの力が二人にはある。

ねえ、未来の王者達よ。

こんな背中なんて軽々と追い越してさ、日本中から愛されるウマ娘になっちゃってね。

「それは先輩もだろ」

「ありや？声に出てた？」

「バツチリな」

「オジユウ！あなた、まだ準備終わってないの？」

「げえ、五月蠅いのが来た」

勝つたら一緒に

宝塚記念。

それは上半期の締め括り、実力ナンバーを決めるレース。

「グランプリ」とも呼ばれるそれはファン投票を行い、上位10人が優先出走権を与えられる。吾は有難い事にファン投票10位でその名誉あるレースに出走出来る事が決まった。

「なんか、皆ピリピリしてる?」

「だろうな。上半期のトップを決めるのだから、多少なりとも空気は変わる」

「はえ、うらは初めて障害組で良かったって思うね?」

「何を言うか。お前も宝塚記念の前日に東京ジャンプステークスがあるのだろうか?」

「いや? いやいやいや、我々はあまり注目されないので、ピリピリしないって言うか、あ、聞いた? 今回は出走人数10人だって、歴代最低人数に迫る勢いだね!」

「……はあ、少なくとも吾はロードの走りを楽しみにしているんだがな」

吾の前に座り能天気にかヤロットジュースを口にするチームの仲間、アセビロードは

もう何日か眠れば重賞本番であるのに緊張感が無い。

それは仕方の無い事なのか、彼女の言う通り注目がされないからなのか。

いや、違うな。

アセビロードは自身が走るレースを盛り上げたいと思っけていても、その力が無い。と、吾達が走るレースには敵わないの思っけてしまっけている。

少し視野を広げれば、応援の声はあるというのに彼女はあまりにも機械に疎い。

「なあ、ロード」

「ん？なに？」

「次の東京ジャンプステークス、勝て」

「突然どうしたのさ？勝ちたいとは思っけているね、当たり前だけど」

「吾も勝とう」

「へえ、珍しいね？ツバキはレース前に結果を決める様な物言いしなないと思っけてた」

「吾とロード、土日の目玉レースを奪い取っけてやろうじゃないか」

「えー？でも、勝てるかは分からないね？レースに絶対は無い」

「いや、あるさ。吾はこんなにもお前と共に勝ちたいと思っけているのだから」

レースに絶対は無い。たればを語るのも意味は無い。

だが、想う力は絶対で、それはきつと自分の未来を変える要素になっけてくれる。

今の吾はトレーナーさんから見ても、ボタン様から見ても完璧な仕上がりで、ロードだつて勝てるか分からないと言うがその身体は相変わらず完璧だ。

「レースの種類は違うが、過去にあつたオークスの様に一緒に優勝インタビューを受けたいな」

「ええ？うら達カメラの前で抱き着いちゃうの？」

「良いじゃないか。珍しいし、面白い」

「んふふ。じゃあ〜ツバキがそこまで言うなら、うら頑張るよお？」

互いの小指を合わせる。

本当は、出走表を見た時に感じた恐怖を払拭したいと思つたからこそその提案。あんな名だたる名ウマ娘達に吾なんか混ざってしまったが故の目を逸らした話。

だけど、共に時間を過ごす仲間が同じ気持ちで走ってくれるなら。

吾はきつと頑張れる。

◇「きっと、現れますから」

「並んだ！並んだ！ゴールインツツツツ！！！！」

僅かに交わされたかアセビコウロ。ラスト200メートルからは南関東所属同士の激戦となりました！！

何十キロと速度の出るサラブレッドの背に乗って、トップスピードでゴールを通過した瞬間、これは負けた。なんて騎手にはあるまじき一言が頭に浮かんだ。

接戦だった為に、一着争いをした相手騎手も俺も、アクションは起こさない。

カメラ判定が行われる時間は静かで、誰もが刻一刻と結果を待っている。

電光掲示板に五着から順に順位が表示され、一着は相手の番号が、二着には俺が乗るコウロの番号が表示される。

その差にしてハナ。

後から聞いたたら、本当に五センチ程度、肉眼では判別し辛い程短い距離で俺は負けたのだった。

「悔しいな。ごめんな」

相棒のアセビコウロは人間の都合など知らないから、どこ吹く風で「頑張ったね」とファンから投げられた激励へ、嬉しそうに首を振っていた。

950 : 名無しが適當語り ID : HC4PJkMIg

JDDが終わって、最後のレースで南関東三冠が生まれると同時に、俺はアセビコウロを思い出したわ

951 : 名無しが適當語り ID : 3rcYZOTt0
分かる

952 : 名無しが適當語り ID : Ekn3rAr28
俺か？

953 : 名無しが適當語り ID : +a0eNFohm
アセビコウロなー、惜しかったんだよなー、ハナ差二着で南関東二冠馬。

954 : 名無しが適當語り ID : R y j 0 a q J Z +

でもあの時のJDDはJRA勢を置き去って、南関東所属二頭でクイーンズプマンテとテイエムプリキュアやったんだよな……

955 : 名無しが適當語り ID : R p x B l 4 p e z

>>>954

やはりコウロもダートを魔境にした一角でわ???

956 : 名無しが適當語り ID : H A l 4 d n D q n

コウロはな、G1とかJpn1に当たるレースをヤベー馬と比べたら勝って無いつてだけで、あの時代にしては十分魔境勢だったのじゃよ……

957 : 名無しが適當語り ID : l X p s T 9 K z r

あの時のJDDは勝てなかったから、優勝インタビュウでは無いけど、競馬雑誌の記者さんが個人的にインタビュウした動画滅茶苦茶良かったし、なんなら未来予知になつてたのほんま……小金井斗真……

958 : 名無しが適當語り ID : 4 m A M Q k A / 5
 言つてた事だいたい本当になつたからな

959 : 名無しが適當語り ID : D t b x l m Y F 5
 競馬の神様絶対コウ口推しやる。それでコウ口の物語にマルチエンディング付けた
 くなつたから昨日のレースを用意したやる。

960 : 名無しが適當語り ID : J r G g a b s z L
 あの動画南関東三冠もそうなんだけど、流れる様にマンダリンヒーローについても言
 及してて逆に怖くなつたゾ

961 : 名無しが適當語り ID : q s f c K k c d H
 もしや小金井斗真つて未来人……？

962 : 名無しが適當語り ID : J G S q S S u I o
 ヤバイタイムパトロールが

963：名無しが適當語り ID：AVvLogVbg

おいおいおい、日本の名ジョッキーを連れて行くんじゃないよ

964：名無しが適當語り ID：LC2dLPVUW

あの人一着にはなれなくても執念で馬券にはぶち込んでくるタイプだから下手に切れないよな

965：名無しが適當語り ID：qIxEl9iGW

>>964

分かる。15番人気で、前走、前前走も2桁順位の馬を4着にまで持つて来た時は震えた

966：名無しが適當語り ID：vMHb720Yh

小金井騎手って規則は守るし、ペナルティ出されてるのも殆ど見た事無いのに、隙間は縫うわ少しでもインコースが空けばぶち込んでくるしで最近、本当に点数貰って無いの？って疑心暗鬼になってきた

967 : 名無しが適當語り ID : L U + G 8 Y B a z
 あの人数覺悟ガンギマリなので……

968 : 名無しが適當語り ID : g K m / n E m c 3
 (心が) 鉄人会辞めろ

969 : 名無しが適當語り ID : J / s B o 9 u k g
 そんな人でも、コウロへの呼び掛けは♡付けまくってるので許してやって下さい

970 : 名無しが適當語り ID : 4 w V I F d K p O
 最後小声でコウロに呼び掛けて、コウロも葉っぱ食いながら顔出してくるの良いやね

971 : 名無しが適當語り ID : + o k f e U v F g
 エールちゃんの飯中に話し掛けるイケゾエを見た時の既視感はそれかあ……

972 : 名無しが適當語り ID : V W I o T F X b Z
 俺もあんなイケオジから♡付けられながら名前呼ばれてえよ……

973 : 名無しが適當語り ID : t N V 6 c t p 6 E

小金井騎手の事なんも知らなかったけど、この数レスだけで俄然気になってきたぞ

974 : 名無しが適當語り ID : N c d K 9 v I y v

小金井斗真は良いぞ

誇張無く、小金井騎手が乗る馬を複勝とかに脳死で入れてても全然入ってくる色んな意味で有難い人や。

975 : 名無しが適當語り ID : c a Z q s f + b P

ファンサービスも結構してくれるしな

976 : 名無しが適當語り ID : Z l n i B z R k a

時間に余裕がある時のサイン会では、大人が群がる中不利になるちびっ子への優先時間作ってくれるの本当に推せる

977 : 名無しが適當語り ID : P j b 7 N 5 e C R

「未成年の子がいたら、優先して前に通してあげて下さい」

この一言で息子が憧れの騎手からサイン貰えたので、本当に感謝しています。

978：名無しが適当語り ID：NqElbfmIy

サイン会の動画とか動画サイトにちよくちよく投稿されるけど、その時にサイン貰えなかった側が「このやろう」みたいな雰囲気になって無いの凄い。

979：名無しが適当語り ID：7B2eb7PKx

>>>978

言い方悪いけど、小金井騎手は他と比べると結構な頻度でやってくれるから貰えなくてクソ！ってなるタイプの人とか、転売目的の人とかでもまあ、どうせ直ぐやるやろ的に思われてるんだと思う。レア度が低いというか。

980：名無しが適当語り ID：4k7AIkAXH

>>>979

なるほどなあ

981：名無しが適當語り ID：R7DBEB/Tn

レア度が低いつてもエツセンスとしてはあるかもだけど、礼儀正しいし、悪い噂聞かないし、駄目なら駄目ってちゃんと口にするし、ちびっ子への対応とか、他騎手から出る時のエピソードが悉く良い人過ぎるとか諸々のチリつもで総合的な好感度が高いんだと思う

982：名無しが適當語り ID：jccOKGeRQ

昔から、自分は出来損ないなのでせめて生き方だけはしっかりしておきたいって言うてる人ですしお寿司

983：名無しが適當語り ID：9UmsNoOI m

なんだこれ小金井斗真ファンスレか？

984：名無しが適當語り ID：Sa84m9a1b

アセビの馬を語るスレは騎手のファンスレになりがち

985：名無しが適當語り ID：9nhjX+xIK

>>983

前スレなんて20レスくらい経ってからあんまりエピソードが残っていない小金井近江の話になって結局それで埋まったからな

986 : 名無しが適當語り ID : CsKcd78VV

ええ……

987 : 名無しが適當語り ID : kZhfL0ZHR

このスレはよく持った方だと思うよ

988 : 名無しが適當語り ID : reb0/Ft6e

まあ、三冠の話題が今回は強かったからね

989 : 名無しが適當語り ID : ILYaWF2qr

さつき小金井騎手なんも知らんって言った者なんだけど、家に小金井斗真騎手のサインあったわwww

【写真】

990 : 名無しが適當語り ID : l j H 3 + 5 V v E

>>>989

なんで!?

991 : 名無しが適當語り ID : s a N 5 o y e w k

>>>989

裏山

992 : 名無しが適當語り ID : v L 3 u n Z k c B

>>>989

紙の雰囲気からして結構前のやつかな

993 : 989 ID : 0 v Z a d W u o y

全然記憶に残ってなかったんだけど、俺は小さい時から絵を描くのが好きで親父がそれならって競馬場連れてったみたいで、その時に持ってた落書き帳握り締めて子供特有の怖いもの無しで親父が飲み物買う為に少し目離れた隙に突撃してたらしい。

でも、俺はその時の事全く覚えて無かったからこのノートも只の落書き帳だと思って大掃除で捨てようとしたんだけど、親父がこれはって覚えててくれたから無事だったっぽい。

親父に脚向けて寝れないわ。

994 : 名無しが適當語り ID : V B n 2 a 8 d L h

>>>993

一生親父さんに感謝しろ

995 : 名無しが適當語り ID : 0 4 p l 5 Z E e U

>>>993

お礼にハワイとか連れて行け

996 : 名無しが適當語り ID : c 8 F r n l o c k

>>>993

大人しく親孝行しろ

997：名無しが適當語り ID：uTqu5O/dI

989のノート小金井騎手の他にもなんか書いてね？

998：名無しが適當語り ID：A4EjERoa7

>>997

あー、それは小金井騎手の他にも取り敢えず全員に強請ってみたいで、厩務員さんと調教師さんと小金井騎手と一緒にいたもう一人の騎手の人のサインだと思う。多分。

999：名無しが適當語り ID：lIjOy3lCS

優しい世界だけど、可愛らしいアホの子だったんやね君

◇眩しい色彩を

あいうえお

ねえ、スーちゃん。

スーちゃんは、どんな花火が好き？

ア？そんなんネーヨ。

ええ？本当に？

……ハア。

強いて言うナラ今持つてるコレだ。

線香花火？

アア。コイツはアタシと同じだ。

ほんの少し煌めいて、ソノ後は地面に落ちる。

アタシは、ダービーを勝ったウマ娘。だが、アタシの名前は後世にキット伝わら無い。

日本中を探したとしても、数年後ニハ、アタシの名前なんて消工去つてイルサ。

そんな事無いよ。

知ってる？

人間も、ウマ娘も例外と記憶を覚えているものなんだよ。

だからね、何十年先の未来でも、小さな少年が皺々のお爺ちゃんになったとしても、きっと、覚えているんだ。

ハッ！そんな奴が本当にいるのなら、ソイツは相当な物好きだ。

ルーちゃんも花火、楽しんでる？

およ？ええ、楽しんでますねー。

ルーちゃんほどの花火がお気に入りかな？

ピューンって飛んで行くのがルーちゃんみたいなので、お気に入りは一ロケット花火なんですけどー、ロケット花火は危険なので駄目ですって言われちゃいましたー。

そっか。残念だったね。

本当ですよー。だから、次はしがらみを受けずに、皆でもう一度、楽しみたい。ですねー。

うん。またやろうね、絶対。

はいー！絶対。ですねー。

ローちゃんは、あんまり花火好きじゃないの？

へ？そんな事は、無いんですけどね？

本当？さつきから、あんまり手に持つて無いみたいだったから……。

ああ、それは、うらはどちらかと言えば打ち上げ花火派なので。

あれ？そうだったの？

そうですねえ。そっちの方が浪漫がありますからね？

浪漫？

ええ。

空に咲くのはのは一瞬でも、大きな音と美しい色彩で沢山の目を奪う。

うらも障害レースをそんな世界にしたいのでね。

意外とロマンチスト？

今更ですかね？

ツーちゃん。楽しんでる？

ツバキ様！……ええ、楽しんでいます。

ツーちゃんはどの花火が気に入った？

そうですね。吾は、この花火が。

沢山の色が変わって吾の知る花火のイメージと違っていて、新しく、とても心惹かれます。

本当？

でも、確かに。ツーちゃんっぽいよ。この花火。

吾らしい、ですか？

うん。

目まぐるしく変わる色でも、全てが損なわれずに輝いている。

それはきつと、世界にすら名前を刻んだツーちゃんも同じ。

そんな！恐れ多い……。

恐れ多くなんて無いよ。

そもそも、元気に走れるだけで、私達ウマ娘は奇跡なんだから。

コーウーちやーん。

はい!? ええ!! コウ口はここに!!

んふふ。

驚かせちゃってごめんね？楽しんでる？

ええ！楽しんでます！とても！素晴らしい程に！それはもう恭しく！

なら良かった。コウちゃんは、どの花火が楽しかったかな？

え、ええ！そうですね！わたしは、やっぱりオーソドックスなこれ!!!がががとても、良

く、て、ですね……!!!

そっかそっか。じゃあ、沢山用意して正解だったね。

楽しんでくれて、私も嬉しい。

ひゃい！トテモタノシミマス!!

うん。沢山楽しんで。

今度花火大会する時は、コウちゃんの活躍で奢って貰っちゃおうかな。

へ？え、えつと！きよ、きよ、恐悦しごくです!!!

嘘だよ。こういうのは年長者に払わせて。

でも、コウちゃんの活躍をお祝いしたいのは本当だからね。

は、はいいい……!!

なあ、ボタンはどの花火が好きなんだ？

えー？そうですわねえ。へび花火、でしょうか？

そうなのか？なんと言うか意外だな。

そうですね？まあ、確かにキラキラしている訳ではありませんからね。

でも、例え地味だとしても、物好きしか買わなかったとしても、今でもこの時間の中に残っている。

それって凄い事だと思います？

確かに。それはそうだ。

……所で、トレーナーさんはどの花火が好きなんです？

花火か……そうだな。手筒花火、かな。

手筒花火？あの、物凄い火花を出して、ヒトが持っているやつですか？

おう。それぞれ。

えー？なんでです？

アレって、無病息災とか武運長久、家運隆盛みたいな意味があるんだろ？

ウマ娘を手助けするトレーナーとして、これ程ピッタリな花火もそう無いだろ。

確かに、そうかも知れませんがね。

あの人よりも優先でできるもの

綺麗な花束。

桶に入った水。

火を入れて貰った提灯。

昔は「転ばない様に」とビクビクしながら歩いた石畳を辿る。

目標の様に一段と色とりどりの花が備えられたその前に立ち止まり、桶を地面に降ろす。

「じゃあ、良い感じにお花を供えちゃって」

「良い感じにと言っても、相変わらず供えられないというか」

「ほら！芳君、高身長！水！」

お母さんと、お兄ちゃん、夏の最中に帰ってくるあの人を迎えに行く為にやって来た山中のお寺。

お兄ちゃんがお墓の天辺から水を流して、気になった所を軽くスポンジで擦る。

私は備え付けの花立から溢れた花と合わせて敷地内に持って来た花束を並べる。

風に煙を揺らせて、提灯の目印を掲げる。

「帰って来れたかなあ」

「さあ。でも、帰って来てるでしょ。あのヒト家族も親族も知らないヒトも大好きだから」

「それにしても暑いなあ……帰りにアイスでも食べに行くか？」

お兄ちゃんが汗を拭いながら腕を捲る。

お母さんも良いわねえなんて傘を差し直した。

「御免なさい。私、ここら辺で逃げさせて貰います」

「え？」

「何だ予定でもあったのか？」

「そう。チームの皆とお祭りに行くんです！お寺の隣にあるバス停から乗って行こうと思ってる」

「えー？送ってくよ。芳君が」

「そうそう、送るよ。俺が」

お兄ちゃんが車の鍵をポケットから取り出そうとするのを見て、私はそれにNOを出す。

「チームの皆とは、バスで合流しようって約束してるんです。だから、リーダーである私

が乗っていないとビックリされちゃいますから！」

「あら、そう？」

「ええ。では！一足お先に失礼しますね」

「気を付けなよ」

「うん！では、行つてきます！」

「行つてらっしゃい」

「帰る時は連絡しなさいね」

時計を確認して、予定まではあと5分。

バッグを掛け直して楽しみで少し早く動く心臓を押さえて、古びた錆だらけのバス停の隣に立つ。

お祭りの会場と此処はレースよりも長い距離で離れているのに、もう音が聞こえてくる様な錯覚に陥る。

やつて来たバスに乗って、整理券を取って、一番後ろの席に座る。

バスの中には私を除いたら1人しかいない。

でも、もう少しだけ進んだら。

サンダルを履いたスーちゃん

「よお、センパイ」

って言って。

浴衣を着たローちゃんが

「こんにちは〜」

って言って。

お洒落をしたコウちゃんが

「ご機嫌よう」

なんて背伸びして。

運動靴を履いたローちゃんが

「みなさん、こんにちはですねー」

って、アイスを食べながら乗って来て。

ツーちゃんは少しだけ大きな荷物を持って

「虫除け、冷却シート、水分補給の準備は充分です」

って挨拶よりも先に得意げに笑って。

早く、会えないかな。

皆の様子を勝手に考えて、小さな笑い声が漏れた。

理解出来ないものに怪異の被せ物を

ねえ、知ってる？高等部の先輩の話。

ああ！それ知ってるよ！

名前は確か、アセビボタン先輩だよね？

そうそう！あの先輩がお化けを見れるって話！

お化け？私は特殊能力が使えるって聞いたけど。

えっ？僕は何十年も昔から生きてるウマ娘だって……。

あれ？

何か食い違うね。

話が違うつて事は……なーんだ、やっぱり誰かが言い出した変な噂かあ。

それにしてもなんでこんなに話がちやごちやになつているんだろう？

さあ？……まあ良いや！トレーニング行こ！

目指せG1ウマ娘ー！

中等部から生徒を受け入れるトレセン学園には、毎日数多くの初出不明の噂が囁かれている。

やれ、あそのこの階段が1段増えただけの。

やれ、〇〇先輩を2人見ただけの。

やれ、食堂のご飯が一瞬で無くなっただの。

新しい噂が生まれては消え、生まれては消えを繰り返す。

最近噂の中心にあるのはG1ウマ娘「アセビボタン」。彼女は誰にでも優しく、何よりも強い。一目置かれ目標にされる憧れのお姉さん。

そんなアセビボタンが何故、噂が囁かれる様なウマ娘になったのか。

彼女は兎に角謎が多い。

周りの話を聞けど、自分の話をせず。

他のウマ娘と共に行動する姿を見れど、1人の時は何をやっているのか分からない。

ジツと何かを見ている時に話し掛けても特に対象はおらず、聞いてみても「特に何も」の一点張りで謎のまま。

それなのに、彼女が雨が降ると言えば雨が降り、酷い天気になると言えば雹や雷が鳴りと「特殊能力」だと括られても仕方が無い行動をよくしている。

「アセビボタンの存在は、極々一部でトレセン学園の七不思議に昇華され様としていた。」

トレセン学園のトレーナー室。

ペトリコールを漂わせる為に大粒の雨粒がコンクリートを叩いている。学園の中も湿度が上がリ、何処か薄暗い。

何時もより質感の違うLEDの光を浴びながら、チームシエアトを掲げたチームメンバーの2人が其々の位置で椅子に座っている。

片方は脚を組んで、片方は机に向かい何かノートを記入しながら。

「ナア、せんぱーい」

「ん？どうしたのー？」

脚を組んだショートポニーテールの少しだけ目付きが鋭いアセビスズナが、目の前で机に向かう先輩アセビボタンへと声を上げる。

アセビボタンは顔を声の方向へ向ける事は無いが、両耳はアセビスズナの方向へ向けていた。

「先輩ってヨオ、死んでんの？」

「へっ!? どうしてそうなるのかな?」

「イヤだって、トレセン学園で先輩が霊が見エルだの超能力が使エルだの、何十年も生きてるだのって」

「いや、いやいや、そんな事無いよ〜」

アセビボタンは尻尾をパタパタと動かしながら、アセビスズナからの言葉を全て否定する。

だが、アセビスズナは納得のいかない様な顔でもう一度口を開く。

「でもよ、先輩が雨降るって言ったら降るシ、空が荒れるって言ったら荒れるジャン。何十年も生きてるカラ使える様にナツタんだろ?」

「雨、荒れる……ああ! それは空を見てるだけだよ」

「ソラ?」

「そう。よく言うでしょ? 積乱雲があったら雷とか、雹が降るって言われてて、燕が低く飛んだら雨が降るとか……何十年も生きてるのは……私と似ている芦毛のウマ娘が学園にいたんじゃないかなあ」

「ソンダケ?」

「多分。それに、当たらない事も多いし成功した時の話だけが1人歩きしてるんだろね」

「……ナンダ。わくわくして損シタ」

妖怪の正体は一説に、自分とは違う身体的な特徴を持つ者や、精神的な疾患を持つ者をカテゴライズする為だったというものがある。

それと同じく、人々やウマ娘の特殊能力も大きな一つからほんの一部だけを切り取ったものなのかもしれない。

「つまんねー」

案外カッコいい事好きなアセビスズナは、灰色の空へ視線を動かして聞かれない声で、自分の興奮が打ち砕かれた事実が悪態をついた。

◇海に魅入られる

独特な海の匂い。

潮騒に包まれる世界。

誰もいないからと乱雑に靴と、靴下を砂浜に投げ捨て波に両脚を晒す。

潮風が制服と髪を揺らす。

昔から海が好きだった。

理由は無い。

ただ、懐かしさで胸がいつぱいになって、涙が出る程誇らしくなる。

それに伴う記憶は無く、ファンタジーなまま溢れ出る感情に身を委ねている。

「脚がふやけてしまうよ」

「ア？」

突如、1人の世界に流れたもう一つの音。

振り向けば、1人の老人がコンクリートの階段に座っている。

知らない男だ。

アタシの中にある記憶に目の前の顔は無い。

「ここにヒト、いや、ウマ娘さんが来るのは珍しい……ほら、もう上がりなさい」
「海にドレだけいようガ、アタシの勝手だ」

「帰る時に、ふやけた脚の皮が捲れても良いのかい？」

柔らかく、けれど確信を突いた言葉に舌打ちを一つ。

波が届かないギリギリに捨てたバッグから、タオルとミネラルウォーターを取り出して軽く塩水を洗い流す。

「座って見る海も、良いものだよ」

「もう良いダロ」

「私が君と、話してみたいんだ」

「ジイサン……お前、不審者力？」

「昔からレース場に入り浸る不審者ではあるかもしれないね」

日差しで適度に熱せられたコンクリートの上に座る。

海の水が光を反射して、酷く目が眩む。

不思議と誰もいない海の真ん前で知らないジイサンと、ジイサンと何も関係の無いウマ娘。

「……ここら辺にはレース場が無くて、ウマ娘の子は皆ある程度の年になると他の県に

移ってしまう事が多くてね、珍しいからつい話し掛けてしまった」

「ソーカヨ」

「君は、どうしてこの場所に？」

「カワイイコーハイチャンがレースに出っから一緒に連れて来られたンだよ」

「へえ。ここから近いとコクラかサガら辺かな。後輩と言ったけれど、此処へは一人で？」

「悪イか？」

「嫌。この場所を選んでくれて、嬉しい限りだ」

杖を携えるジイサンの顔は海から離れる事は無い。

それなのに、その瞳は海では無い別の場所を、海を通したナニカを見ている様だった。

「ジイサン。ジイサンは、何を見てンダ？」

「何って、海だよ。大好きなんだ」

「違ウ。海の手、別のモンだ」

一瞬、驚いた様にアタシを映した両目。

「その昔、この場所にはレース場があったんだ」

ジイサンの口から出る、アタシの知らない歴史。

成る程、それならば何を映したのか理解できる。

「海が見えてね。アラオの大きな海を背景に、沢山のウマ娘が競い合っていたんだ。私も、小さい頃に親へは何も言わず、勝手に入り込んでね。凄く、特別だったんだ」

「ナンダ。意外と悪ガキだったんだナ」

「ああ。とても、ヤンチャな子供だったよ」

「……もし、アタシがソノ無くなったアラオのレース場で走ったら、ジイサンは応援シテたか？」

「適当に会話の糸口にでもと思って、何となく口にした言葉にジイサンはアタシがビビるくらい、真っ直ぐに、何の迷いも無く言葉を紡ぐ。」

「勿論。最前列できっと、応援しているよ」

「それは、なんだか不気味だな」

「酷いな。」

軽い口調で言葉を吐いて、ジイサンは少年の様な顔で笑った。

間に合いませーん!!!

学生ならば誰もが憂い、来ない事を祈る8月31日。

6人のウマ娘が1つの机を囲み、目の前のテキストやノートに視線を落とす。

「忘れてましたあ!!!」

その内の1人、皆の末っ子、アセビコウロが目に涙を溜めながら叫ぶ。

目の前には「現代文」と書かれたテキストが開かれていた。

「コウロ。吾が1週間前に大丈夫かと聞いた時には、胸を張って大丈夫ですと」

「うう……ほ、本当なら大丈夫だったんですう!!ちゃんと予定も立てて……その通りに

やって……でも現代文をうっかり予定に入れ忘れましたあ!!」

「……はあ。君の時々出るその注意力散漫は、どうにかならないのか?」

「……めんなさい!!」

泣きながら、それでも真面目に手を動かすコウロに年の近いツバキは溜息を吐きながらも優しく内容を教えていた。

そんな光景を見守る4人のウマ娘。の内、2人は同じ様に終わっていないであろう課

題に追い詰められていた。

「ツーちゃん……後、終わってないのは？」

「シー、感想文とレースレポートと、絵描くヤツ」

「見事に全部創作系だ……本は読んだんだよね？」

「読んでナイ」

「え？」

「デモ、問題ねー。後書き読めば、なんとかなる」

「なんとかなるって……もう！」

年長者、アセビボタンの呆れと心配を他所にボタンから目を掛けられているアセビスズナは、表紙に大きく『臨床犯罪学者・火村英生の推理』と書かれた小説を裏返した。

「ドラマ化してたから書き易かった」が感想文を終えてからのスズナの感想だった。

ミスで課題を忘れていたコウロ、何故だか創作系の課題のみを後回しにしていたスズナ、そして、もう一人。

「追い込みが間に合うかねえ」

「どうして逃げなかつたんですー？」

一番多く課題のテキストを重ねるウマ娘。アセビロード。

表情に焦りは無く、余裕だと言わんばかりであるが、明日9月1日の提出時間に間に

合うかギリギリである。

「ルーちゃんは、もう夏休み始まって1週間で終わりましたけどー、どうして、まだ終わってないんですかー?」

「うらはエンジンの温まりが遅いんだね?」

「ふーん。手伝いますー?」

「お願いできると、嬉しいです」

「それでは、それではー。恵みの右手とー、左手をー、貸しますー」

「おお!それは助かってしまっただね」

1冊、課題として出された冊子をロードの横に座っていた、最速ウマ娘アセビルピナスが手に取りスラスラと答えを書いていく。

もし先生にバレたら怒られてしまう行動を、この場所に嗜めるウマ娘はいない。

時間にして数十分、ロードが漸く半分を超えた英語の課題を横目に、数学の冊子を閉じるルピナス。

「終わりましたー」

「おお。では、これもお願いします」

「はいー」

渡された原稿用紙と、1冊の小説が渡されたのを手にしたルピナスは『真夏の方程式』

というタイトルを見て「映画見たから要らないですー」と、小説だけを返却した。あまり緊迫感の無い、夏休みの終わりだった。

海外の冠を手を手にせよ、乙女。

ベタベタと貼られた様々な国旗のシールが特徴的なボロボロになったスーツケースをガラガラと引きながら、一人のウマ娘が日本の土地を踏み付ける。

シルバーのアクセサリーや厚底の靴、頭に付けたフリルのカチューシャ、色の濃い髪の毛と両耳を揺らして彼女は懐かしそうに大きく呼吸した。

「お疲れ様です♪お待ちしておりました！」

緑色のスーツに身を包んだ駿川たづなは学園が用意した車の前で手を振る。

それに気付いて、スーツケースを乱雑に車に投げ込んだウマ娘は身に付けていたサングラスを外し、両眼に光る星型の瞳孔を晒しながらトレーナー以外に使うのは懐かしいものとなった日本語を口にする。

「よお！秘書さん。出迎え有難う。一時帰国したぜ」

「はいっ！海外のレースはどうでしたか？」

「あ？ンンまあ、君達の元に届いている通りだ。日本にいた頃よりは、少しだけ上手く走れた気がするね」

「それは良かったです！では、学園に戻りましょう♪」
「ああ。宜しく頼むわ」

静かなエンジン音を奏でながら、車が発進する。

彼女の目に映る変わった街の、変わらない街の風景。久し振りの左側を走る車道。どれもが懐かしく、自分の故郷に戻って来たのだと主張される。

鼻歌が溢れ、脚先が無意識に揺れるウマ娘の姿を隣に座る駿川たづなは微笑ましそうに見つめていた。

そのウマ娘は日本で大成しなかった。

メイクデビューは10着。まだまだこれからだ！と続く条件戦は11、9、13、8と掲示板にすら乗れない育成機関のトップであるトレセン学園に通うウマ娘の中でも、下の下と呼ばれて可笑しくない惨状。長い歴史の中で記録にすら残らない沢山の1人。しかし、そんなウマ娘に一つの光が訪れる。

『アネモネステークス』1着。それは、クラシックに出られる奇跡の切符。

小さな小さな奇跡。だが、そのウマ娘にとってはとてつもない奇跡を抱えて出走した『桜花賞』。

「残念無念。掲示板が精々だったな、まあ、今までのポンコツ振りを考えるに、素晴らし

い感じだな。漸く本格化、身体が仕上がってきたか？」

初めて着用した勝負服に付いた土を払いながらウマ娘は悔しがるウマ娘、涙を流すウマ娘の中で特に何もアクションを起こさず、ただ真顔のまま拳を握った。

身体を揺すられる。

閉じていた目を開け、いつの間にか辿り着いていた懐かしのトレセン学園が目に入ってから漸く眠ってしまったのだと気付く。

「ふふっ。よく眠っていましたね」

「あ？まあ、長旅なもんだったんでね」

身体を伸ばし、バキボキとなる関節の音を聞きながら車から降りて見慣れたスーツケースをもう一度手にしてから、堂々と歩く。

道行くウマ娘達が珍しそうな視線を向ける中、校舎の前に立つ生徒会長、皇帝・シンボリルドルフがそのウマ娘を視界に入れる。

「お疲れ様。君の帰りを首を長くして待っていたよ」

「あら？本当？俺なんかを生徒会長サマが待っていて良いの？」

「ああ。君の走りは正しく希望、一つの可能性を示すものだからね」

「そーかい。ならば、出来うる限り頑張るさ。次は来年、サウジカップだね」

「……前途多望。我々は、君の走りに期待している」

「ハイハイ、面目躍如、面目躍如」

ウマ娘は、皇帝、理事長秘書に手を振り理事長室へ勝手に会話を切り上げて歩いて行く。

そんな見る人が見たら許されないその行動も、慣れた二人は「相変わらず」だと顔を見合わせた。

彼女の名前は「アセビデージー」。

桜花賞後、ヨーロッパを渡り歩き、かの「女王陛下」へ投げキッスをするという不敬をやらかしたバカであり、海外の地で覚醒をした左耳の飾りが可愛らしいウマ娘である。

その馬は、突然変異。

その馬を表すのなら正に「異端」という言葉がよく似合う。

平均的な牝馬の肉体に、落ち着いた性格の尾花栗毛。

毛色特有の美しさと母父シンボリルドルフのネームバリューもあってかほんの少しだけ期待をされていた。

デビューは中央、中山にて。

その背に外国人騎手を乗せて、10着という大敗を記録した。

彼女に向けられた期待の眼差しは一気に落胆へと変わり、始まったのは騎手の批判と、父となる馬の批判、そして馬自身への批判。

勝手に期待しておきながら、大きな声で罵倒する。

続く未勝利戦は11着、9着、13着、8着。

掲示板にすら入れず批判の声ばかりが大きくなっても、厩舎のメンバーと馬主は信じ続けた。その馬は諦めなかった。その騎手は、一目惚れをした馬と共に成長していた。

奇跡が起きたのはリステッド、アネモネステークス。

その馬の瞳から、先頭まで10馬身以上ある短い中山の直線。何かが噛み合ったのか、はたまた一瞬の煌めきか、己の脚など気にしないとばかりのあまりに無計画過ぎる追い込み。

実況の興奮と、観客の異質なものを見たとばかりの静寂。

その光景を見た瞬間、その馬を所有するスーツ姿の人間だけが静かに「クラシック追加登録」の音を立てていた。

掌返し、昨日まで「見た目だけが良い」「出酒らしにもなれていない駄馬」「これで牡馬だったらお察し」などとコメントが溢れたインターネットの深い場所は、一転して「いけるんじゃないね?」「やっぱ強いって思ってたんだよな」「漸く良さ出てきたな」というコメントが増え、本番『桜花賞』までの日々を心躍らせて待ち続けていた。

「……すみません。出れたのに」

馬から降りた騎手は厩舎のメンバーと、馬主に向かって頭を下げる。

約470メートルの最後の直線、騎手のタイミングが遅かったのか、中山競馬場よりも直線が長かったからなのかその馬はギリギリ掲示板に入れはしたものの、表彰台には立てなかった。

「いや、G1なんだ。他の馬も騎手も強い、我々から見ても仕掛け所も道中も悪くなかつ

たよ」

「ごめんなさいでした」

その日、とある厩舎を根気強さで射止め、身を削った努力で中央競馬の通年免許すら取得した名無しの騎手は「悔しい」という大き過ぎる感情を理解した。

今までとは一味違う舞台で一番に出来なかった、なれなかったその悔しさは「次こそは負けない」という闘志を芽生えさせた。

次の舞台は、海外。

競馬の本番、イギリス。

女王すら見に来ると言われるロイヤルミーティングの3日目。『リブルスデールステークス』への出走が決定され、インターネットにおいて「クラシック捨ててダートも試さないとかかかりすぎワロタwwwwww」なんて言われる珍事件。そして、尾花栗毛が世界を魅了する毎日の始まりだった。

その馬は、目を開ける。

ロイヤルミーティング3日目。

その美しい見た目と、新調した馬具を携えてアスコット競馬場の地面に蹄鉄の音を鳴らした。最低人気、日本からやって来たという話題以外は何の期待も、注目もされない牝馬。

「Pracujme s polexně。」

彼女の首筋を撫でて、一番綺麗に写る様に前髪を整えながら、誰も理解する事は無いであろう母国の言葉で激励をする。タイミング良く馬が嘶いたので笑って、緊張が解れる。

今日も、彼女に宿る星が輝いていた。

ドレスコートに包まれた観客は熱狂する。

イギリスの競馬を愛する人々の視線がただ一点を見つめている。

特徴的な三角形のコースを18頭の馬が走る。

最後の直線、日本の馬では上手く走れないと言われるヨーロッパの馬場を日本の馬が、日本の馬場と同じ様にスルスルと上がっていく。

遠い日本では、物好きな人間達が「いけっ!!」と叫んだ。

日本ではリステッド以来の表彰台。3着。

レース後、一層警備の厳しい方へ馬が顔を向け大きく嘶いた。

「わたしが、レースの前の日に、勝ったら投げキスしましよねって、いつちやったよから」
たまたまだけね。

そう言つて、騎手はどこか怖がる様にインタビューへと答えた。

ロイヤルミーティングが終わった7月の下旬。同じアスコット競馬場にその馬はも

う一度蹄鉄の音を響かせた。

『キングジョージ6世&クイーンエリザベスステークス』

リベンジとばかりに燃える瞳はゴールだけをただ見据えて、今度こそ、その名をイギリスの競馬史に刻み付けた。

その馬は、旅をする。

シリウスシンボリ、フジノオーに続く長期の海外遠征。

その牝馬と騎手、スタッフ達「花の旅人」をチーム名としたメンバーはイギリスから始まり、スウエーデン、ドイツ、フランス、サウジアラビア、ドバイ、オーストラリア、香港、アメリカで歴史を刻んで、最終地点日本『有馬記念』で長い長い旅を終えた。

最終成績は22戦8勝。内、海外成績は14戦7勝。

G1を3勝の名牝。日本ではなんとも評価のし辛い変わった馬。

世界の競馬ファンを魅了してしまった魅力的な尾花栗毛の馬。

「まさか、こんな結果になるとは思わなかったよ。きつと日本で走り続けた方が入ってくる金も、出ていく金も、もっと変わっていた筈だ。でも、オーナーさんの所有している馬がこの子だけだったからこそ繋がった未来だ。この子が無事に走れて、結果を残せている。そんな幸せを俺達はこれからも支えていきたい」

調教師は、旅の最中そう話す。

これでもかと愛情を含んだ表情で、のんびりと草を食む牝馬を穏やかに撫でていた。インタビュ어의終わり、動画が切れる直前「インタビュースか」なんて、拙い日本語が入り込んだ。

その馬は、名を残す。

21世紀が始まってまだ20年も経っていない時代に一頭の面白い馬が現れた。

その馬の名は「アセビデージー」。クラシックでは有力馬の候補にすら上がらない、悲しい事によくいる歴史に何も残せない馬。

花開いたのはイギリス。

まるでこの場所こそが私のホームだと言わんばかりにタイトルを獲り、ヨーロッパの特徴的なコースと馬場を走り、次なる遠征先のフランスでは日本の悲願でもあり呪いでもある凱旋門賞で2着。

日本での成績が嘘の様にマイルから長距離、芝からダートという嘘みたいな適正の幅を持った謎の馬は訪れた国で人々を魅了し、その国の関係者を唸らせた。

彼女を語る上で、よく話題に上がるのが『サンルイレイハンデキャップ』。当時は『サンルイレイステークス』という名でデージーの母父であるシンボリルドルフが獲る事の出来なかつたタイトルを彼女は手向けとばかりにダートと芝の境界線をもろともせず追い込んで見せた。

サンルイレイハンデキャップを勝ったのと同じタイミング、日本では多くの人がそのゴールに拳を握った。

彼女は歴史に何も残せない筈だった馬。

しかし、走り続けたからこそ、その馬は自分自身の力で歴史に名を刻み、沢山のファンを手にしていたのだった。

アセビデージーに乗る騎手は引退式、最後のインタビューで言う。

「やっぱり、ひとめぼれウソじゃ無いね。わたし、デージーのこと大好きよ。凄く、ハート、つながってるね」

アセビデージーに一目惚れをして、厩舎も、馬主すら口説いてしまった騎手はその馬に最期が来るまでずっと、ずっと、愛し続けた。

始まりは「名無しの馬」「名無しの騎手」だった一人と一頭は、いつしか「アセビデージー」と「ルドルフ・コヴァーチユ」と呼ばれる様になり、人々が忘れられない存在となっていた。

数年後。とあるアプリゲームにて同名の「アセビデージー」が登場した。

アセビデージーは、キャラクターとしても人々の心を奪い、若手とは呼べなくなった騎手の心をもう一度奪ってしまったのだった。

皇帝へ無邪気に火を付けて

控え室として用意された部屋の中でゼッケンがしっかりと固定されているか確認をして、ストレッチを行う。

筋を伸ばして、万が一にでも走っている時に不調を起こさない様に対策をする。

ピアスの緩みが無いか、ヘアピンの固定する力が緩んで無いか確かめる。

「デージー、大丈夫ですか？」

扉をコンコンと叩く音と、トレーナーの声。

大丈夫だと促せば、珍しくスーツに身を包んだ姿。

「ナンダ。めずらしいじゃねーか。そんなに着飾って」

「そんな事無いですね。いつも、わたしはこの格好です」

「そうかあ？少し前までTシャツだったじゃねーか」

「それは、出会った頃の話です。もう数年前ね」

拳を差し出され、自分の拳を合わせる。

小さな面積から伝わってくる温もりで火が燃える。

今回のレースはアウエーだ。俺はこの国で注目をされていない。

それでも俺は、目の前のトレーナーが応援してくれるだけで迷わないで済む。世界で一人、見てくれる人間がいれば俺は走れる。

「時間だよ。転ばない様に、楽しんで！」

「ああ。見てろ、少しだけ楽しませてやるから」

青々とした芝。

周りの筋肉量や身長の違いウマ娘達。

英語で「お互い頑張りましょう」と友好的に挨拶をし合っても、瞳に映る炎は違う。

俺には俺の燃えるものがあって、相手には相手の燃えるものがある。

ゲートに入って、スタートのポーズを取る。深呼吸をして、目の前が開ける一瞬に集中する。

—The race has started!

スタートをしてから芝を蹴り、直ぐにやってくるコーナーを膨らみすぎない様に気を付けて、位置を後ろに取りながら通過する。

日本ではまず見えない変な形のコースではあるが、そんなの走っている分には関係無い。

コーナーを通過して、直線。このレース場は外側にダートがあるから、トレーナーか

らも散々気を付けろと言われた芝の中に突然現れるダートコース。それを突っ切って直線コース。

視界に映る観客と、風の音に混じる歓声。

俺の前を走るウマ娘達は逃げたり、抜かし抜かされをしていたり一人旅をさせて貰っている俺とは全く違う激しさを見せつけている。

最終コーナー。6人のウマ娘がコーナーを曲がりきって、俺だけ一人遅れて最終直線。泣いても笑っても跡が無い残り数百メートル。

「サア！勝負しようやッ！」

アウエーの中、この絶望ですらある何十バ身を差し切った瞬間、この場所はどれだけの困惑に包まれるのだろうか。

はたまた、やりやがったと少しの歓声が湧き上がるのか。

「想像するだけで、楽しいだろ……ッ!!」

たった一回で消耗し切った蹄鉄を眺めながら、向けられたカメラに投げキッスをした。

日本生まれジャパンカップ海外招待枠

す。
1人のウマ娘が耳と尻尾を揺らしながら、手に持った一枚の書類をペラペラと揺らす。

その瞳はサングラスで隠れているといえど、何かを考えている様で、分かり易く口がへの字を作っていた。

「どうしたんですか? デージー」

「ん? ああ、コレ。ジャパンカップの出走登録」

「え!? ジャパンカップ出るんですか!? オトトイル, Arc 走ったのに!」

「いやあ……俺もさ、キングジョージ勝つて、凱旋門も5センチとかの差で2着。日本でもそろそろ頑張れそうじゃない?」

楽しそうに話しながら、デージーと呼ばれたウマ娘は手に持っていた紙を自身の契約したトレーナーへと渡す。

トレーナー、ルドルフ・コヴァーチュは紙を受け取ると記入するべき項目が全て埋められた文字を目で追う。

しかし、何年もの勉強を重ね読める様になった日本語の文章で【提出期限】と書かれた先の日付けは、既に過ぎ去った過去。

「これ、提出期限過ぎてますね。Copy?」

「いんや。普通に出してないけど?」

「……全くアナタは。いつしゅん驚きましたよ、ガイセンモンからジャパンカップまで約二ヶ月、移動も含めてどうするか思いました」

「あつはつは!流石の俺もそんな無茶はしないさ」

「無茶はしない……?だけど、スケジュールにあるメルボルンから香港への感覚がヤケに短いですね?」

「それは、仕方ないってやつだね!」

「……全く。メルボルンでの走りが影響あつたら、香港は走りませんからね」

「わーってるって!」

デージーはカラカラと笑う。

だが、その表情はどこか物足りなさそうに壁に掛かった絵画を見つめていた。

デージーがこういった表情をするのは初めてではなく、ルドルフは隣に座るとその頭を軽く撫でる。

「残念ですか。ジャパンカップに出られないのは」

「別に、特別ジャパンカップに出たい訳じゃない。ただ、応援も殆どないこの場所にいると、日本に嫉妬する」

「シット？」

「ああ。俺に走る力があれば、日本で力が使えれば今頃スゲー奴らと同じ様に歓声を向けられていたのかも知れない。この気持ちが悪沢で、世の中には何処にも走る力を見つけれなかった奴らがいる事も分かっているが、なんだろうな、俺は、欲張りだから。ターフから戻った時にお前以外もいて欲しいとも思う」

「デージー……」

「……願うしかない。この旅の末、俺達が歓声を向けられる事を」

「ラストランはアリマキネンですからね」

「その通り！有馬で走れるかどうかは知らんが、出たら出たでキヤー！デージーちゃーん！なんて言われるんだ!!俺は!!!」

「その為に、ガンバルですね？」

「おうとも。次はダート、やるぞ。ルドルフ」

「ええ。やりましょう、デージー」

拳を合わせる。ルドルフと比べたら小さな手。

応援もされない、日本から離れた地で2人の悪巧みは着々と実を結び始めていた。

「……あっ！ジャパンカップ海外ウマ娘枠で招待されない？」

「流石に無理」

「やっぱりか」

競走馬

50年代の競走馬：アセビボタン

どうか、どうか、私のこの脚があの人へ沢山の元気を分け与えられます様に。
そして、
ずっとずっと、隣り合って歩いて行けます様に。

生涯戦績

【1950年】

新馬 一着

OP 一着

OP 一着

阪神3歳ステークス 一着

【1951年】

櫻花賞 一着

東京優駿競走 二着

優駿牝馬競走 八着

【1952年】

古呼馬 十二着

天皇賞（春） 十一着

古呼馬 九着

【1953年】

天皇賞（秋） 一着

11戦6勝（6-1-1-0-4）

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

阪神3歳ステークス（阪神ジュベナイルフィリーズ）

櫻花賞（桜花賞）

天皇賞（秋）

【馬主】

円谷 巽

【主戦騎手】

小金井 近江

1948年4月16日生まれ。

日本の牧場で生まれた小柄な芦毛の牝馬。

大人しい性格で扱い易い馬ではあったが、気の強い馬が多かったその牧場ではそれが理由でいじめられっ子となっており、同じサラブレッドより人間の方へよく懐いていた。

とある日、牧場へ馬を買いに来ていた円谷巽とふれあい、お互いに相思相愛になった事から正式に円谷巽の持ち馬となり、「雪風」という名前を与えられた。

元々は、個人の乗馬や子供達の精神的な発達を目的に買われたのだが、円谷の友人である高垣芳司からの薦めで競走馬としてのデビューが決まる。

「アセビボタン」は円谷とその細君から贈られた御守りの名前である。

競走馬としての能力はとても高いが、馬群を苦手としており先頭もしくは前目につける事が多かった。

G1を2勝してから挑んだ日本ダービーでは、出走前に他の馬が苦手なボタンが自ら隣にいた馬（トキノミノル）へと鼻を寄せ、挨拶をした初めての行動に主戦騎手を務めていた小金井は驚いたという。

ダービーにて2着になってからはオークスへと挑むがそこで惨敗、前の馬から大差を

付けられての最下位となる。

疲れが残っていたとして長期の放牧となるが翌年のレースでも同じく前から大差を付けられての最下位となる。

その頃から、円谷の体調が悪化しており再び長期の放牧を経て翌年の天皇賞（秋）をラストランにする事が決定され、天皇賞（秋）では大きな声援に背中を押され、優勝をする。

引退後は、繁殖牝馬となり後のダービー馬であるアセビスズナを産んだ。

アセビボタンの不調の原因として「トキノミノルのその後を感じ取ったのではないか？」と「日に日に弱っていた円谷巽を見ていたからこそ気落ちしていたのでは？」という2つが挙げられる事が多い。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ボタン↓牡丹（富貴、王者の風格など）

50～60年代の競走馬：アセビスズナ

この名前を覚えておけ。

ダービーという歴史の中にこの名前が刻まれた事を、お前だけは覚えておけ。

生涯成績

【1958年】

新馬戦 一着

条件戦 一着

OP 一着

【1959年】

OP 三着

皐月賞 五着

東京優駿 一着

毎日杯 十着

宝塚杯 八着

セントライト記念 十一着

菊花賞 十二着

〔1960年〕荒尾移籍

B 1 四着

B 1 一着

A 2 三着

A 2 二着

A 2 一着

A 2 一着

A 1 四着

A 1 一着

A 1 一着

A 1 一着

〔1961年〕

A 1 六着

A 1	〔1965年〕	A 1	A 1	A 1	A 1	A 2	A 2	〔1964年〕	A 1	A 1	A 1	A 1	A 1	A 1	〔1963年〕	A 1
一着		一着	一着	一着	四着	一着	一着		一着	一着	一着	四着	一着	一着		一着

A1 一着

A1 一着

63戦32勝(32-3-2-26)

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

東京優駿(日本ダービー)

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 近江イナミトクミ↓伊波徳実

1956年4月24日生まれ。幼名は「清波」。

円谷巽が作っていた牧場にて生まれたアセビボタンの初年度産駒となる鹿毛の牡馬。

気性はアセビボタンの血か大人しめ。しかし、スイツチが入ると少し暴れてしまうや

んちやつ子。脚が長く、今で言うモデル体型。

脚質はボタンとは反対の後方から徐々に追い上げるといふもの。

これは、アセビズナが走る時にエンジンが掛かりにくい事が原因であり、上手く走れれば逃げを選ぶ事も可能。

特筆すべきは、大外、低人気から一着をもぎ取った日本ダービーであり、母であるア

セビボタンが獲る事の出来なかつたタイトルを獲つた事からしばしば「孝行息子」や「敵討ち」などと言われる。

ダービー後は戦績が低迷し、地方への移籍をし好成績を納めていったが、スズナのすぐ後、中央でデビューしたシンザンを始めとする沢山のスター達の出現によつて「アセビスズナ」の名前は忘れられ、知る人ぞ知る存在となつた。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

スズナ↓菘（慈愛、晴れ晴れ）

〔何故荒尾競馬場に移籍したのか〕

スズナが生まれる前、荒尾競馬場には87戦60勝を記録したロカランギョク（架空馬）という馬がいました。しかし、馬主が高齢だつた為にロカランギョクの引退を見届けて老衰します。

家族は馬を引き取るつもりが無く、仕事での縁を伝つてロカランギョクは高垣氏へ引き渡されます。

そして、ボタンとロカが夫婦になりスズナが生まれ、スズナが芝を嫌がつてからはロカの縁を辿つて荒尾の地に渡り、ロカランギョクに騎乗していた伊波が息子の主戦騎手となりました。

70年代の競走馬：アセビルピナス

先頭を走ればそれが勝ち。

先頭を走る。きつと、それが一番気持ち良いの。

僕の名前を知っていますか？

僕は、アセビルピナスと言います。

誰よりも速く走りたい。そんな感じですよ。

さあ、何も考えず、頭空っぽで走りましょうよ。

きつと、それが何よりも簡単で、楽しい事ですから。

生涯成績

〔1972年〕

新馬戦 十着

条件戦 十一着

条件戦 十四着

条件戦 一着

条件戦 八着

条件戦 九着

【1973年】

条件戦 五着

条件戦 四着

条件戦 七着

北海道3歳ステークス 三着

函館3歳ステークス 一着

京成杯3歳ステークス 一着

朝日杯3歳ステークス 四着

【1974年】

京成杯 一着

阪急杯 五着

読売杯スプリンターズステークス 二着

【1975年】

中日新聞杯 十着

読売杯マイラーズカップ 五着

阪急杯 三着

読売杯スプリンターズステークス 一着

CBC賞 二着

【1976年】

読売杯マイラーズカップ 五着

安田記念 六着

京成杯オータムハンデキャップ 十着

カブトヤマ記念 五着

【1977年】

読売杯マイラーズカップ 三着

北九州記念 十着

読売杯スプリンターズステークス 一着

有馬記念 九着

29戦6勝(6―2―3―18)

【主な勝鞍】※当時は格付け無し。

G 1 読売杯スプリンターズステークス（1975年、1977年）

G 2 京成杯3歳ステークス（京成杯3歳ステークス）

G 3 函館3歳ステークス（函館2歳ステークス）

G 3 京成杯

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 近江

1970年4月1日生まれ。幼名は「ハヤブサ」。

アセビ冠を代表する青毛のスプリンター。本命は1200メートル、1400メートルまでは勝負になるかもといった具合。

気性難という訳では無いが、頭が悪くレースというものを理解していなかった。

その為、合図が無いと走らなかつたり、歩き始めたりしてしまうので、スタートした直後に鞭で合図を送るのが最強を最強たらしめる要素だった。

70年代には短距離の選択肢が少なく、時代に困らされたサラブレッドの一頭でもある。

脚質は逃げ、中距離まで走れないサイレンススズカタイプ。

短距離の最強馬議論に名前が挙がる事は無いが、現代のレース体系ならばどうなつていただろう、もしあの馬とライバルだったら、など夢を語る議論にはよく名前が挙がる。直向きに頑張る姿が応援され、投票により有馬記念への出走が決まりラストランとするが、先頭を走る遙か向こうのテンポイントを見つめながらへ口へ口になりながら最下位でゴールをした。

アセビル↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）
ルピナス↓いつも幸せ、あなたは私の安らぎなど

90〜04年代の競走馬：アセビロード

自分は割と出来ない子なので、同じには出来ませんが。
ある意味で、目立つ事は可能なので。

生涯成績

【1994年】

新馬戦 十着

未勝利戦 十一着

未勝利戦 十四着

未勝利戦 十八着

未勝利戦 五着

未勝利戦 四着

未勝利戦 三着

【1995年】

- 未勝利戦 二着
- 未勝利戦 九着
- 未勝利戦 七着
- 未勝利戦 十着
- 未勝利戦 五着
- 未勝利戦 四着
- 未勝利戦 十四着
- 未勝利戦 三着

【1996年】障害転向

- 障害未勝利 一着
- 障害OP 一着
- 障害OP 一着
- 障害OP 一着

【1997年】

- 阪神障害ステークス(春) 三着
- 新潟ジャンプステークス 二着

京都大障害(春) 三着

【1998年】

阪神障害ステークス(春) 二着

東京障害特別(春) 一着

中山大障害 一着

【1999年】

障害OP 一着

障害OP 三着

阪神ジャンプステークス 五着

中山大障害 三着

【2000年】

新潟ジャンプステークス 六着

京都ハイジャンプ 五着

【2001年】

中山グランドジャンプ 一着

阪神ジャンプステークス 三着

中山大障害 二着

【2002年】

京都ジャンプステークス 一着

京都ハイジャンプ 一着

【2003年】

京都ハイジャンプ 五着

小倉サマージャンプ 十着

障害OP 八着

中山大障害 十着

【2004年】

中山グランドジャンプ 一着

小倉サマージャンプ 一着

中山大障害 一着

43戦13勝（13―4―7―21）

【主な勝鞍】

J・G1 中山グランドジャンプ（2001年、2004年）、中山大障害（2004

年）

J・G2 京都ハイジャンプ（2002年）

J・G3 京都ジャンプステークス(2002年)、小倉サマージャンプ(2004年)
 ※格付け前重賞

東京障害特別(春)(東京ハイジャンプ)

中山大障害

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 斗真アズミナオユキ
 ↓安曇直幸

1992年3月21日生まれ。幼名は「おじちゃん」。

大柄でのんびり屋さんな栗毛の牡馬。

デビュー戦は2000メートル。そこから長距離、マイル、スプリントと幅広い距離を走ったが、どの距離でも上手く走る事が出来ず、逆に短過ぎるのでは?と若き日の小金井斗真が進言し、他のサブレットと比べても足元の丈夫さがあり障害レースへと転向した。

障害転向後は秘めた才能が開花し、四連勝後、重賞戦線へと挑み好成績を納める。

平地レースでは世紀末霸王が舞台を彩り、摩天楼が新しい景色を魅せていたのでアセビロードが注目される事は無かったが、同じ障害レースを走る陣営からは「アセビロー

「ドの走りを真似しろ」と言われる程、その走りと飛越は美しかったという。
現役がとてても長く、同じアセビの名を持つアセビツバキと一緒に引退をした。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ロード↓「道」という意味

90〜04年代の競走馬：アセビツバキ

期待に応えられない吾なんかをずっとずっと大切にしてくれたから。

出来損ないでも走って良いのだと前を向かせてくれたから。

だから、見ていて下さい。

感謝の言葉は通じなくても、この走りで証明します。

吾はその場所で、咲き誇って魅せますから。

この身体を撫でてくれたその温もりへ吾の感謝が伝わります様に。

生涯成績

【1998年】

新馬戦 一着

条件戦 一着

条件戦 一着

条件戦 一着

OP 一着

OP 六着

【1999年】

共同通信杯 七着

チューリップ賞 八着

すみれステークス 十着

フラワーカップ 十六着

桜花賞 四着

優駿牝馬 八着

秋華賞 三着

【2000年】

目黒記念 四着

宝塚記念 二着

スパークینگレディーカップ（ダート） 八着

有馬記念 十着

【2001年】

中山金杯 一着

日経賞 一着

〈海外遠征〉

【2002年】

ジャック・ル・マロワ賞 一着

【2003年】

京都新聞杯 三着

朝日チャレンジカップ 一着

有馬記念 五着

【2004年】

共同通信杯 二着

安田記念 二着

天皇賞(秋) 三着

有馬記念 三着

27戦9勝(9―3―4―1―1)

【主な勝鞍】

G1 ジャック・ル・マロワ賞(2002年)

G2 日経賞（2001年）

G3 中山金杯（2001年）、朝日チャレンジカップ（2003年）

【馬主】

高垣 芳司

【主戦騎手】

小金井 斗真

1996年6月18日生まれ。幼名は「お姉さん」。

産まれた時から手の掛からない芦毛の牝馬。

デビューしてから勝利を重ね、アセビの馬であり牝馬という事から期待を向けられるが、オープン戦で負けてから実力を発揮できない時期が続く様になる。クラシックにも運良く出走が叶ったが、秋華賞での三着が最高順位となった。

手は掛からないが牝馬らしい繊細さがあり、担当厩務員は優しく話し掛けたり、スキャンシップをよく取ったとインタビューで答えている。

脚質はアセビボタンと似て先行で走る。馬群を怖がる事は無いが、隙間を縫う事は苦手。

一年以上の時間を使った長期の遠征では初めてのG1と共に、円谷翼、高垣芳司へ海外G1を贈った。

遠征から戻り、日本でのレースに復帰してからは愛されるブロンズ、シルバーコレクターを続けた。

現役がとても長かった同じアセビの名を持つアセビロードと一緒に引退をした。

アセビの名を持つサラブレッドの中では一番「可愛い顔」をしているとの専らの噂で、牧場で撮られた写真がバズった結果、テレビのミニコーナーデビューをした事がある。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）

ロード↓ツバキ（控えめな素晴らしさ↓申し分のない魅力、完全なる美しさなど）

2020年代の競走馬：アセビコウロ

あ、あのですね。

わたしはこんなにも怖がりで、こんなにも出来ない事が多いのですが！

走る事は好きなので！走る事で皆さんへ有難うを伝えられるのならば、わたしは沢山頑張りますので！

これからも、宜しくお願いします!!

生涯戦績

【2020年】船橋競馬場デビュー

新馬戦 二着

C2 一着

C2 三着

B2 二着

【2021年】

羽田盃 一着

東京ダービー 一着

ジャパンダートダービー 二着

A1 四着

浦和記念 一着

【2022年】

フェブラリーステークス 十四着

東京スプリント 四着

さきたま杯 一着

フリオソレジェンドカップ 一着

日本テレビ杯 二着

浦和記念 一着

【2023年】

A1 三着

フェブラリーステークス 一着

京成盃グラントマイラーズ 二着

かしわ記念 三着

さきたま杯 一着

サマーチャンピオン 四着

マイルチャンピオンシップ南部杯 一着

浦和記念 一着

23戦11勝(11―5―3―4)

【主な勝鞍】

G1 フェブラリーステークス(2023年)

JpnI マイルチャンピオンシップ南部杯(2023年)

JpnII 浦和記念(2021年、2022年、2023年)、さきたま杯(2022

年、2023年)

南関東SI 羽田杯(2021年)、東京ダービー(2021年)

SIII フリオールレジェンドカップ(2022年)

【馬主】

高垣 琴

【主戦騎手】

ニッタヒスイ
新田翡翠&小金井 斗真

2018年2月2日生まれ。幼名は「ピヨン君」。

大柄で怖がりな粕毛（に似た薄い青毛）で、走る時は必ずチークピーシーズとシャドーロールを付けていた。

所属は船橋ケイバだが、毎年『さきたま杯』と『浦和記念』に出走して優勝していくので、浦和競馬場からスカウトをされた事がある。

アセビの名を持つ競走馬の中では唯一のデビューから引退まで地方に所属し続けたサラブレッドであり、芝のレースへ挑戦をする事は無かった。ガチガチのダート専門馬。

脚質はスタート下手と、馬群を好まないことで差しを選ぶ事が多い。

文句無しの成績を記録しているが、地道な勝利を重ねていくタイプだったので、パフォームマンズの派手さが無く魔鏡と呼ばれるダートの中では若干影が薄い。しかし、こう見えても3歳ダート二冠を達成している。

重賞の大きなレースでは観客も多く、その分コウロが怖がる素振りを見せる為、パドックからゲートが開くまで厩務員もしくは騎手が話し掛け続け意識を逸らしていた。

年を重ねてからはその怖がりもある程度改善し、知らない人から差し出された人参も食べられる様になった。

アセビ↓馬酔木（あなたと二人で旅をしましょう）
コウロ↓航路

21世紀にいた競走馬：ポンポーツ トウカーナエ

イオは怪我をしてしまったので、約束を守る事は出来ません。
なので、貴方にイオの心を託します。

生涯戦績

〔2004年〕

新馬戦 二着

未勝利 四着

未勝利 六着

〔2005年〕

未勝利 二着

未勝利 一着

5戦1勝（1―2―0―2）

【馬主】

トカチユウゼン

十勝夕禪

【主戦騎手】

ハタノヤクモ

波多野八雲

2002年7月16日生まれ。幼名は「アオちゃん」。

右目が魚目で尾花栗毛というとても珍しい見た目の牝馬。

あのデーブインパクトと同じ時代にデビューし、戦績では無く見た目で注目されていた馬。

新馬戦では騎手との折り合いが付かず二着となつてからは、四着、六着と続き年を跨いだ2005年の二戦目で初の勝利を飾った。

秋華賞には間に合う様に重賞やオープン戦で経験を積んでいこうとプランを練っている最中、調教中に怪我を負い引退となる。

その後は繁殖牝馬として活躍し、最後は功労馬そして看板馬として牧場で余生を過ごす。

そして、ボンポーツが引退してから10年以上経ったとある日、十勝夕禪の持ち馬が有馬記念を優勝する。

十勝夕禪は日本ダービーよりも有馬記念へ熱意を向けている馬主で、インタビューを

受けた時には「あの子には有馬記念を勝たせてあげたかったね」とコメントを残した。
あの子、についての言及は無かったが、きつとどこかの牧場で過ごしている牝馬に向けての言葉だったのだと噂されている。

ポンポーソ↓イタリアの音楽用語で華やかに、豪華に。

カナは小さい子が好きです。可愛いので。

小さい子はカナが絶対守ります。

その為に、強くなりますね。

強ければ強い程、守れる数も増えますから。

生涯戦績

【2016年】佐賀競馬場デビュー

新馬戦 一着

B1 一着

B1 二着

B2 二着

A1 一着

【2017年】

飛燕賞 一着

九州ダービー栄城賞 一着

ロータスクラウン賞 一着

JBCスプリント 三着

名古屋グランプリ 四着

【2018年】

佐賀記念 一着

ダイオライト記念 一着

平安ステークス 二着

プロキオンステークス 五着

日本テレビ盃 五着

クイーン賞 三着

東京大賞典 六着

【2019年】

TCK女王盃 一着

マリーンカップ 七着

佐賀ヴィーナスカップ 四着

佐賀がばいダツシュ 一着

九州大賞典 二着

中島記念 二着

【2020年】

佐賀記念 六着

帝王賞 一着

東京大賞典 三着

【2021年】

黒潮賞 三着

兵庫チャンピオンシップ 三着

プロキオンステークス 二着

東京大賞典 二着

30戦11勝(11-7-5-7)

【主な勝鞍】

JpnI 帝王賞（2020年）

JpnII ダイオライト記念（2018年）

JpnIII TCK女王（2019年）、佐賀記念（2018年）

【馬主】

生駒葵

【主戦騎手】

伊波実幸

2018年2月2日生まれ。幼名は「ホウちゃん」。

子供が大好き最強の鹿毛色の牝馬。

デビューしてから常に連対を記録し、伊波実幸と共に牝馬と女性騎手のコンビで佐賀三冠（九州三冠）を達成してからは交流戦にも顔を出す様になり、その強さを存分に発揮した。

馬主である生駒が沖縄の海を愛しており、身に付けたメンコは海を思わせるエメラルドグリーン^①の生地で、額の部分にはシーサーや珊瑚礁のワッペンを付け「佐賀一のお洒落さん」などと言われていた。

三冠間近のロータスクラウン賞では、目の横の部分に特別仕様の小さな真珠のワッペンが3つ付けられていた。

引退後、繁殖牝馬となつてからは10頭の産駒を生み、リードホースとなる。

人間、サラブレッド問わず子供好きで見学客の中に小さな子供や赤ちゃんがいて近付いて来て、その側から動かなかつたらしい。

トウカーナエ↓きよしちよう座にある恒星の名前

その身体に触れながら

何時も通りの時間に目を覚まして身体を起こす。

妻と子供達に挨拶をして、食事を終わらせて、仕事を始める前に巽君の作った牧場へと脚を向ける。

遠くから聞こえる犬や猫の声を楽しみながら、馬が生活する馬房の扉を開ける。

まずは、オスの馬である譲り受けた口力。

この子は競馬場でも見た事の無い、明るく特徴的な栗毛で少しだけ荒々しい性格をしているから最初の頃はどうしたもんかと頭を悩ませたが、今は子供達が今よりもっと小さかった時分を思い出して、接する方法にも慣れてきた。

癖なのか、パツパと歩く速度に合わせて早足で横に並び、放牧の為に作られた空間へ放す。

そうすれば瞬きをした瞬間には走って向こうの方へ行ってしまう。

もう一度歩いて来た道に戻って、別の扉を開ける。

そこには、口力とは違い大人しいメスの馬ボタンがいる。

何となく挨拶をしながら、競走馬として走っていた時よりも、白い毛が混じる様に

なつたその身体に触れて異常が無いか、確かめる。

この頃はお腹の膨らみも増して、もう少しすれば子供が生まれるのだろう。

「頑張ろうな、ワタシも牧場の人間も初めてだけど、きつと、良い子が生まれるぞ」

馬房からボタンを出しながら放牧地へと歩く。

まだ寂しいこの場所に仔馬が増えたら、賑やかで寂しさの無い場所になるだろう。

ああ、異君。

ワタシは未だに寂しいよ。

ボタンの子も、ボタンの未来も一緒に見ているものだと思つていたから。

なんて事を考えて、下を向けば、慰めてくれたのかボタンの鼻先が頬に当たる。

「有難う……ボタン。ワタシが気落ちしていても仕方無いな」

手綱を外し、柵で囲われたその場所の中にボタンを入れる。

しかし、ボタンは動かずに、ワタシの隣で止まったまま。

「あははっ！君は、本当に優しいな」

髪の毛を整える様に、その額に触れる。

黒と白が混じり合うボタンの風貌は、最近売り始めたと言う「ごましろ」によく似ていた。

この身体に触れられて

お早う。ほうじくん。よく眠れたかしら？

昨日はね、遠くでろかが怒っていたからわたしはあんまり眠れなかったの。

あとね、お腹の中でチビがわーって動いたから、ビツクリしておしりを壁にぶつけてしまったわ。

痛くないけど、けがはしていないかしら？

「頑張ろうな、ワタシも牧場の人間も初めてだけど、きつと、良い子が生まれるぞ」
うん。頑張るよ。

いい子で生まれて、可愛いお顔をしていたら良いな。

って、ほうじくんどうしたの？

今日はちよっぴりお顔が悲しそう。

お腹でも痛くなっちゃったの？

仕方ないから、今日は隣にいてあげるね。

わたしの隣はつぶらやせんせいのお場所だけど、ほうじくんならとくべつよ。

広いお庭は嬉しいけれど、がまんしてジツとほうじくんのちかくにいてあげる。

「あははっ！君は、本当に優しいな」

そうでしょう？

わたしは、優しい子だから。

優しいあなたにも優しくするの。

初めて見た、競馬の興奮。

熱狂とは正に、これを言うのだと肌で感じる。

レースへの熱狂、馬への熱狂、応援する馬の母もしくは父への熱狂、応援している冠名への熱狂。

様々な情念が渦巻いて、只目の前を見つめ続ける。

生まれてから初めて脚を踏み入れた競馬場。

『Racing Program』と書かれた冊子を捲りながら足並みを揃えて芝生を見つめる。

大きなレースがあると言うのに妻と娘息子は探検だと建物の中へ消えて行った。

大きく響くファンファーレと呼ばれる音楽。

順番にゲートへと入っていく16頭のサラブレッド。

手の中で握った小さな券には、がんばれと書かれている。

「さあっ！綺麗なスタートを決めて一斉に16頭の競走馬がまずは芝の地面を走ります！！先に抜け出したのは」

位置で言うと右の奥。芝の上を走り出す色鮮やかなサラブレッド達。少し走って直ぐ、地面は砂へと変わり数字を掲げたその脚は本領を發揮する。

一番先に抜け出した6番は今も先頭を走り続けて、その次に7、9、12番が固まって少し開いた所に3、14、7、8、11番がいる。

電光掲示板の裏へとサラブレッド達が移動し、見易い画面に目を移す。

がんばれの対象は後ろの方を走る2番。競馬において前を走った方が良いのか、後ろの方を走った方が良いのかなんかは分からないから、ひたすらに祈る。

電光掲示板から相変わらず6番が飛び出して、その他が続く。

【さあ！先頭は変わらさず！！ただ1頭のみが第3コーナーへと向かいます！！現在2番手を走る12番までには3馬身程のリードがあるが！！勝負は依然ここからです！！】

コーナーを曲がり、サラブレッドが少し、視界の中で少しだけ大きくなる。

2つ目のコーナーに差し掛かる手前、常に先頭を走っていた6番が失速。いや、速度を上げた後続に差を詰められる。

これは遅いのか、早いのか、自分の脳では理解出来ないが固まっていた集団が動く。

コーナーを曲がる。直ぐそこにサラブレッド達がいる。

【残り約500メートルの直線！！G1という榮譽へと触れるのは一体どの馬だッ！！】

会場のボルテージが上がる。シャワーの様に軽く小さな粒子が世界に舞う。

がんばれと応援する薄い毛色の2番が、脚を変える。

4本の脚で懸命に走る。

残り300メートル。

騎手が鞭を何度か振るって、合図を送り続ける。

残り150メートル。

その馬が3番手にまで上がってくる。

残り50メートル。

1着との差は、ほんの僅か。

手に力が入り、柵を握る指先が白く染まる。

少しだけ身体が前のめりになって、コンサートの様に大きな音が響く世界でしっかりと、前だけを見つめる。

届け、届け、届け、届け。

「届け……届けッ！届けッッッ！！コウロ！！」

熱狂。

大歓声。

頭がガンガンと鳴って、遠くで響く声を辛うじて拾う。

スピーカーに乗った声が地方所属のまま中央のG1を制した特別を伝える。もう、何

年という単位で久し振りだった珍しい記録なのだと言張する。

肩の力が落ちる。

これを応援している馬の毎回で体験するのは大変だが、だからこそ勝った時の喜びも一入というもの。

「……君を、デビューの時から見ておけば良かったよ」

心を奪われてしまった。初めてなのに、見入ってしまった。

どうやらこれも、血筋なのかもしれない。

適当な人

何時もの様に、拘りよりも値段で選んだ煙草の煙を喫みながら仕事場に向かう。

動物の臭いが漂うその場所の扉を開けば一頭の茶色い馬がジツと、耳ばかりを動かして狭い馬房の中で佇んでいた。

「よオ。おはよーさん」

煙草を啜えたまま口を開けば反応をする様に、偶然鼻を鳴らす馬。

「ジブンはこの馬の世話を任された厩務員。という名のちやらんぼらん。学校は行かずに退学となり、仕事は直ぐに怒られてクビになる。ちやらんぼらんどころか世間から疎まれる出来損ない。」

「まー、ま。そんなジブンでも出来てるのだから、楽な仕事ですわ。ホント」

何かを強請る様に前脚をガシガシと動かす馬をそんな事をしてどこか痛めたのなら怒られるのはジブンなのだからと宥めながら、餌をバケツの中に入れて、目の前に取り付ける。ちゃんと食ってるのかどうかを横目で確認して、新しく水を入れたバケツを地面に置いた。

「草って美味しいのかね？興味は無いんだけど」

適当に、それっぽくブラシをかけてやって食事の終わりを見届けてから外に出す。

よく晴れて、レース日和だな……と呟いた言葉に、再び茶色の馬はタイミンク良く鼻を鳴らした。

吸い終わった煙草のカスを地面に捨てて、新しい物へ火を付けた。

青空の中に一筋の灰色が混じるのを見ながらもう少して隣の馬がレースに出る日だった事を思い出した。

トウキョウなんかの競馬場と違って、この場所の競馬場は酷く寂しい空気の匂いがする。

珍しい所と言えば、馬場から海が見えるくらい。

そんな金にもなりやしないこの場所を馬を曳きながら歩く。

パツカパツカと音を立てて、地面に落ちるソレを踏まない様にそれとなく避けながら柵の向こうにいるオツサン共が口に唾える物へ依存の気持ちを向けながらただ、歩く。

「そんじゃ、今日も頼みますわ」

「はい。お願いします」

茶色と黒の勝負服を見に纏った伊波さんが乗り、嫌そうな顔をした馬の首を軽く叩きながらゲートへ向かうまでの道すがら、パドックから離れた場所で欠伸をした。

今日も空は晴れ渡っていた。

そして、こんな場所にも関わらずたった一人、オジサンなんて言葉では呼べない程の坊主がいたのが見えて、珍しーと誰にも聞こえない声で呟いた。

ガチャンコン。

軽い音を奏でて馬が飛び出す。別にジブンは賭ける側では無いので、勝つたら良いなあと漠然と思いつながら馬場を見つめる。

一応、レース後にはアイツの権利を持つ人の所に報告する約束をしているので、特に何かを言われる事は無いが良い順位を獲ってくれた方がジブンの気持ち的にも有難い。

「かーて、勝て。なんか100勝くらい」

適当にボヤいていれば、レースは残り800メートル。

アセビズナは未だ後方にいた。

ジブンの担当する茶色の馬はその昔、ダービーを勝った馬らしい。だいたい2000頭かそこらの数、その頂点。

まあ、確かに。アイツのレースぶりを見れば、強いんだろうなとは思うが、アイツがねえという思いに支配される。

無事1着を獲ってきた馬の額を撫でて、お疲れと声を掛ける。また鼻を鳴らされる。

「やっぱよ、お前ジブンの言葉理解してるね?」

鼻はならない。

どつちなんだと文句を言えば、伊波さんが笑って「頭が良いんですね」なんて事を言うから、そうですね。と返す。

「ま、アタシは頭が良くて、ヤサシイ厩務員ですからね。そんなニンゲンに世話されてたら頭も良くなるでしょうよ」

本当の事なのに、何故かスズナはジブンの脚を踏みつけようとした。

障害3歳以上未勝利。

最後の最後まで希望を願った9月の第1週。

今までで一番と言つていい程の手応え。絶対に勝つのだとロードへ指示を送る。

今日は、本当に良い走りをしてくれた。

写真判定の末、3着となったアセビロードが進む未来は、「障害レース」となった。

それは、アセビロードの持つスタミナを加味したものであり、アセビロードの怖がない性格を十分に活かせる舞台だと考えられたからである。

初めての障害練習。只の棒が地面に置いてある所から始めるトレーニングは、順調の一言だった。

初日には地面に置いた棒を跨いで、クロスされた棒も数日あれば超えられる様になった。

そして、いよいよ障害レースで見られる竹柵を前にする。高さこそ低い物となっているが、それでも立ち止まってしまう馬も数多くいる。

「よし、次はこれを頑張ろうな」

首筋をトントンと叩いて助走を付ける。

最初は立ち止まり、嫌な予感を感じるが、暫くすれば竹柵を理解して超えられる様になった。

次は障害レースでも使われる様な本格的な障害物。素材の違う物が並んだ連続障害を全て超えられる様に、怖がらない様に飛越する。

「よし、よし、上手だぞー」

1つの障害を越える度に出てきている事をしつかりと褒め、馬の気持ちが進めない様に進めていく。

ロードののんびりな性格を尊重しつつ、出来る事を進めて、何度も練習を繰り返す。そうして、1年近くの時間を使い本番へ。

「ロードはのんびり屋で、レースでもエンジンが掛かるのが少し遅いので早め早めから促してあげて下さい」

障害3歳以上未勝利。

朝1番の客もまばらな競馬場のパドックを周回する中で、初めてアセビロードとタツグを組む安曇へロードをよく知る厩務員がその癖を共有する。

安曇は鏡の調節や、手綱の調節を行いながらその言葉に頷く。安曇はロードと同じく

障害レースに於いては新人と呼ばれる部類の人間だが、中々に良い成績を残す期待のルーキーだった。

「それでは、お願いします」

その言葉を最後に厩務員は離れ、ゲートが開く。

本番、1番初めの障害を飛越する。完歩に近い理想的な踏み切り位置。着地もほんの少し大勢は崩れたものの、問題ないと言える範囲。

ハミの反応も良く、理想的な走りをすると言っても過言では無い。

それなのに、平地では未勝利を抜ける事さえ叶わなかった。競馬の世界で考えるとよくある話ではあると言えてしまうものだけれど、それにしても不思議だった。

「そろそろ行くよ」

1000メートルを過ぎた辺りで誰にも聞こえない世界の中、安曇が声を掛ける。

ほんの少し手綱を緩めて拘束を解く。

それからは500メートルの間隔で手綱を緩めて合図を送る。

そうして、最終直線。

「行くよっ！ロード!!」

鞭を一回入れれば、綺麗にスピードを上げていき、ドンドンと前を走っていたサラブレッドの背に追い付く。

殆ど理想的な形の飛越はスピードを緩める事無く、勢いへと変わっていく。残り100メートルを過ぎる頃には何十馬身とあつた差は無くなり、前にはあと1頭のみ。

障害の未勝利戦においては中々見ない追い込み方。

観客席の何処かから「おお！」と声上がる。

アナウンサーが叫ぶ様に「アセビロード！初めての一等賞！」と口にした。

「お疲れ様。ロード君」

ゴールを過ぎ、脚を緩めたアセビロードの頭をわしやわしやと撫でれば嬉しいのか、うざったかったのか頭をブンブンと振る。

4歳の夏前。

アセビロードは、初めての勝利を飾った。

皆と走る＝最高

走るのは楽しい。

他の皆よりもっと先に立てたら嬉しいよね。

でも、一番楽しいのは皆と一緒に走ること。

それなのに上に乗ってるヒトも、僕のお世話をしてくれるヒトも走り終わった後に「シヨモシヨモ」って顔をしている。

なんでだろう？って思ったら、僕が走る時は一番先にゴールしないといけないらしい。

「でもさ、皆と一緒に走るのが楽しいんだよね？分かるかな？この気持ち」

顔を出して隣のオトモダチに話し掛ける。

だけど、オトモダチは「そうかあ？」と僕の言葉をあんまり分かってくれない。オトモダチは僕と反対で、一番になるのが嬉しいらしい。

「なんだよ、分かってくれないのか、僕の方がシヨウスウハ？ってやつー？」

頭を振りながら云々と唸っていれば、脚が壁にぶつかってガコンって音を立てた。オ

トモダチからは「五月蠅いぞ」と怒られた。

今度は僕が「シヨモシヨモ」って顔をする番だった。

そんな僕を見て何時もお世話をしてくれるヒトがどうしたんだって顔を撫でた。

あつ、もう少しだけ横つちよが良い……。

高垣芳司や小金井近江を少しだけ悩ませる馬。アセビルピナス。

現在9戦1勝、内掲示板入りが2回と中々に伸び悩んだ成績。様々な距離を走らせてみて短距離が1番力を発揮できる距離であるという事は分かったが、それ以上になると難しかった。

彼はレースというより他の馬との併走を楽しんでいるようで、どれだけ鞭を入れてもスピードを上げず、結果集団の中で流れる様にゴールする。

「あの、高垣さん」

「ええ。なんででしょうか」

「次のレース、成功するかは分かりませんが、試してみたい事があります」

「……分かりました。お願いしますね」

『北海道3歳ステークス』11頭の馬が集まったゲートの中で小金井はポンポンと首を叩く。

特別興奮した様子は無く、何時も通りの落ち着き。

最後の馬が入り、ゲートが開く。

アセビルピナスが飛び出した瞬間に小金井は一発、鞭を入れた。

驚いて、アセビルピナスは普段の併走を楽しむ雰囲気から一転、掛かってしまったかの様にスルスルと前へ出る。

後は1200メートルを1番で走り切れる様に鞭を入れ、速度を落とさない様に走らせる。

1分と数十秒、最後は団子になってゴールの前を通過する。

アセビルピナスの確定した順位は「3」。

それでも初めてと言って良い競走馬らしい走りに小金井は普段よりも多く首筋を、頭を撫でた。

アセビルピナスはなんだか不思議そうな表情をしていた。

愛が世界を超えるのならば、

ガヤガヤと騒がしい居酒屋の真ん中で、酒を何口か着と共に胃の中へ入れながら目の前に座る先輩へと話し掛ける。

数ヶ月前からずつと、頭に浮かんでいること。

「俺……転職？しようかなって……」

「転職？そりやまたどうして」

先輩は、不思議そうな顔で鮮やかな緑色をした枝豆を口にしながら、首を傾げる。

俺は、促されるままに自分の思いを吐き出した。

「今の仕事に、先輩の下で働く事に不満とか、嫌だなんて思う負の感情は一寸無く……逆に離れたくないって思うくらいなんですけど、この仕事と同じくらい挑戦してみたい！って思うものができて」

「へえ、それは素敵な事じゃん。ちなみに何か聞いても良い？」

「………牧場です」

「牧場？それまたアシスタントとは正反対。というか、掠りもしない所にいったね」

「自分でもそう思います。でも、キツカケがあつて」

先輩はグラスを傾け、何度か喉を動かす。

自分も唐揚げに手を伸ばして咀嚼し、何杯目かのビールを胃に流し込んだ。

相変わらず周りは騒がしくて、でも、自分達のテーブルは酷く静かだった。

「……牧場つて言つてもさ、色々あるじゃん？牛、豚、鶏、羊とか」

「あー、馬です。競馬の、動画見て……スンマセン……」

「え？何で謝るのさ」

「いや、だって、競馬つてギャンブルの面もありますから、嫌な人は嫌だろうし」

「それもそつか。でも、大丈夫だよ。私は走る馬格好良い〜！つて思つてるタイプだから」

「それは良かったです」

「馬ね〜馬か〜……格好良いよね〜」

「はい！凄く！」

「はい！凄く！」

思わず大きな声が出て、先輩が驚いた様に目を大きく開く。酔いの回り始めた頭は一瞬で正気を取り戻し、先輩に頭を下げた。

「良いよ良いよ。夢中になれるものを見つけてるのは大切だからね。……動物園、水族館にも言える事だけど、牧場も朝早いよ〜？今よりもずつと」

「それは承知の上です！つて、先輩詳しいんですか？」

「詳しいつていうか、ちよつと知り合いがね……あ！なんなら話付けてあげようか？君が本気の本気なら、手伝わせて欲しいな」

「い、良いんですか!?!」

「うん！良いよ。君が頑張れる子だつていうのはよく知ってるし、知り合いも何人か人材欲しいつて言つてたし」

「有難う御座います!!……あの、所で動物とは全く関係ない所から牧場に進むのつて……」

「全然大丈夫じゃない？今だつて、脱サラして〜とかそれこそ競馬を見て〜つていう人もいるし。愛する気持ちと、最低限の体力さえあれば問題無いつて」

「……良かったあ!」

少しの脱力の後、居住まいを正し、先輩へと頭を下げる。

「本当に、有難う御座います！高垣先輩!」

「どういたしまして。頑張れよ、知り合いの所は馬だけじゃ無くて色々いるから」

「お、押忍!!」

動画サイトのおススメで突然出てきた競馬の動画。

競馬には特に、深い思い出も、感情も、それこそ批判的な気持ちも一切無かった。

でも、サムネイルに映る一頭が白くて綺麗だったから、再生した。

純粹に走る姿に目を惹かれた。素人でも分かり易い白い身体をぬかるんだ地面で汚れるのを厭わず懸命に走って、最後の一瞬まで人々の目を奪い続けた。

その馬が、目の前にいる。

俺はこの馬が現役で走っていた頃はまだ5歳か、6歳で数ヶ月前まで興味すら無かった。

あの動画だって、勝ってはいない。確か、3着だった筈だ。

それなのに、隣に立つ先輩に促されるまま触った掌から伝わる熱に、何故だか無性に泣きそうになった。

牡丹の思いは時の碧落に沈む

たくさんの人が見ている。

わたし達を応援しながら、キャーって楽しそうに笑っている。わたしはその笑顔がもつともつと見れるように、頑張るぞ！って気持ちになる。

「こんにちは」

フンフン！って、頑張るぞの気持ちを持って歩いていけば、突然挨拶をされてびっくりする。

そんなわたしを見て、隣にいた知らない男の子はすみませんと笑った。

「嫌な子。驚かすなんてサイテイね」

「本当にシツレイしました。どうか、許してはくれませんか？お嬢さん」

「イヤ。わたし、お嬢さんじゃないもん。わたしはアセビボタンって言うのよ」

「それは、重ねて失礼を……ボクはトキノミノルと言います」

「トキノミノル、ミーちゃんね」

「ボクはオトコノコ、なのですが……」

ミーちゃんはなんだか恥ずかしそうに首を振る。

わたしは、隣の男の子と話してなんだか不思議な気持ちになる。隣にいるのはつぶらやせんせいとかほうじくんとか、こがねいじよつきーじや無いのに、わたしの嫌いな子達と同じなのにあんまり嫌に思わない。

「ねえ、どうしてあなたは大丈夫なの？」

「大丈夫。とは、どういう意味でしょう」

「わたしね、ヒトが好きなの。それ以外はキライ。でも、ミーちゃんは大丈夫なの。不思議」

そう言うと、ミーちゃんはさつきと変わってなんだか誇らしげに笑った。

もう直ぐで走る時間なのに、いつもと違って頑張るぞって気持ち以外の気持ちがあつて変な感じだ。

「ねえ。わたし、アセビボタンよ。宜しくねトキノミノルさん」

「……ボクの事は自由に呼んで下さい。宜しくお願いします。ボタン」

鼻を合わせる、わたし達の挨拶。

「今から走るでしょ。ね、おたがい頑張ろう」

「うん。全力で走りましょう」

そして、勝ったらボクのお願いを聞いてください。

勿論。ボタンが勝っても同じです。

「ふうん……でも、わたし、勝っちゃうよ？こう見えて、脚が速いの」
「何を言いますか。ボクもソウトウ速いです。とてもね」

位置について、よいい、ドン。

ミーちゃんはわたしの前を走る。ずっとずっと先頭を走っている。

わたしはその背中を見つめている。

こがねいじよつきーがわたしのニガテな所から外に出してくれて、漸く息ができるようになった。

合図があつて、全力で走る。オーちゃん、ヒーくん、ミーくんを追い抜いて、もう直ぐでゴール。

最後にイーくんを追い抜いて、ミーちゃんと並ぶ。

でも、勝てなかった。

初めて2番になった。

知らない感情が湧いてきて、あああ!!って叫んで、地面を叩く。

こがねいじよつきーに宥められていれば、目の前にミーちゃんがやって来る。

「ボクの、勝ちです……!」

誇らしげに、嬉しそうに、そう語って約束を口にする。

「また、一緒に走りましょうね！ボクもゼンリヨク、ボタンもゼンリヨクで！ボク、キミの事が好きなので！」

「分かった。また、走ろうね。わたしもヒト以外なら、あなたが一番すきよ」
言い合って、お別れをする。

それから、ミーちゃんと顔を合わせていない。

ミーちゃんが言った事なのにいつまでわたしを待たせるの。

わたし、オカアサンになっちゃったよ。

ミーちゃんが全力ってお願ひしてきたのに、わたしはもう全力で走れないんだから。